

川西市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画 アンケート結果報告書（速報版）



川西市
Kawanishi City

目 次

調査概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の設計.....	1
3. 回収状況.....	1
4. 報告書を見る際の注意事項.....	1
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 調査結果.....	2
1. 回答者の属性.....	2
2. 家族や生活状況について.....	4
3. からだを動かすことについて.....	11
4. 食べることについて.....	23
5. 毎日の生活について.....	36
6. 地域での活動について.....	53
7. たすけあいについて.....	65
8. 自治体や地域住民が開催する通いの場(サロンやカフェ)への参加について.....	87
9. 災害に対するそなえについて.....	91
10. 健康について.....	101
11. 必要となる支援について.....	111
12. 地域包括支援センターについて.....	116
13. 介護保険制度について.....	118
14. 認知症にかかる相談窓口の把握について.....	121
在宅介護実態調査 調査結果.....	122
1. 回答者の属性.....	122
2. 必要な介護やサービスの利用などについて.....	124
3. 主な介護者について 【介護者への質問】.....	133
4. 主な介護者の就労について 【介護者への質問】.....	137
資料（調査票）.....	140
1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査.....	140
2. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査.....	156
3. 在宅介護実態調査.....	172

調査概要

1. 調査の目的

川西市では、令和3年度から令和5年度を計画期間とする「川西市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画」を策定するにあたり、その基礎資料を得るため本調査を実施した。

このうち、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」は、要介護認定を受けていない65歳以上の市民を対象として、要介護状態になる前のリスクや社会参加状況を把握し地域の抱える課題を特定することなどを目的として実施し、「在宅介護実態調査」は主に在宅で要支援又は要介護の認定を受けている市民を対象として、高齢者等の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続に有効な介護サービスのあり方を検討することを目的として実施した。

2. 調査の設計

	調査対象	調査期間	調査方法
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	令和2年1月1日時点で要介護認定を受けていない一般高齢者・総合事業対象者・要支援認定者 4,200人	令和2年4月16日～ 令和2年4月30日	郵送配布・郵送回収
在宅介護実態調査	在宅の要支援・要介護認定者のうち、令和元年12月1日以前に更新申請もしくは区分変更申請による認定調査を受けた人 1,000人	令和2年4月16日～ 令和2年4月30日	郵送配布・郵送回収


3. 回収状況

	配布数	有効回収数	有効回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	4,200件	3,638件	86.6%
在宅介護実態調査	1,000件	837件	83.7%

4. 報告書を見る際の注意事項

回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してある。

小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。

調査結果を図表にて表示し、表については、最も高い割合の欄を  で網かけをしている。（その他・無回答を除く）

サンプルが少ないものについては、コメントを割愛している。

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」については、設問数の増加による回収率の減少を防ぐため一部の設問が異なる調査票を2種類作成し、各2,100件ずつ配布した。調査票で異なる設問については注にて表記している。

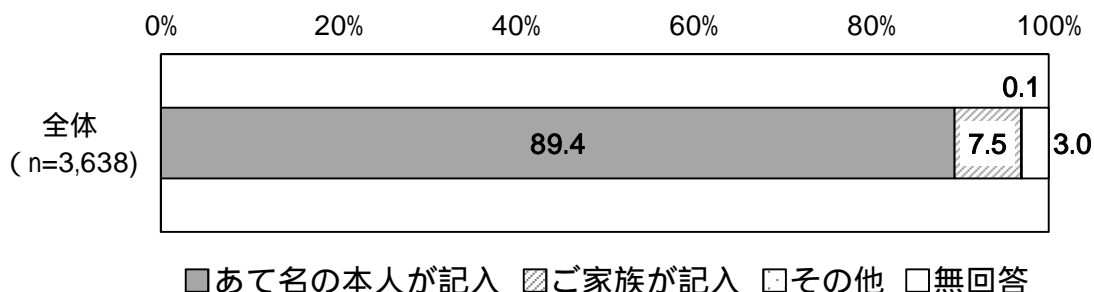
本文中の設問の選択肢は、簡略化している場合がある。

介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 調査結果

1. 回答者の属性

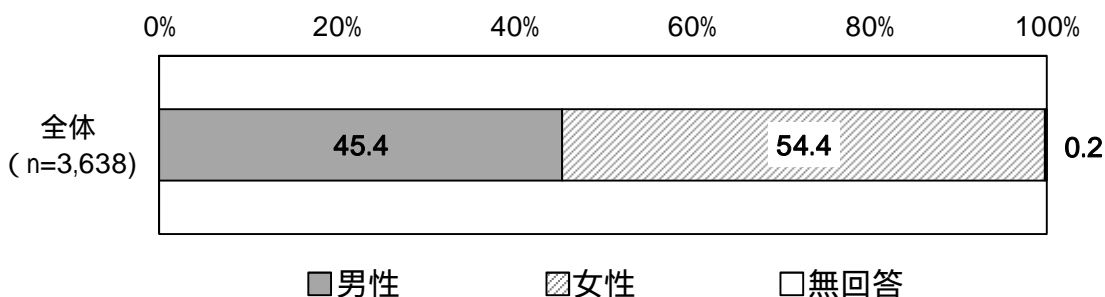
(1) 調査回答者

・調査票回答者は、「あて名のご本人が記入」が89.4%と9割近くとなっている。



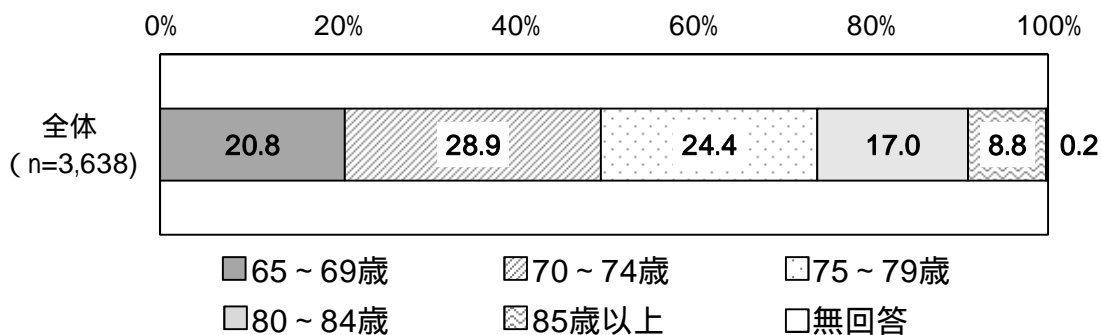
(2) 性別

・回答者の性別は、「男性」が45.4%、「女性」が54.4%となっている。



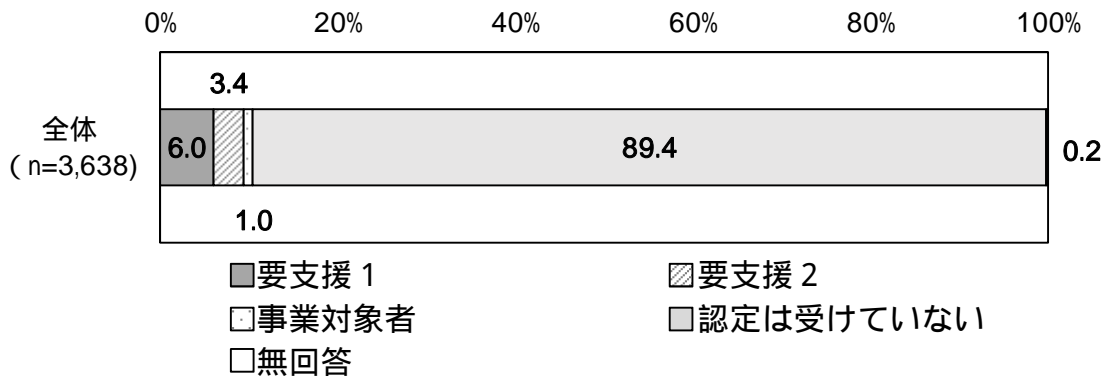
(3) 年齢

・回答者の年齢は、「70～74歳」が28.9%と最も高く、次いで「75～79歳」(24.4%)、「65～69歳」(20.8%)となっている。



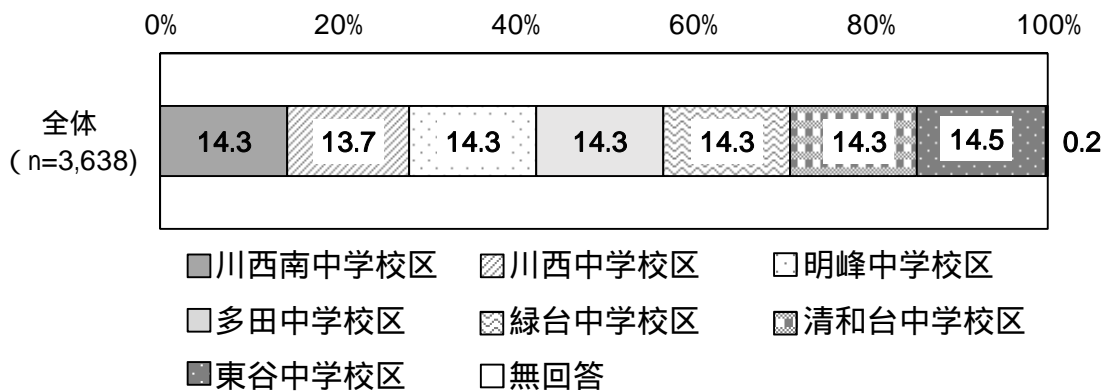
(4) 介護度

・回答者の介護度は、「認定を受けていない」人が89.4%と9割近くとなっている。



(5) 居住地区 (日常生活圏域)

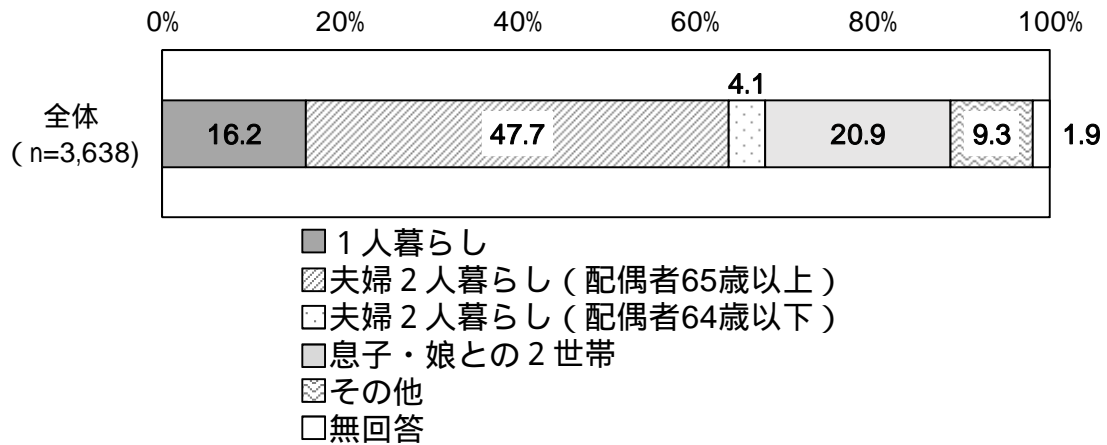
・調査対象者の日常生活圏域について、各中学校区圏域で600人を抽出した。
 ・各圏域での回収率は概ね87%前後となっており、東谷中学校区で87.8%と最も高く、川西中学校区で83.2%と最も低くなっている。



2. 家族や生活状況について

(1) 家族構成

- ・家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が47.7%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」（20.9%）、「1人暮らし」（16.2%）となっている。



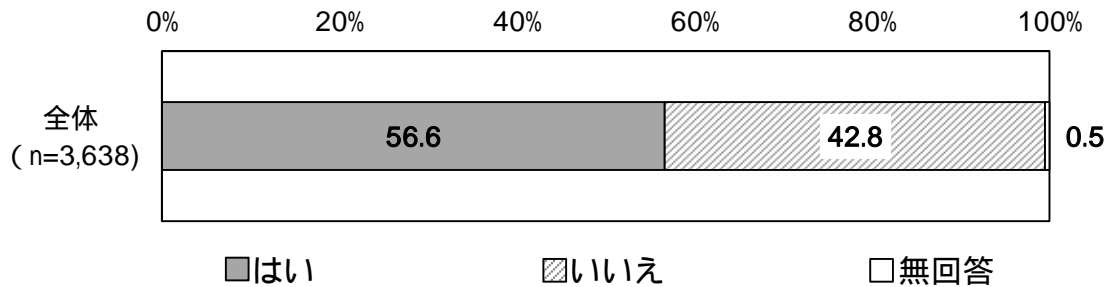
「その他」の主な回答内容	
兄弟・姉妹と二人暮らし	甥・姪との同居
3世帯	夫・妻が入院中 等

- ・介護度別にみると、事業対象者で「1人暮らし」が最も高く、その他では「夫婦2人暮らし」が最も高くなっている。また「1人暮らし」が、事業対象者で37.8%、要支援1で23.0%、要支援2で30.9%と、一般高齢者（15.0%）より5ポイント以上高くなっている。

	全体 (件数)	1人暮らし	(夫婦2人暮らし 65歳以上)	(夫婦2人暮らし 64歳以下)	息子・娘との2世帯	その他	無回答
一般高齢者	3,254	15.0	48.8	4.2	21.0	9.2	1.9
事業対象者	37	37.8	27.0	-	32.4	2.7	-
要支援1	217	23.0	41.0	3.2	17.5	12.9	2.3
要支援2	123	30.9	38.2	3.3	19.5	7.3	0.8

(2) 近居の家族・親せきの有無

・近居の家族・親せきの有無については、「はい」が56.6%、「いいえ」が42.8%となっている。



・小学校区別にみると、陽明小学校区・清和台小学校区・牧の台小学校区で「いいえ」が最も高くなっている。

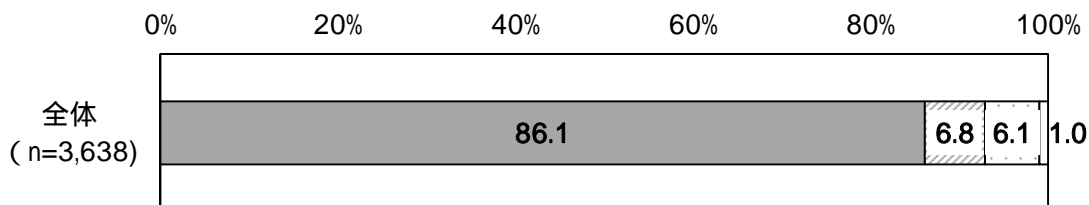
・中学校区別にみると、緑台中学校区で「いいえ」がやや高くなっている。

						(%)			
	全体 (件数)	はい	いいえ	無回答		全体 (件数)	はい	いいえ	無回答
久代小学校区	239	69.9	30.1	-	川西南中学校区	521	65.1	34.7	0.2
加茂小学校区	231	59.7	40.3	-					
川西小学校区	208	65.9	33.7	0.5	川西中学校区	499	63.9	35.3	0.8
桜が丘小学校区	167	62.9	36.5	0.6					
川西北小学校区	175	63.4	34.9	1.7					
明峰小学校区	521	55.1	44.3	0.6	明峰中学校区	521	55.1	44.3	0.6
多田小学校区	260	59.6	40.4	-	多田中学校区	522	57.1	42.5	0.4
多田東小学校区	262	54.6	44.7	0.8					
緑台小学校区	257	56.4	43.2	0.4	緑台中学校区	521	49.7	48.9	1.3
陽明小学校区	264	43.2	54.5	2.3					
清和台小学校区	177	46.3	53.7	-	清和台中学校区	520	53.5	46.5	-
清和台南小学校区	191	58.1	41.9	-					
けやき坂小学校区	152	55.9	44.1	-					
東谷小学校区	203	57.6	41.9	0.5	東谷中学校区	527	52.9	46.5	0.6
牧の台小学校区	219	47.5	51.6	0.9					
北陵小学校区	97	53.6	46.4	-					
黒川小学校区	8	75.0	25.0	-					

小学校区と中学校区は完全に対応しておらず、一部地域が異なるため、全体件数は必ずしも一致しない。

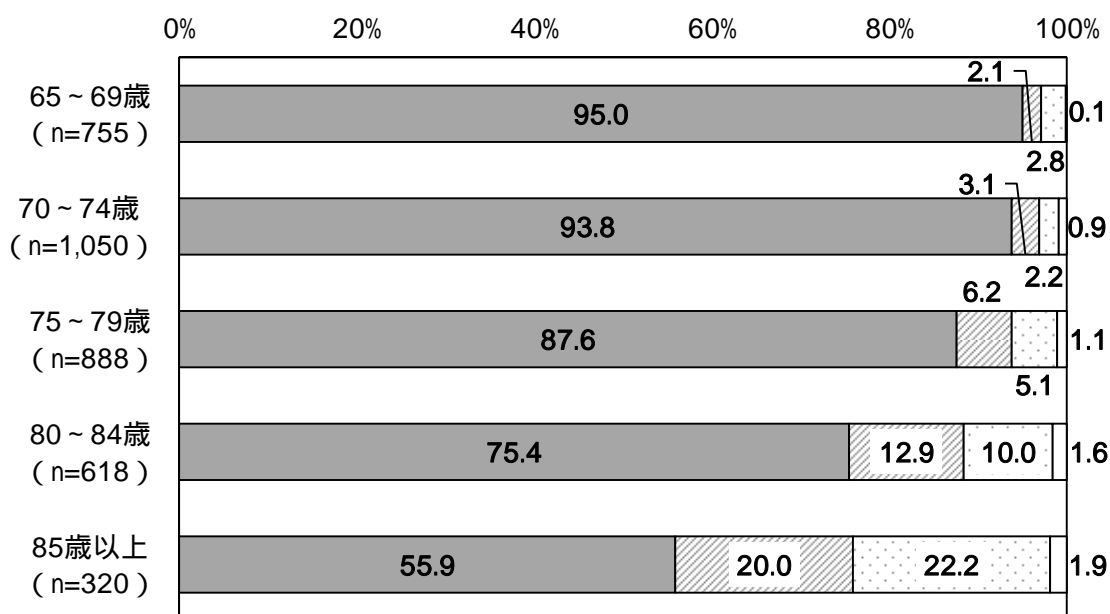
(3) 介護の必要性

・介護の必要性については、「介護・介助は必要ない」が86.1%と最も高く、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」・「現在、何らかの介護を受けている」を合わせた、『介護・介助が必要』な人の割合は12.9%と1割以上となっている。



- 介護・介助は必要ない
- ▨ 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- ▤ 現在、何らかの介護を受けている
- 無回答

・年齢別にみると、年齢が上がるにつれ、『介護・介助が必要』な人の割合が高くなっており、80歳以上で22.9%と2割以上、85歳以上では42.2%と4割以上を占めており、80歳を境に介護・介助が必要になる人の増加がみられる。

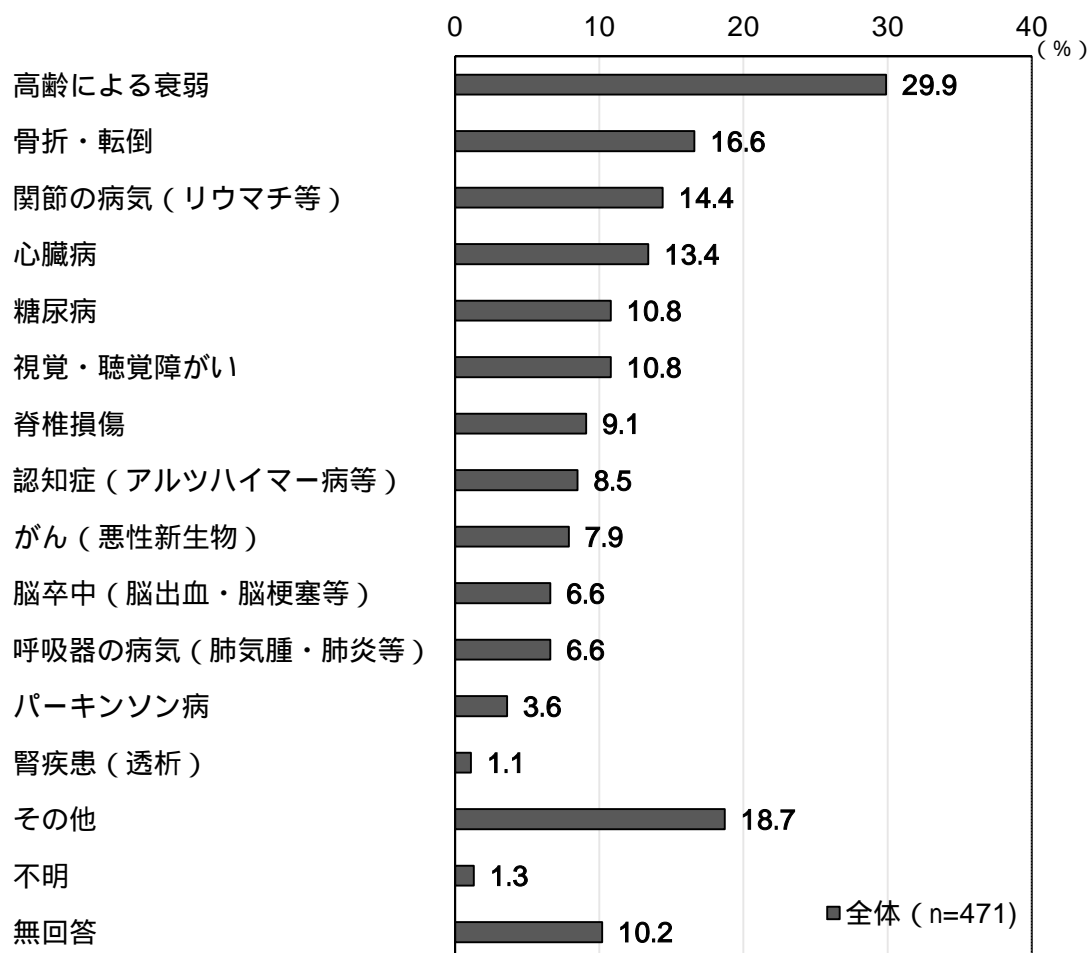


- 介護・介助は必要ない
- ▨ 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- ▤ 現在、何らかの介護を受けている
- 無回答

(3 -) 介護・介助が必要になった主な原因

(3)で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方のみ

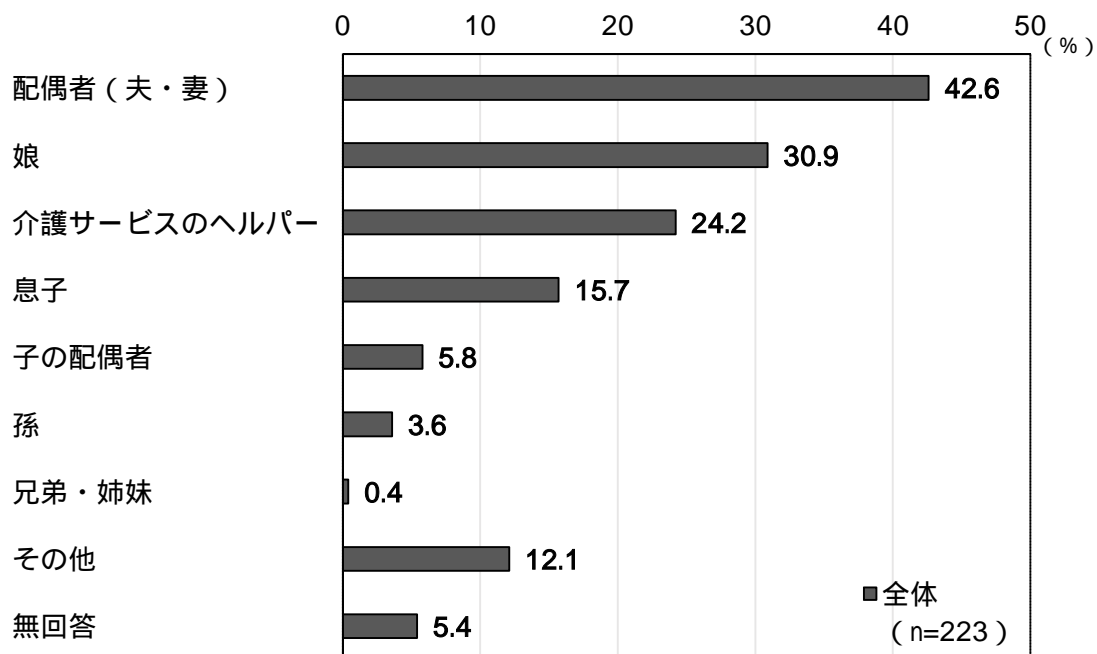
・介護・介助が必要になった主な原因は、「高齢による衰弱」が29.9%と3割近くを占め最も高く、次いで「骨折・転倒」(16.6%)、「関節の病気(リウマチ等)」(14.4%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
脊柱管狭窄症、ひざ・腰などの痛み	高血圧
うつ病・統合失調症などの精神病	ストーマの装着 等

(3 -) 主な介護・介助者 (3) で「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方のみ

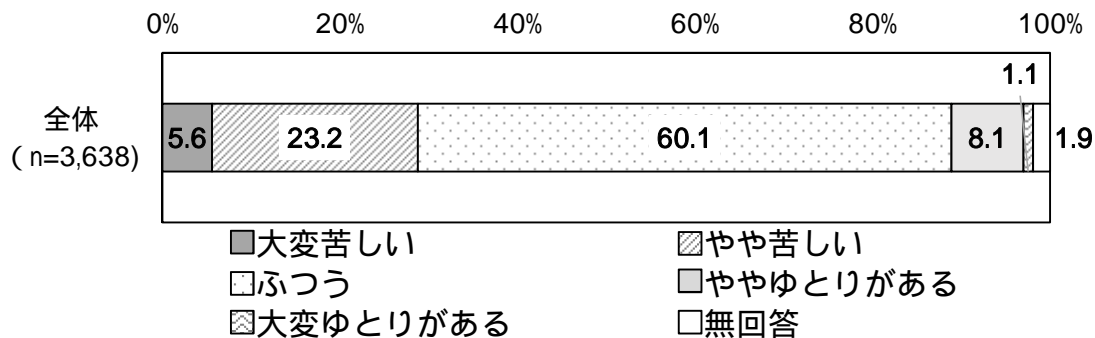
・主な介護・介助者については、「配偶者(夫・妻)」が42.6%と4割以上を占め最も高く、次いで「娘」(30.9%)、「介護サービスのヘルパー」(24.2%)、「息子」(15.7%)となっており、家族・親族に主な介護・介助をしてもらっている人が多い結果となっている。



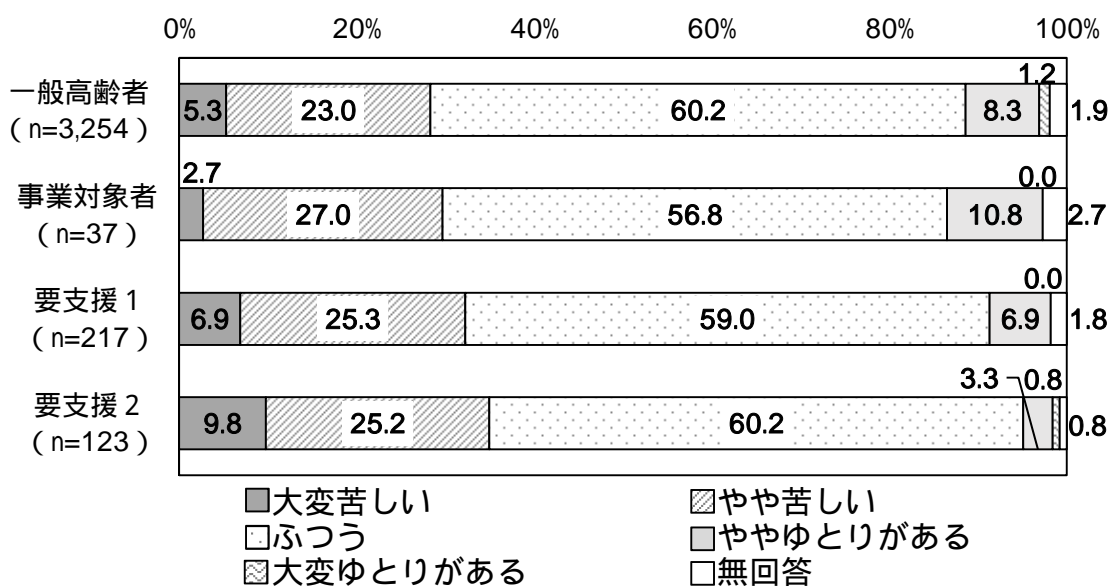
「その他」の主な回答内容	
デイサービス	病院
リハビリセンター	介護・介助者はいない 等

(4) 現在の暮らしの経済的な状況

・現在の暮らしの経済的な状況については、「ふつう」が60.1%と6割以上を占め最も高く、次いで「やや苦しい」(23.2%)となっている。「大変苦しい」・「やや苦しい」を合わせた経済的に『苦しい』人の割合は28.8%となっている。

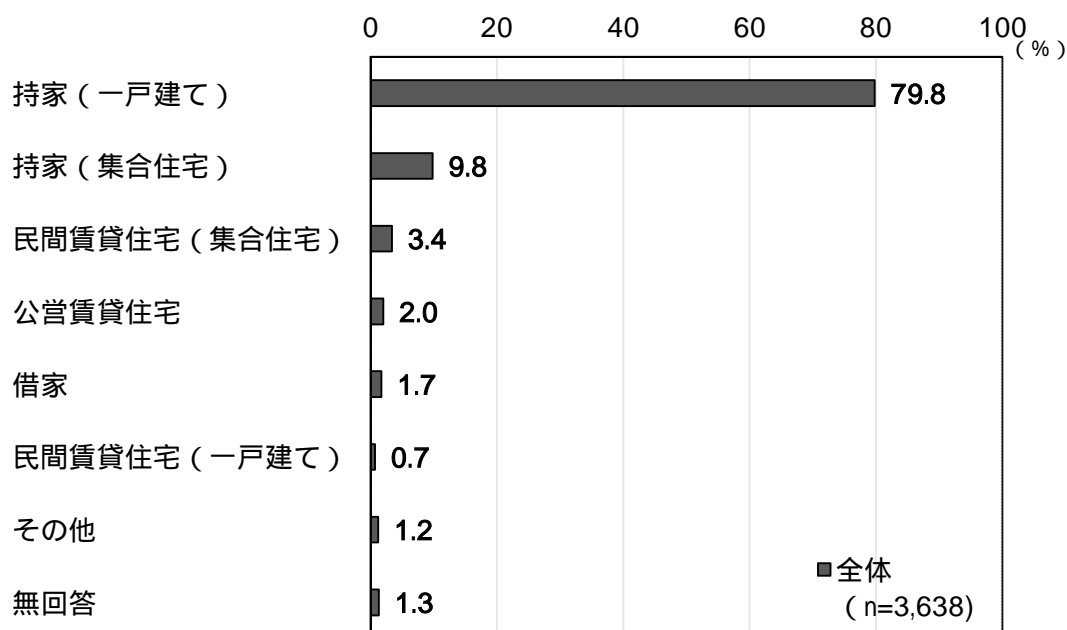


・介護度別にみると、経済的に『苦しい』人の割合は要支援2では35.0%と、一般高齢者(28.3%)より6.7ポイント高くなっている。



(5) 現在の住まいの形態

- ・現在の住まいの形態は、「持家（一戸建て）」が79.8%と8割近くを占め最も高く、次いで「持家（集合住宅）」(9.8%)となっている。



「その他」の主な回答内容		
息子・娘の持家	ケアハウス	等

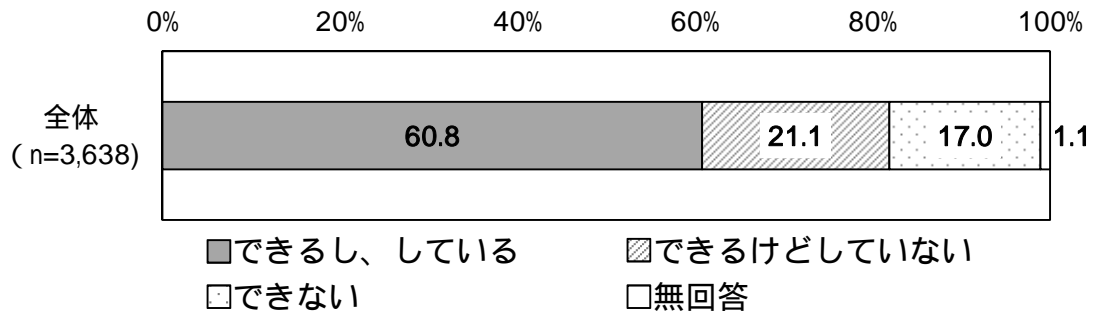
- ・中学校区別にみると、川西中学校区・川西南中学校区で「持家（集合住宅）」がやや高くなっている。

	全体 (件数)	持家 (一戸建て)	持家 (集合住宅)	公営 賃貸住宅	民間 賃貸住宅 (一戸建て)	民間 賃貸住宅 (集合住宅)	借家	その他	無 回答
川西南中学校区	521	67.0	15.2	4.0	1.3	5.6	3.3	2.1	1.5
川西中学校区	499	56.3	20.0	4.8	1.6	9.4	3.8	2.2	1.8
明峰中学校区	521	93.7	1.2	0.2	1.2	0.4	1.3	1.0	1.2
多田中学校区	522	81.6	9.6	0.8	0.4	5.2	1.0	0.6	1.0
緑台中学校区	521	89.3	5.8	-	0.4	0.8	1.3	1.0	1.5
清和台中学校区	520	79.6	12.7	4.2	0.4	0.6	0.8	0.8	1.0
東谷中学校区	527	89.9	4.9	0.4	-	2.3	0.8	0.8	0.9

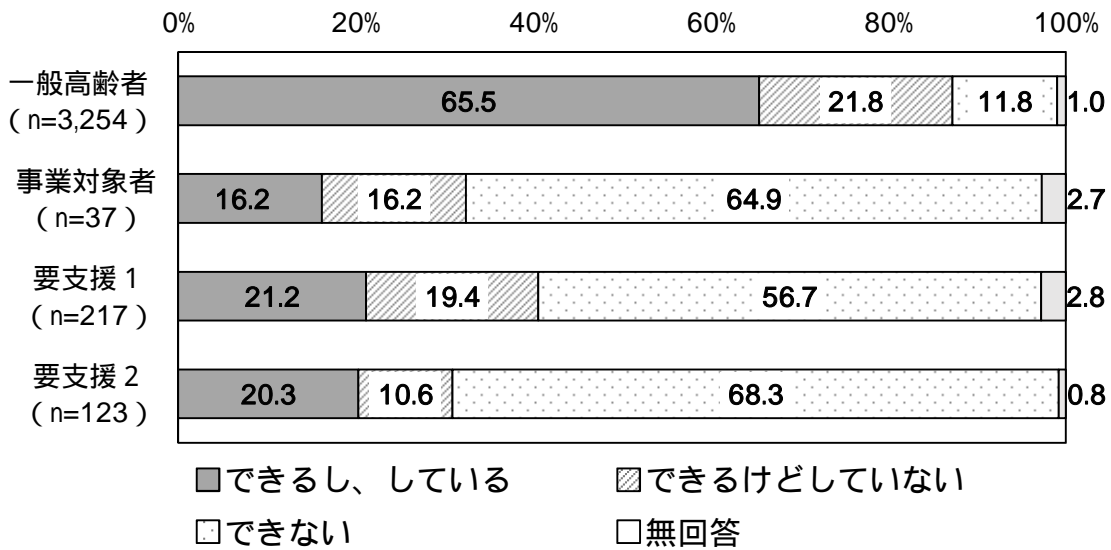
3. からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること

・階段を手すりや壁をつたわずに昇れているかについては、「できるし、している」が60.8%と6割以上となっている。

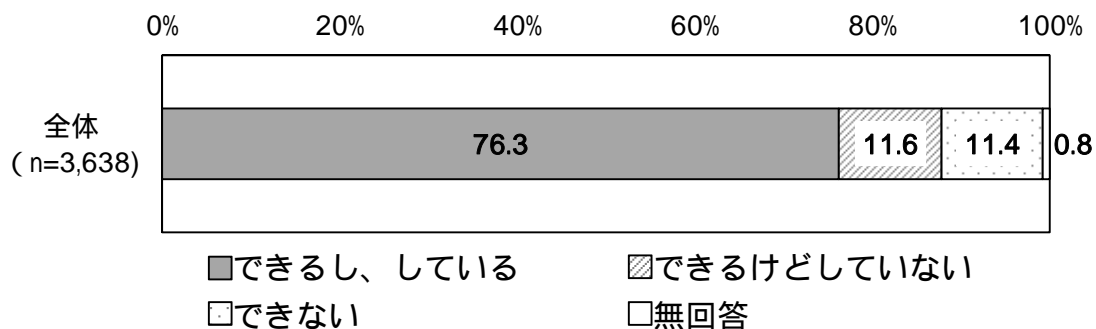


・介護度別にみると、一般高齢者では「できるし、している」が6割以上を占めて最も高い一方で、事業対象者・要支援1・要支援2では「できない」が半数以上を占め最も高くなっている。

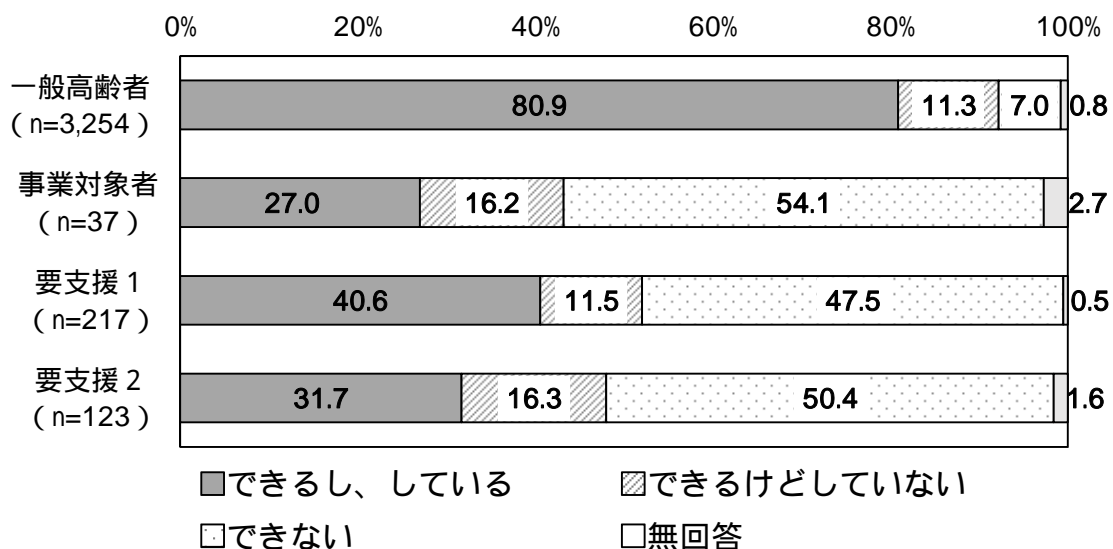


(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること

・椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることについては、「できるし、している」が76.3%と7割以上となっている。

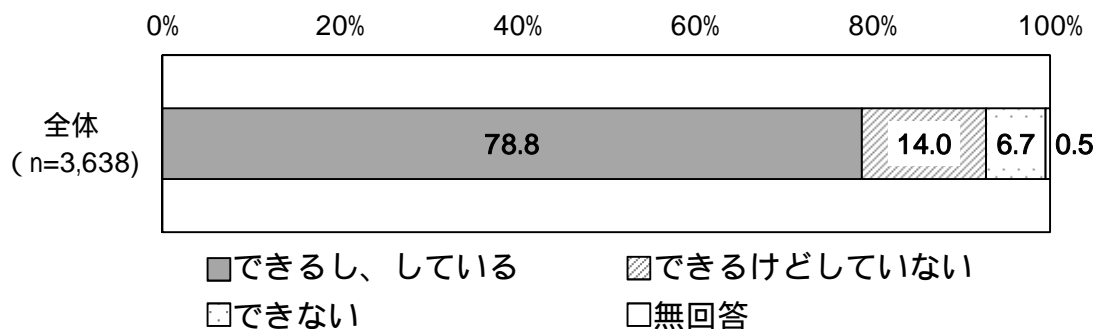


・介護度別にみると、一般高齢者では「できるし、している」が8割以上を占めて最も高い一方で、事業対象者・要支援1・要支援2では「できない」が4割以上を占め最も高くなっている。

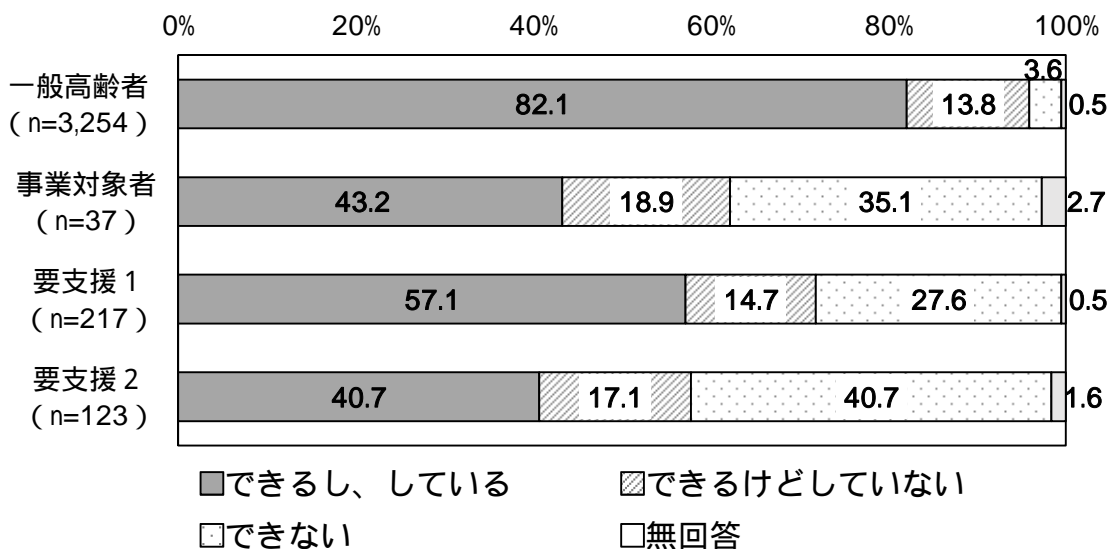


(3) 15分位続けて歩くこと

・15分位続けて歩くことについては、「できるし、している」が78.8%と7割以上となっている。

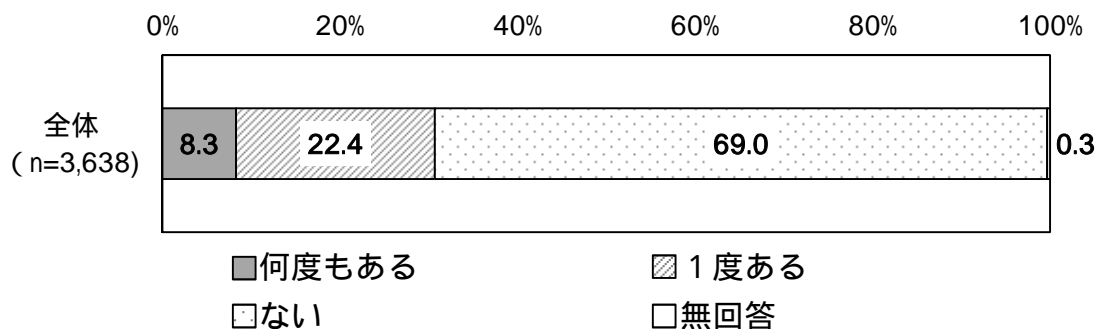


・介護度別にみると、要支援2で「できるし、している」と「できない」が40.7%と同率となっており、4割以上の方が15分位続けて歩くことが「できない」結果となっている。

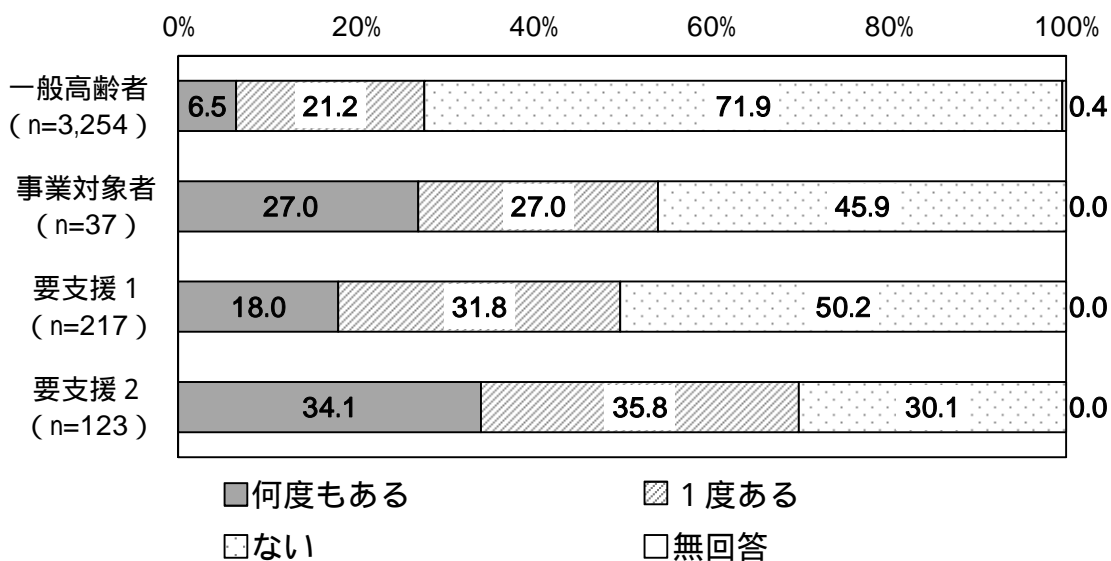


(4) 過去1年間の転んだ経験

・過去1年間の転んだ経験については、「ない」が69.0%と7割近くを占めている。

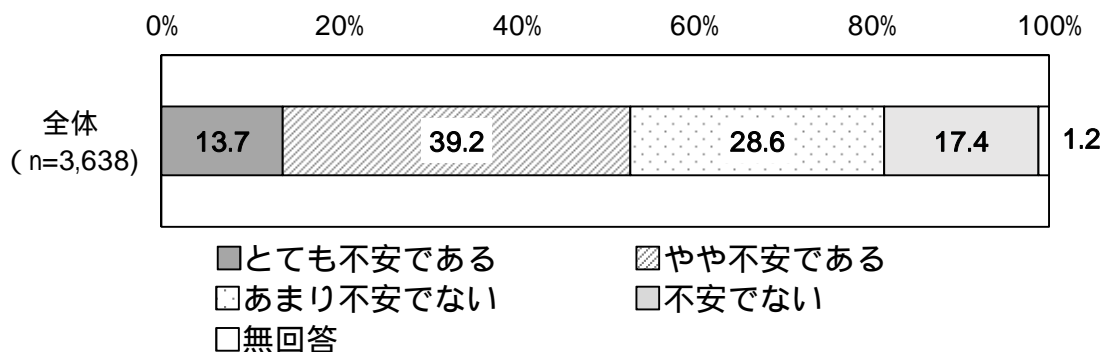


・介護度別にみると、要支援2では「1度ある」が35.8%と3割以上を占め最も高くなっている。また、「何度もある」・「1度ある」を合わせた過去1年間に転んだ経験が『ある』人の割合は、事業対象者で54.0%、要支援1で49.8%、要支援2で69.9%となっており、一般高齢者(27.7%)より20ポイント以上高くなっている。

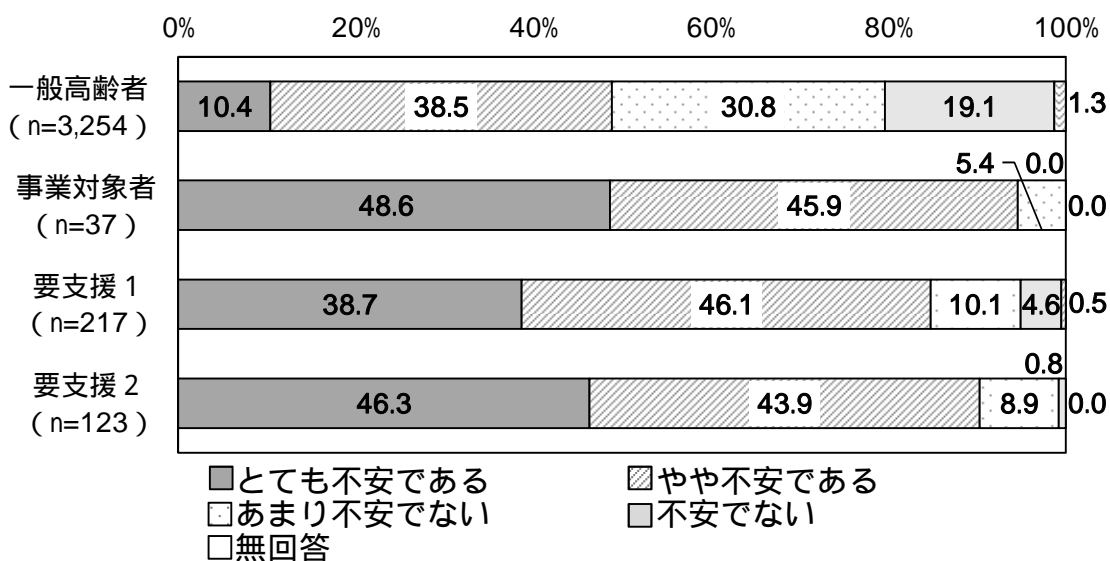


(5) 転倒に対する不安

- ・転倒に対する不安については、「やや不安である」が39.2%と4割近くを占め最も高く、「とても不安である」と合わせた『不安である』割合は52.9%と半数以上となっている。

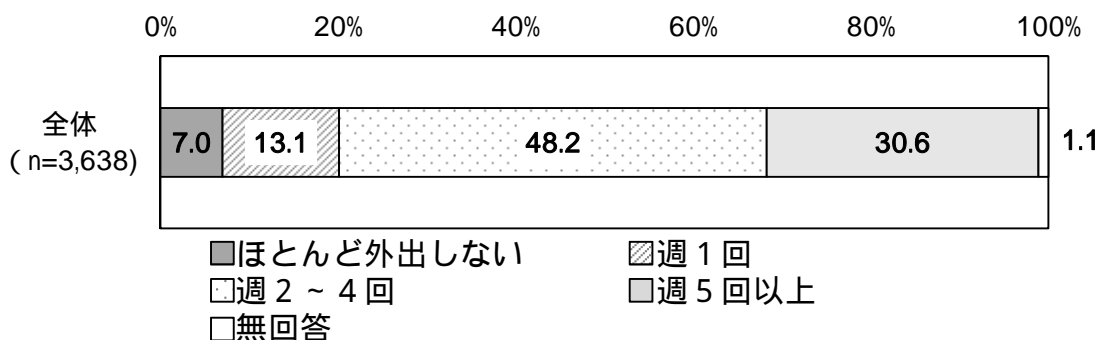


- ・介護度別にみると、事業対象者・要支援2では「とても不安である」が最も高くなっている。また、『不安である』割合は事業対象者で94.5%、要支援1で84.8%、要支援2で90.2%と、一般高齢者(48.9%)より35ポイント以上高くなっている。

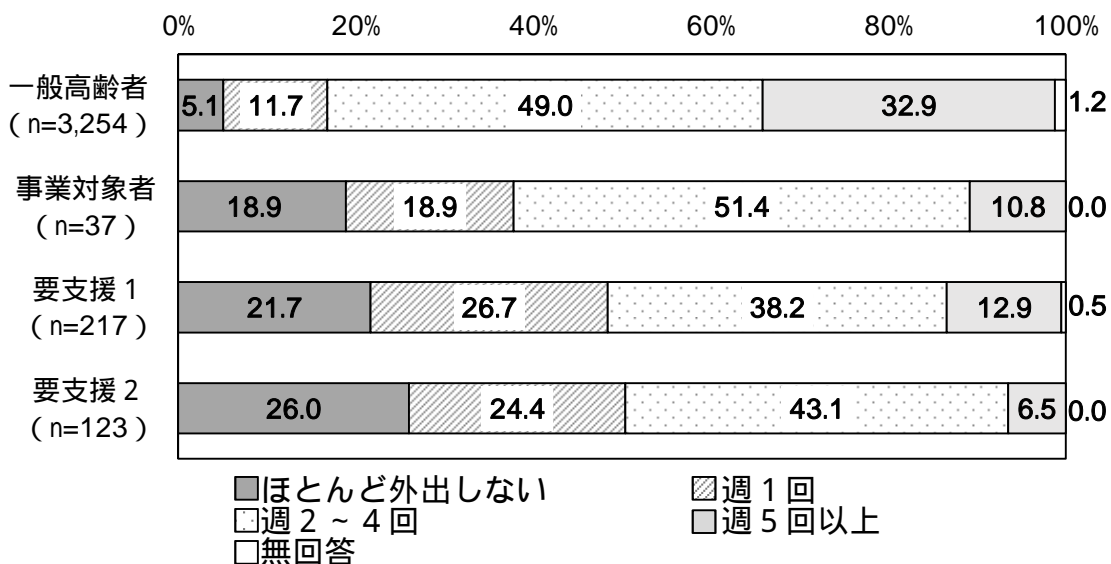


(6) 週に1回以上の外出

・週に1回以上の外出については、「週2～4回」が48.2%と最も高く、次いで「週5回以上」(30.6%)となっている。

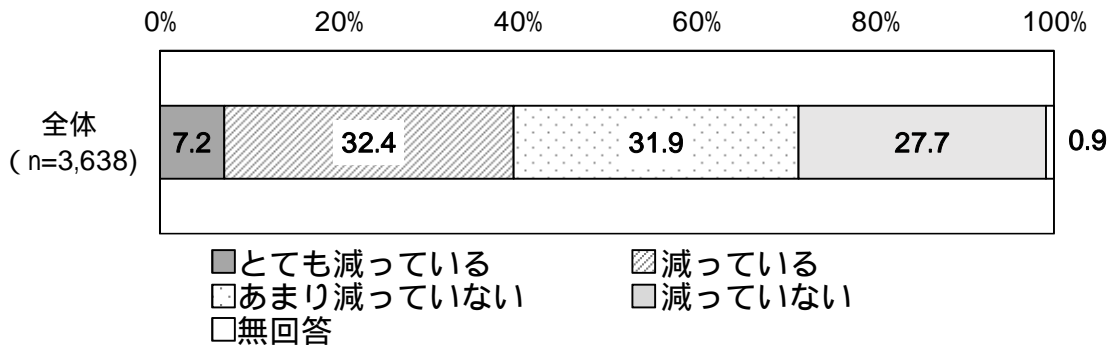


・介護度別にみると、「ほとんど外出しない」が、事業対象者で18.9%、要支援1で21.7%、要支援2で26.0%となっており、一般高齢者(5.1%)より10ポイント以上高くなっている。

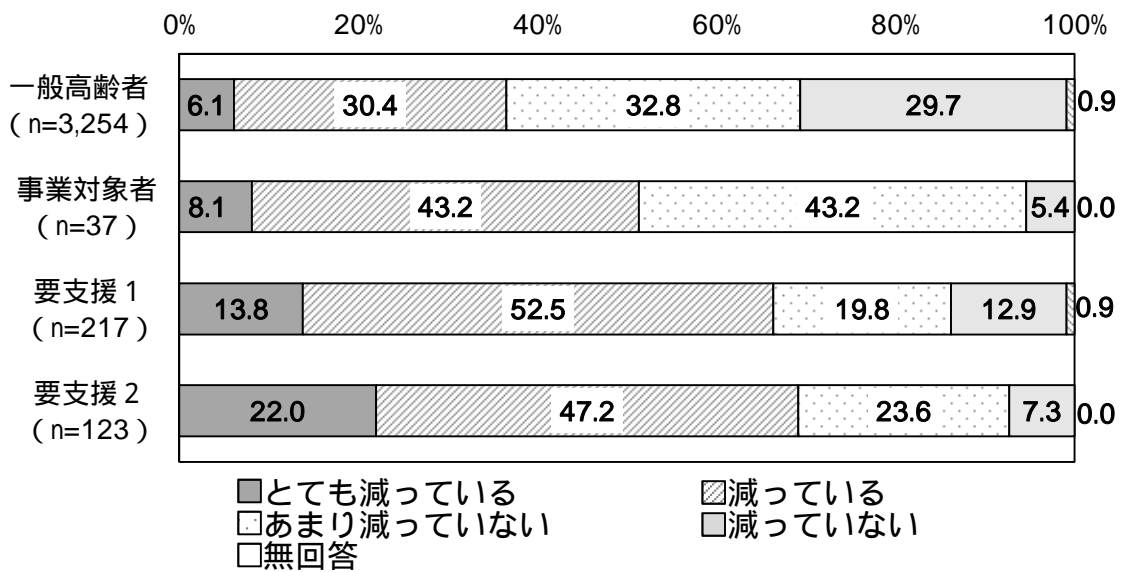


(7) 昨年と比べた外出の回数

・昨年と比べた外出の回数については「減っている」が32.4%と最も高く、「とても減っている」と合わせた『減っている』割合は39.6%と4割近くとなっている。

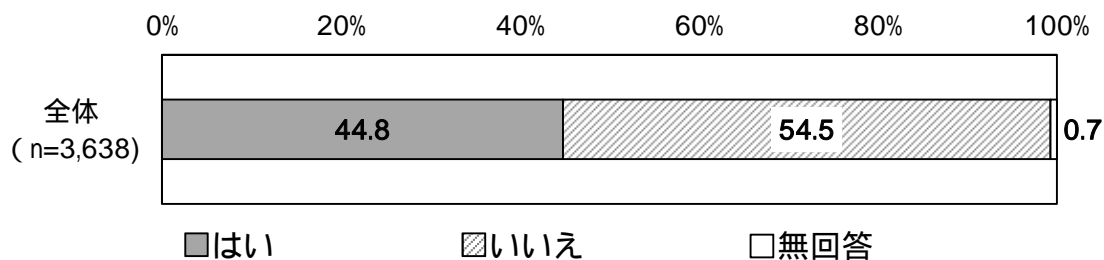


・介護度別にみると、昨年と比べた外出回数が『減っている』人の割合は、事業対象者で51.3%、要支援1で66.3%、要支援2で69.2%となっており、一般高齢者（36.5%）より10ポイント以上高くなっている。



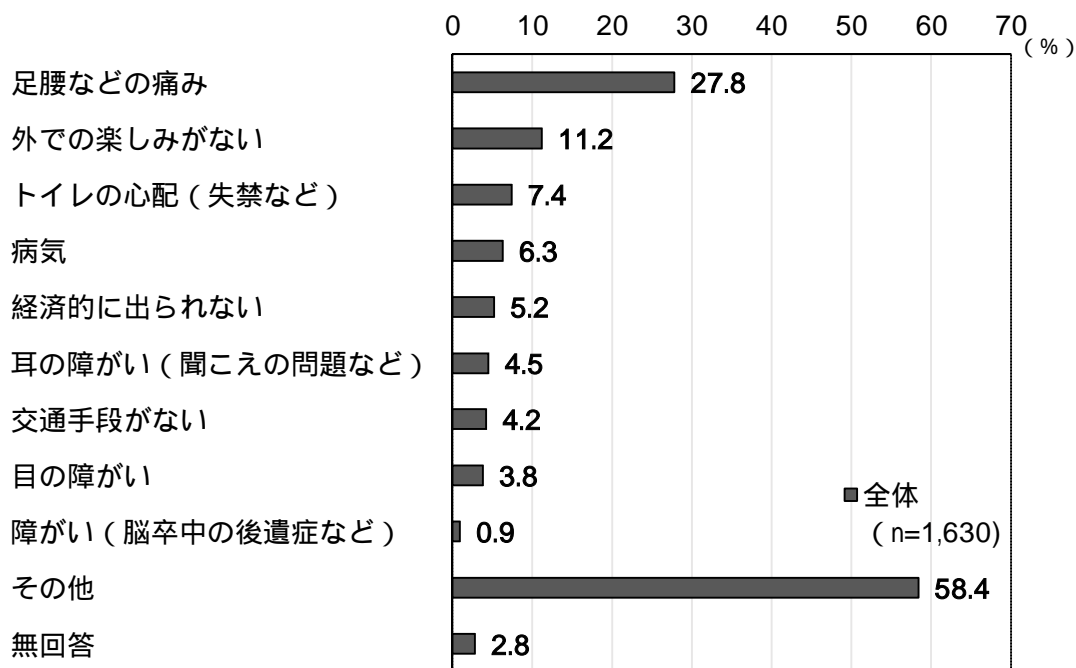
(8) 外出を控えているか

・外出を控えているかについては、「いいえ」が54.5%と半数以上となっている。



(8) 外出を控えている理由 (8)で「外出を控えている」と回答した方のみ

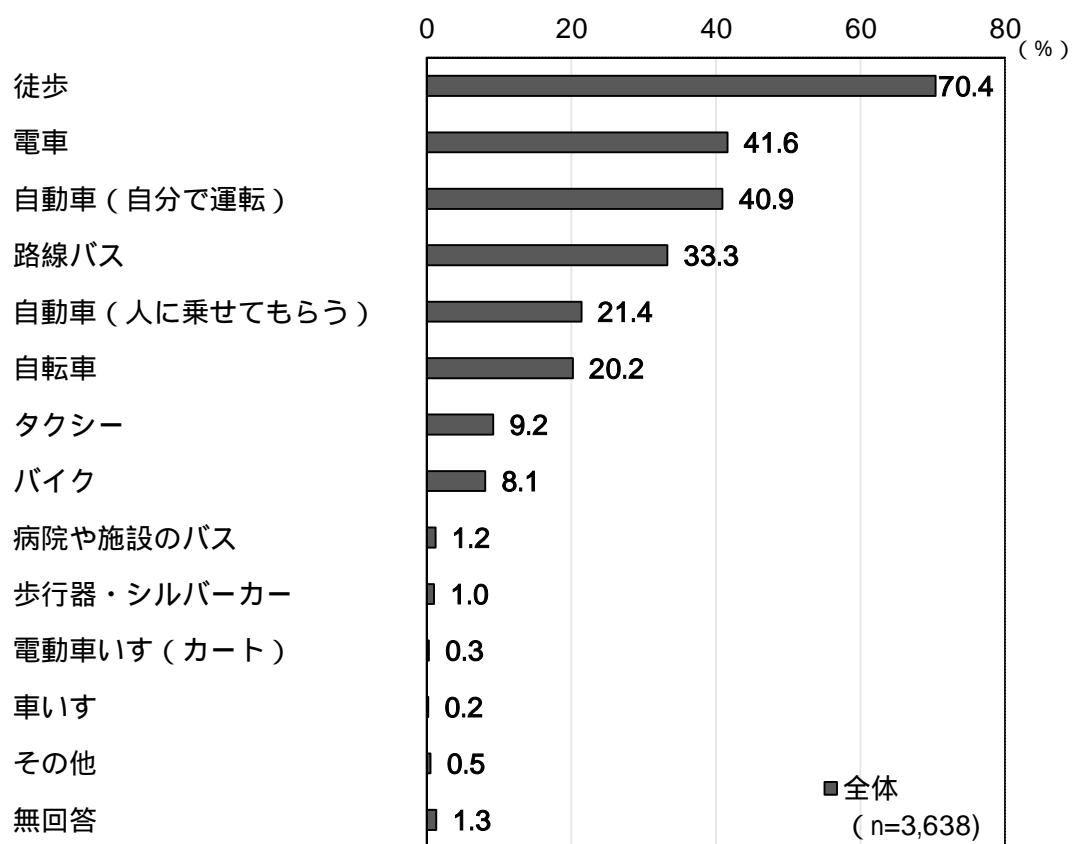
・外出を控えている理由は「その他」が58.4%で半数以上を占め最も高くなっている。「その他」以外では、「足腰などの痛み」が27.8%と最も高く、次いで「外での楽しみがない」(11.2%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
新型コロナウイルス感染拡大防止のため	外出の必要がない
歩くと息苦しい・ふらつく、歩行困難	外出すると疲れる 等

(9) 外出の際の移動手段

・外出の際の移動手段については、「徒歩」が70.4%と7割以上を占め最も高く、次いで「電車」(41.6%)、「自動車(自分で運転)」(40.9%)となっている。



「その他」の主な回答内容		
杖やウォーキングバッグを使い歩く	子どもの車に乗せてもらう	等

- ・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「徒歩」が最も高くなっている。また、事業対象者・要支援1・要支援2で「自動車(人に乗せてもらう)」や「タクシー」が高くなっており、一般高齢者では「自転車」や「自動車(自分で運転)」が高くなっている。

(%)

	全体 (件数)	徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で運転)	自動車 (人に乗せても らう)	電車	路線バス
一般高齢者	3,254	72.5	21.8	8.8	44.3	19.9	43.4	34.0
事業対象者	37	59.5	2.7	-	5.4	40.5	32.4	29.7
要支援1	217	57.1	7.8	2.8	14.7	35.0	25.8	27.6
要支援2	123	43.1	5.7	1.6	6.5	34.1	23.6	26.0
	全体 (件数)	病院 や施設 のバス	車 い す	電 動 車 い す (カ ー ト)	歩 行 器 ・ シ ル バ ー カ ー	タ ク シ ー	そ の 他	無 回 答
一般高齢者	3,254	0.8	0.2	0.0	0.4	6.8	0.3	1.3
事業対象者	37	5.4	-	-	-	35.1	-	-
要支援1	217	2.8	0.5	1.4	6.9	25.8	2.8	0.5
要支援2	123	6.5	2.4	5.7	8.9	35.0	-	4.1

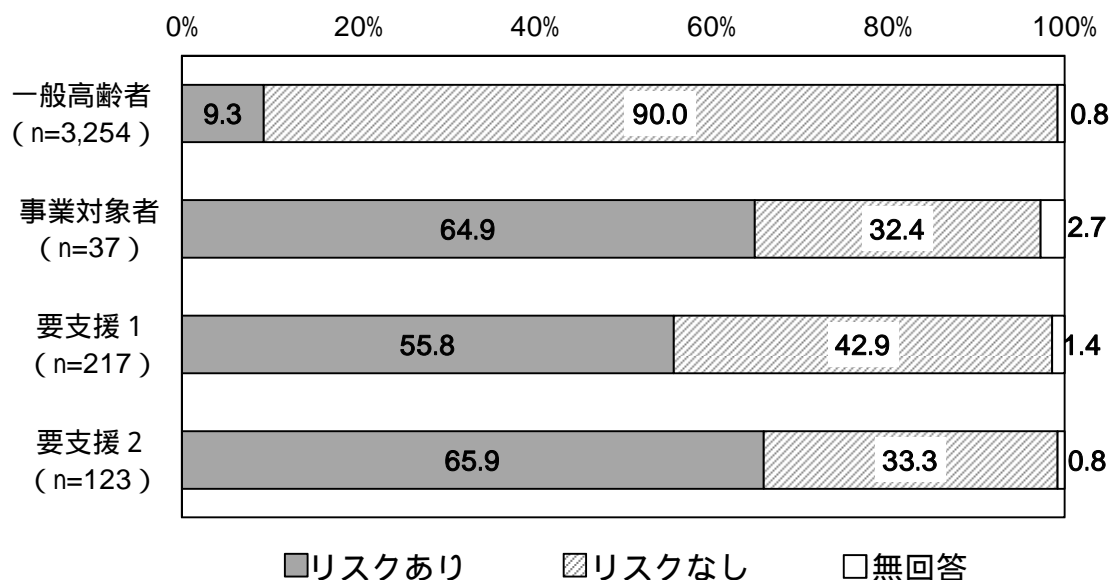
◆ 運動器の機能低下リスク

- ・介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための基本チェックリストでは、下の5つの設問に対する回答から、高齢者の運動機能に関してリスク判定をしている。
- ・今回の調査票に含まれる以下の設問5問中3問以上に該当した場合に運動器の機能低下の「リスクあり」に該当する。

問番号	設問	該当する選択肢
3(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できない
3(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できない
3(3)	15分位続けて歩いていますか	できない
3(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	何度もある/1度ある
3(5)	転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である/やや不安である

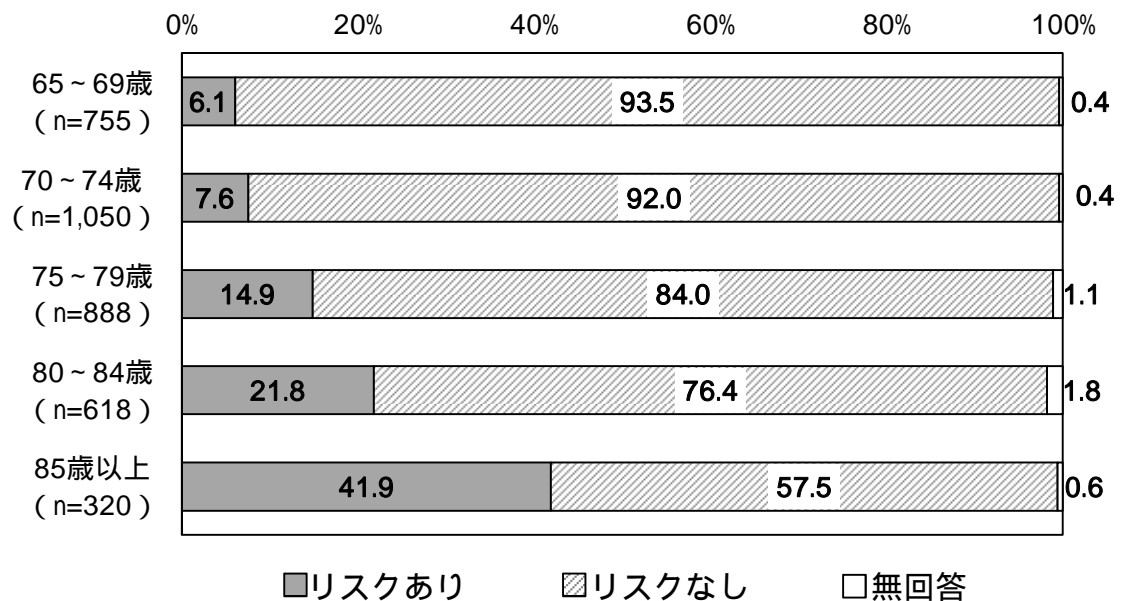
介護度別判定

- ・介護度別にみると、運動器の機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合は一般高齢者では9.3%と1割未満である一方で、事業対象者では64.9%、要支援1では55.8%、要支援2では65.9%と半数以上となっている。



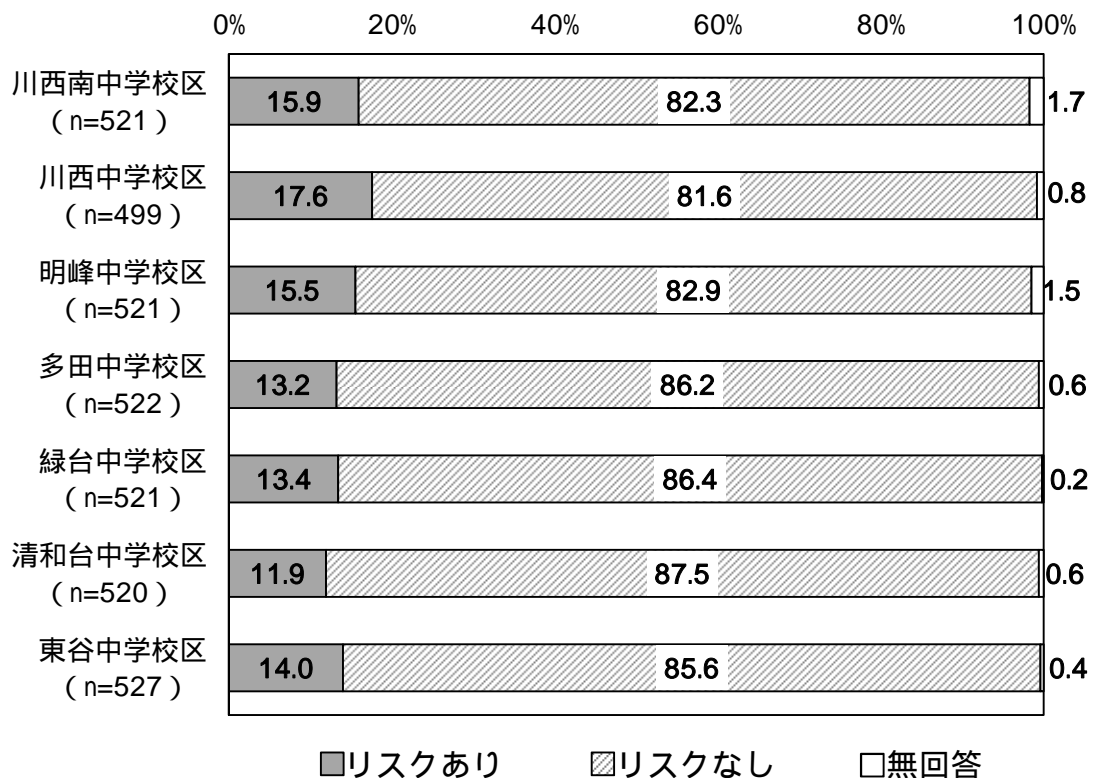
年齢別判定

- ・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて運動器の機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合が高くなっており、85歳以上では41.9%と4割以上を占めている。



日常生活圏域（中学校区）別判定

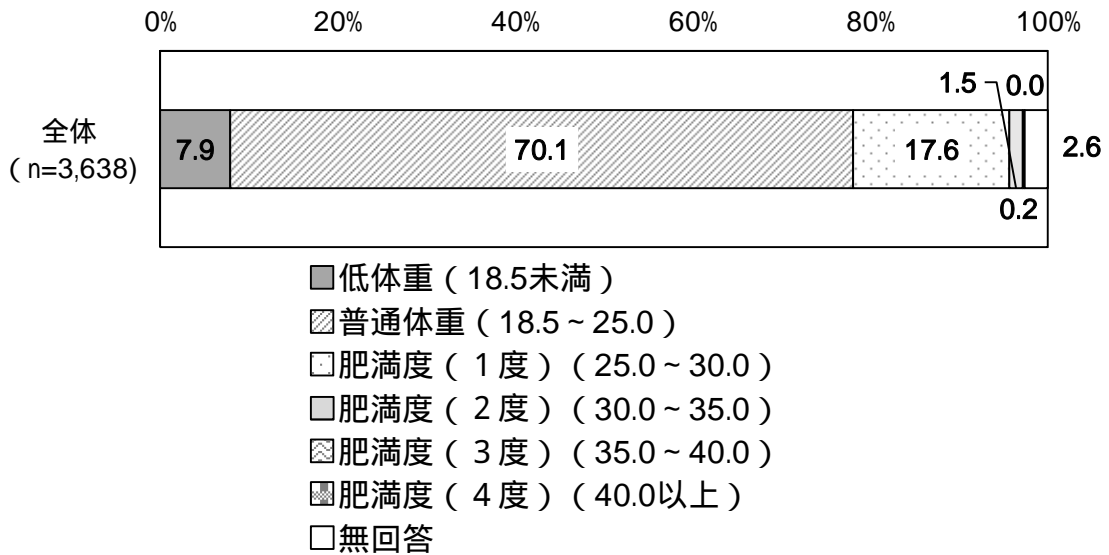
- ・日常生活圏域別にみると、運動器の機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合は川西中学校区で17.6%と最も高くなっている。



4. 食べることについて

(1) BMI BMI=体重(kg)÷(身長(m)×身長(m))

- ・回答された身長・体重から算出したBMIについては、「普通体重」が70.1%と7割以上を占め最も高くなっている。

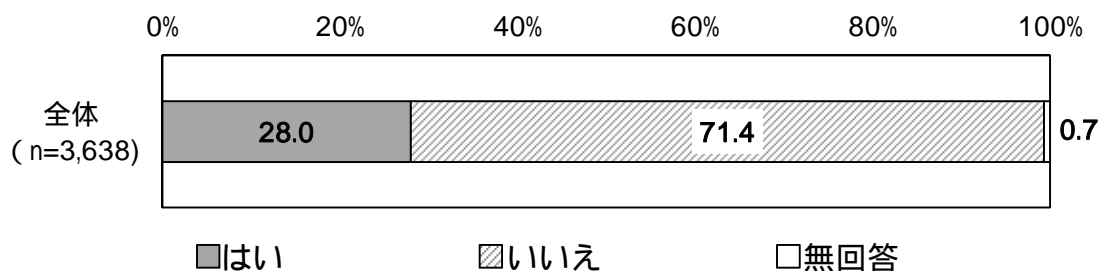


- ・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「普通体重」が最も高くなっている。また、「低体重 (18.5 未満)」が事業対象者で 10.8%、要支援 1 で 11.1%、要支援 2 で 11.4% と 1 割以上となっている。

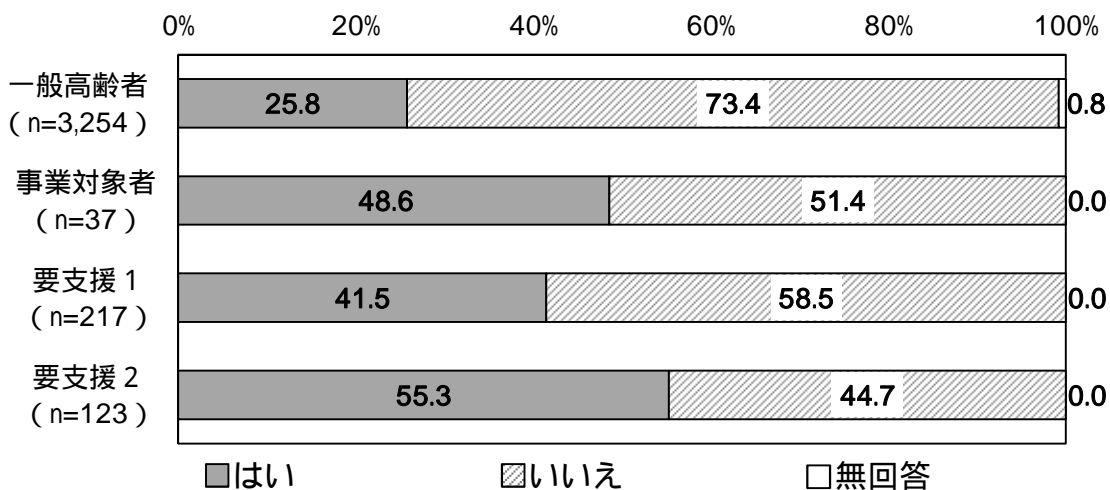
	全体 (件数)	低体重 (18.5未満)	普通体重 (18.5~25.0)	肥満度 (1度) (25.0~30.0)	肥満度 (2度) (30.0~35.0)	肥満度 (3度) (35.0~40.0)	肥満度 (4度) (40.0以上)	無回答
一般高齢者	3,254	7.6	71.1	17.4	1.4	0.2	-	2.3
事業対象者	37	10.8	70.3	13.5	-	-	-	5.4
要支援 1	217	11.1	60.4	20.7	1.8	0.9	-	5.1
要支援 2	123	11.4	63.4	16.3	3.3	-	-	5.7

(2) 固いものが食べにくくなったこと

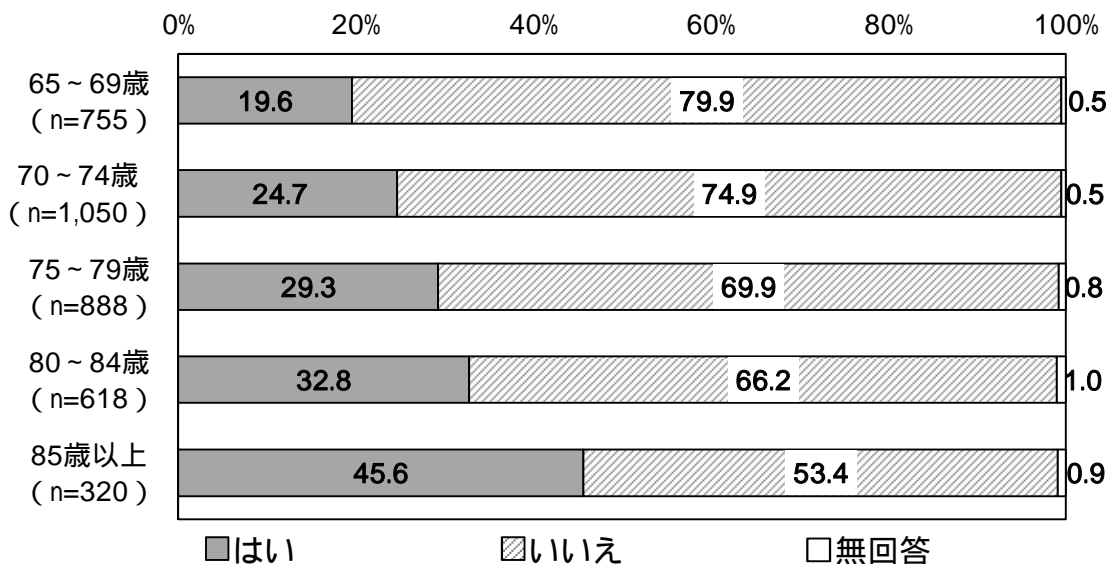
- ・半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、「いいえ」が71.4%と7割以上を占めている。



- ・介護度別にみると、「はい」が、事業対象者で48.6%、要支援1で41.5%、要支援2で55.3%と、一般高齢者(25.8%)より15ポイント以上高くなっている。

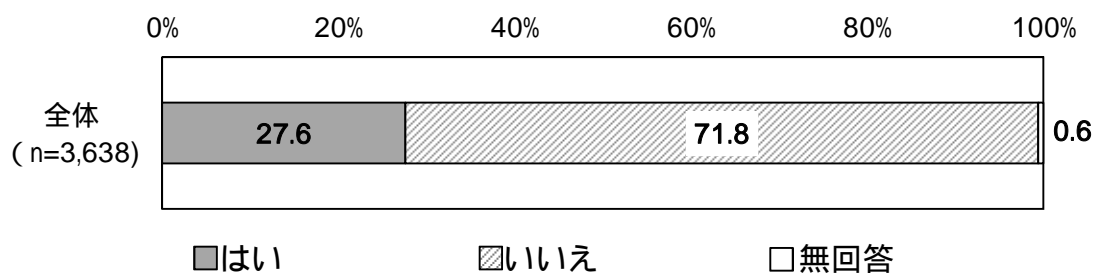


- ・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「はい」が高くなっており、85歳以上では45.6%と4割以上を占めている。

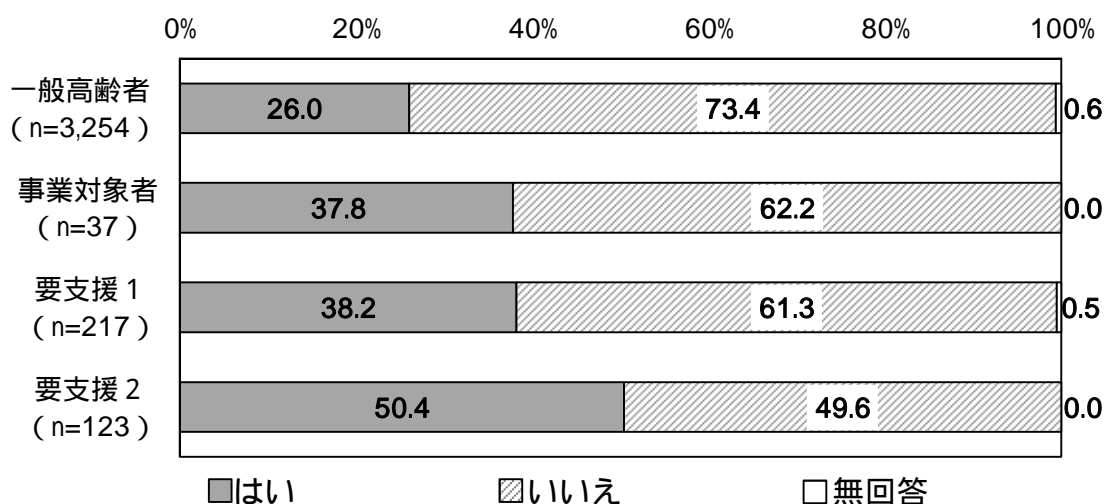


(3) お茶や汁物等でむせること

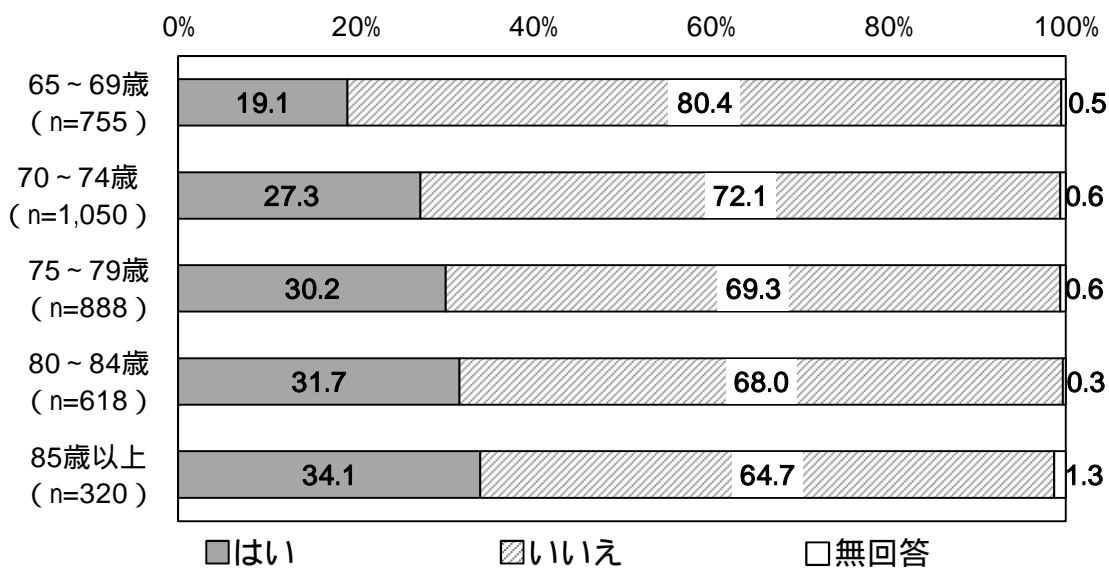
・お茶や汁物等でむせることがあるかについては、「いいえ」が71.8%と7割以上を占めている。



・介護度別にみると、要支援2で「はい」が50.4%と、半数以上の人がお茶や汁物等でむせることがある結果となっている。

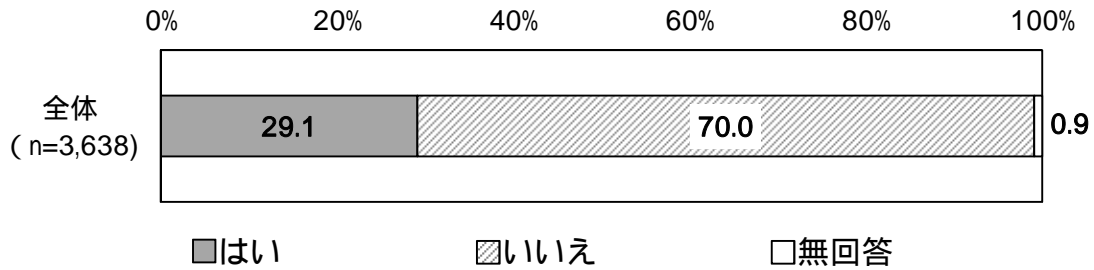


・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「はい」が高くなっている。

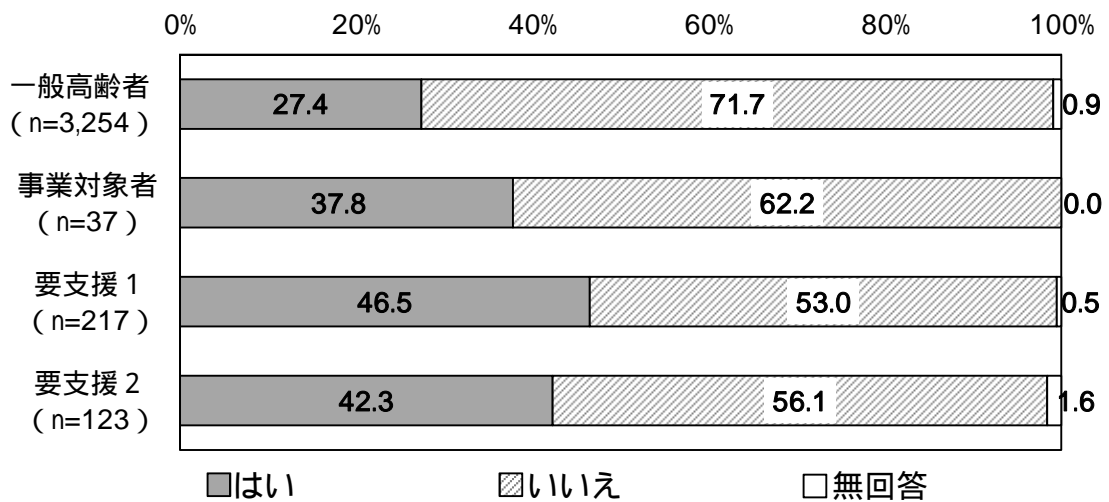


(4) 口の渇き

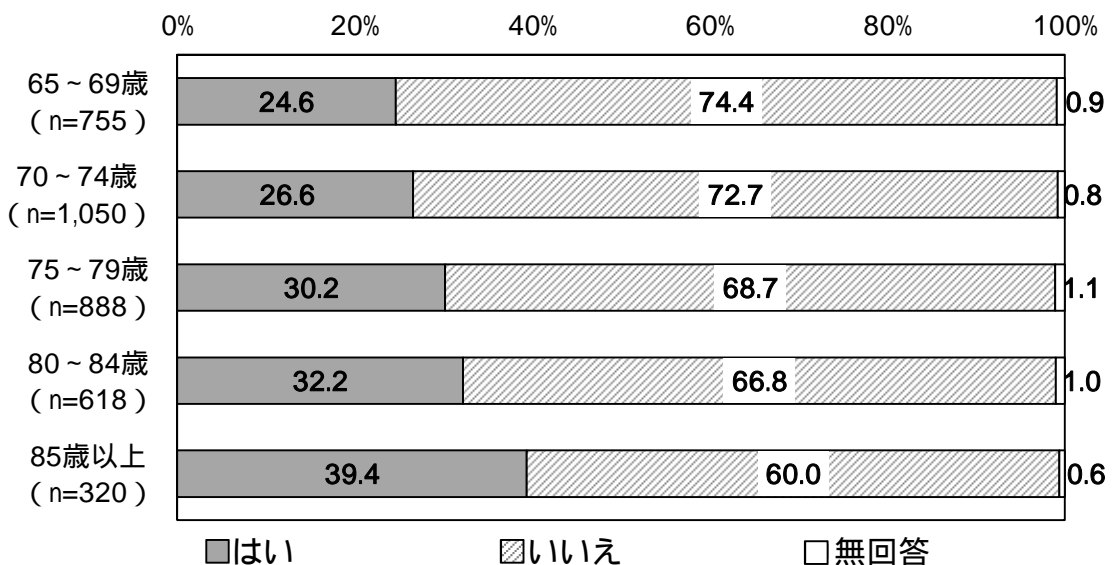
・口の渇きが気になるかについては、「いいえ」が70.0%と7割となっている。



・介護度別にみると、「はい」が、事業対象者では37.8%、要支援1では46.5%、要支援2では42.3%と、一般高齢者(27.4%)より10ポイント以上高くなっている。

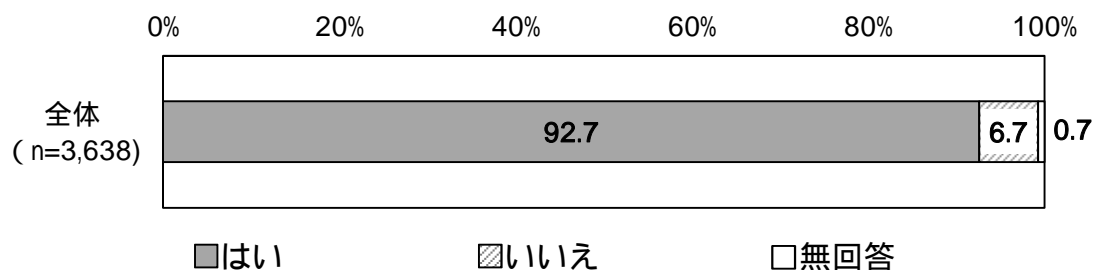


・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「はい」が高くなっており、85歳以上では39.4%と4割近くとなっている。

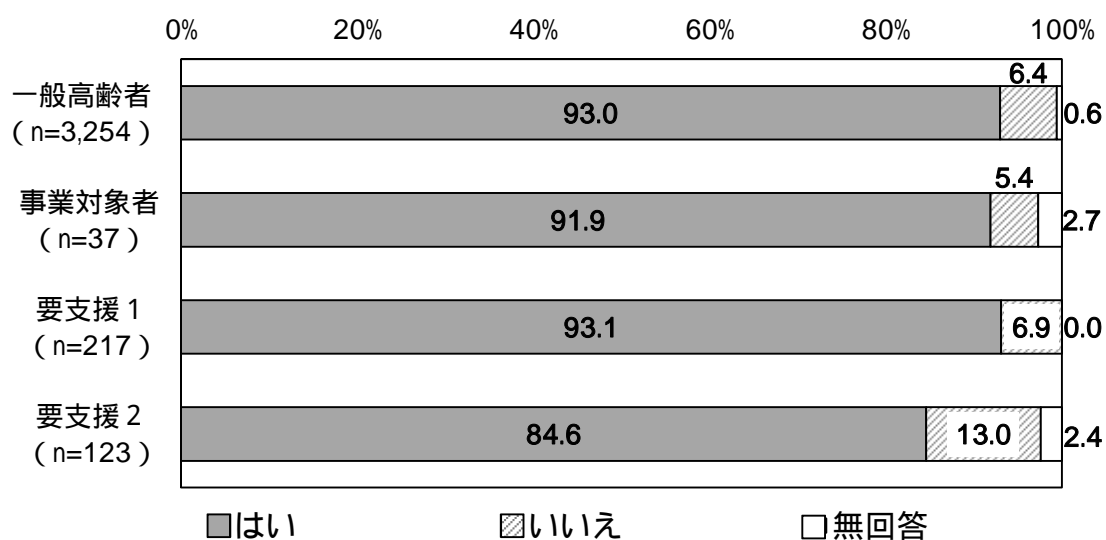


(5) 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)

- ・歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日しているかについては、「はい」が92.7%と9割以上となっている。

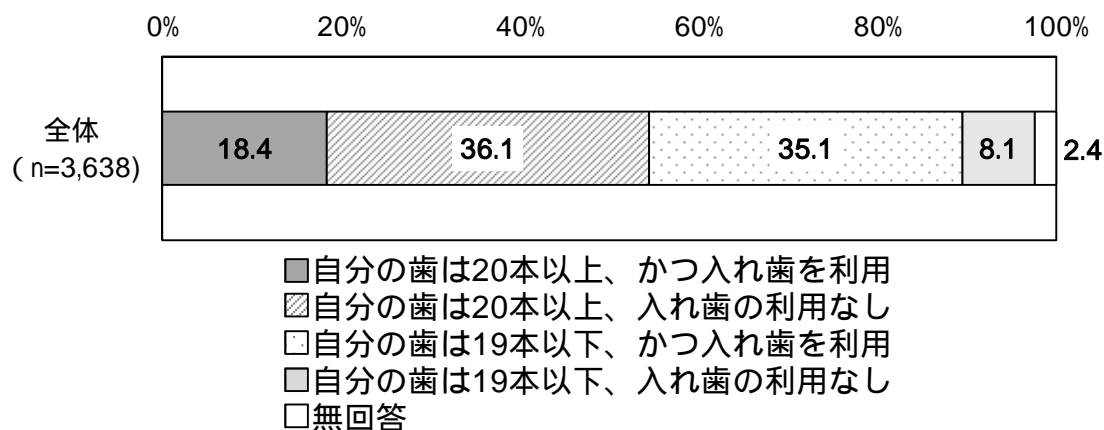


- ・介護度別にみると、要支援2で「いいえ」が13.0%と1割以上を占めている。

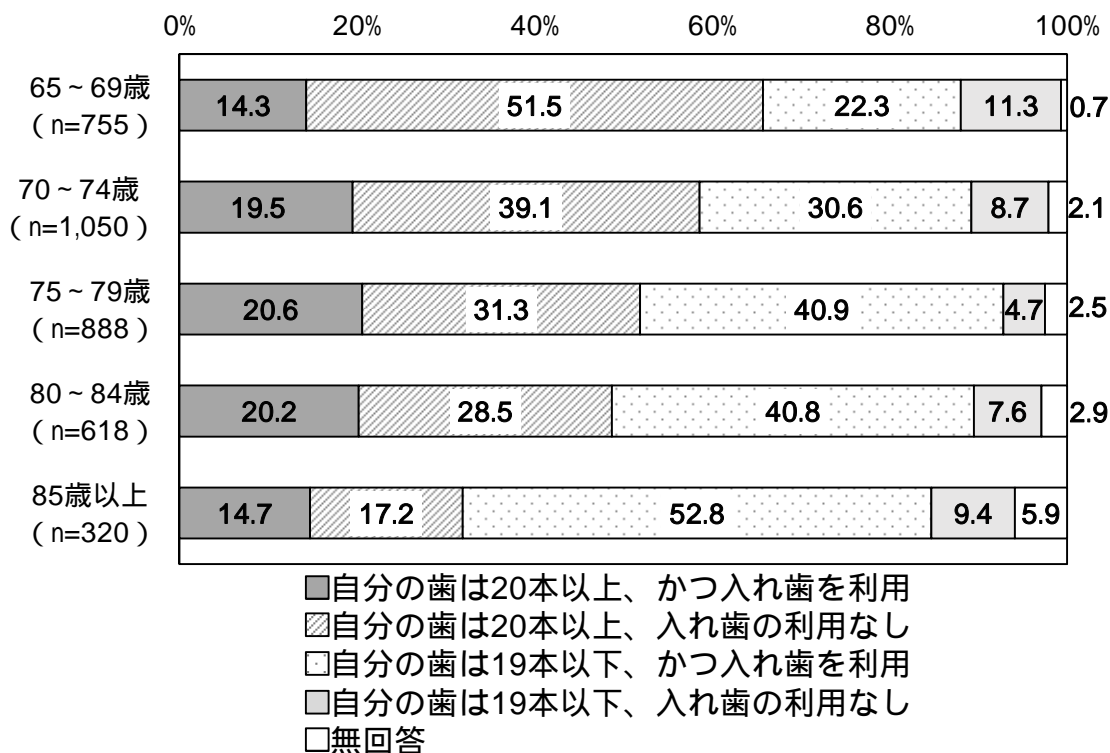


(6) 歯の数と入れ歯の利用状況

- ・歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が36.1%と最も高く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が35.1%となっている。「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」・「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」を合わせた『入れ歯の利用率』は53.5%と半数以上となっている。

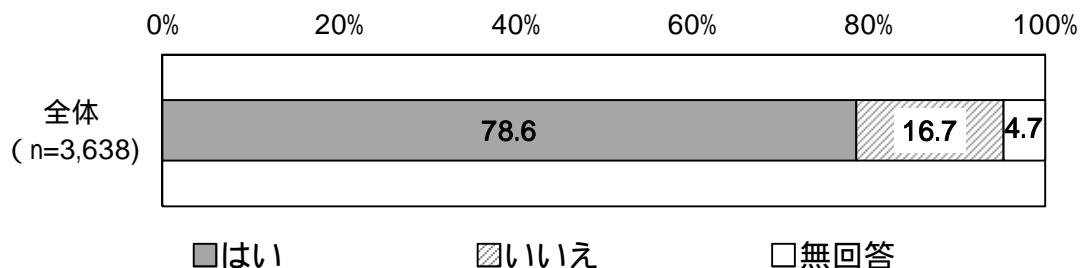


- ・年齢別にみると、概ね年齢が上がるにつれて「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が高くなっており、85歳以上では52.8%と半数以上を占めている。

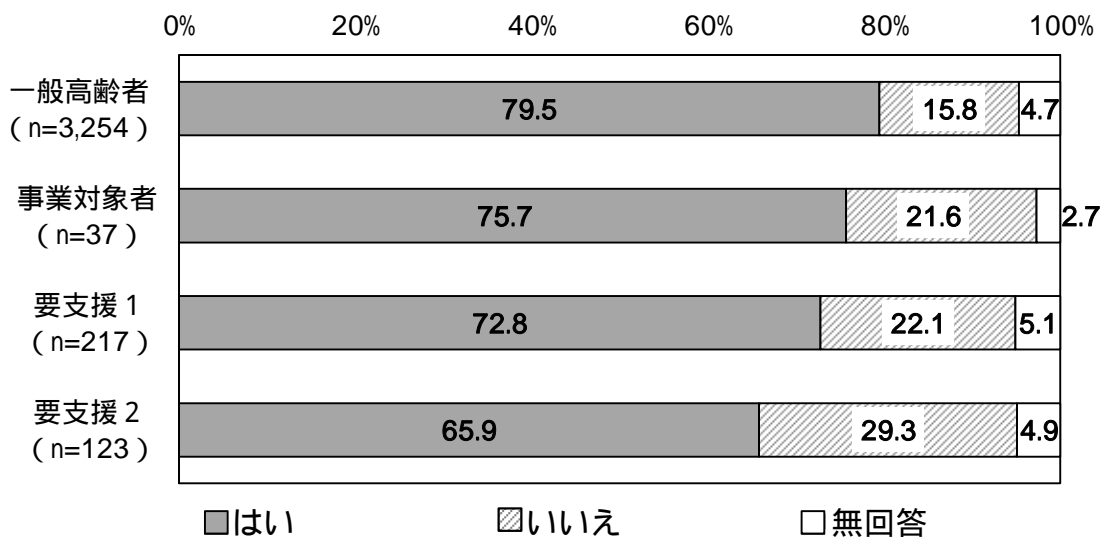


(6 -) 噛み合わせ

・噛み合わせは良いかについては、「はい」が78.6%と7割以上となっている。



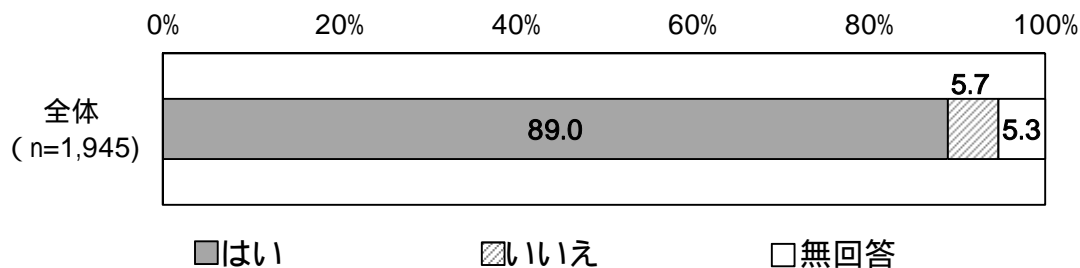
・介護度別にみると、「いいえ」が、事業対象者で21.6%、要支援1で22.1%、要支援2で29.3%となっており、2割以上の方が噛み合わせが良くないと感じている結果となっている。



(6 -) 入れ歯の手入れ

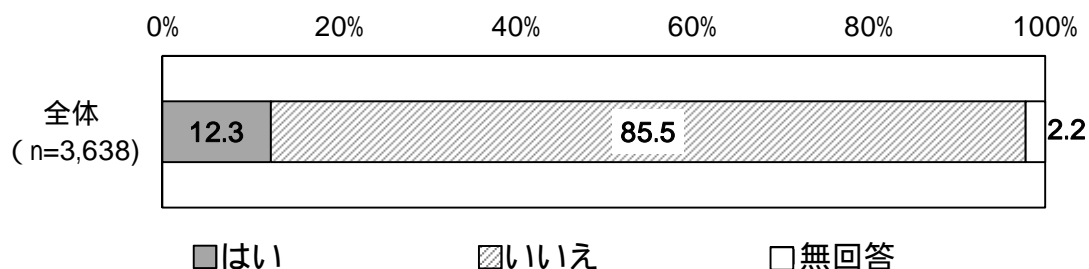
(6) で「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」または「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した方のみ

・毎日入れ歯の手入れをしているかについては「はい」が89.0%と9割近くを占めている。

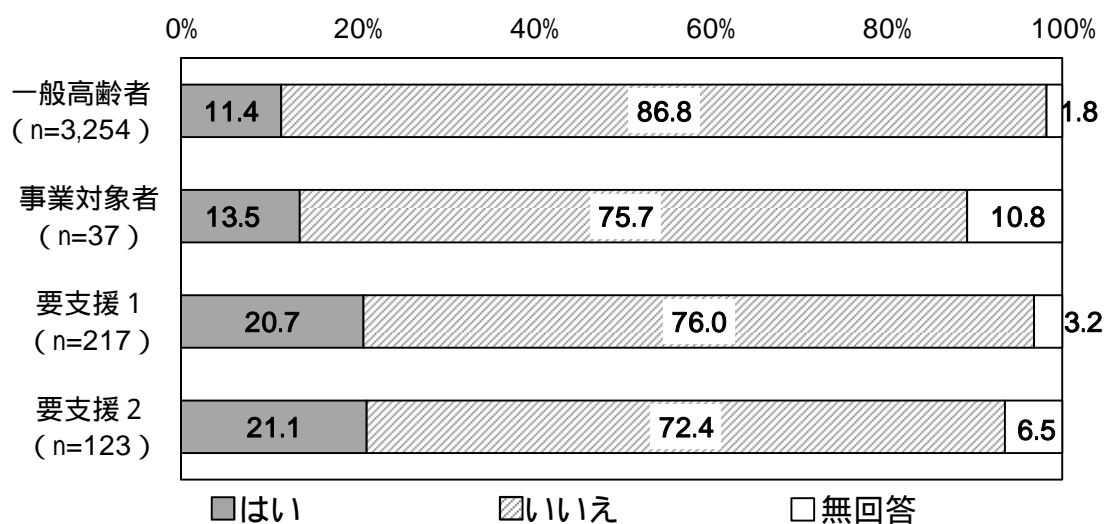


(7) 体重減少

- ・ 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについては、「いいえ」が85.5%と8割以上を占めている。

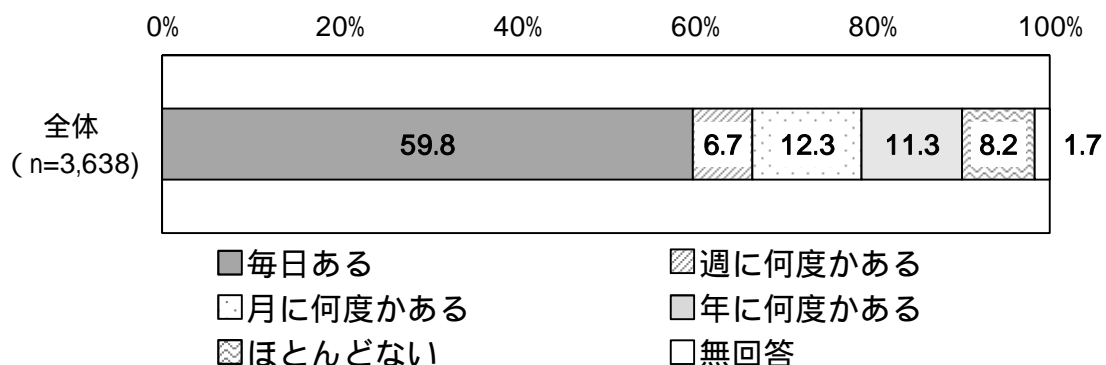


- ・ 介護度別にみると、「はい」が、要支援1・要支援2でともに2割以上となっている。

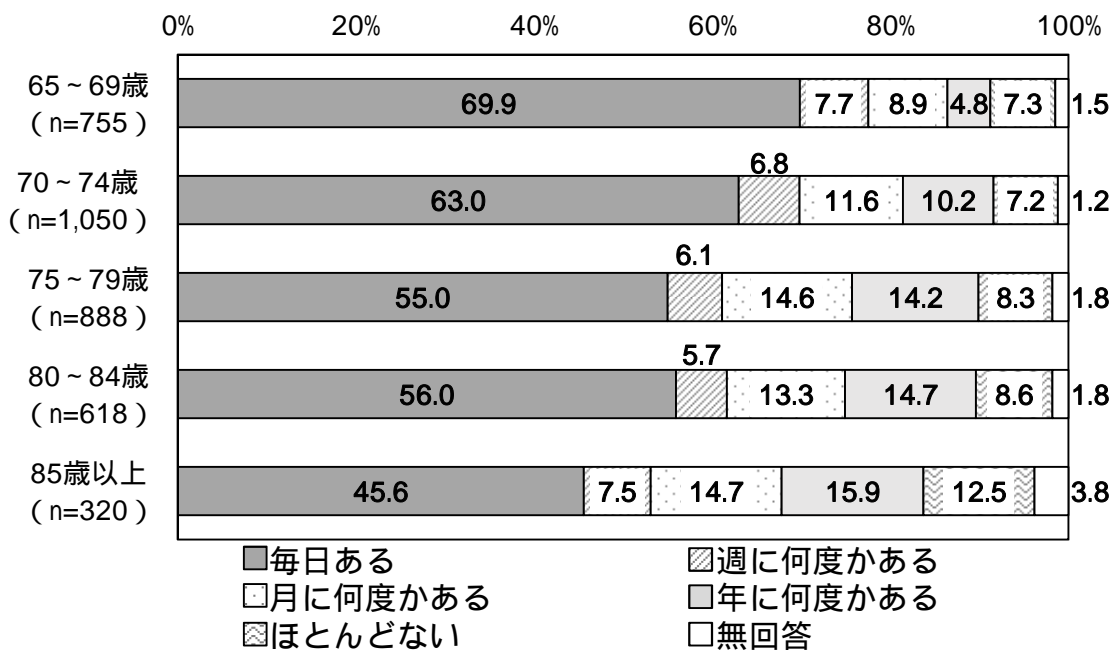


(8) 誰かと食事をとにする機会

- ・誰かと食事をとにする機会があったかについては、「毎日ある」が 59.8%と6割近くを占め最も高く、次いで「月に何度かある」(12.3%)となっている。



- ・年齢別にみると、概ね年齢が上がるにつれて「毎日ある」が低くなっており、85歳以上では45.6%と半数未満となっている。また、85歳以上で「ほとんどない」が12.5%と1割以上となっている。



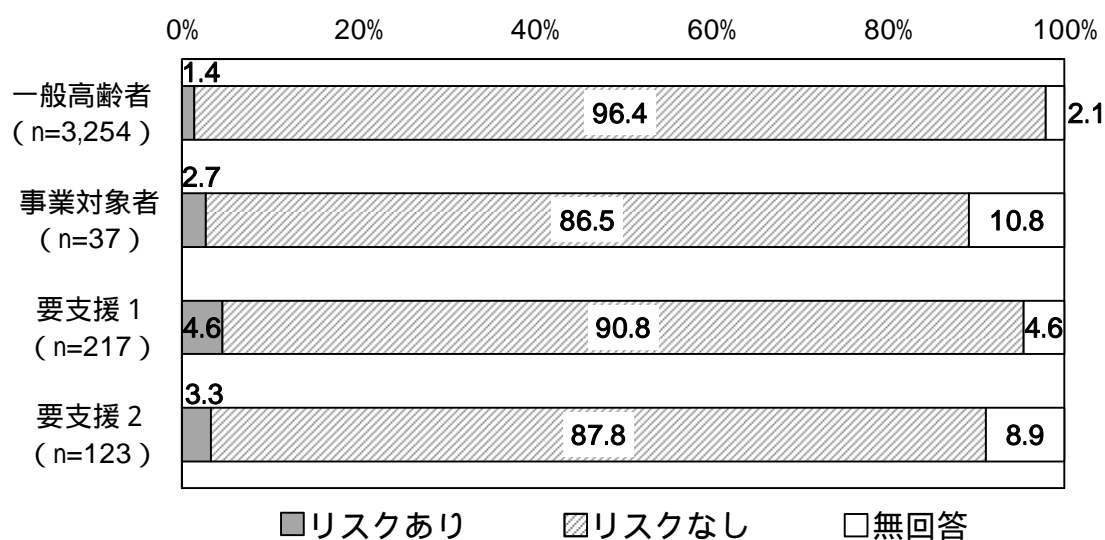
◆ 低栄養リスク

- ・介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための基本チェックリストでは、下の2つの設問に対する回答から、高齢者の低栄養に関してリスク判定をしている。
- ・今回の調査票に含まれる以下の設問2問どちらにも該当した場合に低栄養の「リスクあり」に該当する。

問番号	設問	該当する選択肢
4(1)	BMI値 = 体重(kg) ÷ (身長(m) × 身長(m))	低体重(18.5未満)
4(7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	はい

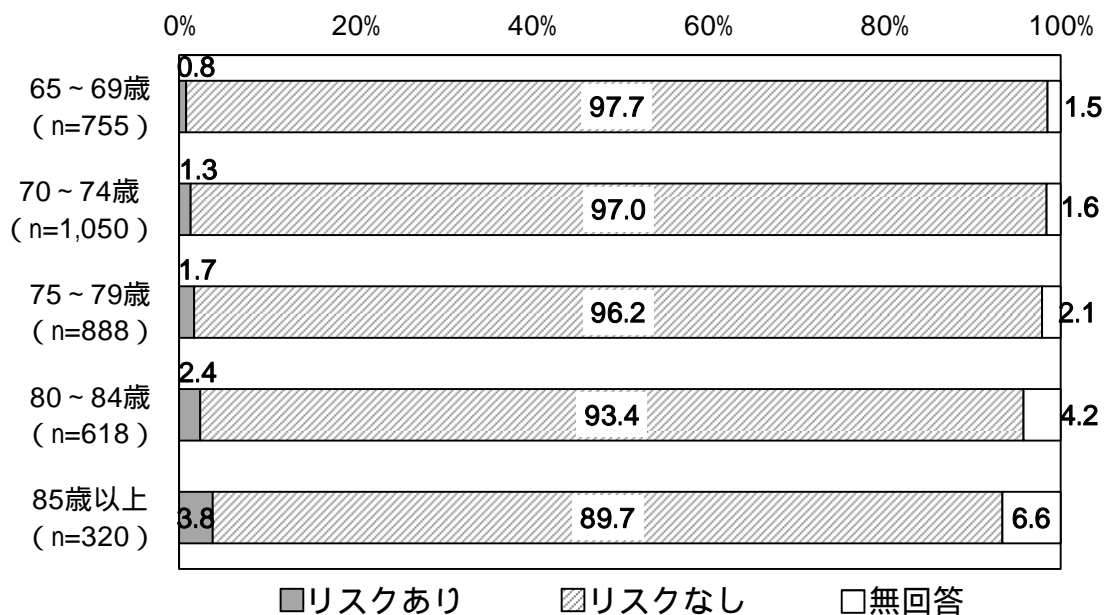
介護度別判定

- ・介護度別にみると、低栄養の「リスクあり」に該当する人の割合は一般高齢者で1.4%であるのに対し、要支援1では4.6%、要支援2では3.3%となっている。



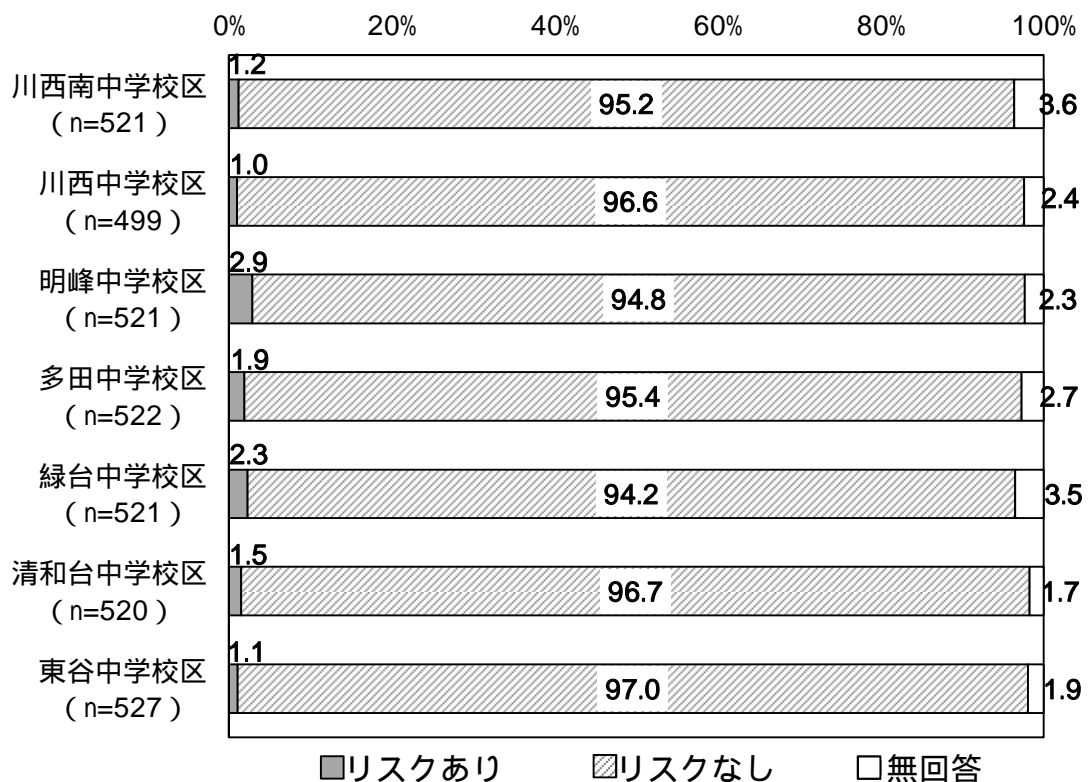
年齢別判定

- ・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて低栄養の「リスクあり」に該当する人の割合が高くなっており、85歳以上では3.8%となっている。



日常生活圏域（中学校区）別判定

- ・日常生活圏域別にみると、明峰中学校区で低栄養の「リスクあり」に該当する人の割合が2.9%と最も高くなっている。



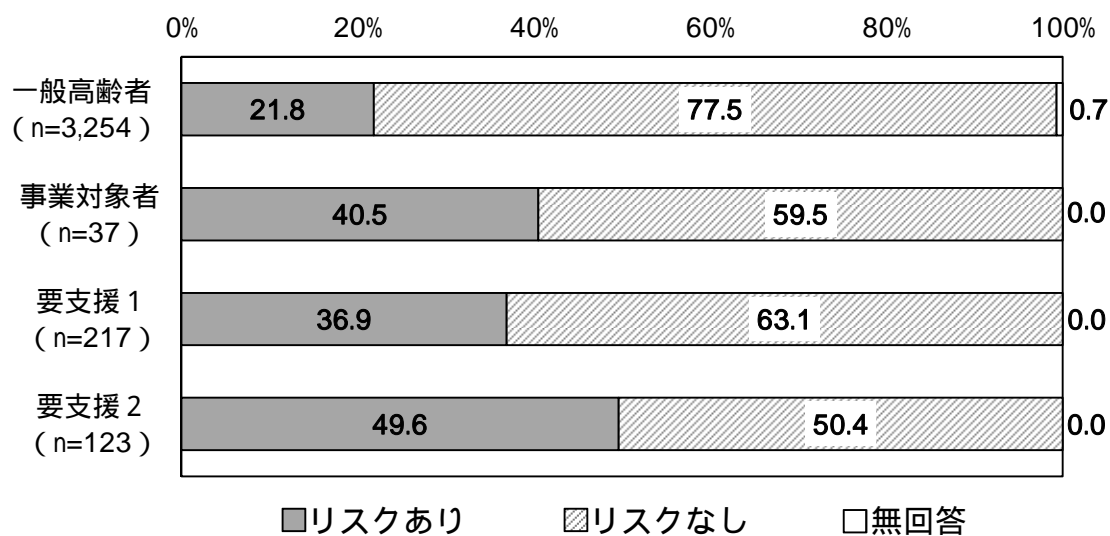
◆ 口腔機能リスク

- ・介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための基本チェックリストでは、下の3つの設問に対する回答から、高齢者の口腔機能に関してリスク判定をしている。
- ・今回の調査票に含まれる以下の設問3問中2問以上に該当した場合に口腔機能低下の「リスクあり」に該当する。

問番号	設問	該当する選択肢
4(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい
4(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	はい
4(4)	口の渇きが気になりますか	はい

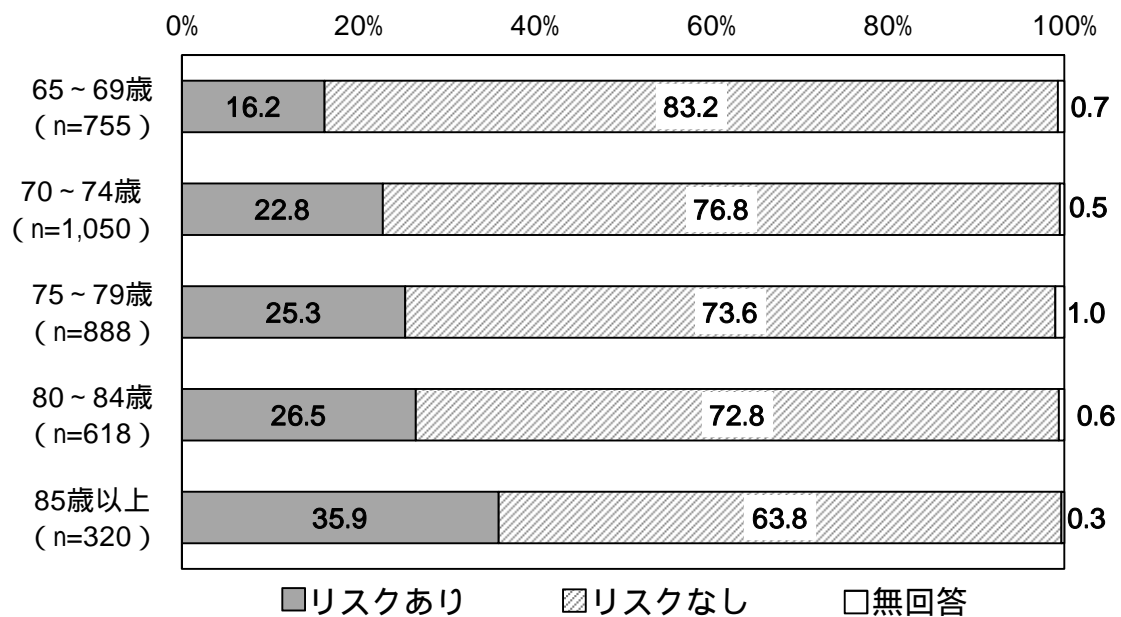
介護度別判定

- ・介護度別にみると、口腔機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合は事業対象者では40.5%、要支援1では36.9%、要支援2では49.6%と、一般高齢者(21.8%)より15ポイント以上高くなっている。



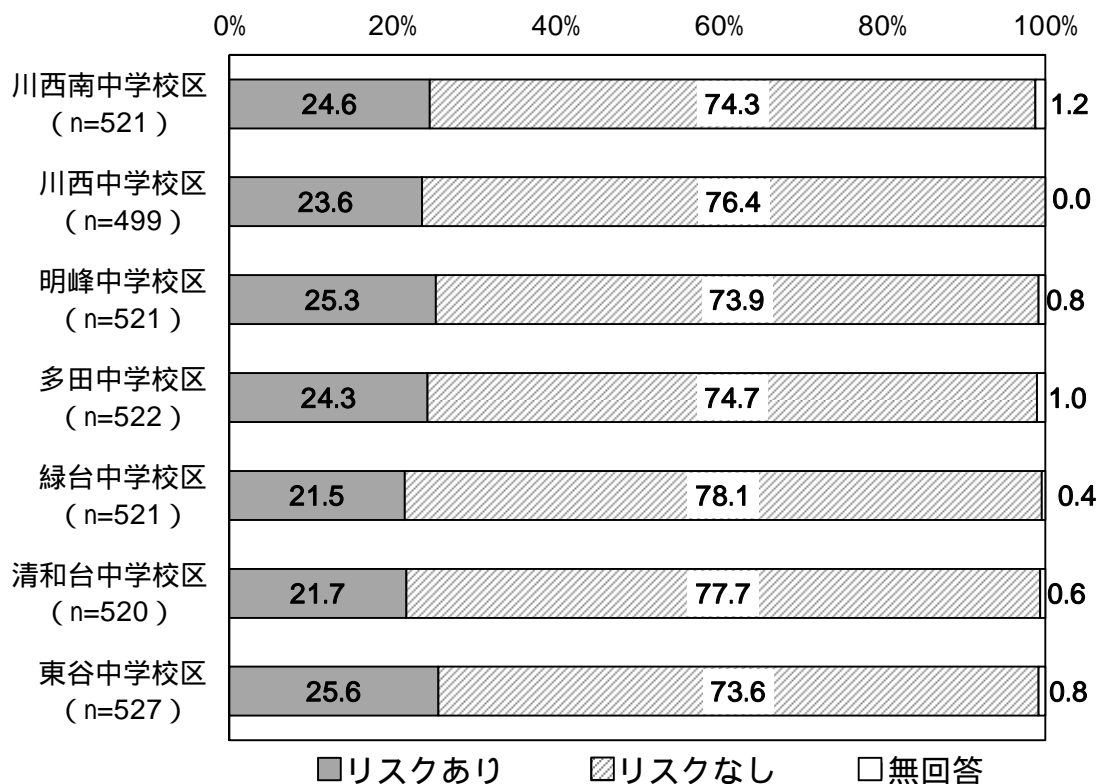
年齢別判定

- ・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて口腔機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合が高くなっており、85歳以上では35.9%となっている。



日常生活圏域（中学校区）別判定

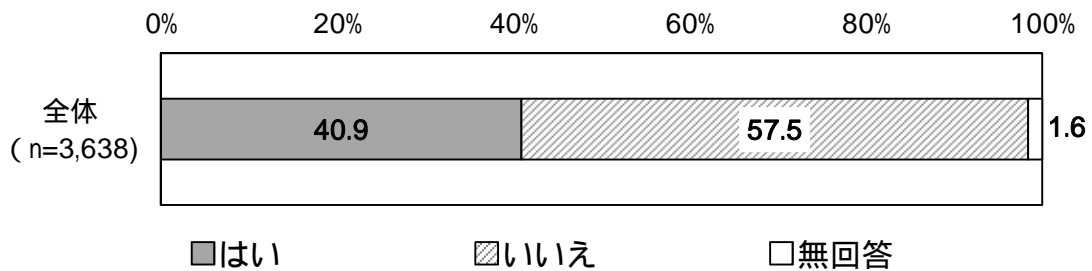
- ・日常生活圏域別にみると、東谷中学校区で口腔機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合が25.6%と最も高くなっている。



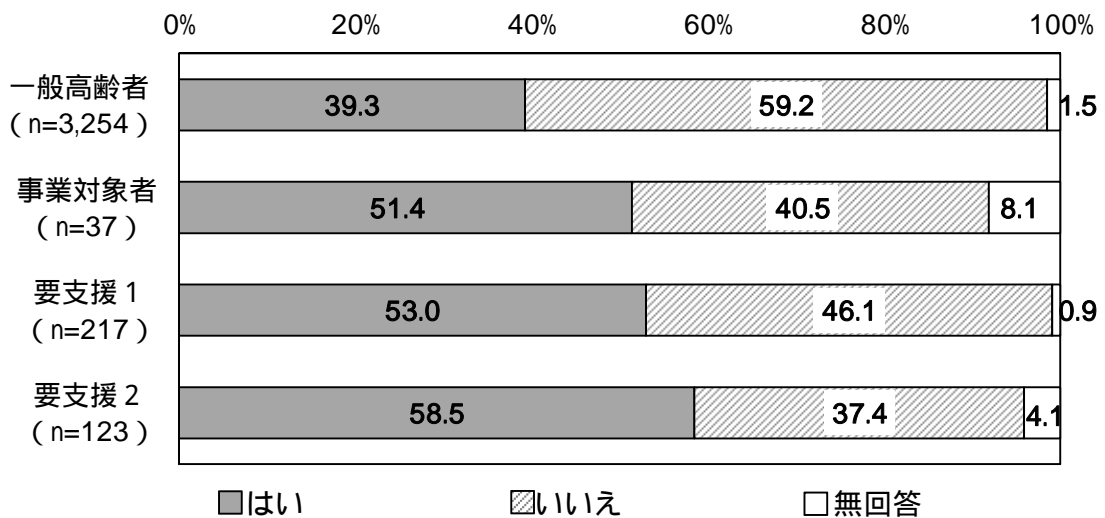
5. 毎日の生活について

(1) 物忘れの多さ

・物忘れが多いと感じるかについては、「いいえ」が57.5%と半数以上を占めている。

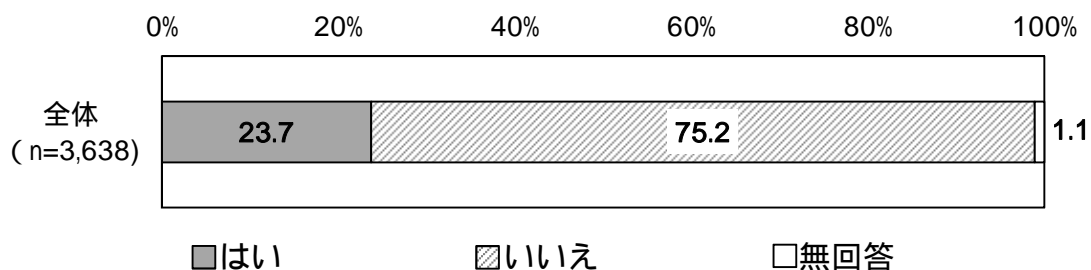


・介護度別にみると、「はい」が、事業対象者では51.4%、要支援1では53.0%、要支援2では58.5%となっており、半数以上の人が物忘れが多いと感じている結果となっている。

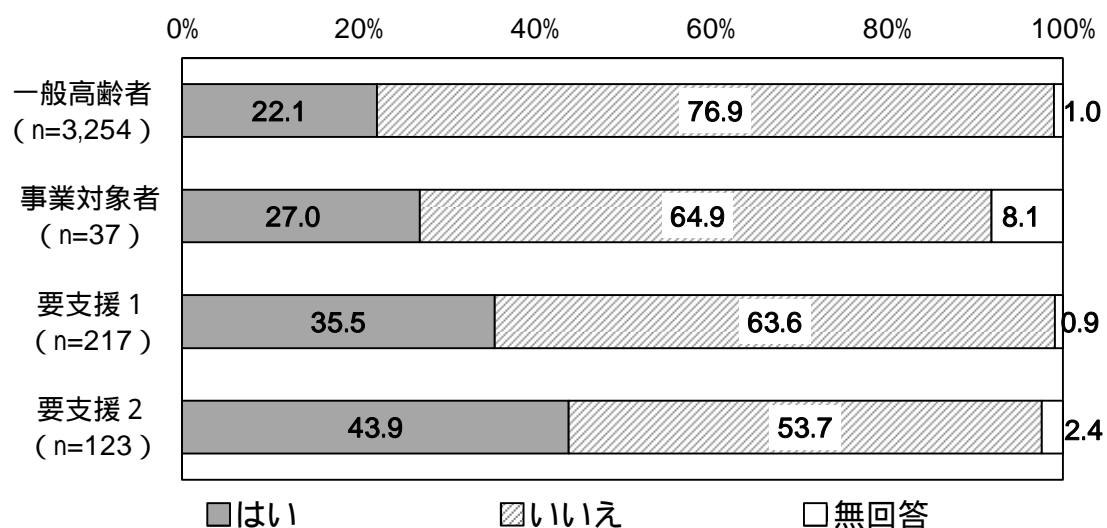


(2) 今日が何月何日かわからないこと

- ・今日が何月何日かわからない時があるかについては、「いいえ」が 75.2%と7割以上を占めている。

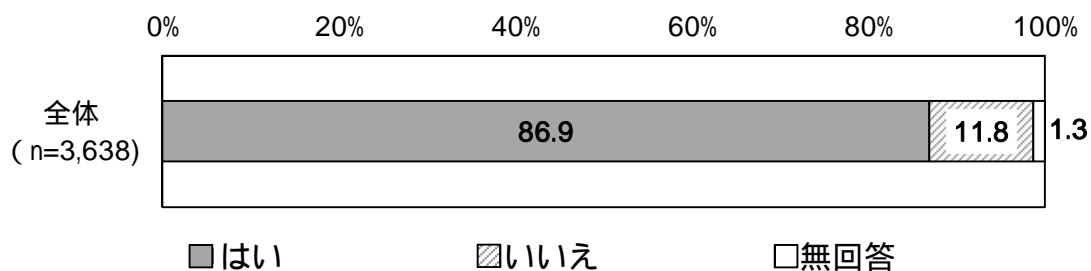


- ・介護度別にみると、「はい」が、要支援1で35.5%、要支援2で43.9%と、一般高齢者(22.1%)より10ポイント以上高くなっている。

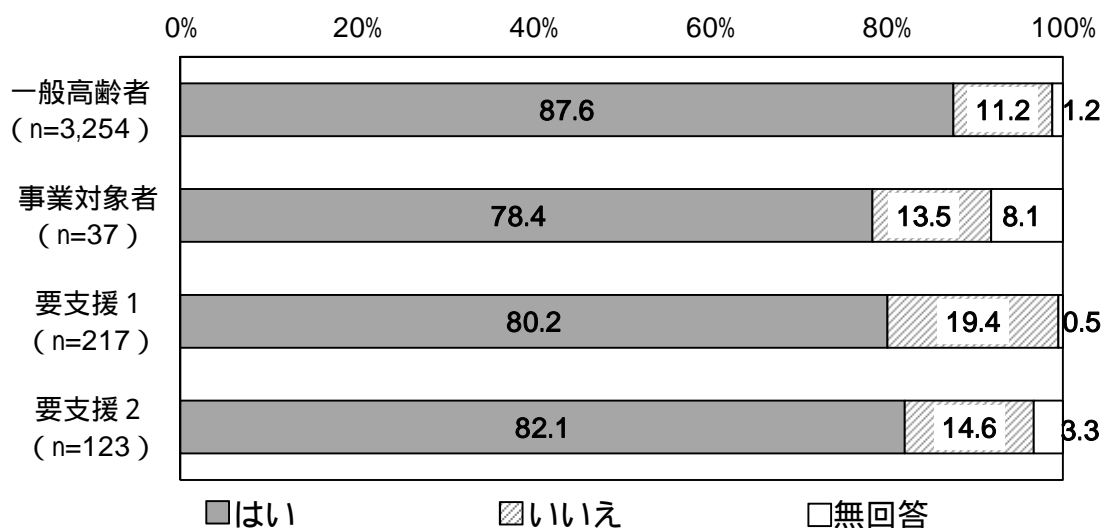


(3) 5分前のことを思い出すこと

- ・ 5分前のことが思い出せるかについては、「はい」が86.9%と8割以上を占めている。

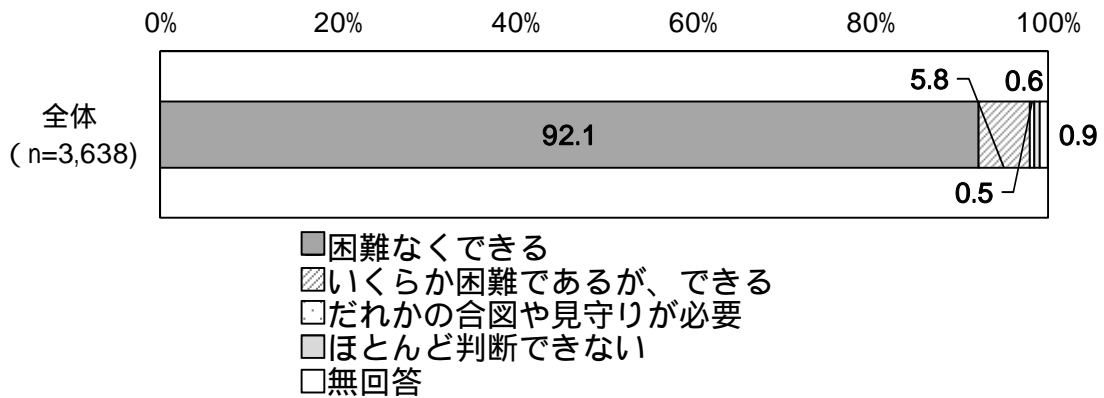


- ・ 介護度別にみると、要支援1で「いいえ」が19.4%と、2割近くの人が5分前のことが思い出せない結果となっている。

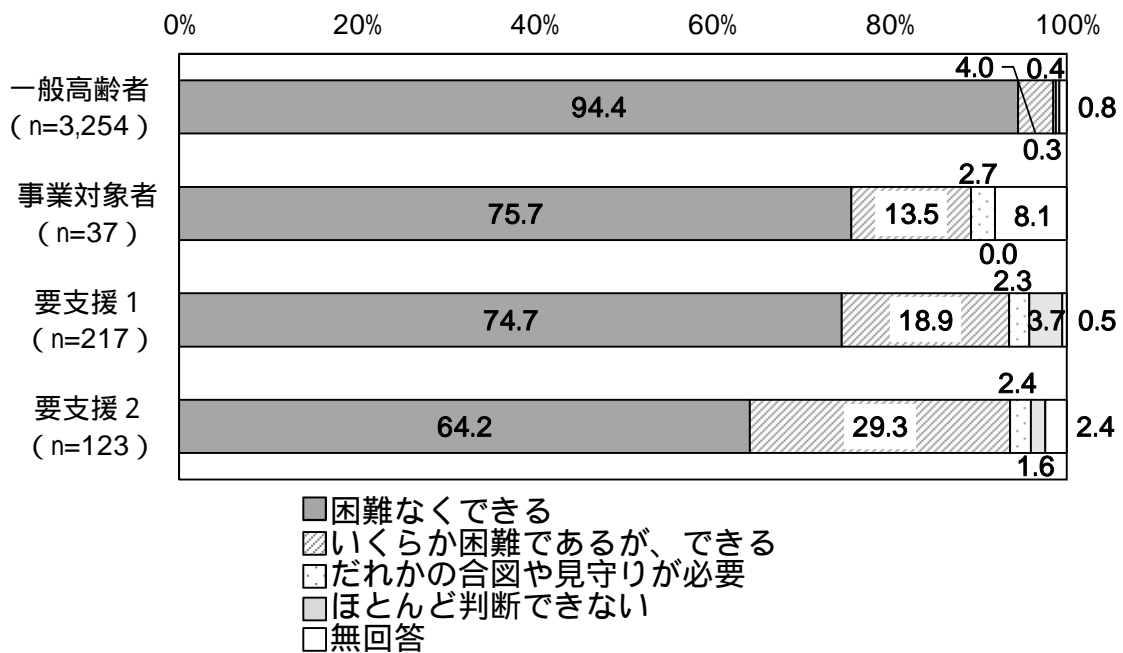


(4) その日の活動の判断

・その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できるかについては、「困難なくできる」が92.1%と9割以上を占めている。

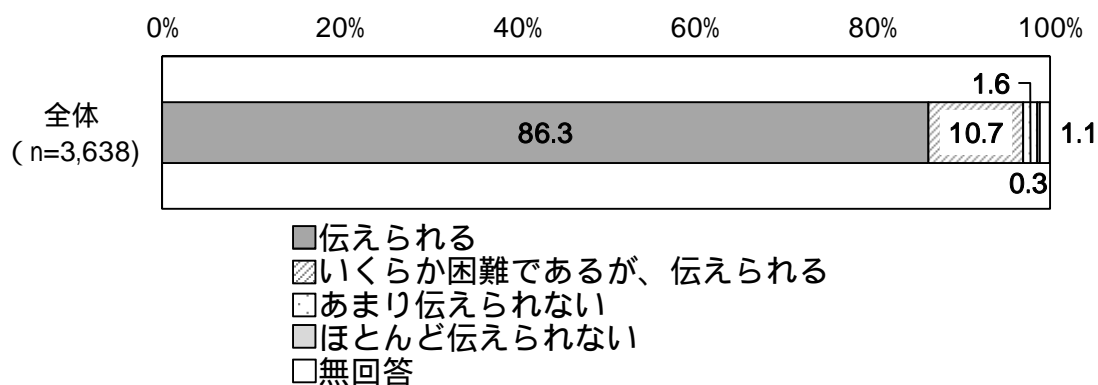


・介護度別にみると、「いづらか困難であるが、できる」が、事業対象者で13.5%、要支援1で18.9%、要支援2で29.3%と、一般高齢者（4.0%）より5ポイント以上高くなっている。

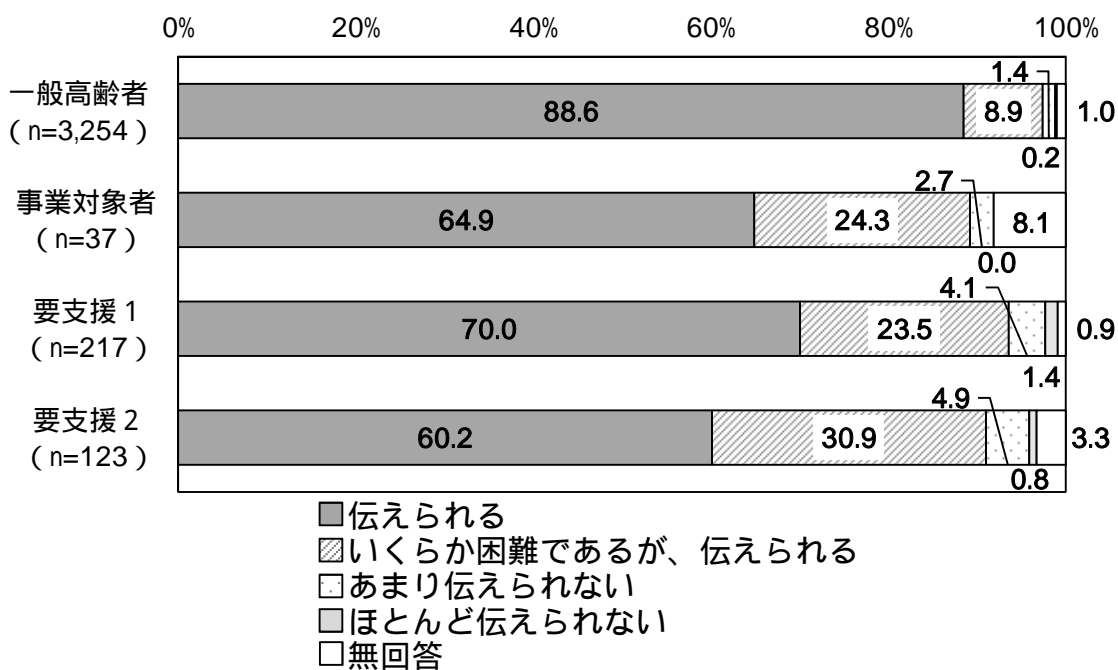


(5) 自分の考えを人に伝えること

・自分の考えを人に伝えられるかについては、「伝えられる」が 86.3%と 8 割以上となっている。

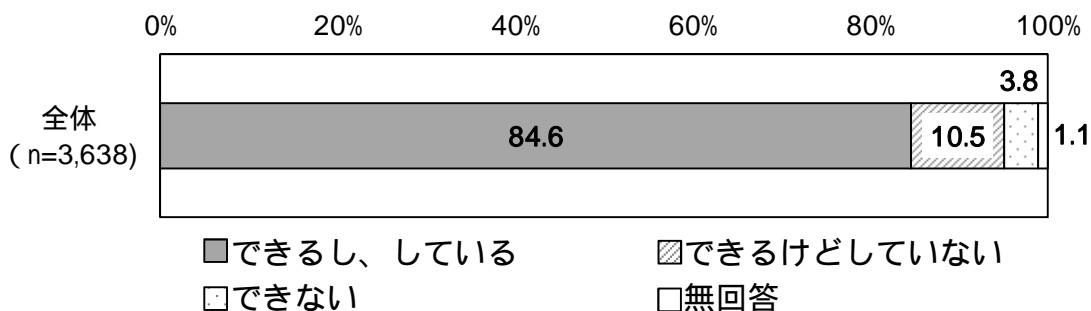


・介護度別にみると、「いくらか困難であるが、伝えられる」が、事業対象者で 24.3%、要支援 1 で 23.5%、要支援 2 で 30.9%と、一般高齢者 (8.9%) より 10 ポイント以上高くなっている。

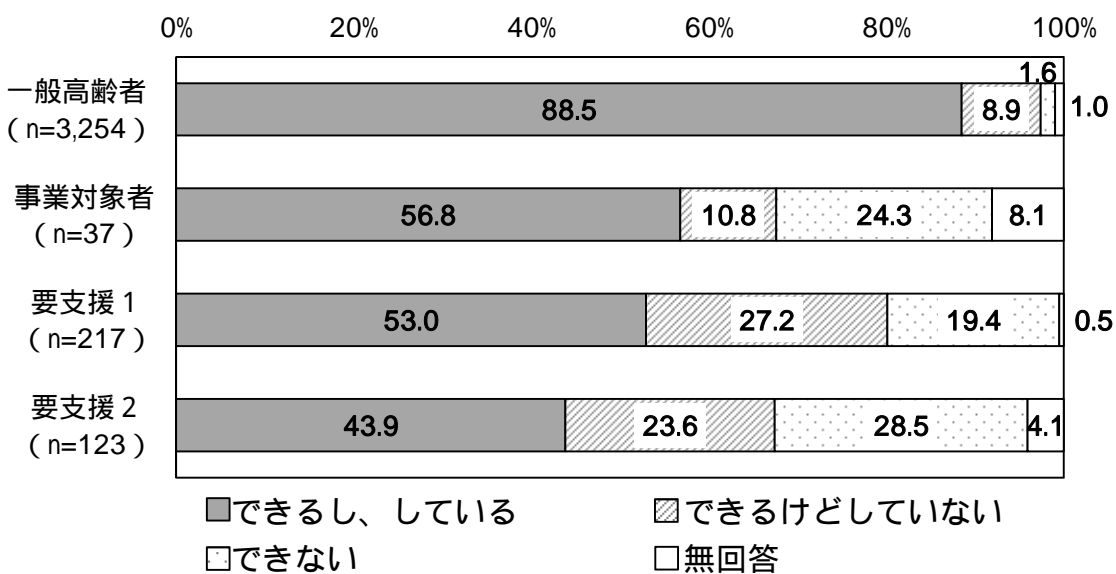


(6) バスや電車を使った1人での外出(自家用車でも可)

・バスや電車を使って1人で外出しているかについては、「できるし、している」が84.6%と8割以上となっている。

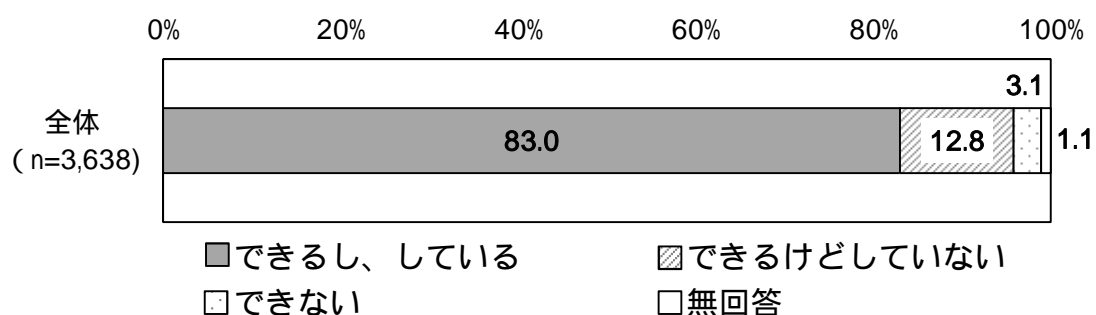


・介護度別にみると、「できない」が、事業対象者で24.3%、要支援1で19.4%、要支援2で28.5%と、一般高齢者(1.6%)より15ポイント以上高くなっている。

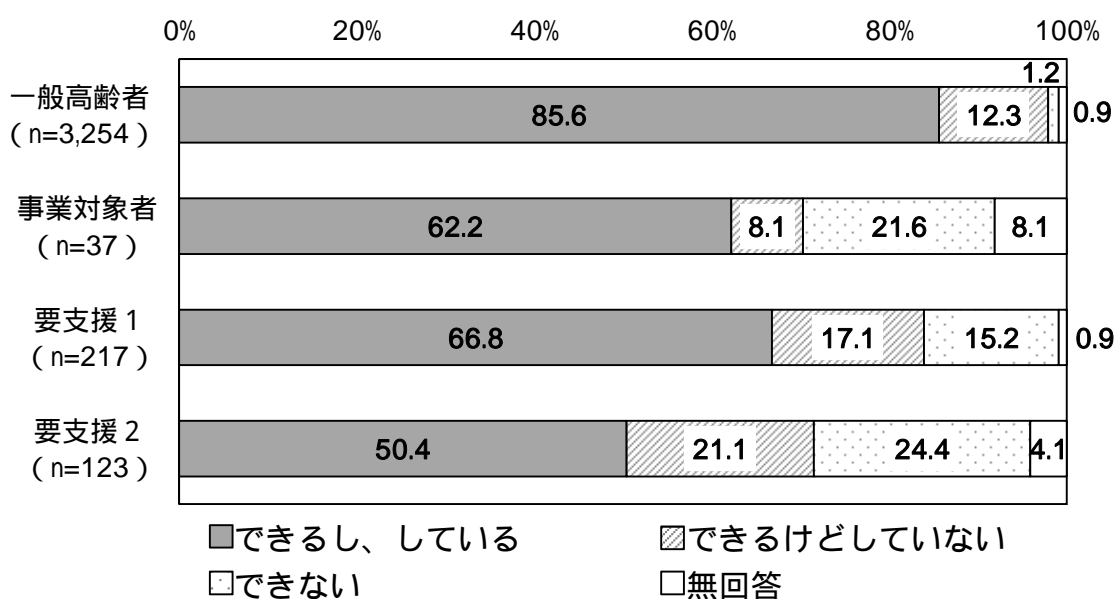


(7) 食品・日用品の買物

・自分で食品・日用品の買物をしているかについては、「できるし、している」が 83.0%と 8 割以上となっている。

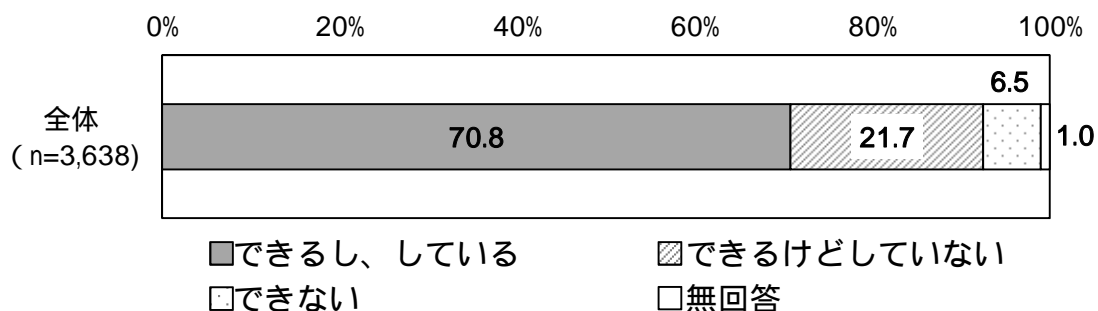


・介護度別にみると、「できない」が、事業対象者で 21.6%、要支援 1 で 15.2%、要支援 2 で 24.4%と、一般高齢者 (1.2%) より 10 ポイント以上高くなっている。

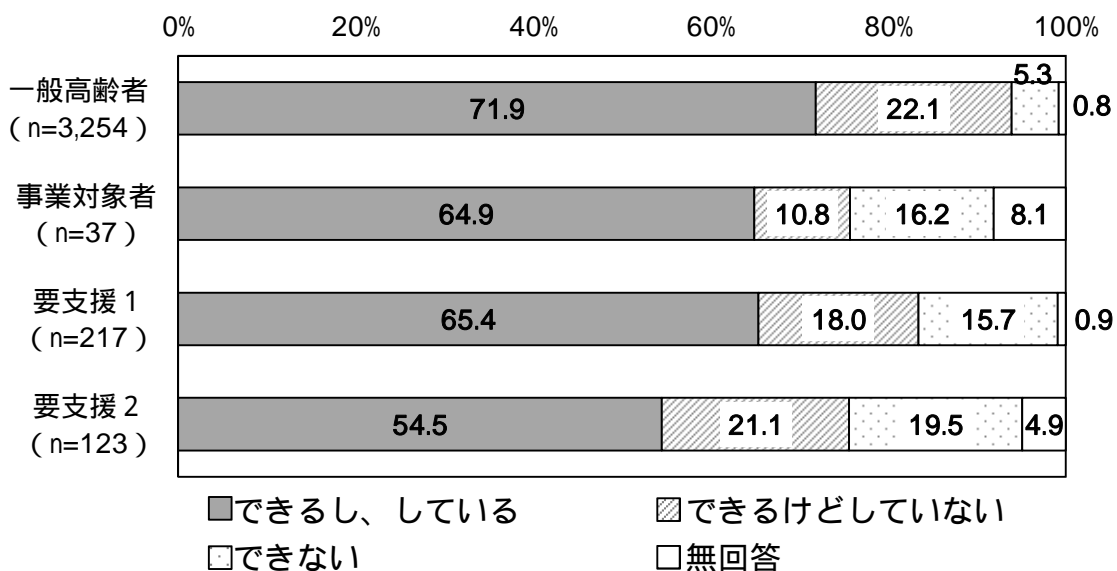


(8) 食事の用意

- ・自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が70.8%と7割以上となっている。

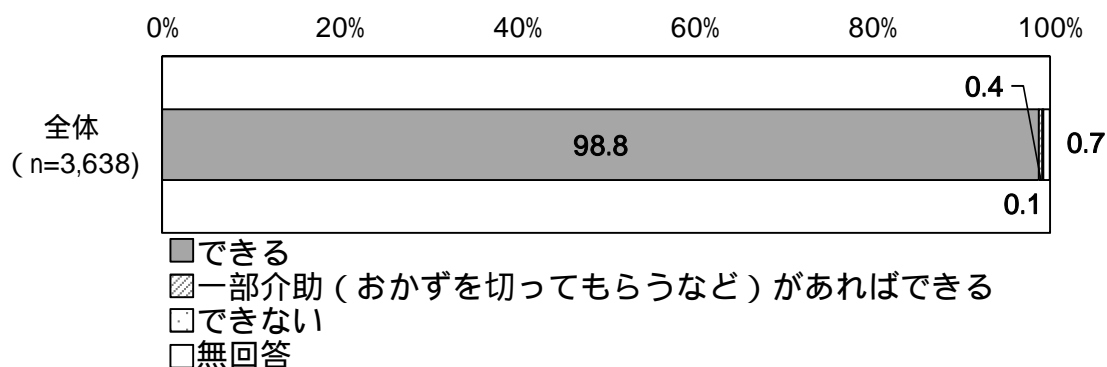


- ・介護度別にみると、「できない」が、事業対象者で16.2%、要支援1で15.7%、要支援2で19.5%と、一般高齢者(5.3%)より10ポイント以上高くなっている。

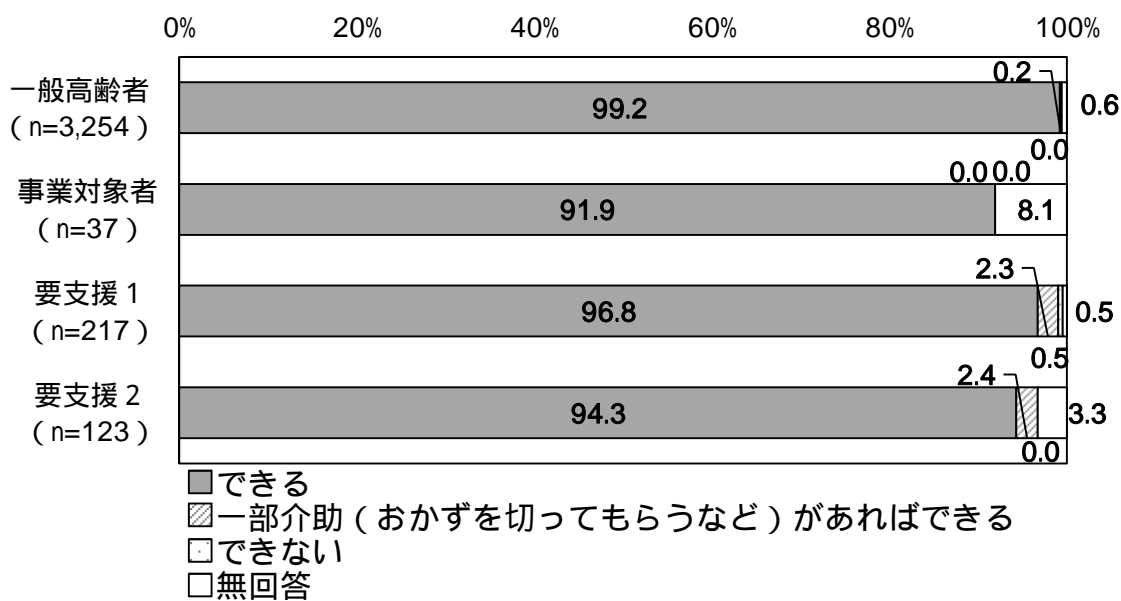


(9) 食事を食べること

・自分で食事を食べることができるかについては、「できる」が98.8%と9割以上となっている。

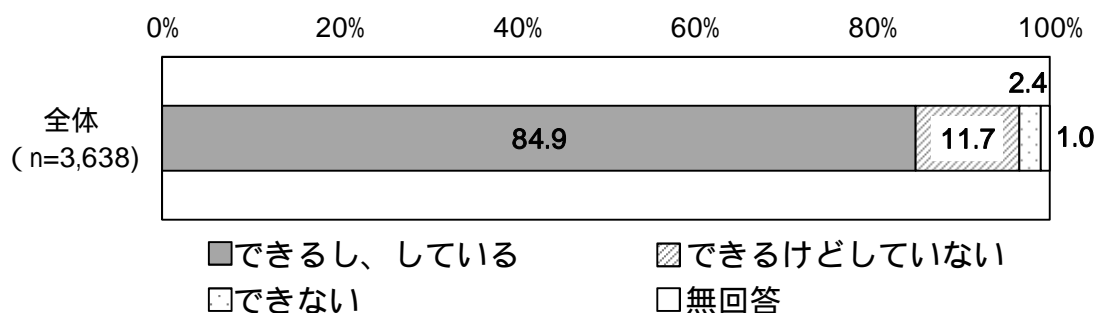


・介護度別にみると、「一部介助 (おかずを切ってもらうなど) あればできる」が要支援1では2.3%、要支援2では2.4%となっている。

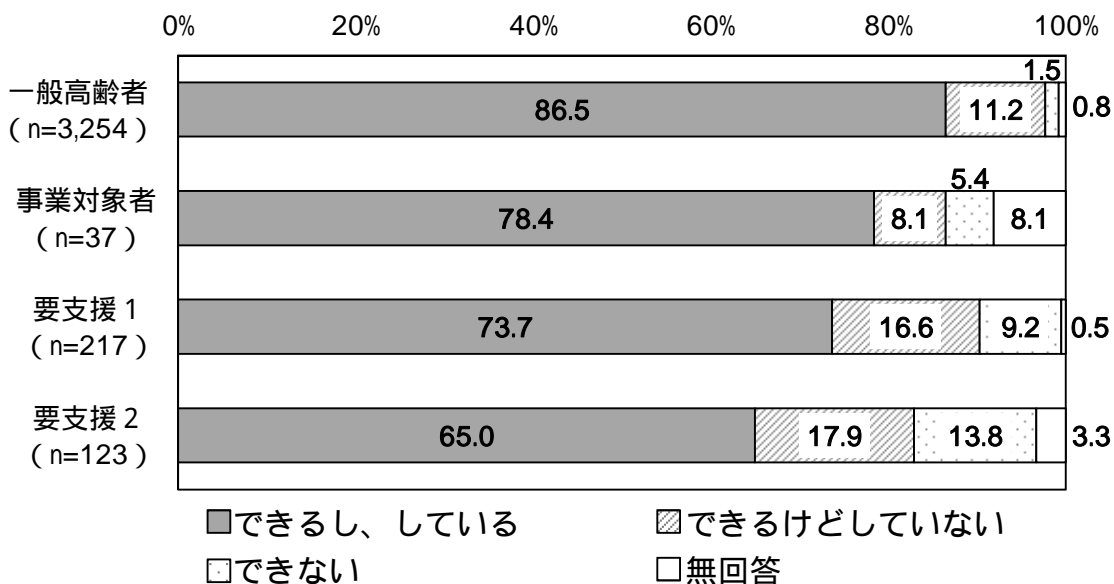


(10) 請求書の支払い

- ・自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が 84.9%と 8 割以上となっている。

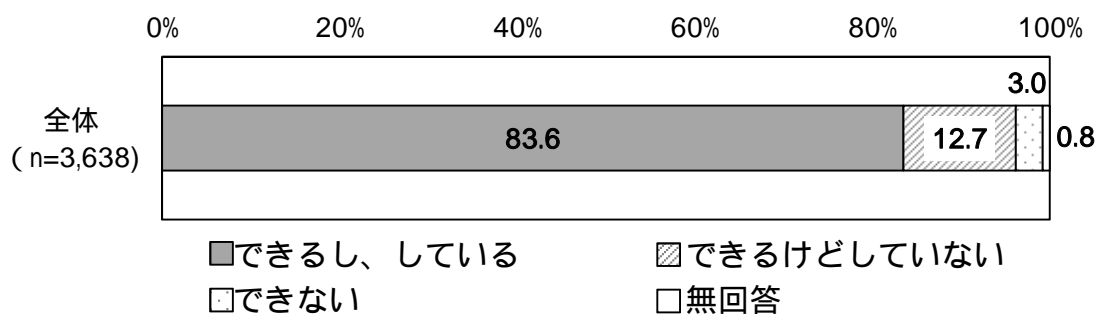


- ・介護度別にみると、「できない」が、要支援 1 で 9.2%、要支援 2 で 13.8%と、一般高齢者(1.5%)より 5 ポイント以上高くなっている。

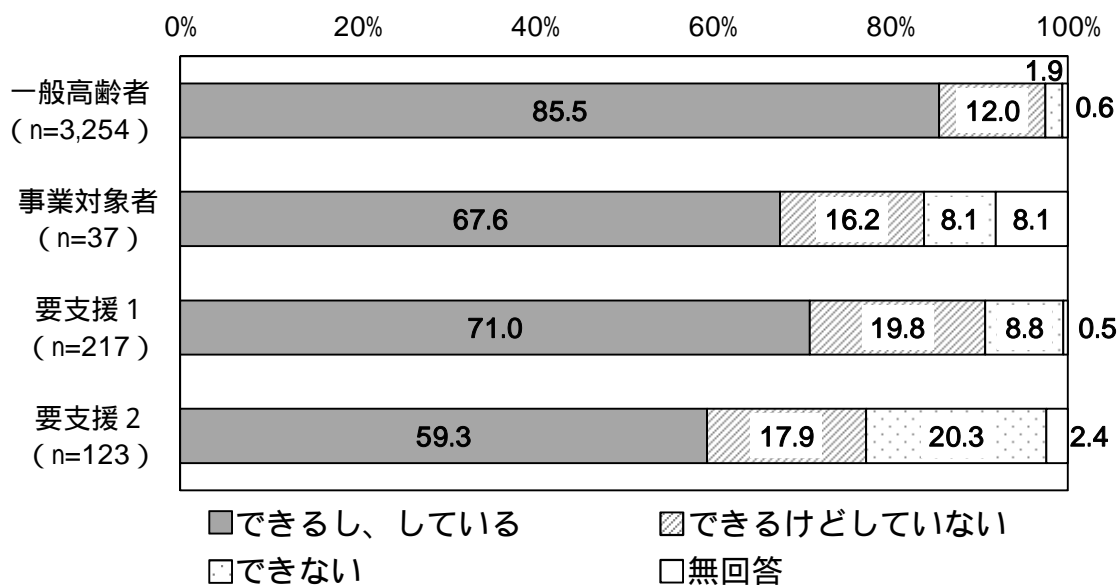


(11) 預貯金の出し入れ

・自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が 83.6%と 8 割以上となっている。

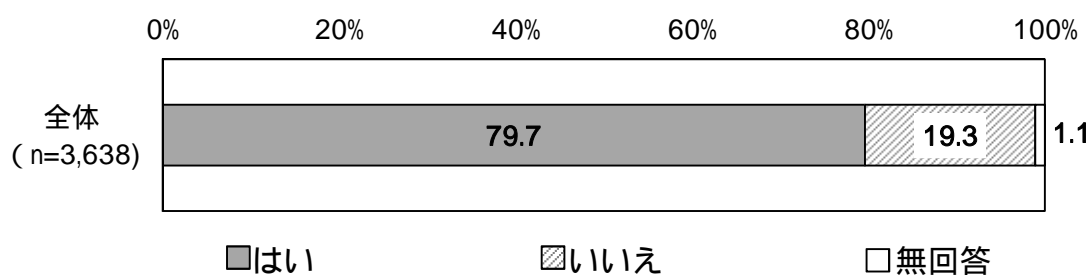


・介護度別にみると、「できない」が要支援 2 で 20.3%と 2 割以上となっており、一般高齢者(1.9%)より 15 ポイント以上高くなっている。

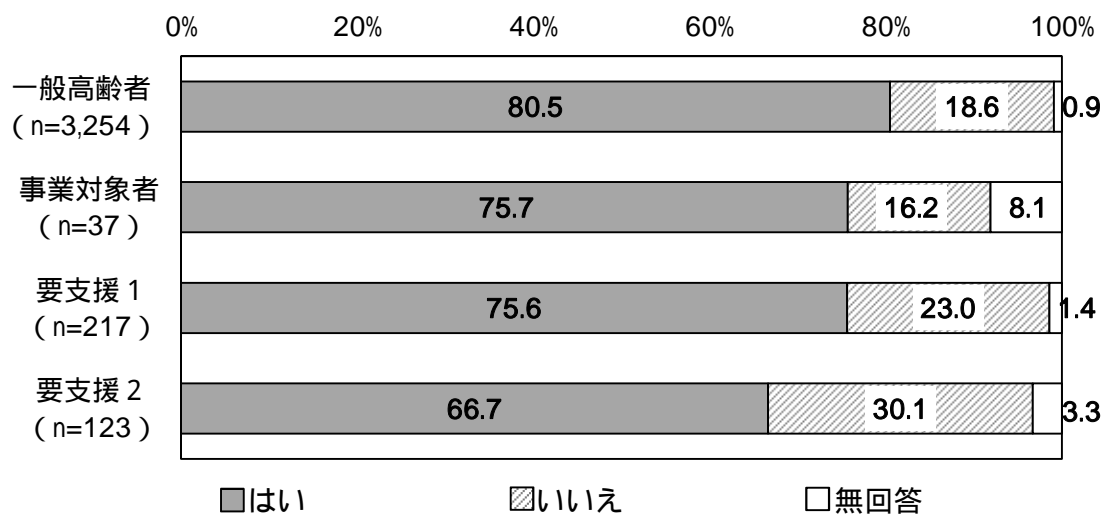


(12) 新聞を読むこと

- ・新聞を読んでいるかについては、「はい」が79.7%と8割近くとなっている。



- ・介護度別にみると、「いいえ」が要支援2では30.1%と3割以上となっており、一般高齢者(18.6%)より11.5ポイント高くなっている。

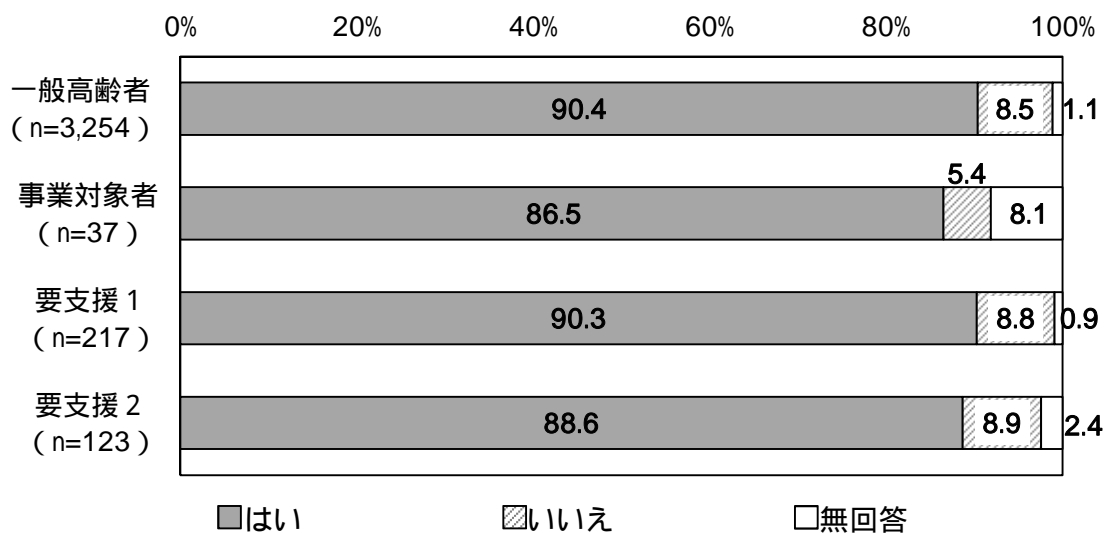


(13) 健康についての記事や番組への関心

- ・健康についての記事や番組に関心があるかについては、「はい」が 90.2%と 9 割以上となっている。

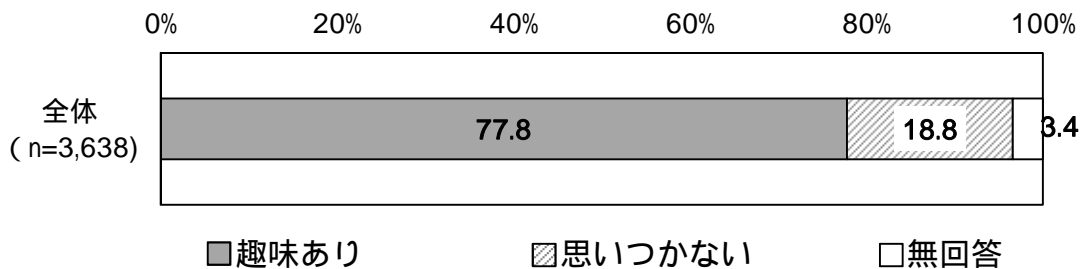


- ・介護度別でみると、要支援認定等の有無に関わらず「はい」が最も高くなっている。



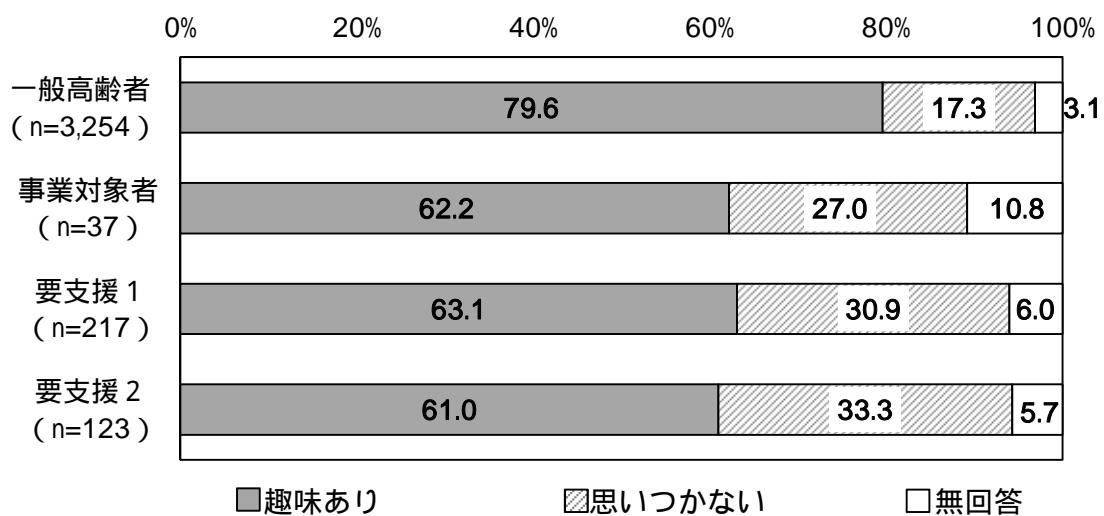
(14) 趣味

- ・趣味はあるかについては、「趣味あり」が77.8%と7割以上となっている。



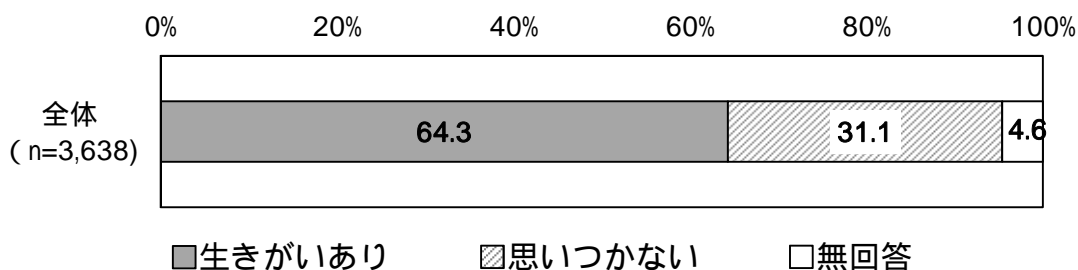
「趣味」の主な回答内容	
園芸・野菜づくり	手芸
読書	カラオケ・コーラス
楽器演奏	映画鑑賞
ゴルフ	ウォーキング
ジムでの運動	社交ダンス・フラダンス・ヨガ
釣り	登山・ハイキング
旅行	囲碁・将棋・麻雀
料理	絵画
書道	俳句 等

- ・介護度別にみると、「思いつかない」が、事業対象者で27.0%、要支援1では30.9%、要支援2では33.3%となっており、一般高齢者（17.3%）より5ポイント以上高くなっている。



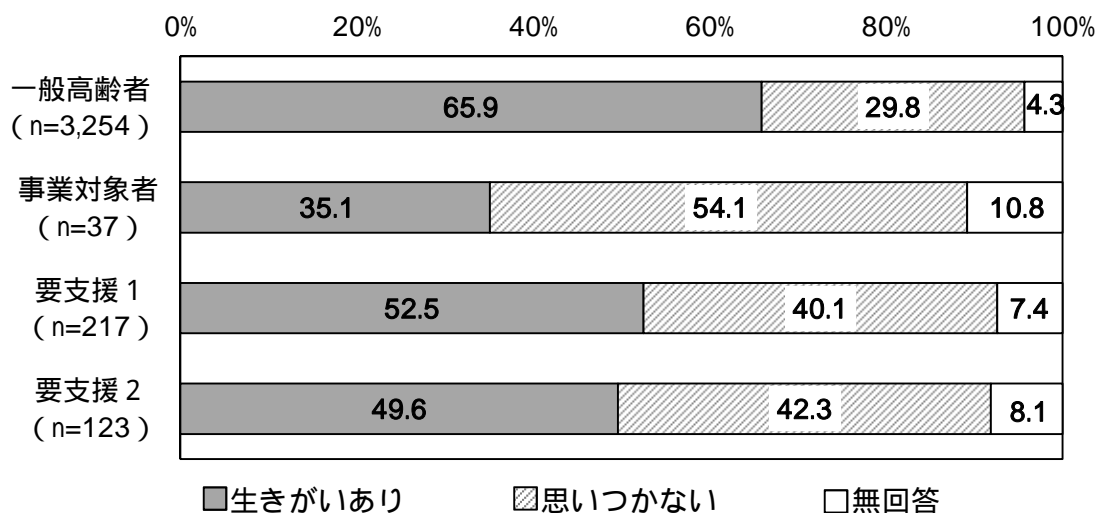
(15) 生きがい

・生きがいはあるかについては、「生きがいあり」が64.3%と6割以上となっている。



「生きがい」の主な回答内容	
孫の成長、家族の存在	友人とのつながり
スポーツ・音楽鑑賞などの趣味	旅行
仕事・ボランティア活動等への参加	ペットの存在
食事をする事	健康であること 等

・介護度別にみると、「思いつかない」が、事業対象者では54.1%、要支援1では40.1%、要支援2では42.3%と、一般高齢者(29.8%)より10ポイント以上高くなっている。



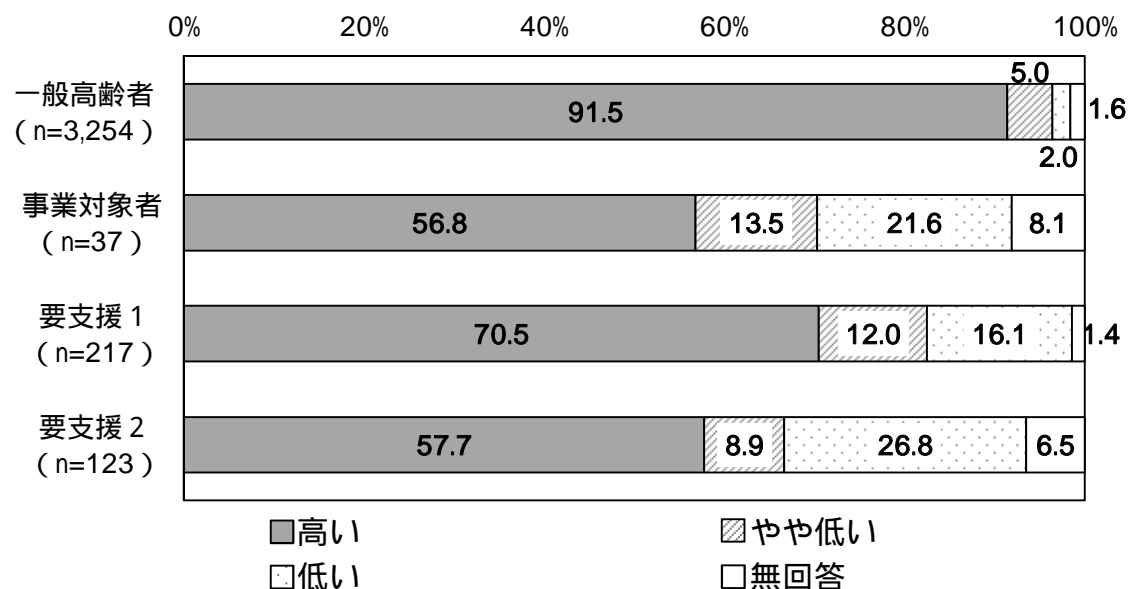
◆ 手段的自立度 (I A D L)

- ・介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための基本チェックリストでは、下の5つの設問に対する回答から、手段的自立度 (I A D L) に関して判定をしている。
- ・各設問に対し「できるし、している」または「できるけどしていない」を回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価している。

問番号	設問	該当する選択肢
5 (6)	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	できるし、している/ できるけどしていない を1点とした各問の合計
5 (7)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
5 (8)	自分で食事の用意をしていますか	
5 (10)	自分で請求書の支払いをしていますか	
5 (11)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

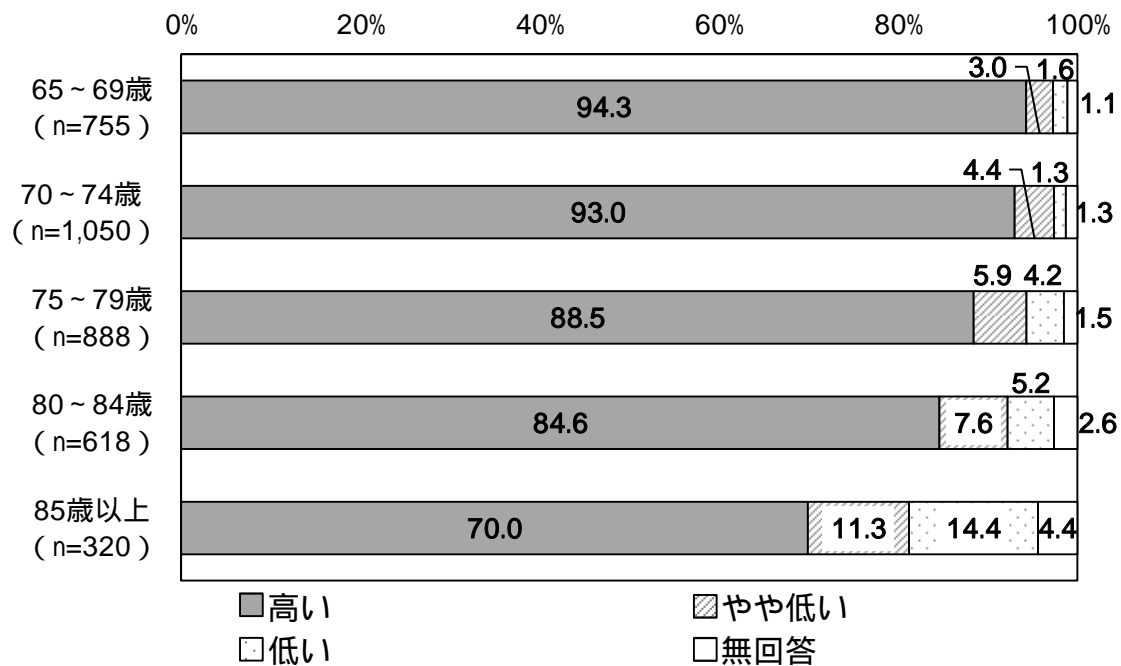
介護度別判定

- ・介護度別にみると、「やや低い」・「低い」を合わせた4点以下の『低い』の割合については、事業対象者で35.1%、要支援1で28.1%、要支援2で35.7%と、一般高齢者 (7.0%) より20ポイント以上高くなっている。



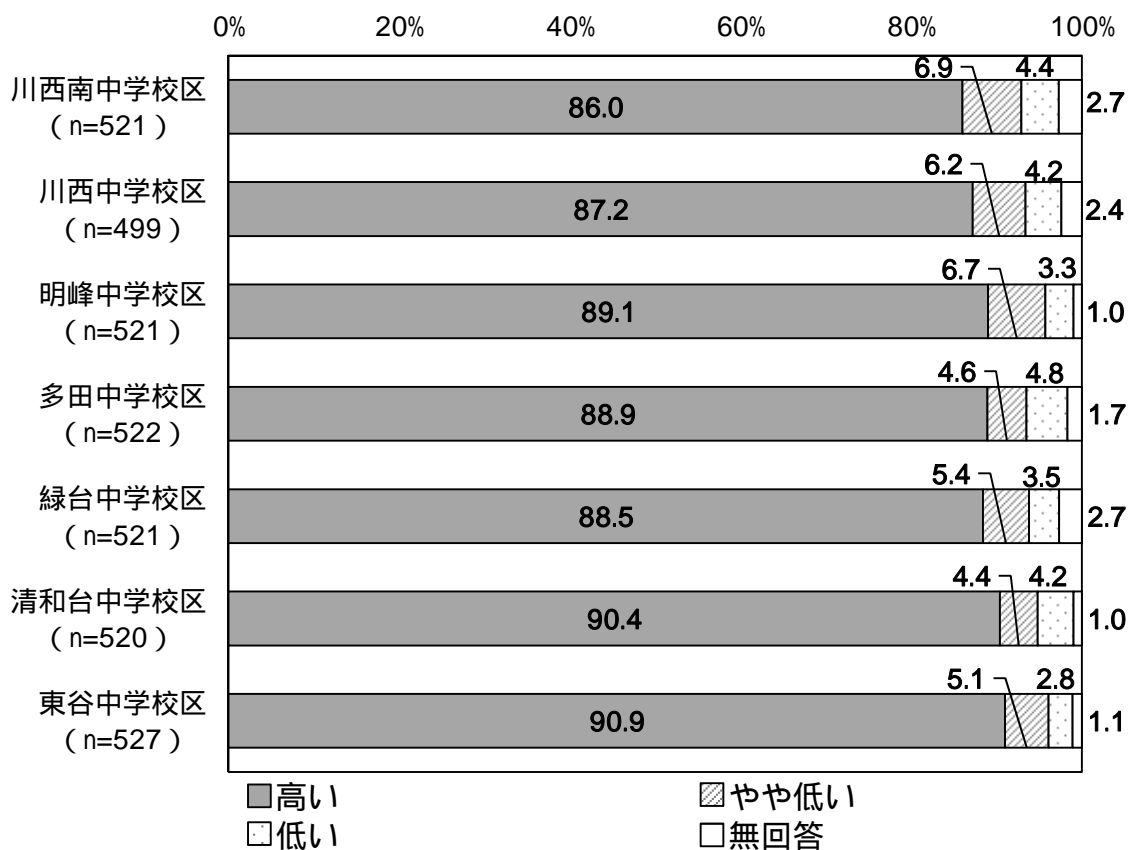
年齢別判定

- ・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて『低い』の割合が高くなっており、85歳以上では25.7%と2割以上となっている。



日常生活圏域（中学校区）別判定

- ・日常生活圏域別にみると、川西南中学校区で『低い』の割合が11.3%と最も高くなっている。

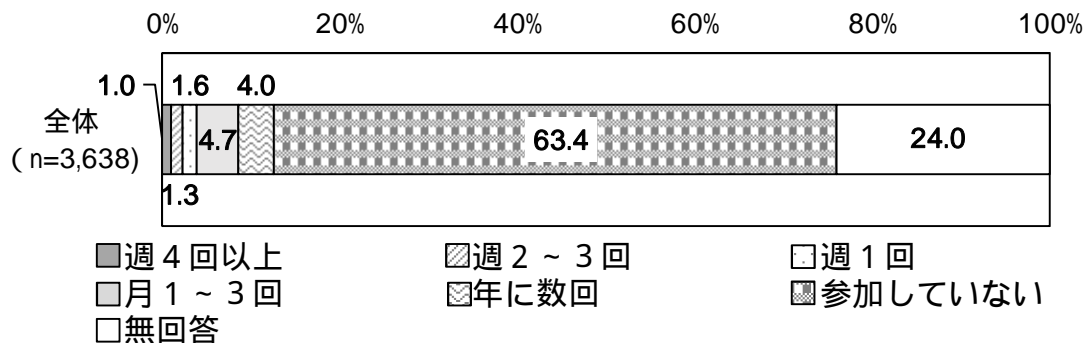


6. 地域での活動について

(1) 地域の会・グループの参加頻度

ボランティアのグループ

- ・ボランティアのグループへの参加頻度については、「参加していない」が63.4%と6割以上を占め最も高く、参加者の割合は12.6%となっている。

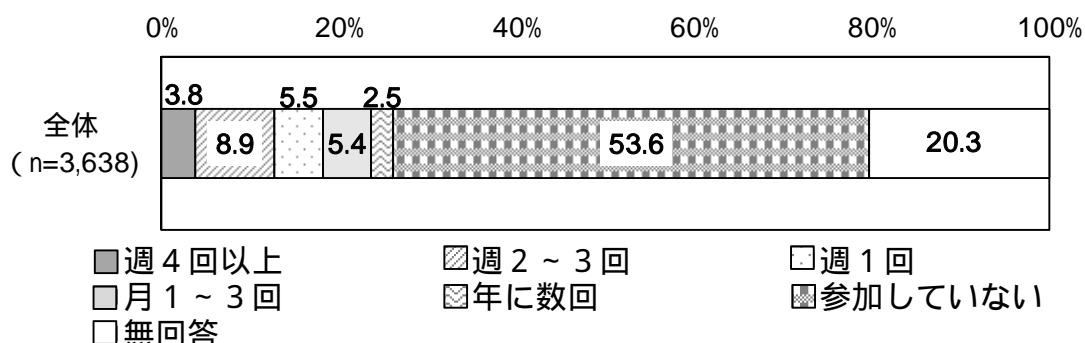


- ・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「参加していない」が最も高くなっている。
- ・年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにつれ「参加していない」が高くなっている。
- ・中学校区別にみると、多田中学校区で「参加していない」が67.2%と最も高くなっている。

	全体 (件数)	週 4 回 以 上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い な い	無 回 答
一般高齢者	3,254	1.1	1.3	1.7	5.1	4.1	63.6	23.1
事業対象者	37	-	-	2.7	-	-	67.6	29.7
要支援1	217	-	1.4	1.4	1.4	3.2	60.4	32.3
要支援2	123	-	1.6	0.8	1.6	2.4	61.8	31.7
65～69歳	755	0.4	1.2	1.7	4.0	3.8	74.0	14.8
70～74歳	1,050	1.3	1.5	1.7	5.8	4.1	67.0	18.6
75～79歳	888	1.2	1.7	2.1	6.2	5.3	56.8	26.7
80～84歳	618	1.3	0.8	1.0	3.4	3.6	57.1	32.8
85歳以上	320	0.3	0.6	0.9	1.3	1.3	56.9	38.8
川西南中学校区	521	1.3	1.7	0.4	3.8	3.6	63.0	26.1
川西中学校区	499	0.4	1.2	1.6	3.8	2.6	64.1	26.3
明峰中学校区	521	0.6	1.5	1.9	4.8	4.6	61.4	25.1
多田中学校区	522	0.4	0.4	2.3	5.6	4.0	67.2	20.1
緑台中学校区	521	1.3	0.8	1.9	4.2	4.6	61.8	25.3
清和台中学校区	520	1.2	1.5	1.0	6.2	3.7	62.9	23.7
東谷中学校区	527	1.9	1.9	2.3	4.6	4.7	63.2	21.4

スポーツ関係のグループやクラブ

- ・スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度については、「参加していない」が 53.6%と半数以上を占め最も高く、参加者の割合は 26.1%となっている。

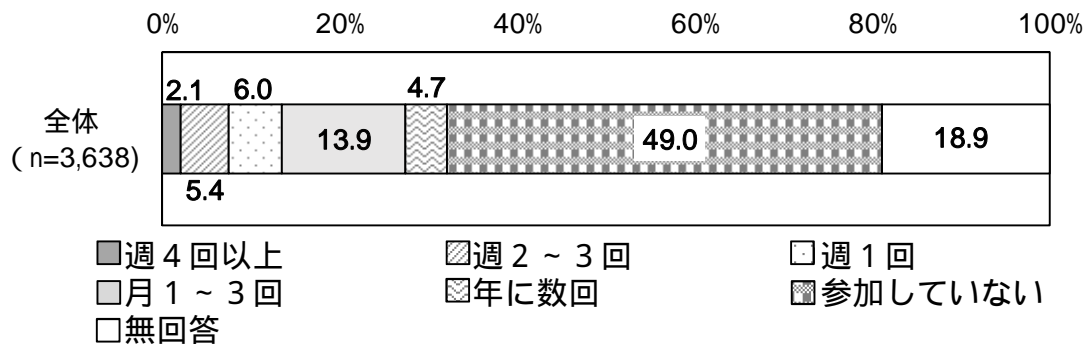


- ・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「参加していない」が最も高くなっているものの、事業対象者で 59.5%、要支援1で 58.5%、要支援2で 59.3%と、一般高齢者(52.9%)より5ポイント以上高くなっている。また、一般高齢者の参加者の割合が 27.8%である一方で、事業対象者・要支援1・要支援2では2割未満となっている。
- ・年齢別にみると、65~69歳で「参加していない」が 61.3%と6割以上となっている。
- ・中学校区別にみると、多田中学校区で「参加していない」が 59.0%と6割近くを占め最も高くなっている。

	全体 (件数)	週 4 回 以 上	週 2 ~ 3 回	週 1 回	月 1 ~ 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い な い	無 回 答
一般高齢者	3,254	4.1	9.6	5.5	5.9	2.7	52.9	19.3
事業対象者	37	-	2.7	8.1	-	-	59.5	29.7
要支援1	217	1.8	1.8	5.5	1.8	1.4	58.5	29.0
要支援2	123	0.8	5.7	3.3	2.4	0.8	59.3	27.6
65~69歳	755	3.3	9.4	5.4	6.5	1.7	61.3	12.3
70~74歳	1,050	3.7	10.4	5.6	4.5	3.0	57.4	15.4
75~79歳	888	5.5	8.6	6.4	6.6	3.0	46.8	23.0
80~84歳	618	2.9	8.6	4.7	5.5	2.4	48.1	27.8
85歳以上	320	2.2	4.7	4.1	2.8	1.9	51.6	32.8
川西南中学校区	521	3.6	6.7	5.0	3.8	2.1	55.9	22.8
川西中学校区	499	2.8	7.2	4.4	4.8	2.8	54.3	23.6
明峰中学校区	521	4.0	10.4	6.7	6.0	3.5	49.9	19.6
多田中学校区	522	4.0	7.3	5.0	5.2	1.5	59.0	18.0
緑台中学校区	521	3.8	10.6	6.0	7.1	2.5	48.9	21.1
清和台中学校区	520	4.6	9.8	5.2	4.6	2.5	52.9	20.4
東谷中学校区	527	3.6	10.4	6.1	6.6	2.8	53.9	16.5

趣味関係のグループ

- ・趣味関係のグループへの参加頻度については、「参加していない」が49.0%と半数近くを占め最も高く、参加者の割合は32.1%と3割以上となっている。

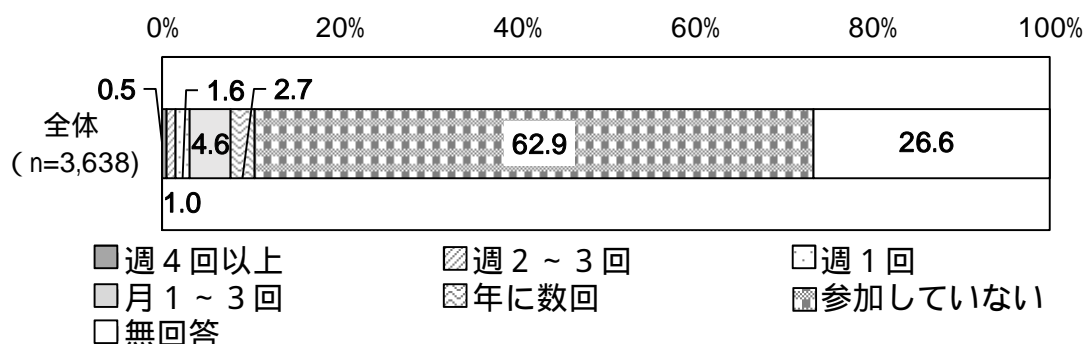


- ・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「参加していない」が最も高くなっており、事業対象者・要支援1・要支援2では半数以上を占めている。一般高齢者の参加者の割合が3割以上である一方で、要支援2では17.0%と2割未満となっている。
- ・年齢別にみると、65~69歳で「参加していない」が60.0%と6割となっている。
- ・中学校区別にみると、多田中学校区で「参加していない」が54.0%と最も高くなっている。

	全体 (件数)	週 4 回 以 上	週 2 ~ 3 回	週 1 回	月 1 ~ 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い な い	無 回 答
一般高齢者	3,254	2.0	5.8	6.4	14.3	4.9	48.4	18.2
事業対象者	37	5.4	5.4	-	10.8	-	56.8	21.6
要支援1	217	3.2	1.8	3.7	12.0	2.3	52.1	24.9
要支援2	123	0.8	2.4	2.4	8.1	3.3	54.5	28.5
65~69歳	755	1.6	4.4	4.5	13.6	4.2	60.0	11.7
70~74歳	1,050	1.6	6.4	6.4	14.5	5.9	50.2	15.0
75~79歳	888	2.4	5.9	7.3	15.7	3.9	42.6	22.3
80~84歳	618	3.4	6.0	5.7	13.1	4.9	42.6	24.4
85歳以上	320	1.6	2.8	5.6	9.1	3.4	48.4	29.1
川西南中学校区	521	1.5	3.3	4.4	11.1	4.8	53.4	21.5
川西中学校区	499	2.2	4.8	5.6	11.0	3.2	50.7	22.4
明峰中学校区	521	3.1	6.1	6.3	16.1	5.2	44.5	18.6
多田中学校区	522	1.5	5.0	6.3	11.3	4.4	54.0	17.4
緑台中学校区	521	2.3	6.3	6.5	16.1	4.8	45.5	18.4
清和台中学校区	520	2.5	5.6	6.9	16.2	3.5	46.9	18.5
東谷中学校区	527	1.5	7.0	6.1	15.2	6.8	47.4	15.9

学習・教養サークル

- ・学習・教養サークルへの参加頻度については、「参加していない」が62.9%と6割以上を占め最も高く、参加者の割合は10.4%と1割以上となっている。

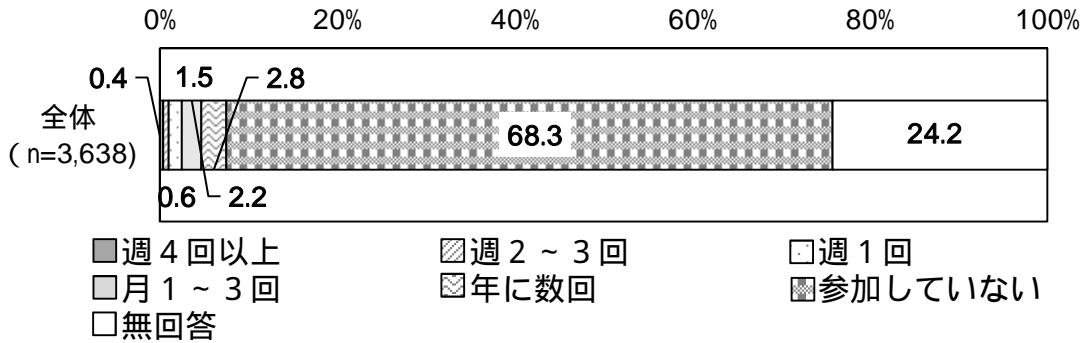


- ・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「参加していない」が最も高くなっている。一般高齢者の参加者の割合が1割以上である一方で、事業対象者・要支援1・要支援2ではいずれも1割未満となっている。
- ・年齢別にみると、65～69歳で「参加していない」が75.1%と7割以上となっている。
- ・中学校区別にみると、多田中学校区で「参加していない」が67.2%と最も高くなっている。

	全体 (件数)	週 4 回 以 上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い な い	無 回 答
一般高齢者	3,254	0.5	1.0	1.7	4.9	2.9	63.5	25.6
事業対象者	37	-	2.7	-	2.7	2.7	64.9	27.0
要支援1	217	0.9	0.5	0.5	1.4	1.8	59.4	35.5
要支援2	123	-	1.6	1.6	2.4	1.6	55.3	37.4
65～69歳	755	0.4	0.9	1.5	4.0	2.3	75.1	15.9
70～74歳	1,050	0.5	1.0	2.2	4.7	2.8	68.5	20.5
75～79歳	888	0.6	0.9	1.2	5.7	3.6	56.1	31.9
80～84歳	618	0.6	1.5	1.6	5.0	2.8	52.8	35.8
85歳以上	320	0.6	0.6	0.9	1.9	1.6	55.0	39.4
川西南中学校区	521	0.2	0.6	0.8	2.1	1.5	64.9	29.9
川西中学校区	499	0.8	0.6	1.8	4.8	1.8	61.9	28.3
明峰中学校区	521	0.6	1.3	1.7	7.5	2.3	59.7	26.9
多田中学校区	522	0.6	0.4	2.1	3.6	2.3	67.2	23.8
緑台中学校区	521	0.6	1.0	1.5	5.8	3.8	61.2	26.1
清和台中学校区	520	0.4	1.3	1.9	4.2	3.1	62.5	26.5
東谷中学校区	527	0.6	1.7	1.3	4.2	4.4	63.2	24.7

介護予防のための通いの場

- ・介護予防のための通いの場への参加頻度については、「参加していない」が68.3%と最も高く、参加者の割合は7.5%と1割未満となっている。

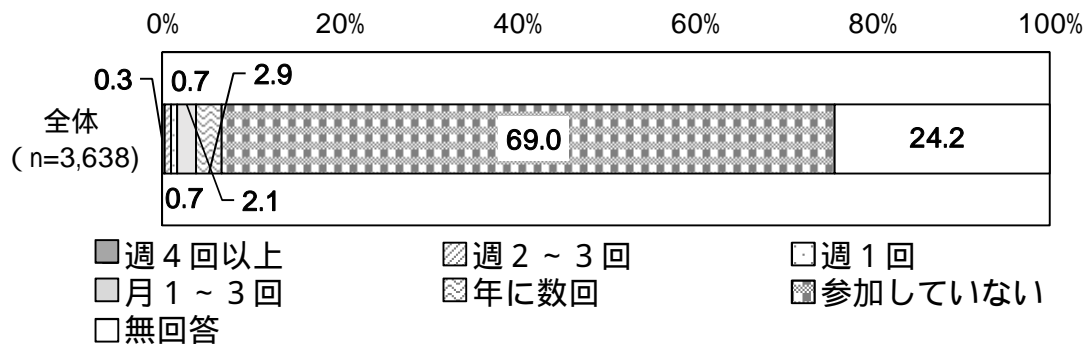


- ・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「参加していない」が最も高くなっている。
- ・年齢別にみると、年齢が低くなるにつれ「参加していない」が高くなっており、65~69歳では80.8%と8割以上となっている。
- ・中学校区別にみると、多田中学校区で「参加していない」が72.2%と最も高くなっている。

	全体 (件数)	週 4 回 以 上	週 2 ~ 3 回	週 1 回	月 1 ~ 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い な い	無 回 答
一般高齢者	3,254	0.4	0.5	1.3	2.3	2.7	69.2	23.6
事業対象者	37	-	2.7	-	-	5.4	64.9	27.0
要支援1	217	0.5	0.5	4.6	1.8	4.1	60.4	28.1
要支援2	123	0.8	3.3	1.6	0.8	3.3	58.5	31.7
65~69歳	755	-	0.1	0.4	0.8	2.0	80.8	15.9
70~74歳	1,050	0.8	0.3	1.0	2.3	2.6	73.8	19.3
75~79歳	888	0.3	0.9	2.5	3.3	4.4	61.3	27.4
80~84歳	618	0.8	0.8	1.6	2.6	1.9	60.4	31.9
85歳以上	320	-	1.3	2.8	1.3	3.1	55.3	36.3
川西南中学校区	521	0.4	0.6	2.3	3.6	2.5	65.6	25.0
川西中学校区	499	0.2	0.6	1.4	2.0	3.0	66.3	26.5
明峰中学校区	521	0.8	0.8	1.2	1.5	3.6	67.4	24.8
多田中学校区	522	0.4	0.8	1.9	2.3	3.1	72.2	19.3
緑台中学校区	521	0.4	0.4	1.0	2.1	1.0	68.5	26.7
清和台中学校区	520	0.4	0.4	1.3	2.1	3.8	67.3	24.6
東谷中学校区	527	0.6	0.6	1.3	1.5	2.8	70.4	22.8

老人クラブ

- ・老人クラブへの参加頻度については、「参加していない」が69.0%と7割近くを占め最も高く、参加者の割合は6.7%と1割未満となっている。

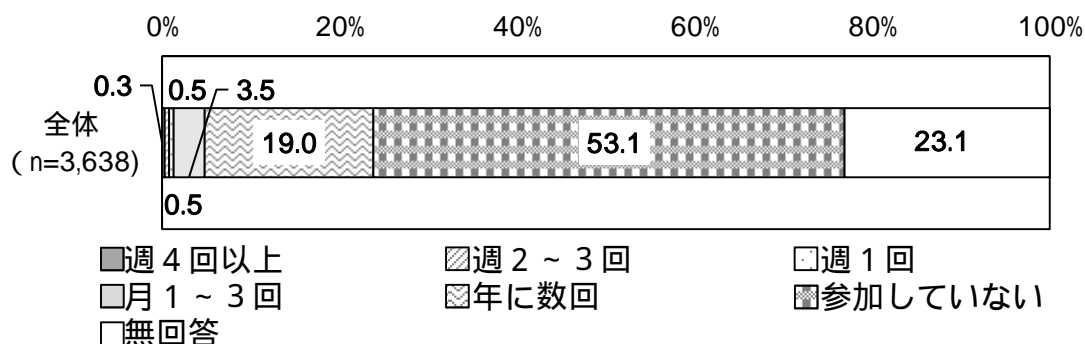


- ・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「参加していない」が最も高くなっている。
- ・年齢別にみると、年齢が低くなるにつれ「参加していない」が高くなっており、65~69歳では82.4%と8割以上となっている。
- ・中学校区別にみると、多田中学校区で「参加していない」が73.8%と最も高くなっている。

	全体 (件数)	週 4 回 以 上	週 2 ~ 3 回	週 1 回	月 1 ~ 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い な い	無 回 答
一般高齢者	3,254	0.3	0.6	0.6	2.0	2.9	69.8	23.8
事業対象者	37	-	2.7	-	2.7	8.1	62.2	24.3
要支援1	217	0.5	0.5	1.8	2.8	3.2	61.3	30.0
要支援2	123	-	2.4	1.6	4.1	0.8	64.2	26.8
65~69歳	755	-	0.1	0.3	0.4	0.9	82.4	15.9
70~74歳	1,050	0.1	0.3	0.9	2.0	2.4	74.9	19.5
75~79歳	888	0.2	1.1	0.7	1.7	4.1	63.9	28.4
80~84歳	618	0.8	1.1	0.8	4.7	3.7	57.6	31.2
85歳以上	320	0.6	1.3	1.3	3.1	4.7	54.7	34.4
川西南中学校区	521	0.2	0.6	1.0	2.7	5.8	65.3	24.6
川西中学校区	499	-	0.8	0.2	2.0	3.2	67.1	26.7
明峰中学校区	521	0.2	0.6	0.8	3.8	1.3	68.9	24.4
多田中学校区	522	0.4	0.2	0.2	1.1	3.6	73.8	20.7
緑台中学校区	521	0.2	1.2	1.2	1.7	2.1	67.8	25.9
清和台中学校区	520	0.4	0.8	0.8	1.2	1.2	70.2	25.6
東谷中学校区	527	0.6	0.8	0.9	2.5	3.2	70.0	22.0

町内会・自治会

- ・町内会・自治会への参加頻度については、「参加していない」が53.1%と半数以上を占め最も高く、参加者の割合は23.8%と2割以上となっている。

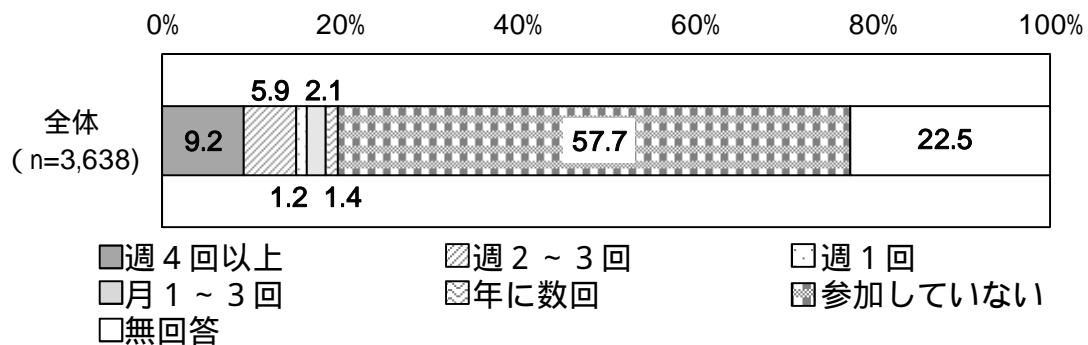


- ・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「参加していない」が最も高くなっている。一般高齢者の参加者の割合が25.0%と2割以上である一方で、事業対象者では16.2%、要支援1では15.7%と2割未満、要支援2では8.9%と1割未満となっている。
- ・年齢別にみると、65~69歳で「参加していない」が63.2%と6割以上となっている。
- ・中学校区別にみると、多田中学校区で「参加していない」が58.6%と最も高くなっている。

	全体 (件数)	週 4 回 以 上	週 2 ~ 3 回	週 1 回	月 1 ~ 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い な い	無 回 答
一般高齢者	3,254	0.2	0.5	0.6	3.7	20.0	52.8	22.2
事業対象者	37	-	-	-	-	16.2	54.1	29.7
要支援1	217	0.9	-	0.5	2.8	11.5	54.4	30.0
要支援2	123	-	1.6	-	0.8	6.5	59.3	31.7
65~69歳	755	-	0.1	0.9	2.3	19.1	63.2	14.4
70~74歳	1,050	0.1	0.5	0.5	4.7	22.1	54.1	18.1
75~79歳	888	0.6	0.7	0.5	4.6	18.7	48.6	26.4
80~84歳	618	0.5	0.8	0.5	2.4	18.6	46.6	30.6
85歳以上	320	0.3	0.3	0.3	1.6	10.3	51.3	35.9
川西南中学校区	521	0.4	0.8	1.0	5.2	17.5	52.6	22.6
川西中学校区	499	0.2	0.6	0.4	3.2	16.6	53.3	25.7
明峰中学校区	521	-	0.2	0.6	3.8	21.5	50.7	23.2
多田中学校区	522	0.4	0.2	0.4	2.5	18.2	58.6	19.7
緑台中学校区	521	-	0.8	0.8	1.9	20.5	50.9	25.1
清和台中学校区	520	0.6	0.6	0.2	3.7	17.7	53.5	23.8
東谷中学校区	527	0.4	0.4	0.6	4.2	20.9	52.4	21.3

収入のある仕事

- 収入のある仕事への参加頻度については、「参加していない」が 57.7%と半数以上を占め最も高く、参加者の割合は 19.8%と 2 割近くとなっている。

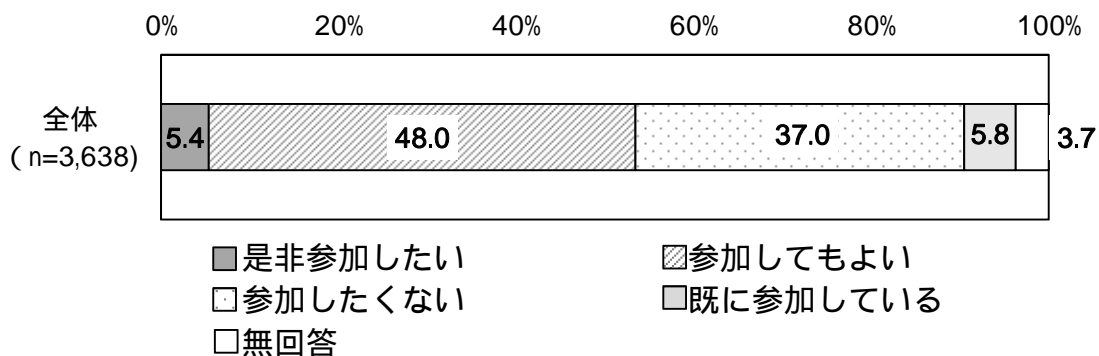


- 介護度別にみると一般高齢者の参加者の割合が 21.7%と 2 割以上である一方で、事業対象者では 2.7%、要支援 1 では 2.9%、要支援 2 では 1.6%と 1 割未満となっている。
- 年齢別にみると、65~69 歳で参加者の割合が 39.7%と 4 割近くとなっており、「週4回以上」参加している人の割合は 23.3%と 2 割以上となっている。
- 中学校区別にみると、東谷中学校区で「参加していない」が 62.6%と最も高くなっている。

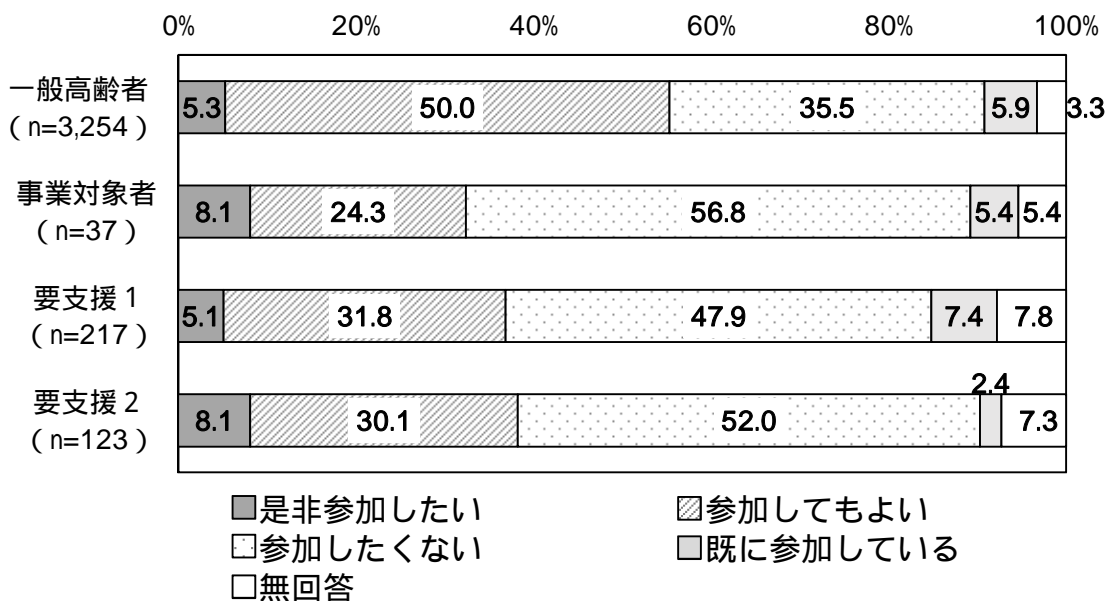
	全体 (件数)	週 4 回 以 上	週 2 ~ 3 回	週 1 回	月 1 ~ 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い な い	無 回 答
一般高齢者	3,254	10.1	6.5	1.4	2.2	1.5	56.9	21.3
事業対象者	37	-	2.7	-	-	-	62.2	35.1
要支援 1	217	0.5	1.4	-	0.5	0.5	65.0	32.3
要支援 2	123	0.8	-	-	0.8	-	65.0	33.3
65~69歳	755	23.3	11.3	1.2	2.4	1.5	49.9	10.5
70~74歳	1,050	10.5	8.5	1.5	2.5	1.8	58.7	16.6
75~79歳	888	3.7	3.5	1.5	2.7	1.7	60.1	26.8
80~84歳	618	1.6	1.5	1.0	0.6	0.6	61.2	33.5
85歳以上	320	0.9	0.3	0.3	0.9	0.6	59.4	37.5
川西南中学校区	521	11.3	6.1	0.8	2.7	0.8	54.9	23.4
川西中学校区	499	12.6	6.0	0.8	1.2	2.0	51.9	25.5
明峰中学校区	521	6.0	5.8	1.0	1.9	1.5	61.8	22.1
多田中学校区	522	12.3	6.3	1.1	2.1	0.8	57.5	19.9
緑台中学校区	521	5.8	5.8	1.0	2.9	1.7	58.9	24.0
清和台中学校区	520	9.8	7.1	1.2	1.5	1.7	56.0	22.7
東谷中学校区	527	6.5	4.4	2.8	2.1	1.3	62.6	20.3

(2) 地域活動への参加者としての参加意向

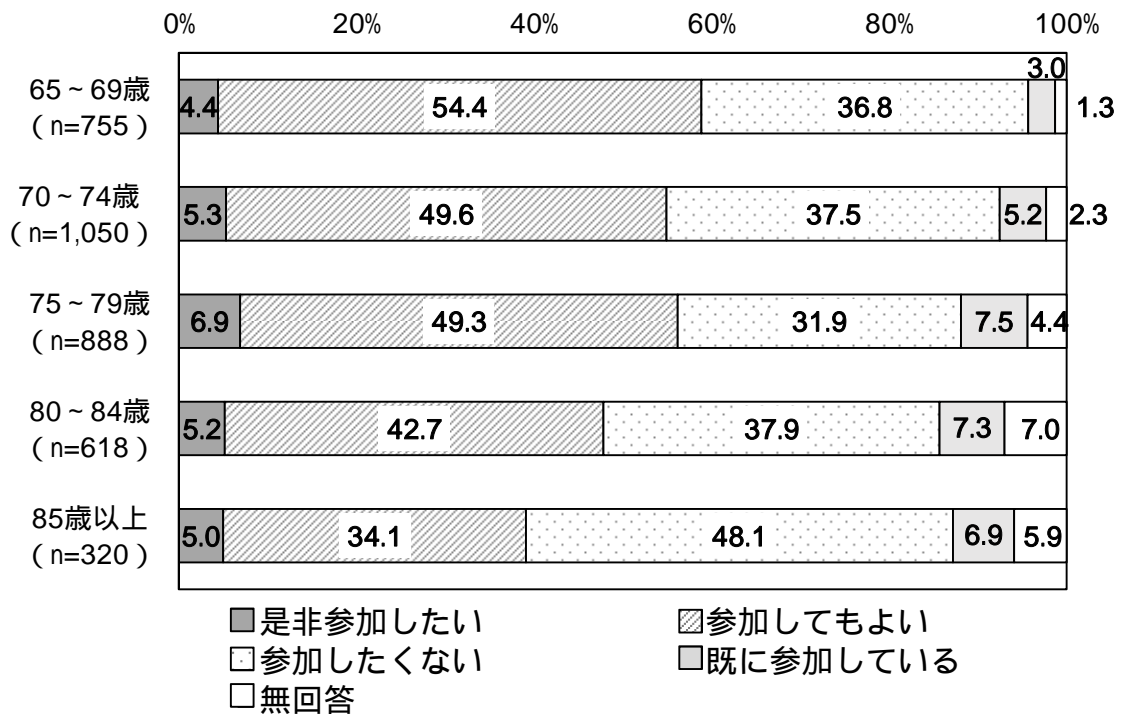
- ・地域活動への参加者としての参加意向については、「参加してもよい」が48.0%と最も高く、「是非参加したい」(5.4%)と合わせると53.4%と、半数以上の人に参加意向があることがわかる。



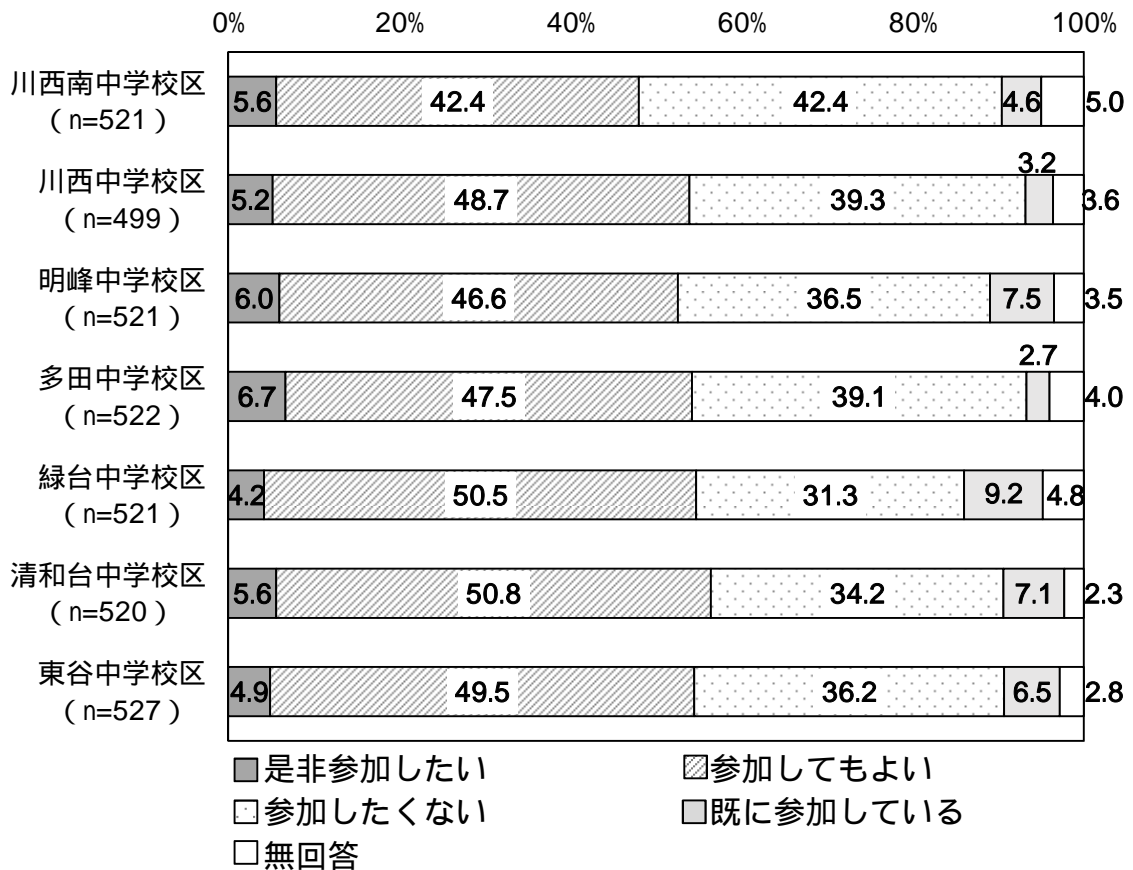
- ・介護度別にみると、「参加したくない」が事業対象者では56.8%、要支援1では47.9%、要支援2では52.0%と、一般高齢者(35.5%)より10ポイント以上高くなっている。



・年齢別にみると、85歳以上で「参加したくない」が48.1%と4割以上となっている。

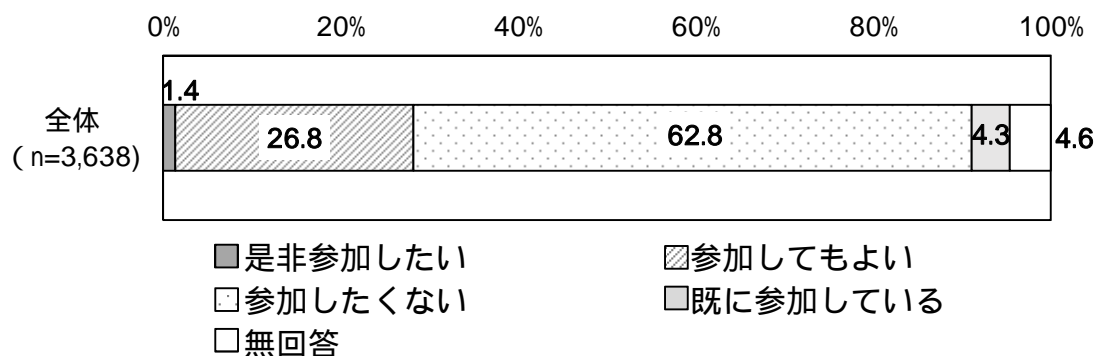


・中学校区別にみると、「参加したくない」が、川西南中学校区で42.4%と最も高くなっている。

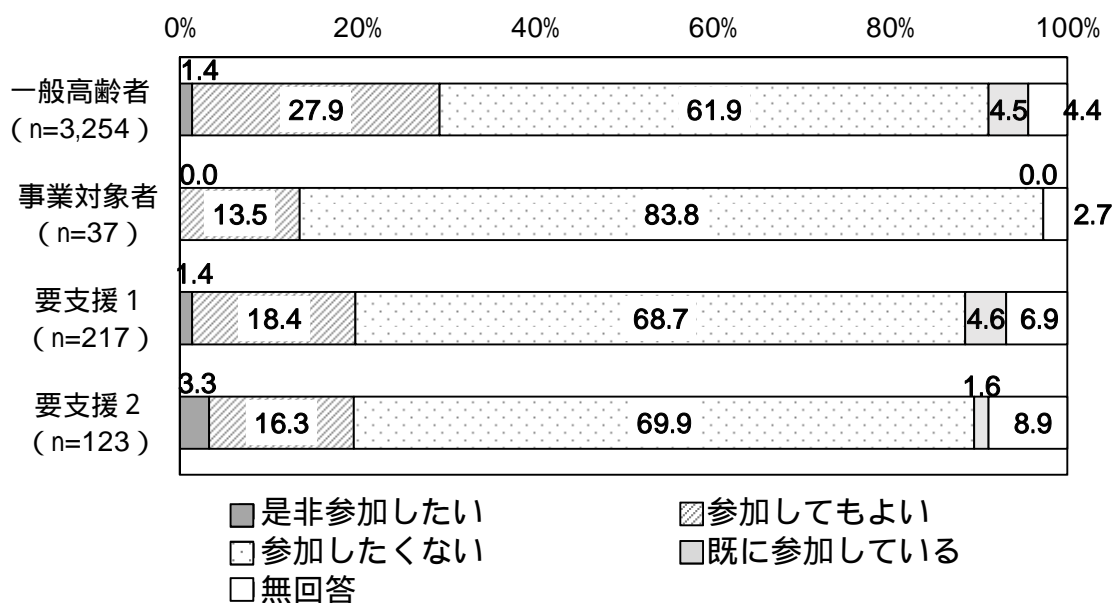


(3) 地域活動への企画・運営(お世話役)としての参加意向

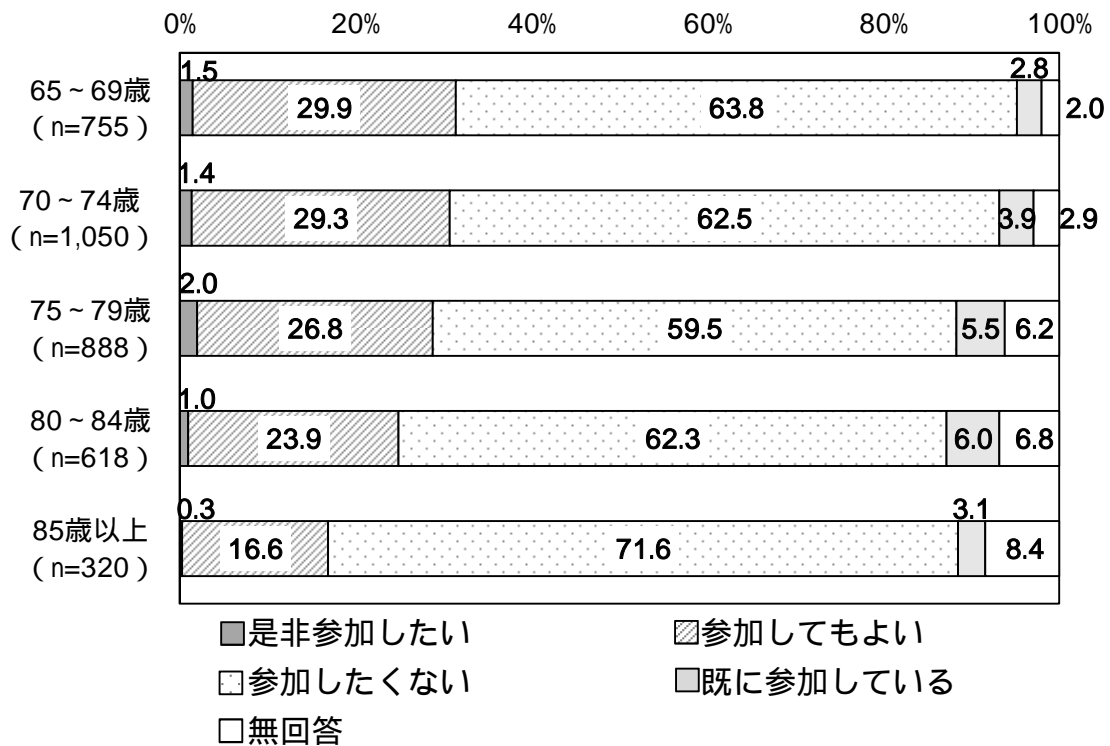
・地域活動への企画・運営(お世話役)としての参加意向については、「参加したくない」が 62.8%と6割以上を占め最も高く、「是非参加したい」・「参加してもよい」を合わせた『参加意向がある』人の割合は、28.2%となっており、参加者としての参加意向からは25.2ポイント減少している。



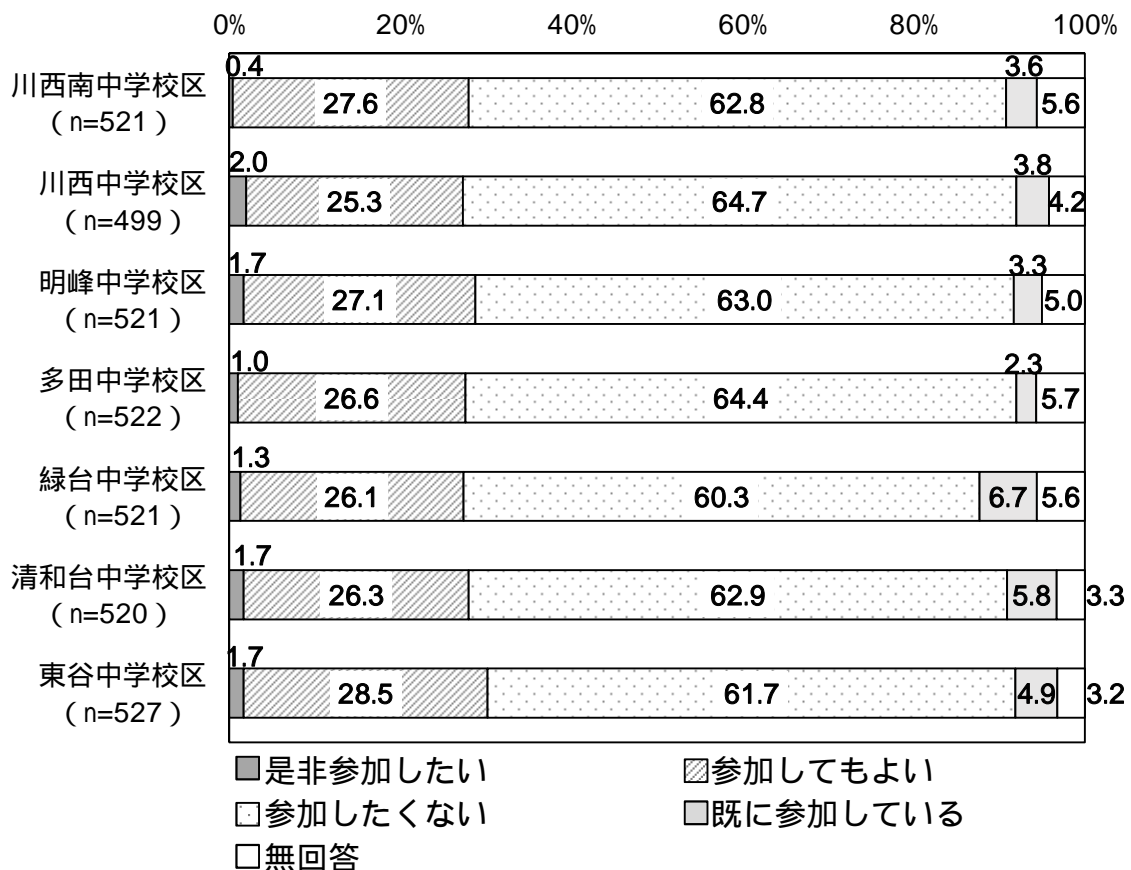
・介護度別にみると、「参加したくない」が、事業対象者で83.8%、要支援2で68.7%、要支援2で69.9%と、一般高齢者(61.9%)より5ポイント以上高くなっている。



・年齢別にみると、85歳以上で「参加したくない」が71.6%と7割以上となっている。



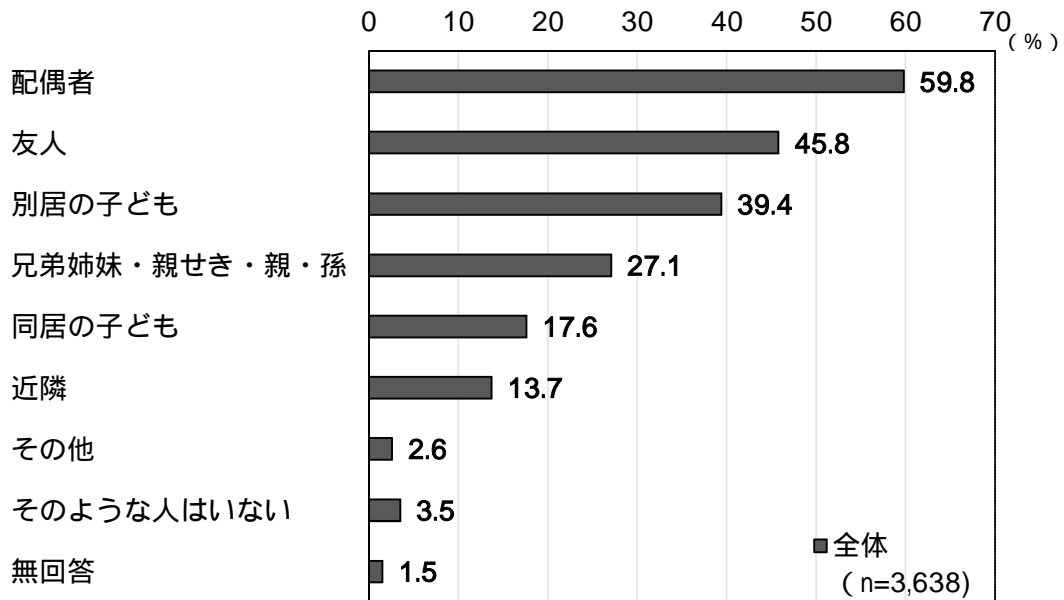
・中学校区別にみると、「参加したくない」が、川西中学校区で64.7%と最も高くなっている。



7. たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

- ・心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が 59.8%と6割近くを占め最も高く、次いで「友人」(45.8%)、「別居の子ども」(39.4%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
職場仲間	ボランティア仲間
趣味仲間	愚痴は言わない 等

- ・介護度別にみると、一般高齢者・要支援1・要支援2で「配偶者」が最も高いものの、要支援1では43.8%、要支援2では46.3%と一般高齢者(61.6%)より15ポイント以上低くなっている。また、事業対象者では「別居の子ども」が54.1%と半数以上を占め最も高くなっている。

	全体 (件数)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・孫 兄弟姉妹・親せき・	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
一般高齢者	3,254	61.6	17.5	39.1	27.5	13.2	47.4	2.6	3.4	1.3
事業対象者	37	32.4	21.6	54.1	27.0	18.9	16.2	2.7	2.7	2.7
要支援1	217	43.8	17.5	41.9	24.0	19.8	31.8	1.4	3.2	3.2
要支援2	123	46.3	15.4	39.0	22.8	14.6	39.8	4.1	6.5	4.1

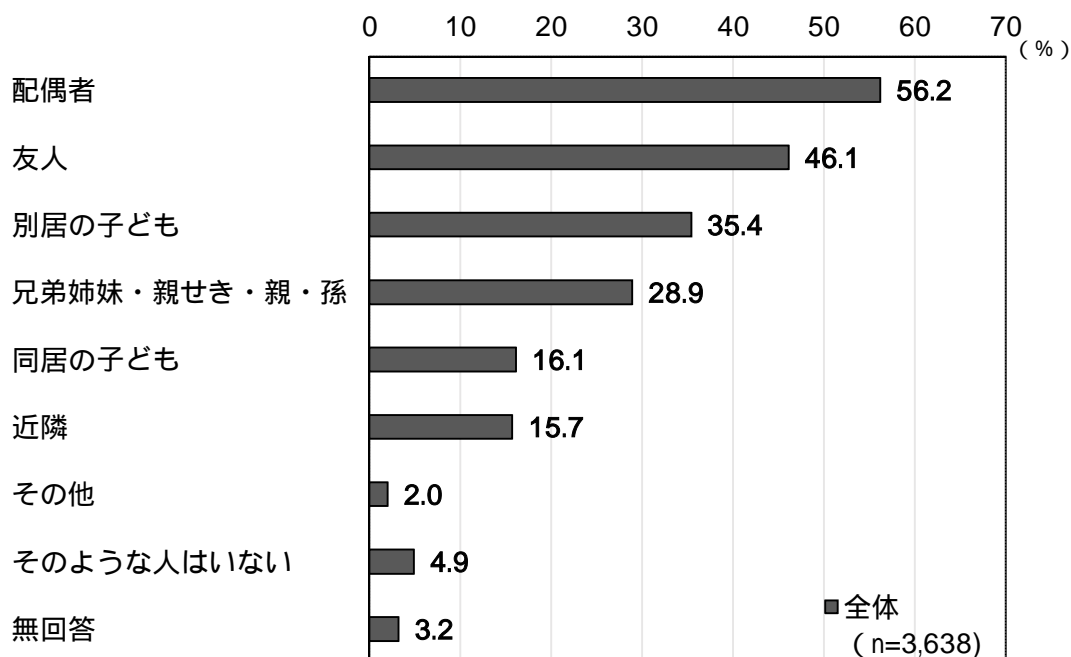
- ・年齢別にみると、65～84歳までで「配偶者」が最も高くなっている一方で、85歳以上では「別居の子ども」が43.1%と4割以上を占め最も高くなっている。また、年代が上がるにつれ「配偶者」の割合が低くなっており、85歳以上では38.1%と4割未満となっている。
- ・中学校区別にみると、全ての地区で「配偶者」が最も高くなっているものの、川西南中学校区・川西中学校区で6割未満とやや低くなっている。

(%)

	全体 (件数)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・兄弟姉妹・親せき・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
65～69歳	755	68.2	18.5	33.6	27.5	11.3	51.8	2.9	3.7	0.7
70～74歳	1,050	62.0	16.0	39.4	28.3	13.3	50.8	2.7	3.7	1.5
75～79歳	888	60.2	16.3	42.3	27.7	17.6	49.1	2.5	2.9	1.2
80～84歳	618	56.0	16.7	40.5	23.9	13.3	36.4	2.1	2.8	2.1
85歳以上	320	38.1	24.7	43.1	26.6	11.3	25.0	2.8	5.0	3.4
川西南中学校区	521	50.1	19.6	36.3	27.4	16.5	42.2	2.1	5.2	3.1
川西中学校区	499	52.7	16.2	38.1	26.9	11.8	48.1	3.6	3.4	1.8
明峰中学校区	521	64.9	18.2	42.4	27.8	12.7	43.4	2.1	2.9	0.6
多田中学校区	522	61.5	19.3	35.8	27.8	14.0	49.2	2.7	3.4	1.1
緑台中学校区	521	61.6	16.7	41.7	25.5	14.6	45.1	2.3	3.6	1.5
清和台中学校区	520	65.0	16.2	39.0	28.3	12.9	47.5	2.3	2.9	1.7
東谷中学校区	527	62.0	16.1	42.7	26.0	13.7	45.5	3.0	2.8	0.9

(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

- ・心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が 56.2%と最も高く、次いで「友人」(46.1%)、「別居の子ども」(35.4%)となっている。



「その他」の主な回答内容		
職場仲間	ボランティア仲間	等

- ・介護度別にみると、一般高齢者・要支援1で「配偶者」が最も高い一方で、事業対象者では「別居の子ども」、要支援2では「友人」が最も高くなっている。また、要支援2では「そのような人はいない」が 14.6%と1割以上となっている。

	全体 (件数)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・兄弟姉妹・親せき・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
一般高齢者	3,254	58.4	16.5	36.3	29.5	16.0	47.6	2.1	4.3	2.8
事業対象者	37	27.0	21.6	43.2	27.0	10.8	18.9	2.7	5.4	5.4
要支援1	217	38.7	11.5	25.3	24.4	13.8	31.8	0.5	8.8	7.4
要支援2	123	35.8	11.4	27.6	20.3	12.2	39.8	1.6	14.6	4.9

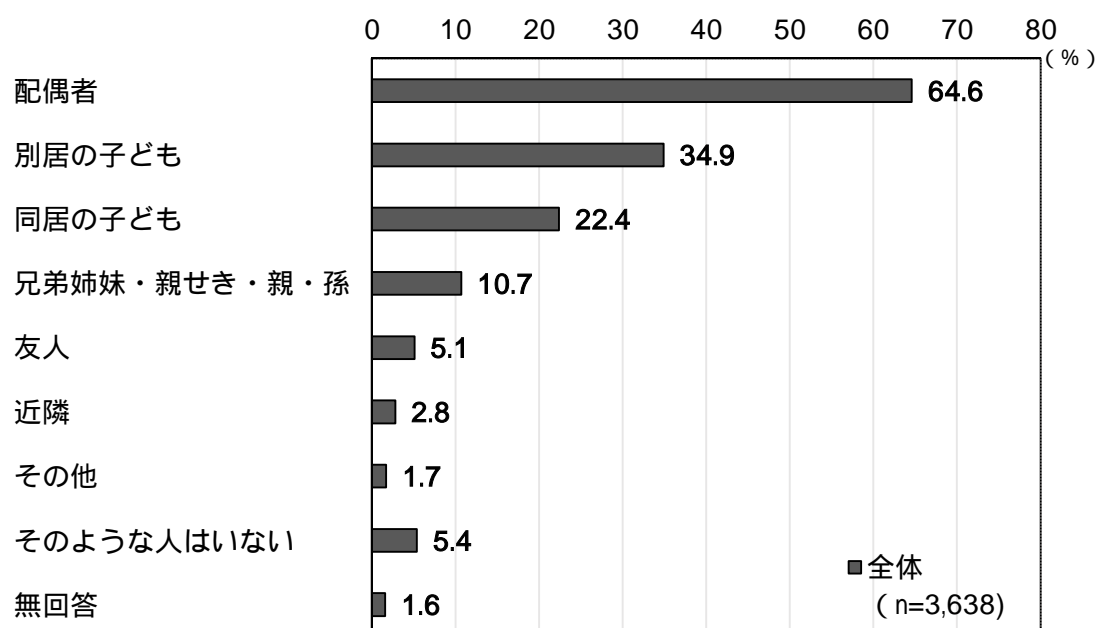
- ・年齢別にみると、全ての年代で「配偶者」が最も高いものの、年代が上がるにつれ割合が低くなっており、85歳以上では35.6%と4割未満となっている。
- ・中学校区別にみると、川西中学校区で「友人」が最も高く、その他の地区では「配偶者」が最も高くなっている。

(%)

	全体 (件数)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・兄弟姉妹・親せき・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
65～69歳	755	66.4	19.3	35.2	31.4	12.2	52.1	2.0	3.2	1.2
70～74歳	1,050	58.7	15.6	38.3	30.8	16.4	49.8	2.6	4.1	2.3
75～79歳	888	55.4	14.0	36.4	28.9	20.0	49.7	1.9	4.8	3.0
80～84歳	618	51.1	13.8	32.2	24.8	15.0	37.4	1.3	5.8	5.5
85歳以上	320	35.6	20.3	30.3	24.7	10.6	26.9	1.6	10.3	6.9
川西南中学校区	521	47.4	17.9	31.1	30.1	16.7	41.5	2.5	6.7	5.8
川西中学校区	499	48.5	15.2	32.9	29.7	15.2	49.7	1.8	4.2	3.6
明峰中学校区	521	62.0	16.1	39.5	28.2	16.7	43.0	1.2	5.4	2.9
多田中学校区	522	56.9	17.8	34.1	29.5	16.7	49.2	2.3	3.8	2.1
緑台中学校区	521	58.7	14.6	34.9	27.8	15.0	44.1	1.5	5.2	3.5
清和台中学校区	520	59.8	16.0	37.7	29.0	13.7	48.1	2.3	3.5	2.9
東谷中学校区	527	59.4	15.0	37.8	27.9	15.7	47.2	2.3	5.7	1.7

(3) 看病や世話をしてくれる人

・看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が64.6%と最も高く、次いで「別居の子ども」(34.9%)、「同居の子ども」(22.4%)となっている。



「その他」の主な回答内容		
看護師・ヘルパー等の施設の人	全て自分で対処する	等

・介護度別にみると、一般高齢者・要支援1・要支援2で「配偶者」が最も高いものの、要支援1では46.5%、要支援2では44.7%と一般高齢者(66.9%)より20ポイント以上低くなっている。また、事業対象者では「別居の子ども」が54.1%と半数以上を占め最も高くなっている。

	全体 (件数)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・兄弟姉妹・親せき・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
一般高齢者	3,254	66.9	22.2	34.2	10.8	2.7	5.2	1.5	5.3	1.3
事業対象者	37	27.0	27.0	54.1	24.3	2.7	-	5.4	5.4	2.7
要支援1	217	46.5	23.5	38.7	9.2	4.6	6.5	2.8	6.5	4.6
要支援2	123	44.7	22.0	40.7	7.3	3.3	3.3	3.3	6.5	3.3

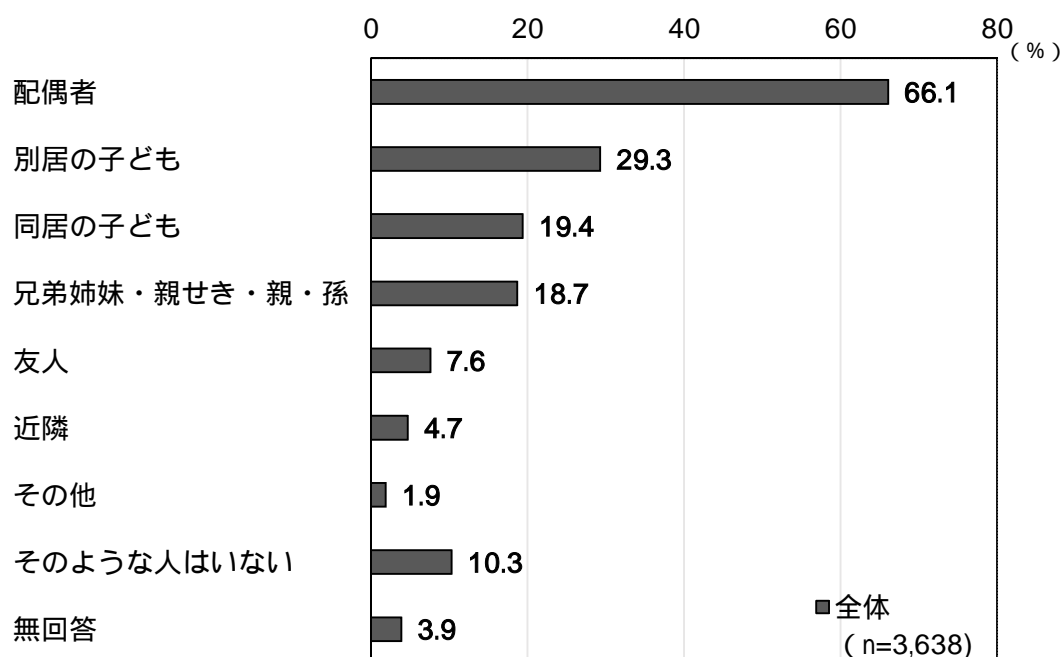
- ・年齢別にみると、全ての年代で「配偶者」が最も高いものの、年代が上がるにつれ割合が低くなっており、85歳以上では37.8%と4割未満となっている。また、年代が上がるにつれ、「別居の子ども」の割合が高くなっている。
- ・中学校区別にみると、全ての中学校区で「配偶者」が最も高くなっているものの、川西南中学校区・川西中学校区で6割未満とやや低くなっている。

(%)

	全体 (件数)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・兄弟姉妹・親せき・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
65～69歳	755	73.4	23.4	29.9	11.8	2.3	4.2	1.2	5.4	0.5
70～74歳	1,050	69.3	20.7	33.3	10.2	2.7	5.7	1.2	5.9	1.5
75～79歳	888	64.1	21.5	36.8	10.1	3.7	6.9	2.1	5.5	1.0
80～84歳	618	60.2	21.4	37.7	9.7	2.6	4.9	1.5	4.7	2.4
85歳以上	320	37.8	29.4	41.3	13.1	2.5	1.3	3.8	4.7	4.1
川西南中学校区	521	59.3	23.0	36.9	11.5	2.5	5.6	1.7	6.7	3.3
川西中学校区	499	55.1	22.6	34.9	14.8	3.4	5.8	3.0	7.8	1.4
明峰中学校区	521	69.1	21.5	34.0	11.3	4.0	4.6	1.9	4.8	0.4
多田中学校区	522	66.7	26.4	33.9	8.6	1.5	4.4	1.7	5.6	1.1
緑台中学校区	521	66.4	20.5	35.1	9.2	3.5	6.5	0.8	5.0	1.7
清和台中学校区	520	70.0	20.2	34.2	9.0	2.5	4.8	0.8	4.6	1.5
東谷中学校区	527	64.9	22.0	35.5	10.4	2.3	4.4	2.1	3.4	1.5

(4) 看病や世話をしてくれる人

・看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が66.1%と最も高く、次いで「別居の子ども」(29.3%)、「同居の子ども」(19.4%)となっている。



「その他」の主な回答内容		
年齢的にできない	今のところいない	等

・介護度別にみると、一般高齢者・要支援1・要支援2で「配偶者」が最も高いものの、要支援1では49.3%、要支援2では42.3%と一般高齢者(68.5%)より15ポイント以上低くなっている。また、事業対象者では「そのような人はいない」が35.1%と3割以上を占め最も高くなっている。

	全体 (件数)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・兄弟姉妹・親せき・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
一般高齢者	3,254	68.5	19.9	30.7	19.8	4.8	7.7	1.5	9.0	3.4
事業対象者	37	29.7	21.6	18.9	10.8	2.7	-	2.7	35.1	8.1
要支援1	217	49.3	15.2	21.2	10.1	5.1	7.8	4.1	16.6	7.8
要支援2	123	42.3	10.6	10.6	5.7	3.3	4.9	8.1	25.2	9.8

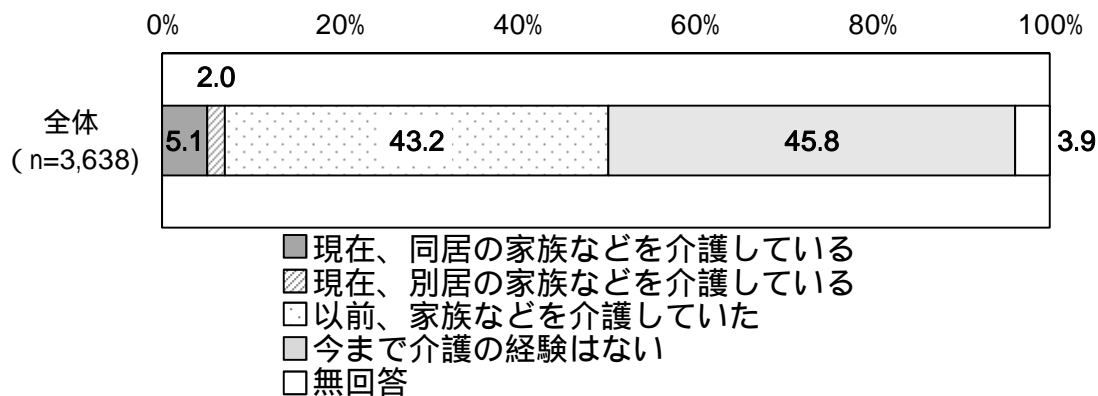
- ・年齢別にみると、全ての年代で「配偶者」が最も高いものの、年代が上がるにつれ割合が低くなっており、85歳以上では40.9%と半数未満となっている。また、年代が上がるにつれ、「そのような人はいない」の割合が高くなっており、75歳以上で1割以上を占めている。
- ・中学校区別にみると、全ての中学校区で「配偶者」が最も高くなっているものの、川西南中学校区・川西中学校区で6割未満とやや低くなっている。

(%)

	全体 (件数)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・兄弟姉妹・親せき・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
65～69歳	755	75.0	23.3	31.7	24.6	4.4	7.2	1.7	8.2	1.2
70～74歳	1,050	70.9	19.5	34.4	21.0	4.1	7.8	1.9	8.2	2.9
75～79歳	888	66.6	18.8	29.6	18.5	6.2	9.7	1.8	10.4	3.3
80～84歳	618	59.5	16.0	23.1	11.8	5.0	6.6	1.0	12.0	6.8
85歳以上	320	40.9	17.2	18.1	10.6	2.8	3.4	4.4	18.8	10.3
川西南中学校区	521	58.7	21.9	29.8	17.7	5.8	7.5	2.5	10.6	5.8
川西中学校区	499	58.9	16.4	28.1	23.0	6.2	8.8	2.6	12.6	3.0
明峰中学校区	521	70.4	19.4	29.8	17.7	4.8	7.5	1.0	10.2	2.9
多田中学校区	522	68.2	22.4	28.9	19.3	4.8	7.7	1.9	10.0	3.3
緑台中学校区	521	67.0	17.5	28.0	18.0	4.6	7.1	2.3	9.8	4.8
清和台中学校区	520	70.6	19.6	29.2	16.7	2.9	6.0	1.2	8.3	3.8
東谷中学校区	527	68.5	18.0	31.3	18.4	4.0	8.3	1.9	10.8	4.0

(5) 家族などの介護の経験

- ・家族などの介護の経験については、「今まで介護の経験はない」が45.8%と最も高く、次いで「以前、家族などを介護していた」(43.2%)となっている。「現在、同居の家族などを介護している」・「現在、別居の家族などを介護している」・「以前、家族などを介護していた」を合わせた『介護の経験がある』人の割合は50.3%と半数以上となっている。

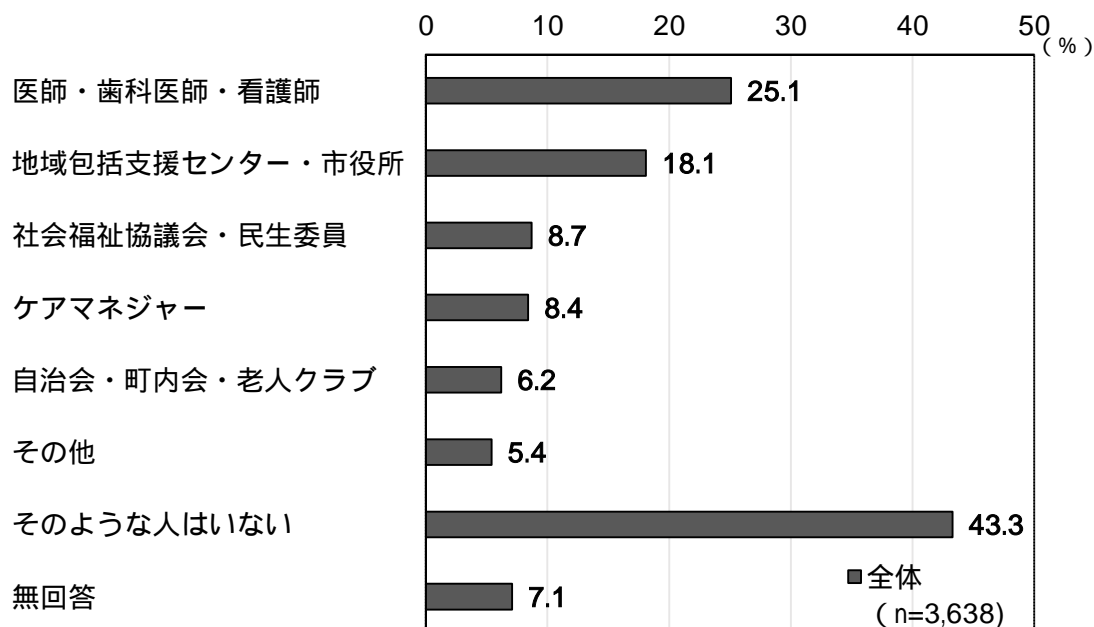


- ・介護度別にみると、一般高齢者では「今まで介護の経験はない」が最も高い一方で、事業対象者・要支援1・要支援2では「以前、家族などを介護していた」が最も高くなっている。
- ・年齢別にみると、全ての年代で「以前、家族などを介護していた」が最も高くなっている。
- ・中学校区別にみると、緑台中学校区・東谷中学校区で「以前、家族などを介護していた」が最も高く、その他の地区では「今まで介護の経験はない」が最も高くなっている。

	全体 (件数)	介護家族 しな てど いを る	家現在、 族同 居の の	介家現 護族在、 しな てど いを る	いど以 たを前、 介護家 し族 てな	経今 験ま はで ない 介護 の	無 回 答
一般高齢者	3,254	4.8	2.2	42.5	47.1	3.4	
事業対象者	37	8.1	-	62.2	27.0	2.7	
要支援1	217	8.3	-	49.3	34.1	8.3	
要支援2	123	6.5	-	46.3	39.8	7.3	
65～69歳	755	3.8	4.2	44.5	45.4	2.0	
70～74歳	1,050	4.5	2.5	42.8	47.0	3.2	
75～79歳	888	6.0	1.4	45.3	44.0	3.4	
80～84歳	618	5.3	0.2	38.3	49.8	6.3	
85歳以上	320	6.9	0.3	45.9	40.3	6.6	
川西南中学校区	521	6.1	0.8	39.2	48.9	5.0	
川西中学校区	499	6.4	1.8	43.7	44.1	4.0	
明峰中学校区	521	4.8	2.1	45.1	45.5	2.5	
多田中学校区	522	3.6	1.7	40.6	48.3	5.7	
緑台中学校区	521	3.6	2.3	46.4	44.7	2.9	
清和台中学校区	520	6.2	3.3	41.5	45.8	3.3	
東谷中学校区	527	4.7	1.9	46.3	43.6	3.4	

(6) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手

・家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手については、「そのような人はいない」が43.3%と最も高くなっている。相談する相手の中では「医師・歯科医師・看護師」が25.1%と最も高く、次いで「地域包括支援センター・市役所」(18.1%)になっている。



「その他」の主な回答内容	
相談の内容により相談先を変える	弁護士
職場仲間	趣味仲間 等

・介護度別にみると、一般高齢者では「そのような人はいない」が最も高い一方で、事業対象者・要支援1・要支援2では「ケアマネジャー」が最も高くなっている。また、「地域包括支援センター・市役所」が要支援1では2割以上、事業対象者・要支援2では3割以上を占め一般高齢者(17.1%)より5ポイント以上高くなっている。

	全体 (件数)	自治会・ 町内会・ 老人ク ラ	社会福 祉協 議会・ 民生 委 員	ケ ア マ ネ ジ ャ ー	医 師 ・ 歯 科 医 師 ・ 看 護 師	地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー ・ 市 役 所	そ の 他	そ の よ う な 人 は い な い	無 回 答
一般高齢者	3,254	6.5	8.5	5.1	24.6	17.1	5.3	45.9	7.1
事業対象者	37	8.1	10.8	45.9	43.2	32.4	2.7	10.8	8.1
要支援1	217	4.1	10.1	34.6	29.5	22.6	7.4	24.9	6.9
要支援2	123	1.6	13.0	39.8	25.2	31.7	7.3	16.3	7.3

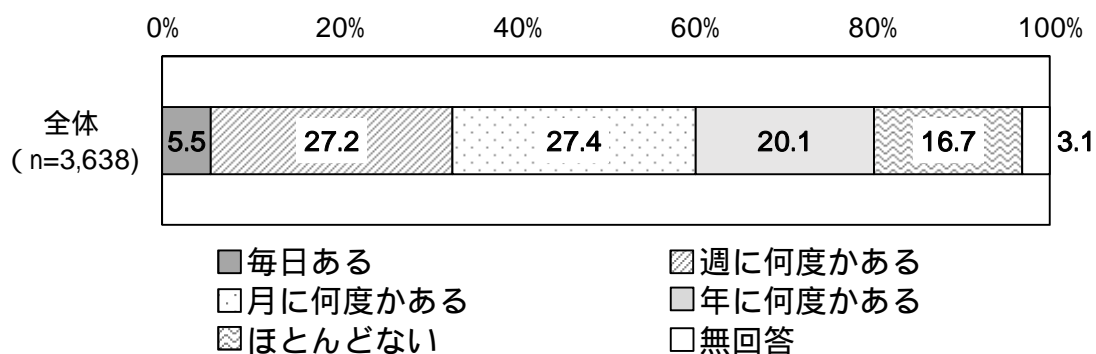
- ・年齢別にみると、85歳以上で「医師・歯科医師・看護師」が最も高く、その他の年代では「そのような人はいない」が最も高くなっている。また、85歳以上で「ケアマネジャー」が21.3%と2割以上を占め高くなっている。
- ・中学校区別にみると、全ての地区で「そのような人はいない」が最も高くなっている。また、緑台中学校区で「医師・歯科医師・看護師」が31.1%と3割以上を占めやや高くなっている。

(%)

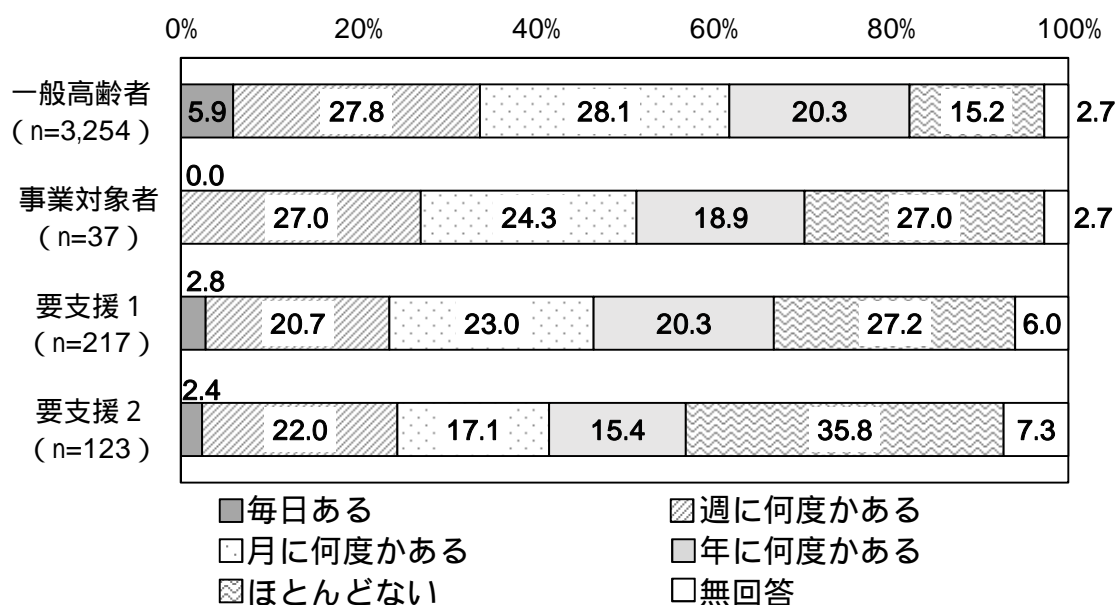
	全体 (件数)	自治会・ クラブ ・町内会 ・老人	社会 福祉 協会 ・民生 委員	ケア マネ ジャー	医師 ・ 歯科 医師 ・ 看護 師	地域 包括 支援 セン ター ・ 市役 所	その他	その よう な 人 は い な い	無 回 答
65～69歳	755	3.8	5.0	5.6	21.3	17.9	4.2	54.4	4.2
70～74歳	1,050	6.5	8.7	6.5	23.4	16.7	5.0	49.0	6.2
75～79歳	888	6.0	10.6	7.5	27.7	18.8	5.2	37.7	8.3
80～84歳	618	8.3	10.2	9.9	24.9	19.1	7.1	36.1	9.1
85歳以上	320	7.8	9.7	21.3	32.5	18.8	7.2	28.1	9.4
川西南中学校区	521	8.6	11.3	8.1	20.0	16.5	3.8	44.7	9.0
川西中学校区	499	7.8	5.8	9.0	23.4	14.8	4.8	45.3	6.2
明峰中学校区	521	6.3	7.9	6.9	22.6	22.5	6.0	41.5	7.5
多田中学校区	522	5.7	8.2	8.6	25.3	18.2	4.4	45.6	6.7
緑台中学校区	521	5.0	10.0	7.5	31.1	18.8	6.7	39.3	6.7
清和台中学校区	520	6.7	8.5	8.7	26.0	18.1	6.0	43.8	6.9
東谷中学校区	527	3.4	9.3	10.2	27.1	17.3	6.3	43.1	6.5

(7) 友人・知人と会う頻度

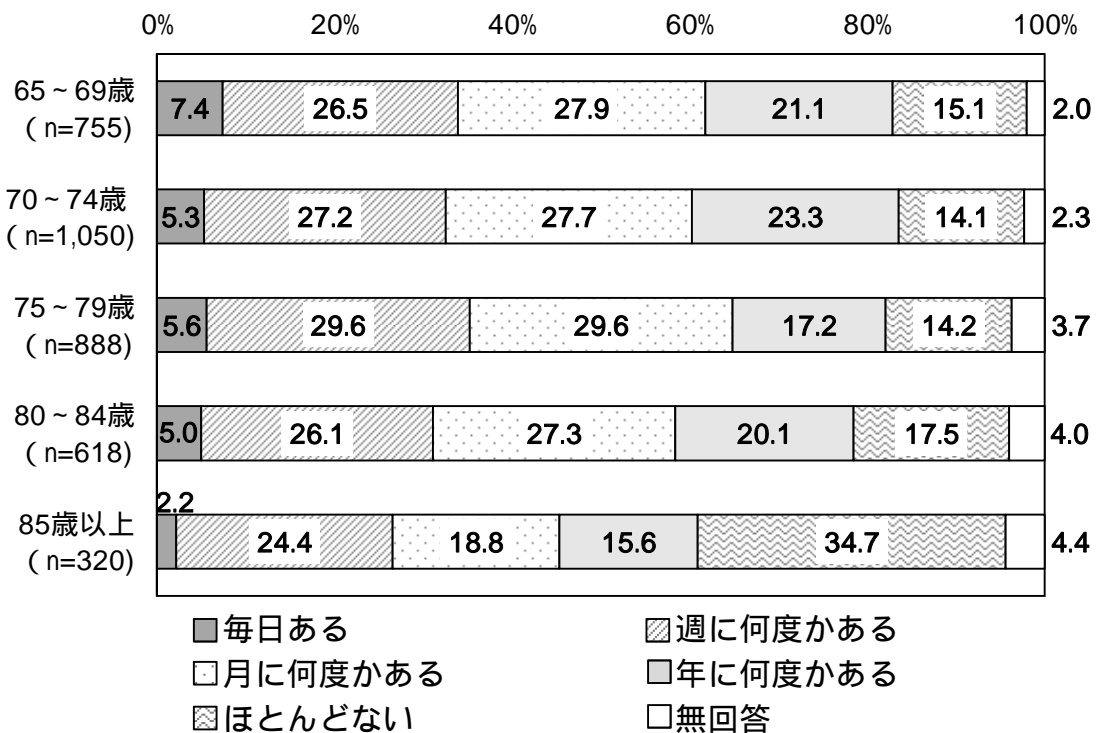
・友人・知人と会う頻度については、「月に何度かある」が27.4%と最も高く、次いで「週に何度かある」(27.2%)、「年に何度かある」(20.1%)となっている。「毎日ある」・「週に何度かある」・「月に何度かある」を合わせた『月に1回以上ある』人の割合は60.1%と6割以上となっている。



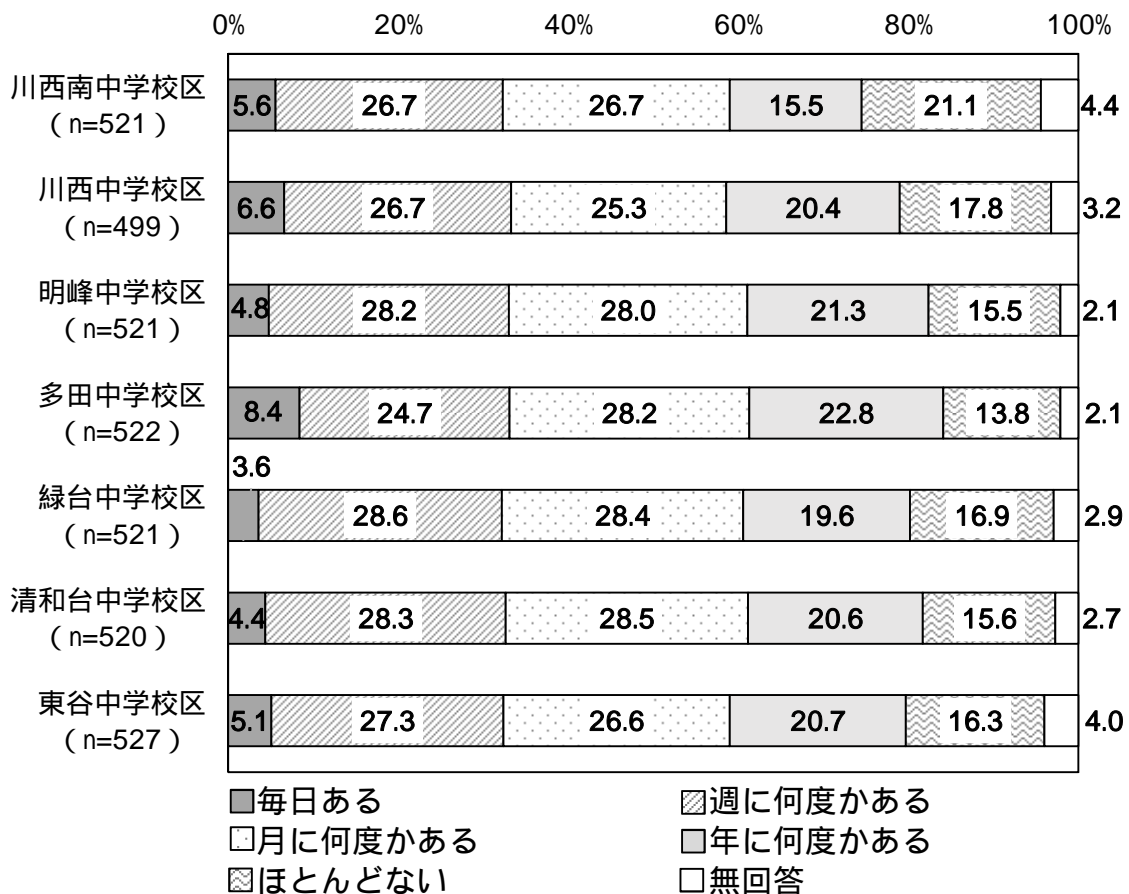
・介護度別にみると、「ほとんどない」が、事業対象者では27.0%、要支援2では27.2%、要支援2では35.8%と、一般高齢者(15.2%)より10ポイント以上高くなっている。また、『月に1回以上ある』人の割合は、一般高齢者で6割以上である一方で、要支援1では46.5%、要支援2では41.5%と半数未満となっている。



- ・年齢別にみると、概ね年齢が上がるにつれ、「ほとんどない」が高くなっており、85歳以上で34.7%と3割以上となっている。また、『月に1回以上ある』人の割合は、80～84歳で58.4%、85歳以上で45.4%と6割未満となっている。

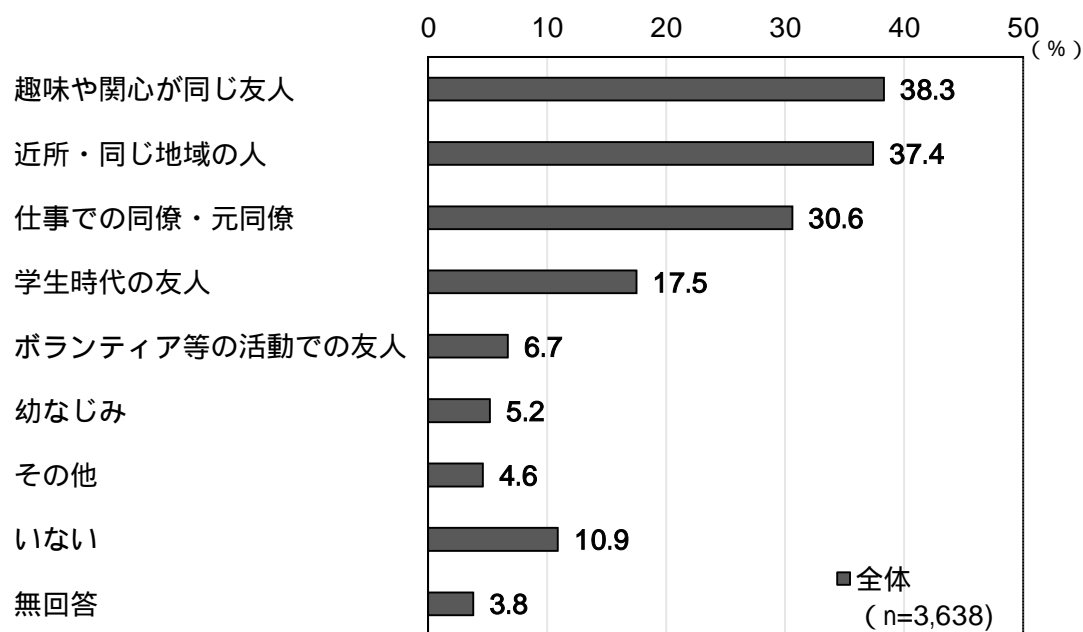


- ・中学校区別で大きな差はみられない。



(8) よく会う友人・知人との関係

・よく会う友人・知人との関係については、「趣味や関心が同じ友人」が 38.3%と最も高く、次いで「近所・同じ地域の人」(37.4%)、「仕事での同僚・元同僚」(30.6%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
ママ友	お客様
通院での友達	教会の人 等

・介護度別にみると、一般高齢者では「趣味や関心が同じ友人」が最も高くなっている一方で、事業対象者・要支援1・要支援2では「近所・同じ地域の人」が最も高くなっている。また、よく会う知人・友人が「いない」人の割合が、事業対象者では21.6%、要支援1では15.2%、要支援2では23.6%と一般高齢者(10.0%)より5ポイント以上高くなっている。

	全体 (件数)	近所・ 同じ地 域の人	幼 なじ み	学 生 時 代 の 友 人	仕 事 で の 同 僚 ・ 元 同 僚	趣 味 や 関 心 が 同 じ 友 人	ボ ラ ン テ ィ ア 等 の 活 動 で の 友 人	そ の 他	い な い	無 回 答
一般高齢者	3,254	37.0	5.4	18.4	32.5	39.5	7.0	4.3	10.0	3.6
事業対象者	37	54.1	-	2.7	8.1	16.2	8.1	8.1	21.6	5.4
要支援1	217	41.5	2.8	8.3	15.7	31.8	5.1	5.5	15.2	5.5
要支援2	123	35.0	4.1	13.8	13.0	26.0	2.4	8.9	23.6	7.3

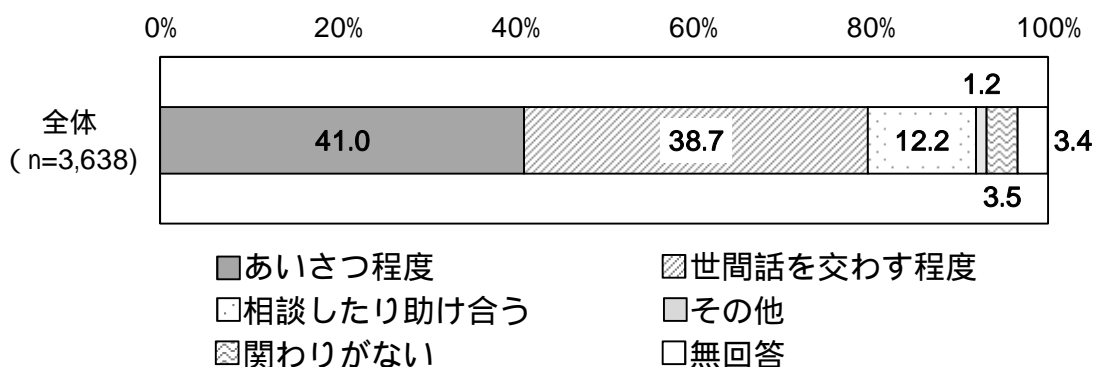
- ・年齢別にみると、65～69歳では「仕事での同僚・元同僚」が、70～74歳では「趣味や関心が同じ友人」が最も高く、その他の年代では「近所・同じ地域の人」が最も高くなっている。また、85歳以上でよく会う知人・友人が「いない」人の割合が19.1%と2割近くとなっている。
- ・中学校区別にみると、川西南中学校区・川西中学校区で「近所・同じ地域の人」が最も高く、その他の地区では「趣味や関心が同じ友人」が最も高くなっている。

(%)

	全体 (件数)	近所・ 同じ地域 の人	幼 なじみ	学 生 時 代 の 友 人	仕 事 で の 同 僚 ・ 元 同 僚	趣 味 や 関 心 が 同 じ 友 人	ポ ラ ン テ ィ ア 等 の 活 動	そ の 他	い な い	無 回 答
65～69歳	755	27.4	5.0	23.0	44.9	35.0	6.0	3.2	9.9	2.6
70～74歳	1,050	34.7	5.6	17.1	34.7	40.2	8.0	5.5	10.0	2.8
75～79歳	888	46.1	6.4	17.2	26.2	41.6	8.6	5.0	9.3	3.8
80～84歳	618	42.4	4.7	14.7	22.0	39.6	4.5	3.4	11.8	4.7
85歳以上	320	36.3	1.6	11.3	11.9	29.1	3.4	5.9	19.1	8.4
川西南中学校区	521	41.1	5.4	11.3	30.5	30.1	5.2	2.1	14.8	5.8
川西中学校区	499	33.1	6.8	17.4	30.9	32.1	6.2	5.4	10.8	4.6
明峰中学校区	521	37.2	3.5	20.3	30.5	42.0	5.4	4.2	10.0	3.3
多田中学校区	522	36.6	4.4	17.0	33.7	36.8	7.3	5.4	9.6	2.7
緑台中学校区	521	38.8	5.6	17.7	28.2	44.7	6.0	4.2	10.7	2.9
清和台中学校区	520	36.2	4.4	21.3	31.9	42.3	8.8	5.8	9.2	3.8
東谷中学校区	527	38.7	6.3	17.1	28.3	40.2	8.2	4.9	11.4	3.8

(9) 実際に行っている近所づきあい

・実際に行っている近所づきあいについては、「あいさつ程度」が41.0%と4割以上を占めており、次いで「世間話を交わす程度」(38.7%)、「相談したり助け合う」(12.2%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
一緒に散歩に行く	同じ趣味をする
地域の見守り活動をしている	料理のおすそ分け 等

・介護度別にみると、全ての介護度で「あいさつ程度」が最も高くなっているものの、要支援1で46.3%、要支援2で48.6%と、一般高齢者(40.9%)より5ポイント以上高くなっている。

	全体 (件数)	あいさつ 程度	世間話を 交わす 程度	相談し たり 助け 合う	そ の 他	関 わ り が な い	無 回 答
一般高齢者	3,254	40.9	39.3	12.2	1.2	3.3	3.0
事業対象者	217	38.2	35.9	15.7	0.5	4.1	5.5
要支援1	123	46.3	26.8	9.8	1.6	7.3	8.1
要支援2	37	48.6	37.8	8.1	-	2.7	2.7

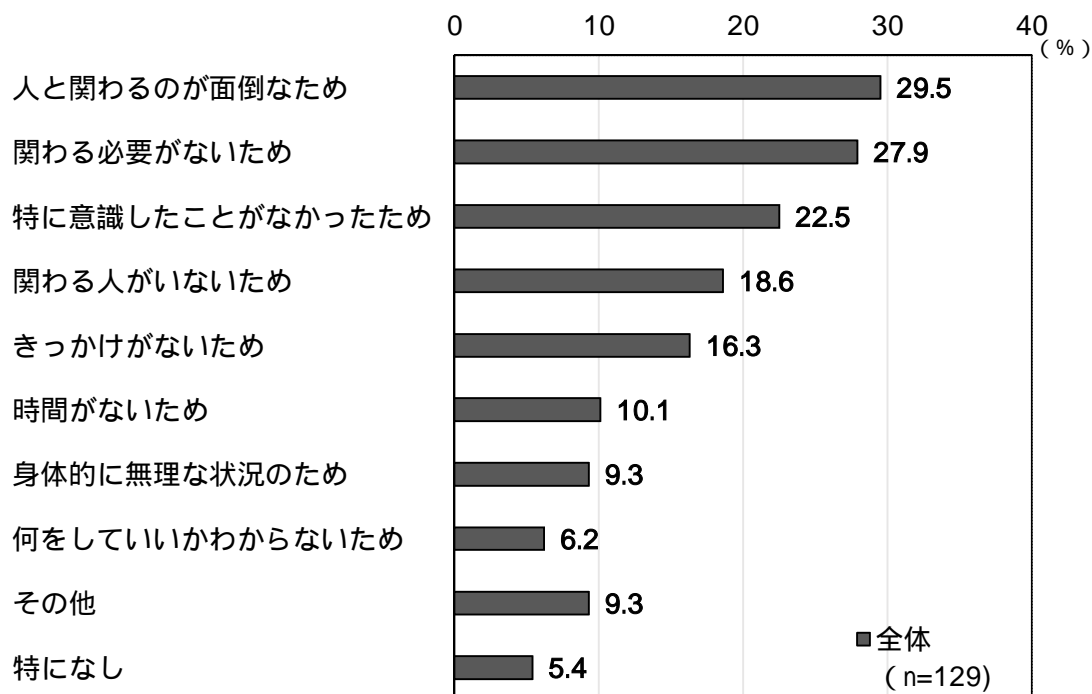
- ・年齢別にみると、70～79歳で「世間話を交わす程度」が最も高く、その他の年代では「あいさつ程度」が最も高くなっている。
- ・中学校区別にみると、川西南中学校区・川西中学校区・多田中学校区で「あいさつ程度」が最も高く、その他の地区では「世間話を交わす程度」が最も高くなっている。

(%)

	全体 (件数)	あいさつ 程度	世間話 を交わす 程度	相談し たり助け 合う	その他	関わり がない	無回 答
65～69歳	755	47.7	35.5	8.9	0.7	4.8	2.5
70～74歳	1,050	37.7	41.0	13.2	1.3	3.6	3.0
75～79歳	888	35.9	41.0	16.1	1.5	2.3	3.3
80～84歳	618	43.2	37.9	10.8	0.8	3.2	4.0
85歳以上	320	46.3	33.8	9.1	1.6	4.1	5.3
川西中学校区	499	48.9	31.5	11.4	1.4	3.4	3.4
明峰中学校区	521	39.5	40.5	11.5	1.2	3.8	3.5
多田中学校区	522	41.4	38.7	12.8	1.5	3.1	2.5
緑台中学校区	521	39.2	42.0	11.7	1.5	3.1	2.5
清和台中学校区	520	38.8	40.6	11.5	1.2	4.8	3.1
東谷中学校区	527	39.1	40.8	12.7	0.8	2.8	3.8

(9 -) 近所との関わりがない理由 (9) で「関わりがない」と回答した方のみ

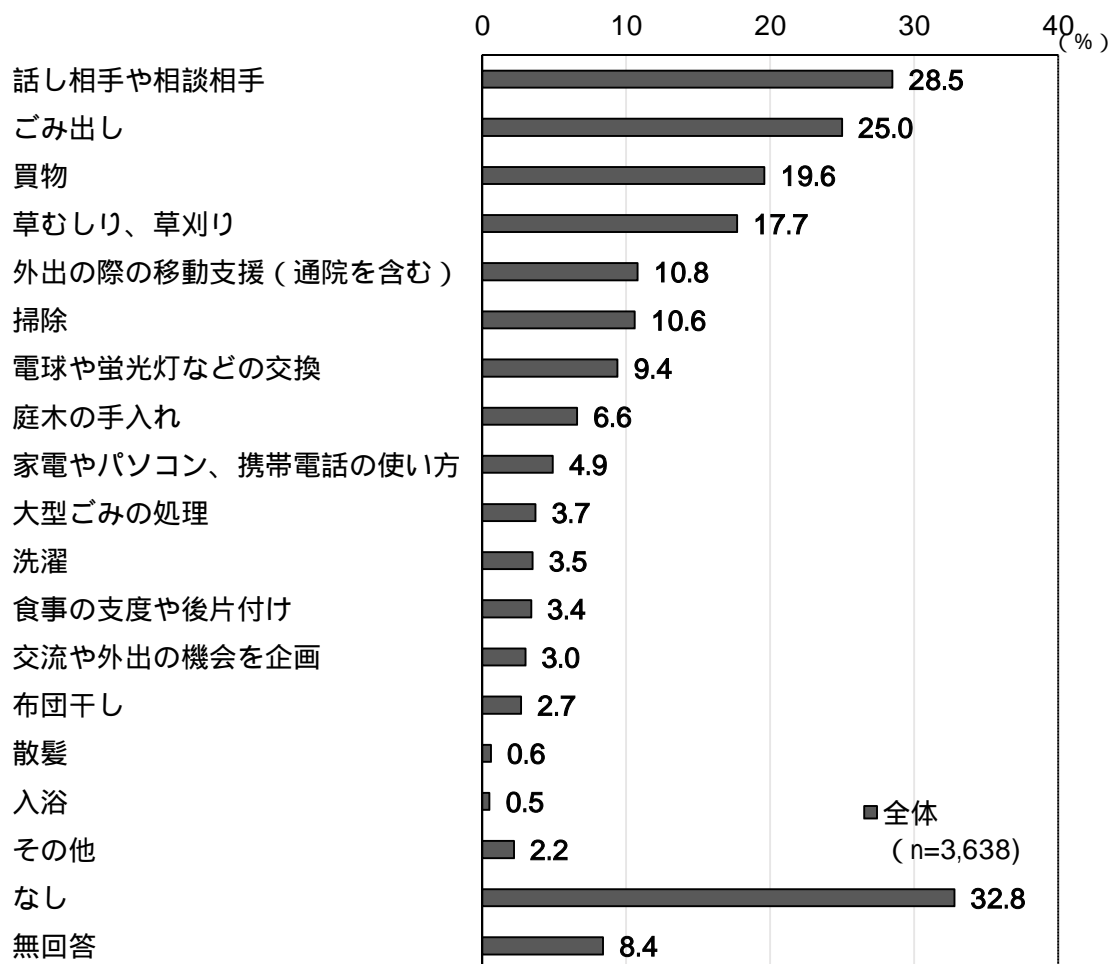
・近所との関わりがない理由については、「人と関わるのが面倒なため」が 29.5%と3割近くを占め最も高く、次いで「関わる必要がないため」(27.9%)、「特に意識したことがなかったため」(22.5%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
引っ越しをしたため	他人に家に入ってほしくない 等

(10) 近所で手助けや協力ができること

- ・近所で手助けや協力ができることについては、「なし」が 32.8%と3割以上を占め最も高くなっている。手助け・協力の内容としては「話し相手や相談相手」が 28.5%と最も高く、次いで「ごみ出し」(25.0%)、「買物」(19.6%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
時間の都合が合えば何でも手伝う	
お願いされれば、できることは手伝う	
建物等の修理	
食事・食べ物を届ける	
自分のことで精いっぱいできない	
手助けしたいが、身体的に困難な状況	
仕事をしているので、時間的に手助けできない	等

- ・介護度別にみると、要支援認定等の有無に関わらず「なし」が最も高くなっているものの、事業対象者で54.1%、要支援1で49.8%、要支援2で56.9%と、一般高齢者(30.5%)より15ポイント以上高くなっている。また、「なし」以外では、一般高齢者で「ごみ出し」、事業対象者・要支援1・要支援2で「話し相手や相談相手」が最も高くなっている。

(%)

	全体 (件数)	外出の際の移動支 援(通院を含む)	交流や外出の機会 を企画	話し相手や相談相 手	食事の支度や後片 付け	買物	掃除	洗濯	布団干し	ごみ出し
一般高齢者	3,254	11.6	3.2	29.5	3.7	21.3	11.3	3.8	3.0	26.7
事業対象者	37	-	-	21.6	5.4	16.2	8.1	2.7	2.7	13.5
要支援1	217	3.7	1.4	18.9	1.4	3.7	5.5	0.9	0.5	10.6
要支援2	123	3.3	1.6	19.5	-	5.7	2.4	-	0.8	7.3
	の電球や蛍光灯など 交換	庭木の手入れ	草むしり、草刈り	大型ごみの処理	散髪	入浴	携帯電話やパソコン、 その他	その他	なし	無回答
一般高齢者	10.2	7.1	19.0	4.0	0.6	0.4	5.3	2.2	30.5	8.0
事業対象者	2.7	-	10.8	-	-	2.7	-	2.7	54.1	5.4
要支援1	2.3	2.3	7.4	1.8	0.5	0.9	1.8	2.3	49.8	11.5
要支援2	3.3	1.6	4.1	0.8	-	-	2.4	0.8	56.9	15.4

- ・年齢別にみると、70～79歳で「話し相手や相談相手」が、その他の年代で「なし」が最も高くなっている。「なし」以外では、65～69歳で「ごみ出し」が、80歳以上で「話し相手や相談相手」が最も高くなっている。

(%)

	全体 (件数)	外出の 際の移動支 援(通院を 含む)	交流や 外出の機 会を企画	話し 相手や 相談相 手	食 事の 支度 や後 片 付け	買 物	掃 除	洗 濯	布 団干 し	ご み出 し
65～69歳	755	13.2	2.4	27.4	4.8	26.8	13.6	5.0	4.6	31.1
70～74歳	1,050	11.7	4.1	30.8	3.6	23.9	11.2	3.7	2.9	28.0
75～79歳	888	11.6	3.5	31.4	4.1	18.8	11.1	3.8	2.5	25.0
80～84歳	618	7.8	2.8	25.9	1.8	11.5	7.1	2.3	1.3	17.8
85歳以上	320	5.3	0.3	20.3	1.3	6.9	6.9	0.6	1.3	14.1
	の電 球や 蛍光 灯な ど交 換	庭 木 の 手 入 れ	草 む し り 、 草 刈 り	大 型 ご み の 処 理	散 髪	入 浴	携 帯 電 話 の 使 い 方 、 家 電 や パ ソ コ ン 、 そ の 他	な し	無 回 答	
65～69歳	13.6	8.3	22.8	4.8	0.9	0.4	9.0	1.7	31.4	4.8
70～74歳	9.9	7.0	19.0	4.1	0.9	0.6	5.4	2.2	29.9	6.8
75～79歳	9.1	6.9	18.6	3.9	0.2	0.8	3.6	2.8	29.5	8.6
80～84歳	5.5	4.2	12.5	2.6	0.2	-	2.9	1.3	36.4	12.6
85歳以上	5.9	4.7	9.1	1.3	0.3	0.3	1.3	3.4	47.5	14.1

- ・中学校別にみると、明峰中学校区で「話し相手や相談相手」が、その他の地区では「なし」が最も高くなっている。また、「なし」以外では、川西中学校区で「ごみ出し」が、その他の地区では「話し相手や相談相手」が最も高くなっている。

(%)

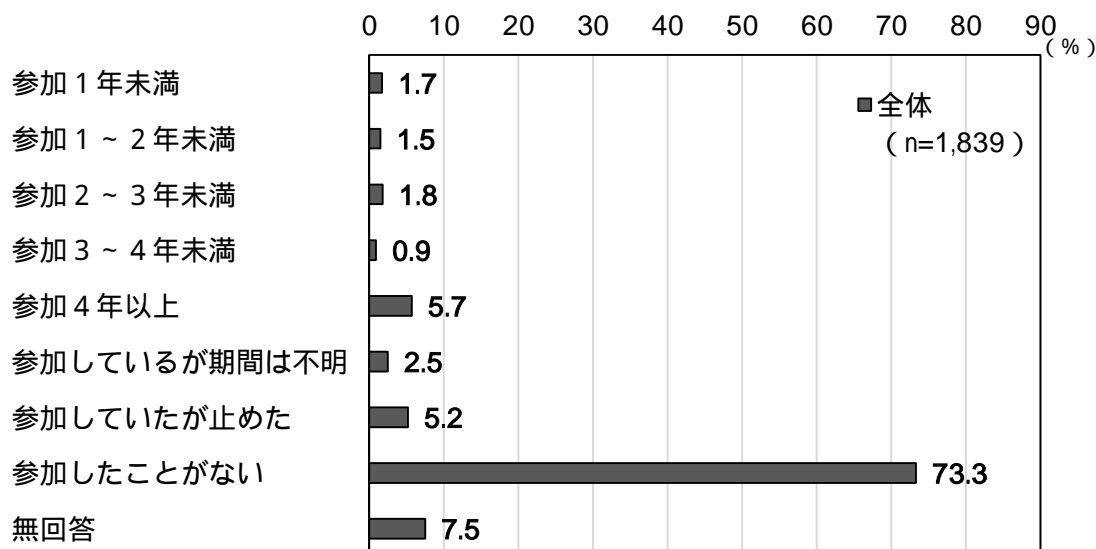
	全体 (件数)	外出の 際の移動支 援(通院を 含む)	交流や外 出の機会 を企画	話し相手 や相談相 手	食事の支 度や後片 付け	買物	掃除	洗濯	布団干し	ごみ出し
川西南中学校区	521	9.2	1.9	26.9	3.1	18.6	10.4	3.8	2.9	26.7
川西中学校区	499	8.4	3.0	23.0	4.2	18.0	10.6	3.4	2.8	25.7
明峰中学校区	521	12.1	3.1	32.8	3.3	20.7	10.2	3.3	2.3	27.4
多田中学校区	522	9.2	2.5	27.2	4.0	20.7	12.6	4.8	3.6	26.2
緑台中学校区	521	10.2	1.9	29.4	2.5	17.7	7.5	1.7	1.3	23.8
清和台中学校区	520	13.1	5.0	30.4	3.1	22.3	12.1	3.8	3.3	22.7
東谷中学校区	527	13.1	3.8	29.4	4.0	19.4	11.0	3.6	2.8	22.2
	の電 球や 蛍光 灯な ど	庭木 の手 入れ	草む しり 、 草刈 り	大型 ごみ の処 理	散 髪	入 浴	携 帯電 話の 使 い 方	家 電や パソ コン 、 その 他	な し	無 回 答
川西南中学校区	7.3	5.2	19.4	2.9	0.8	0.6	2.9	1.2	34.0	9.4
川西中学校区	8.8	6.2	18.6	3.8	0.8	0.6	4.2	2.4	36.7	10.0
明峰中学校区	10.4	7.5	15.7	3.3	0.4	0.8	5.2	1.2	29.9	7.3
多田中学校区	9.8	6.7	19.5	4.4	1.0	0.6	5.9	1.9	33.1	7.9
緑台中学校区	6.9	5.8	15.4	3.1	0.2	0.2	6.0	2.1	33.8	8.3
清和台中学校区	11	7.7	18.1	4.0	0.4	0.4	5.4	2.7	32.3	8.8
東谷中学校区	11.6	7.0	17.1	4.4	0.4	0.2	4.9	4.0	29.8	7.4

8．自治体や地域住民が開催する通いの場(サロンやカフェ)への参加について

* 本調査では設問数の増加による回答者の負担を軽減するため、一部の設問が異なる調査票を2種類作成し実施した。
8については、片方の調査票にのみ掲載した設問のため、全体の回答者数が異なっている。

(1) 通いの場(サロン)への参加期間

・通いの場(サロン)への参加期間については、「参加したことがない」が73.3%と7割以上を占め最も高くなっており、参加している方では「参加4年以上」が5.7%と最も高くなっている。



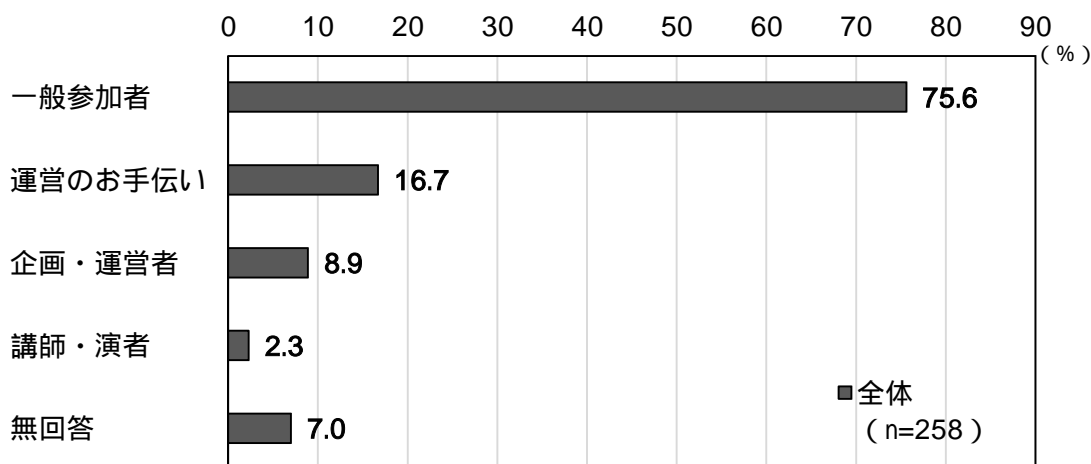
・介護度別にみると、一般高齢者では「参加したことがない」が7割以上である一方で、事業対象者・要支援1・要支援2では7割未満となっている。また、要支援1では「参加していたが止めた」が11.8%と1割以上となっている。

	全体 (件数)	参加 1年 未満	参加 1 ～ 2年 未満	参加 2 ～ 3年 未満	参加 3 ～ 4年 未満	参加 4年 以上	不 参加 して いる が 期 間 は 不明	参 加 し て い た が 止 め た	参 加 し た こ と が ない	無 回 答
一般高齢者	1,642	1.6	1.3	1.6	0.9	5.9	2.4	4.7	74.4	7.2
事業対象者	10	-	10.0	20.0	-	-	-	-	60.0	10.0
要支援1	110	2.7	3.6	1.8	1.8	4.5	4.5	11.8	62.7	6.4
要支援2	72	1.4	1.4	5.6	-	2.8	1.4	6.9	66.7	13.9

(2) 通いの場(サロン)での役割

(1)で「参加していたが止めた」または「参加したことがない」以外を回答した方のみ

- ・通いの場(サロン)での役割については、「一般参加者」が75.6%と7割以上を占め最も高く、次いで「運営のお手伝い」(16.7%)、「企画・運営者」(8.9%)となっている。

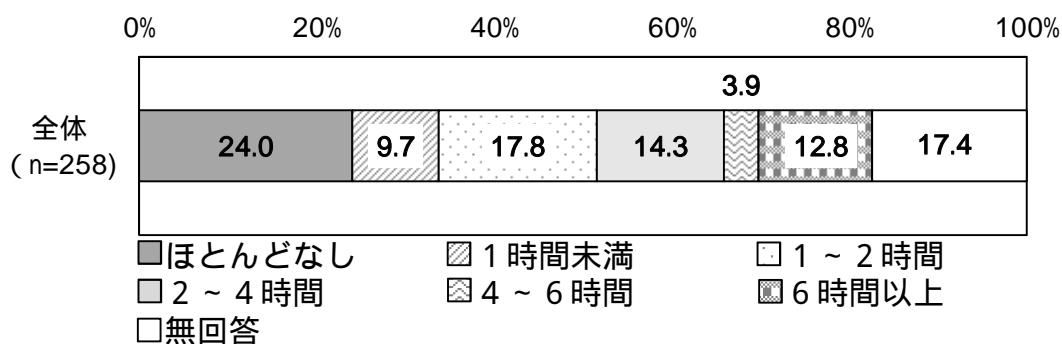


(3) 通いの場での活動別の1か月あたりの時間

(1)で「参加していたが止めた」または「参加したことがない」以外を回答した方のみ

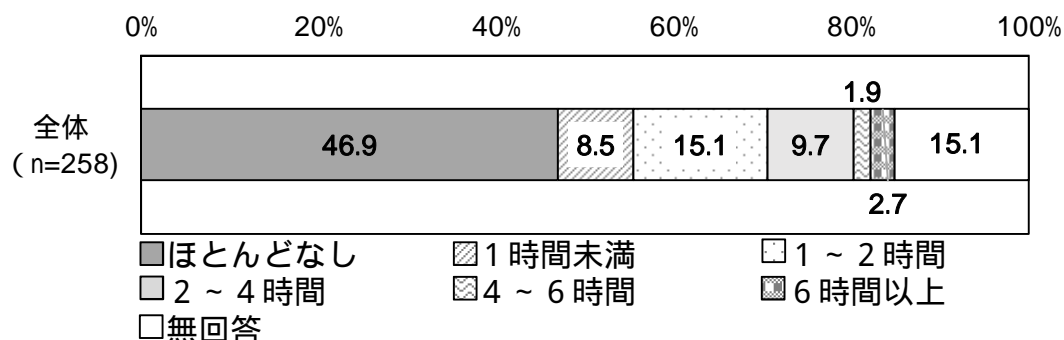
体操

- ・体操の1か月あたりの活動時間は「ほとんどなし」が24.0%と最も高く、次いで「1~2時間」(17.8%)、「2~4時間」(14.3%)となっている。



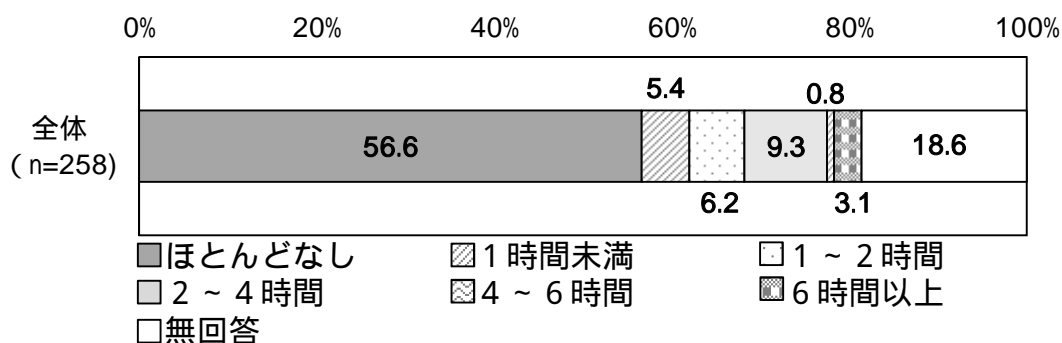
音楽（歌唱や演奏）

- ・音楽の1か月あたりの活動時間は「ほとんどなし」が46.9%と最も高く、次いで「1～2時間」（15.1%）、「2～4時間」（9.7%）となっている。



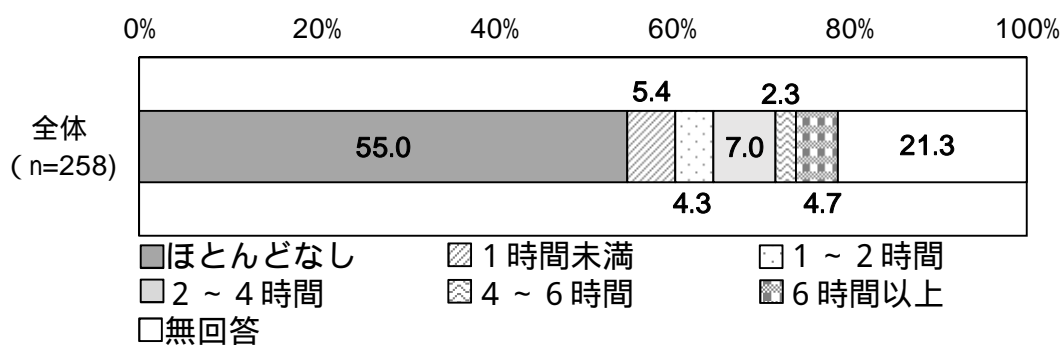
創作活動（手工芸など）

- ・創作活動の1か月あたりの活動時間は「ほとんどなし」が56.6%と最も高く、次いで「2～4時間」（9.3%）、「1～2時間」（6.2%）となっている。



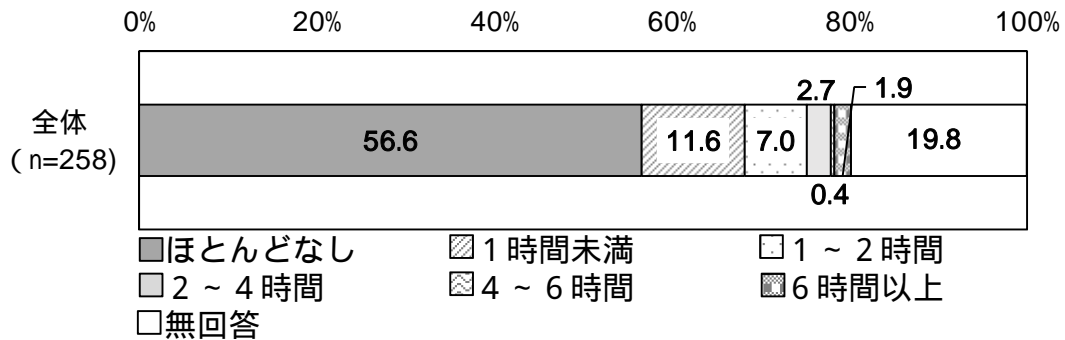
室内ゲーム（囲碁と将棋、麻雀やレクリエーションゲームなど）

- ・室内ゲームの1か月あたりの活動時間は「ほとんどなし」が55.0%と最も高く、次いで「2～4時間」（7.0%）、「1～2時間」（5.4%）となっている。



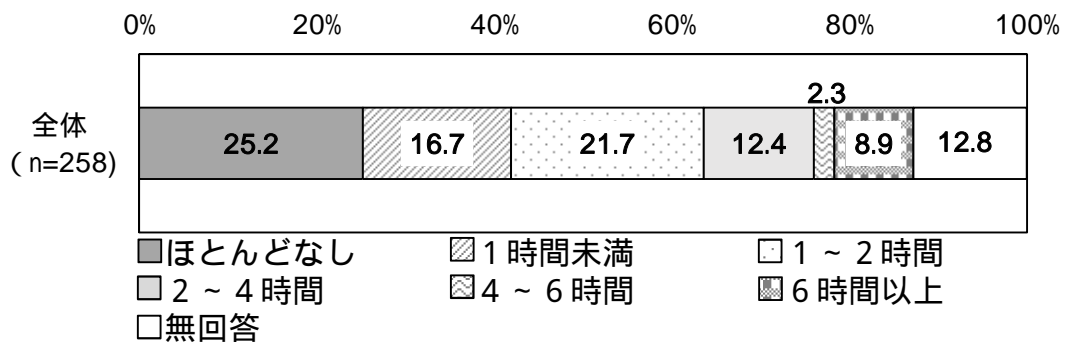
脳トレーニング

- ・脳トレーニングの1か月あたりの活動時間は「ほとんどなし」が56.6%と最も高く、次いで「1時間未満」(11.6%)、「1～2時間」(7.0%)となっている。



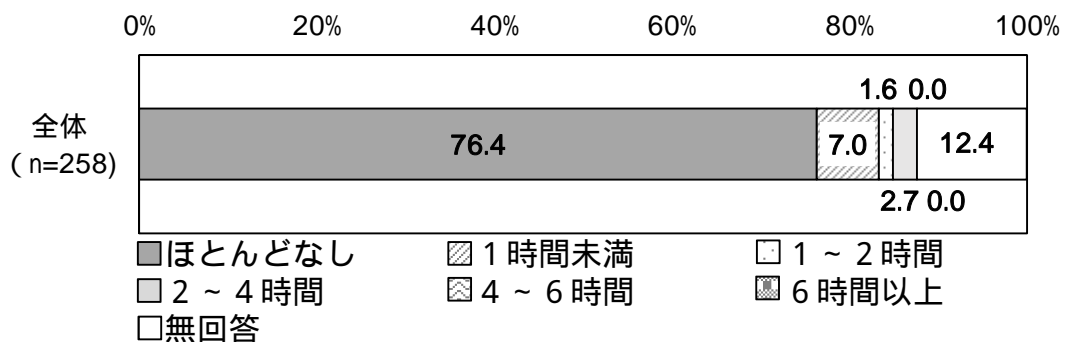
おしゃべり (お茶含む)

- ・おしゃべりの1か月あたりの活動時間は「ほとんどなし」が25.2%と最も高く、次いで「1～2時間」(21.7%)、「1時間未満」(16.7%)となっている。



地域の子どもとの交流

- ・地域の子どもとの交流の活動時間は「ほとんどなし」が76.4%と最も高く、次いで「1時間未満」(7.0%)となっている。

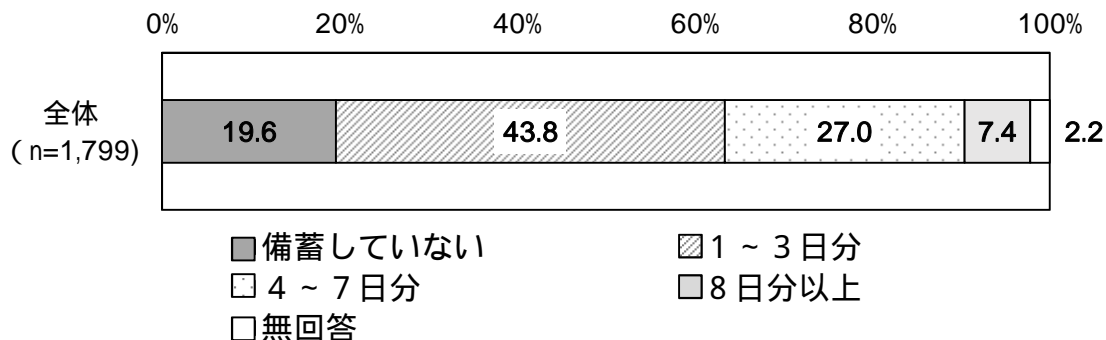


9. 災害に対するそなえについて

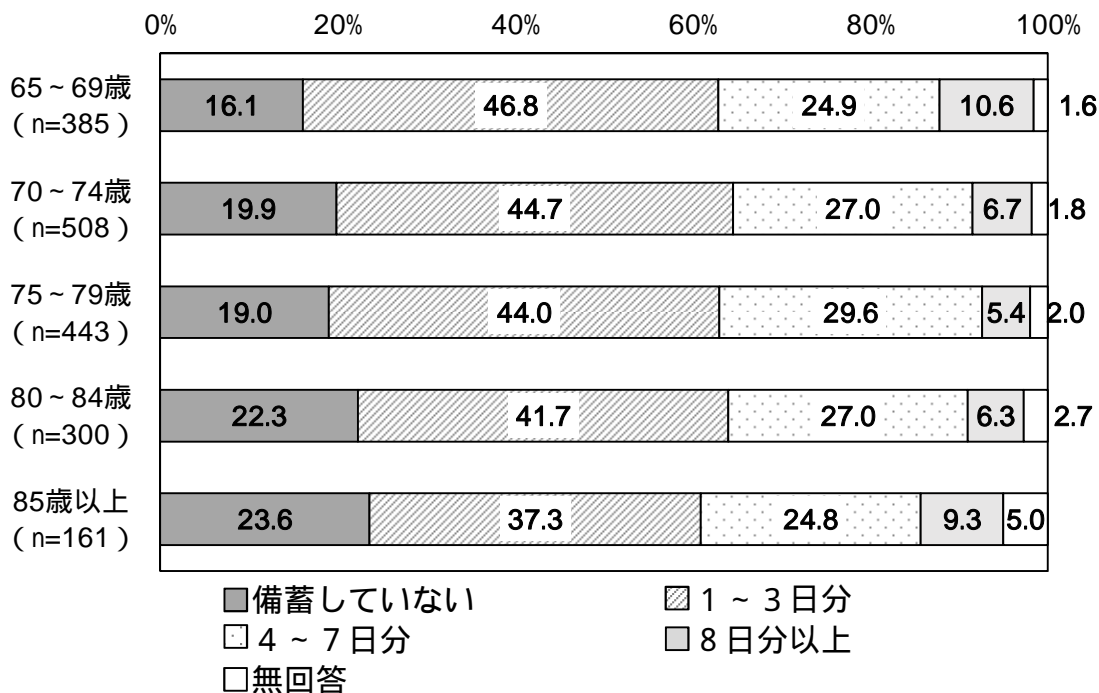
* 本調査では設問数の増加による回答者の負担を軽減するため、一部の設問が異なる調査票を2種類作成し実施した。
9については、片方の調査票にのみ掲載した設問のため、全体の回答者数が異なっている。

(1) 家での水や食料の備蓄状況

- ・家で水や食料を何日分備蓄しているかについては、「1～3日分」が43.8%と最も高く、次いで「4～7日分」(27.0%)、「備蓄していない」(19.6%)となっている。「1～3日分」・「4～7日分」・「8日分以上」を合わせた『備蓄している』割合は78.2%となっている。

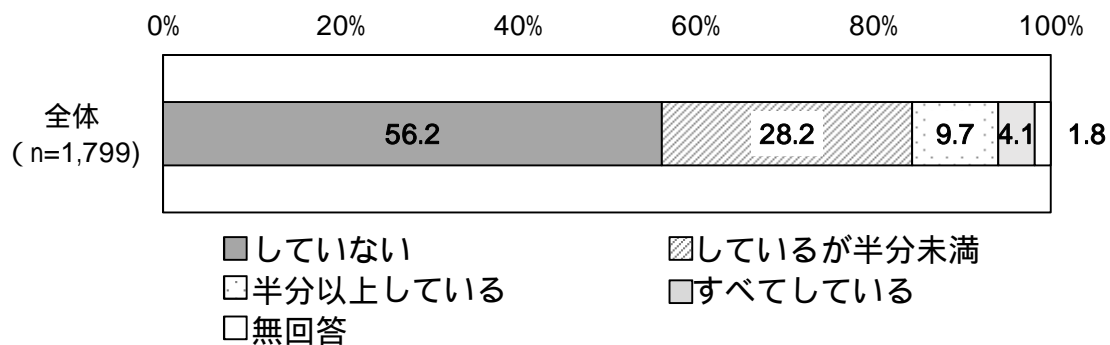


- ・年齢別にみると、概ね年齢が上がるにつれて「備蓄していない」が高くなっており、80歳以上では2割以上となっている。



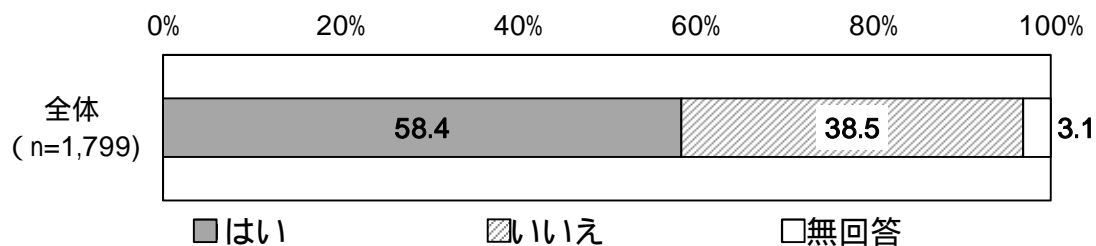
(2) 家の大きい家具等の固定状況

・家の大きい家具や冷蔵庫を地震で倒れないように固定しているかについては、「していない」が56.2%と半数以上を占め最も高く、次いで「しているが半分未満」(28.2%)となっている。「しているが半分未満」・「半分以上している」・「すべてしている」を合わせた『固定している』割合は42.0%となっている。

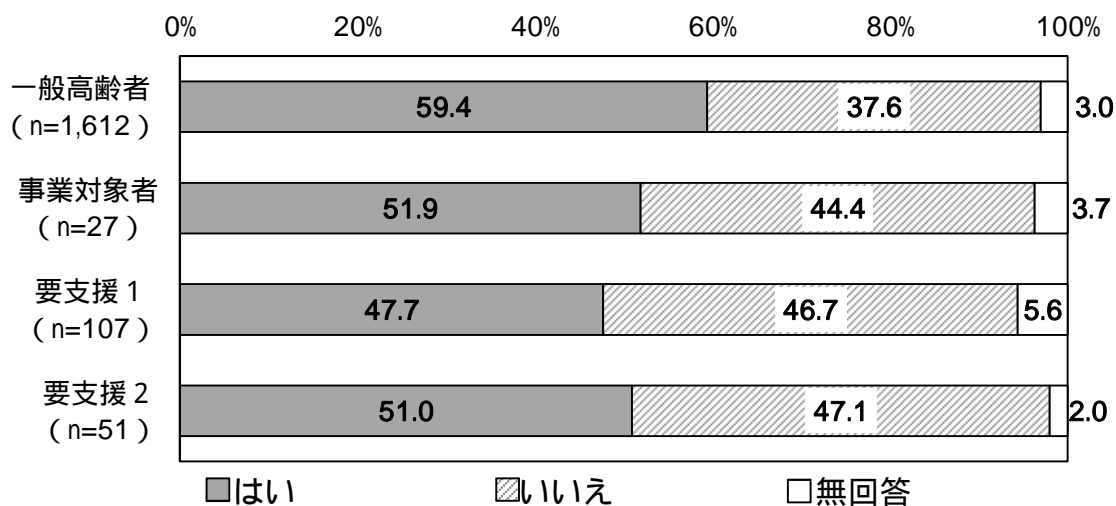


(3) 地震保険・共済の加入状況

・地震保険・共済に加入しているかについては、「はい」が58.4%と半数以上を占め最も高くなっている。

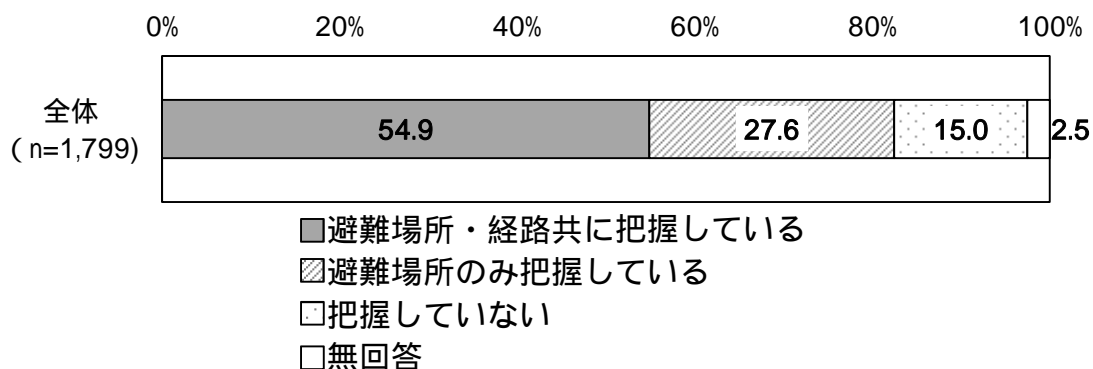


・介護度別にみると、「いいえ」が、事業対象者で44.4%、要支援1で46.7%。要支援2で47.1%と、一般高齢者(37.6%)より5ポイント以上高くなっている。

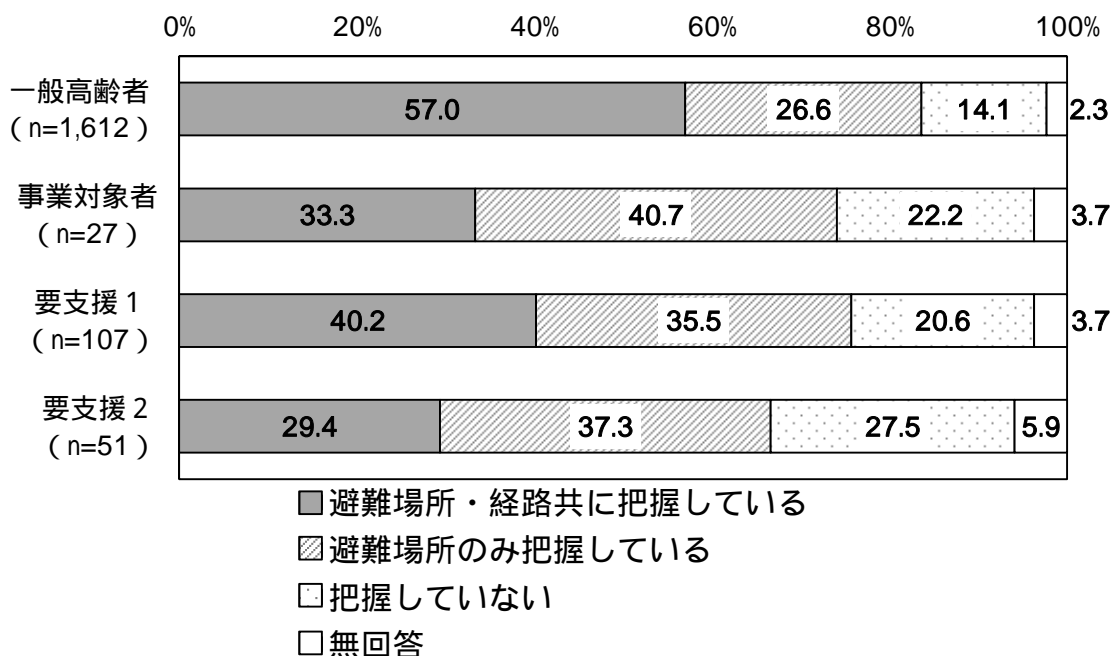


(4) 地域の避難場所や経路の把握状況

・地域の避難場所やそこまでの経路を把握しているかについては、「避難場所・経路共に把握している」が54.9%と半数以上を占め最も高く、次いで「避難場所のみ把握している」(27.6%)となっている。「把握していない」は15.0%となっており、1割以上の人は避難場所やそこまでの経路を把握していないことがわかる。

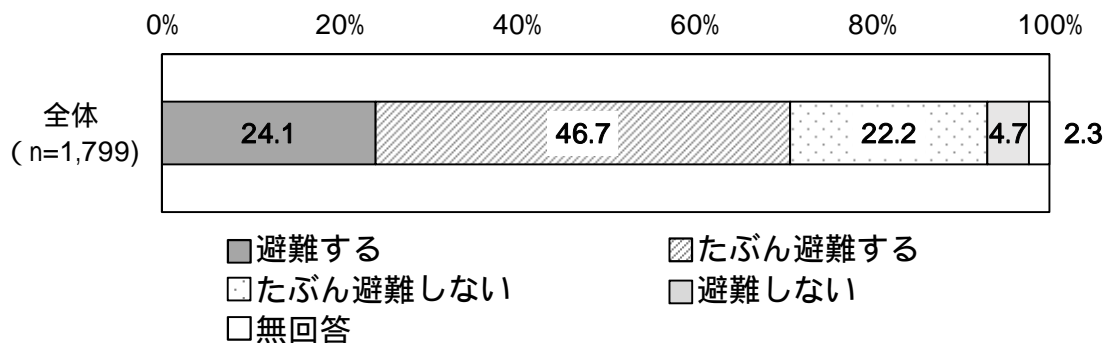


・介護度別にみると、「避難場所・経路共に把握している」が、事業対象者では33.3%、要支援1では40.2%、要支援2では29.4%と、一般高齢者(57.0%)より15ポイント以上低くなっている。また、「把握していない」が、事業対象者・要支援1・要支援2で2割以上を占めやや高くなっている。

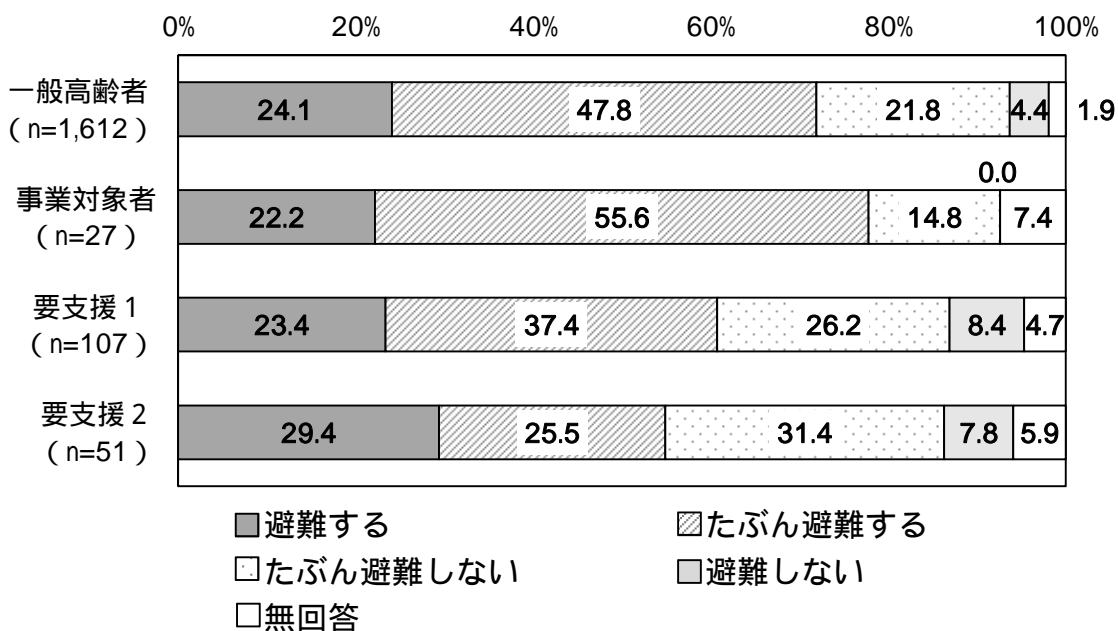


(5) 「避難準備・高齢者等避難開始」発令時の行動

・災害時、行政機関から「避難準備・高齢者等避難開始」が発令されたらすぐに避難するかについては、「たぶん避難する」が46.7%と最も高く、「避難する」と合わせた『避難する』割合は70.8%と7割以上となっている。

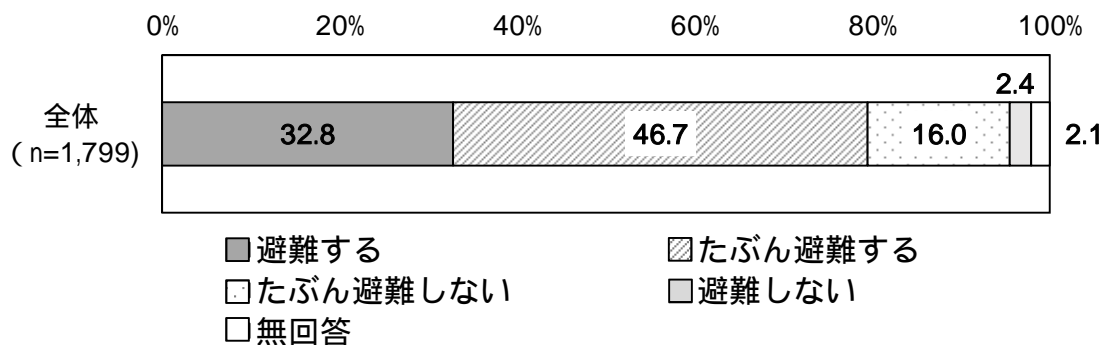


・介護度別にみると、『避難する』割合が、要支援1では60.8%、要支援2では54.9%と一般高齢者(71.9%)より10ポイント以上低くなっている。

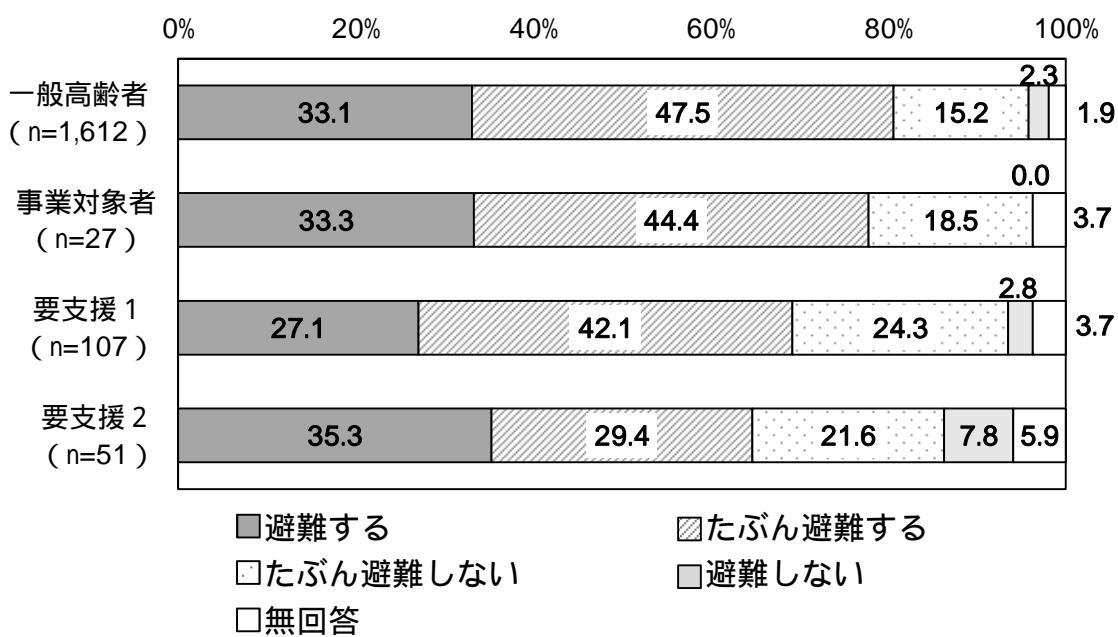


(6) 「避難勧告」発令時の行動

・災害時、行政機関から「避難勧告」が発令されたらすぐに避難するかについては、「たぶん避難する」が46.7%と最も高く、「避難する」と合わせた『避難する』割合は79.5%と8割未満となっている。

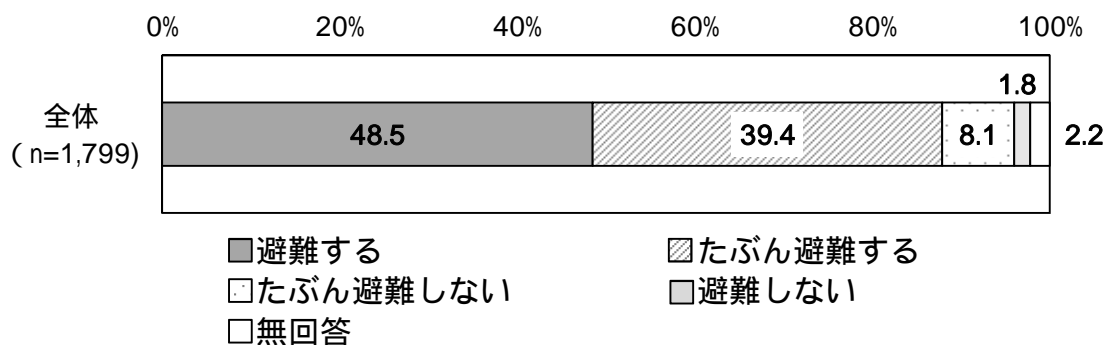


・介護度別にみると、『避難する』割合が、要支援1では69.2%、要支援2では64.7%と、一般高齢者(80.6%)より10ポイント以上低くなっている。

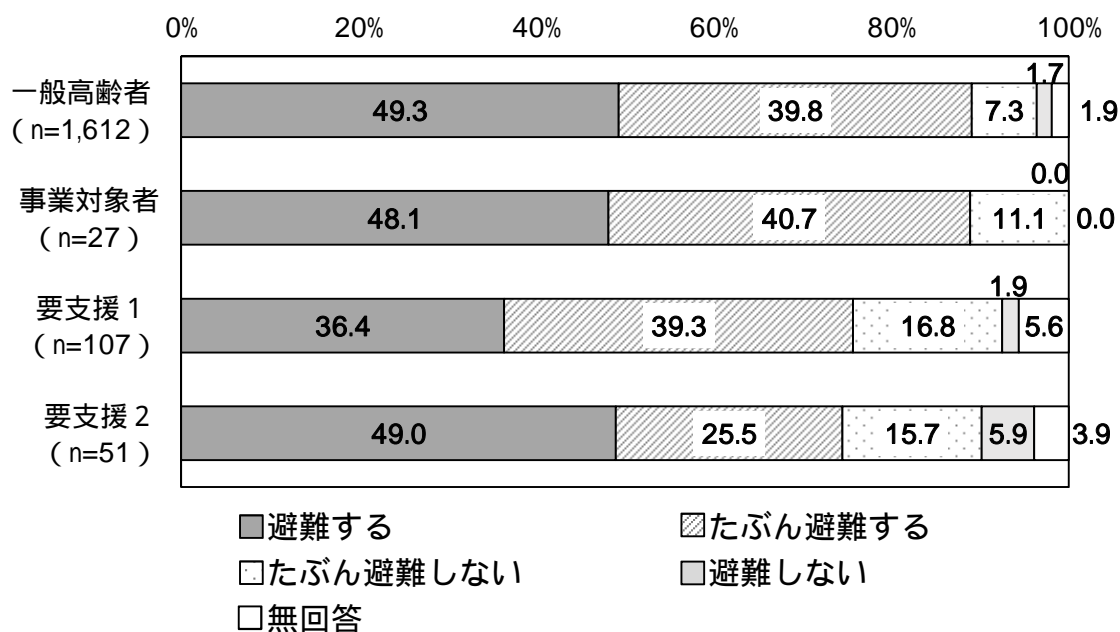


(7) 「避難指示(緊急)」発令時の行動

- ・災害時、行政機関から「避難指示(緊急)」が発令されたらすぐに避難するかについては、「避難する」が48.5%と最も高く、「たぶん避難する」と合わせた『避難する』割合は87.9%となっている。

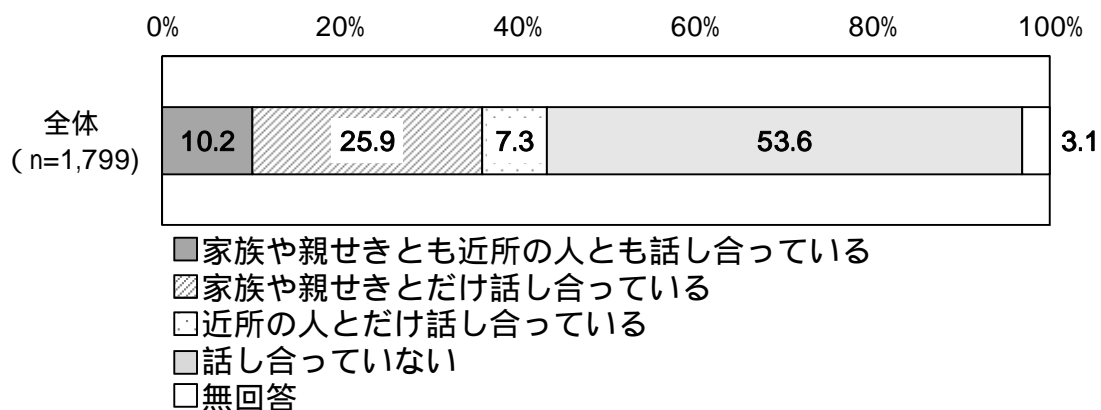


- ・介護度別にみると、『避難する』割合が、要支援1では75.7%、要支援2では74.5%と、一般高齢者(89.1%)より10ポイント以上低くなっている。

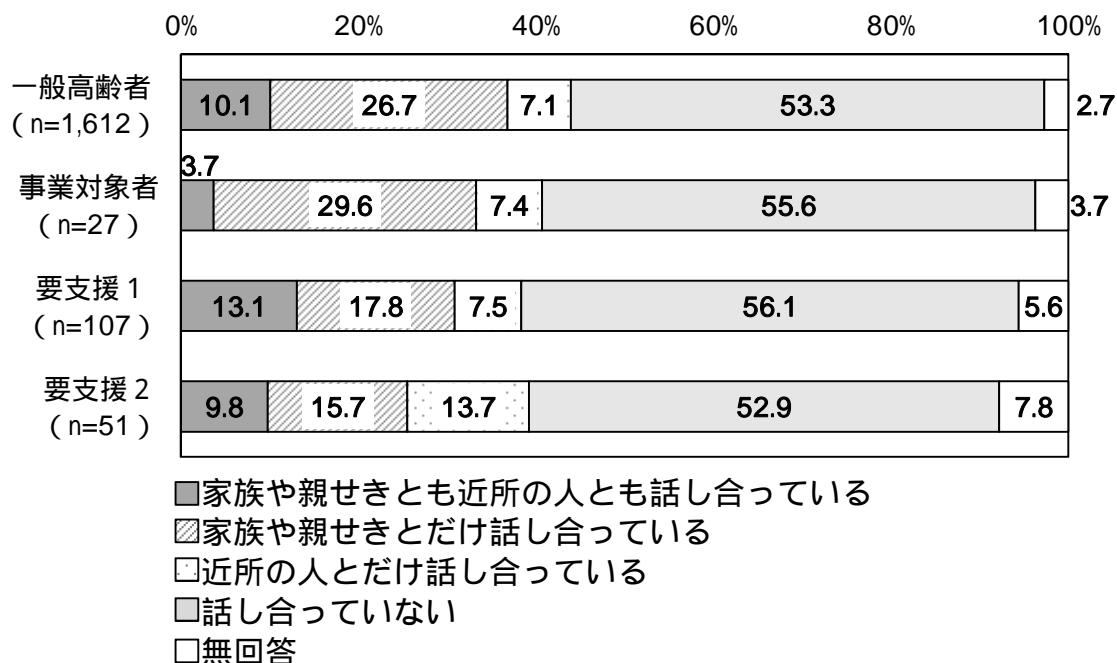


(8) 家族・親せき・近所との災害時の安否確認や集合場所についての情報共有

・家族や親せき、近所の人と災害時の安否確認や集合場所について話し合っているかについては、「話し合っていない」が53.6%と半数以上を占め最も高く、次いで「家族や親せきとだけ話し合っている」(25.9%)となっている。「家族や親せきとも近所の人とも話し合っている」・「家族や親せきとだけ話し合っている」・「近所の人とだけ話し合っている」を合わせた『話し合っている』割合は43.4%と4割以上となっている。

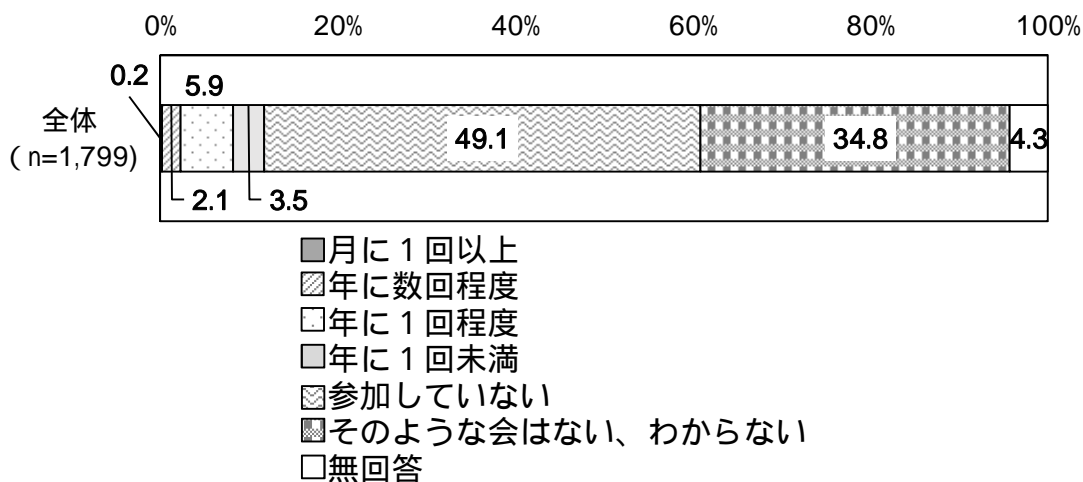


・介護度別にみると、『話し合っている』割合は、要支援1では38.4%と一般高齢者(43.9%)より5.5ポイント低くなっている。

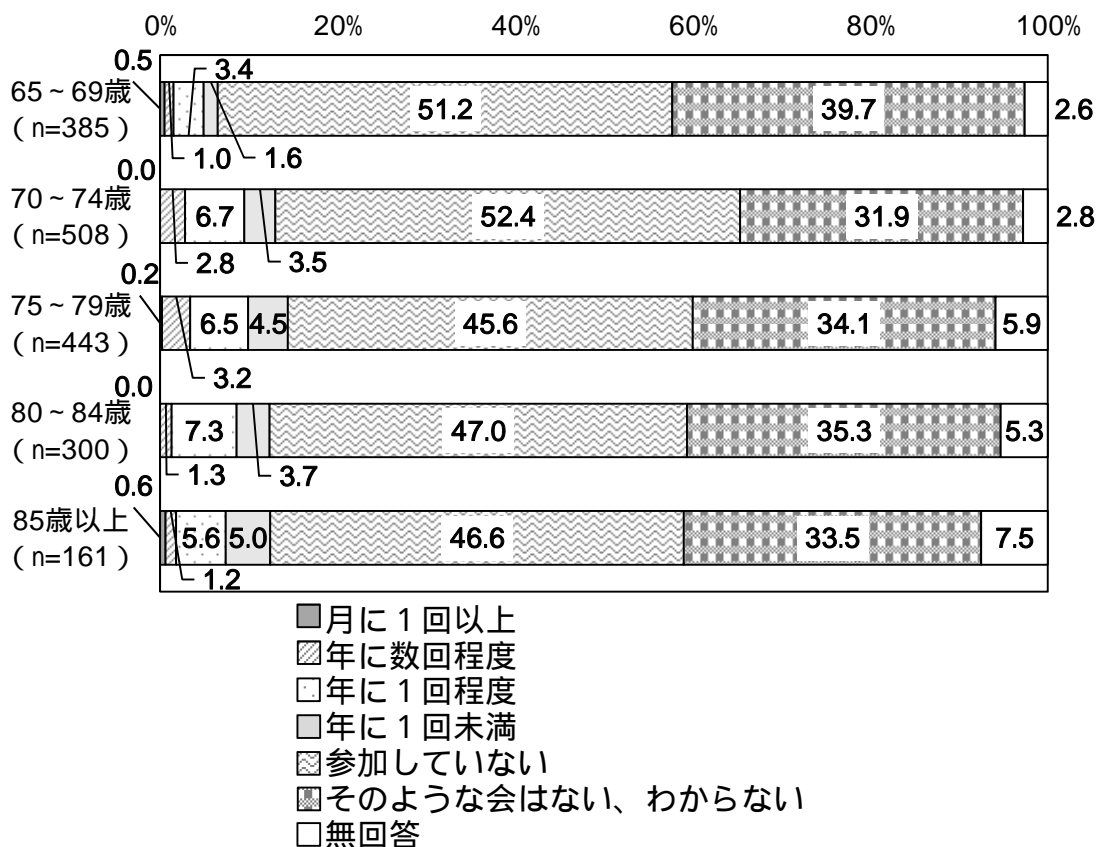


(9) 災害時の助け合いのための話し合いや計画づくりを行う会の参加状況

・地域の人と災害時の助け合いのための話し合いや計画づくりを行う会に参加しているかについては、「参加していない」が49.1%と半数近くを占め最も高く、次いで「そのような会はない、わからない」(34.8%)となっている。「月に1回以上」「年に数回程度」「年に1回程度」「年に1回未満」を合わせた『参加している』割合は11.7%と1割以上となっている。

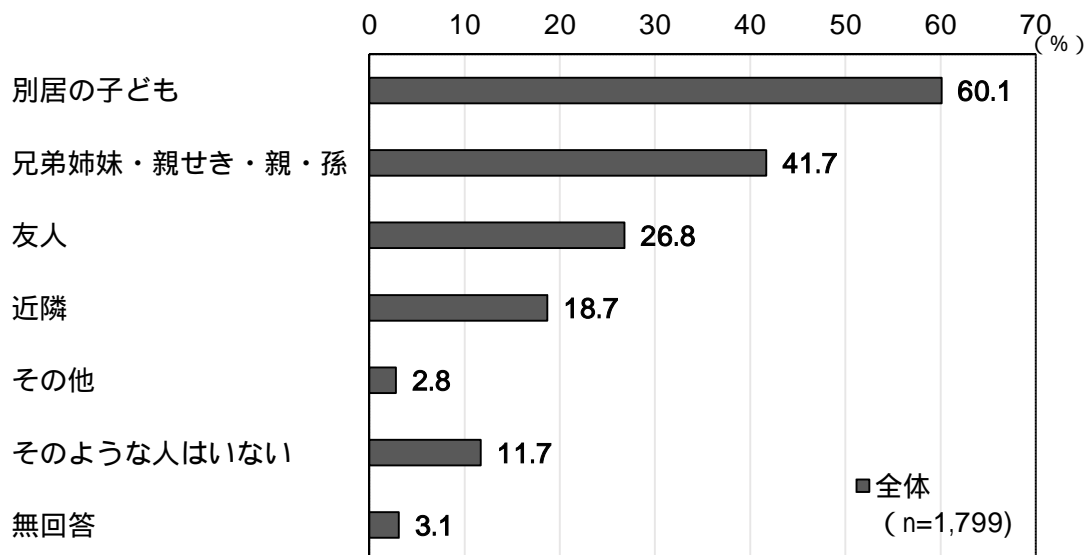


・年齢別にみると、『参加している』割合が65～69歳では6.5%である一方で、70歳以上では1割以上となっている。



(10) 定期的に声をかけてくれる人

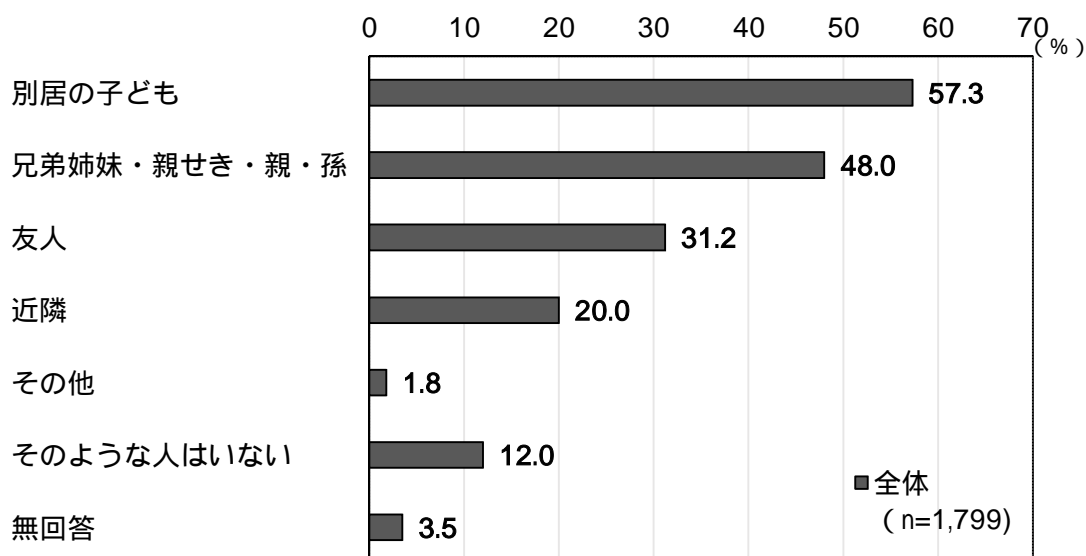
・あなたのことを気にかけて、定期的に声をかけてくれる人については、「別居の子ども」が60.1%と6割以上を占めて最も高く、次いで「兄弟姉妹・親せき・親・孫」(41.7%)、「友人」(26.8%)となっている。また、「そのような人はいない」は11.7%と1割以上となっている。



「その他」の主な回答内容		
同居人	民生委員など福祉関係者	等

(11) 定期的に声をかける人

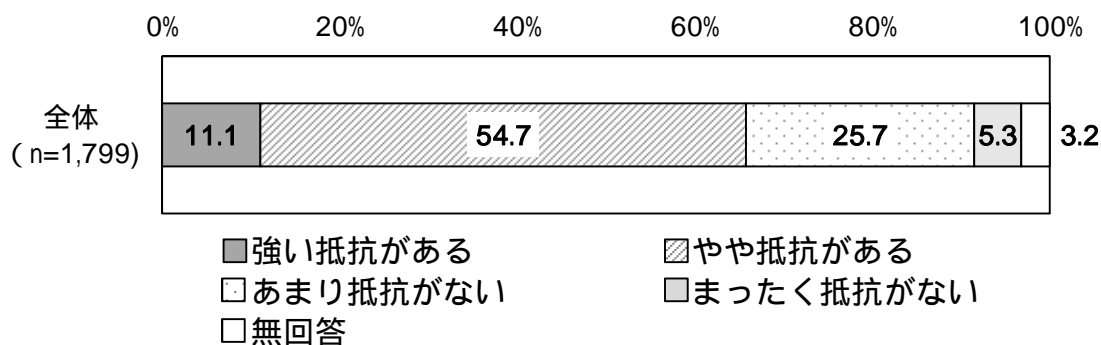
・あなたから気にかけて、定期的に声をかける人については、「別居の子ども」が57.3%と最も高く、次いで「兄弟姉妹・親せき・親・孫」(48.0%)、「友人」(31.2%)となっている。また、「そのような人はいない」は12.0%と1割以上となっている。定期的に声をかけてくれる人と比べて、「兄弟姉妹・親せき・親・孫」がやや高くなっている。



「その他」の主な回答内容		
同居人	自分から声はかけない	等

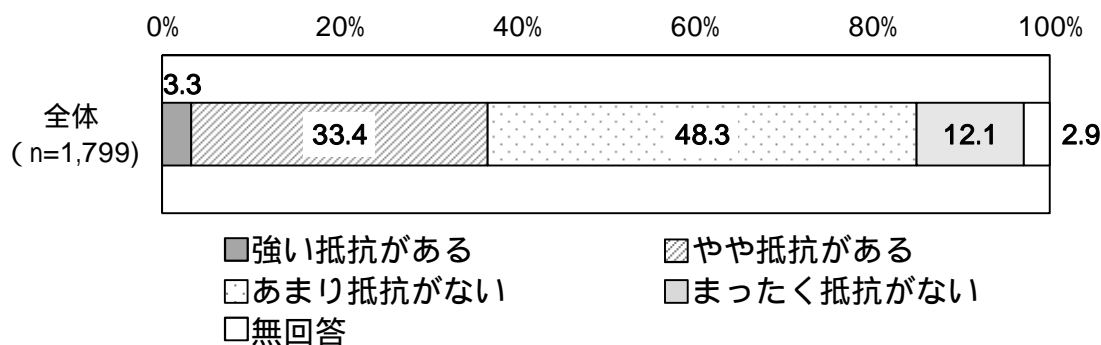
(12) 家族以外の地域の人を頼ることへの抵抗

- ・家族以外の地域の人を頼ることに抵抗はあるかについては、「やや抵抗がある」が 54.7%と最も高く、「強い抵抗がある」を合わせた『抵抗がある』割合は 65.8%と 6 割以上となっている。「あまり抵抗がない」・「まったく抵抗がない」を合わせた『抵抗がない』割合は 31.0%と 3 割以上となっている。



(13) 家族以外の地域の人に頼りにされることへの抵抗

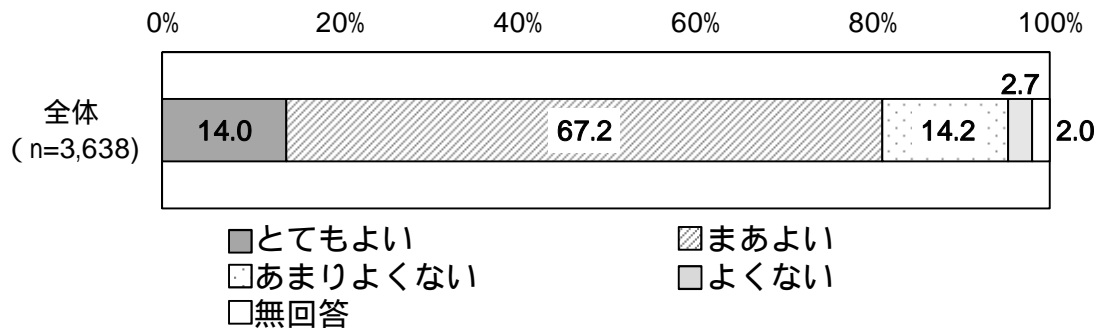
- ・家族以外の地域の人に頼りにされることに抵抗はあるかについては、「あまり抵抗がない」が 48.3%と最も高く、「まったく抵抗がない」を合わせた『抵抗がない』割合は 60.4%と 6 割以上となっている。家族以外の地域の人を頼ることへの抵抗と比較すると、『抵抗がない』割合は 29.4 ポイント高くなっており、頼りにされることについては抵抗感がない人が多いことが分かる。



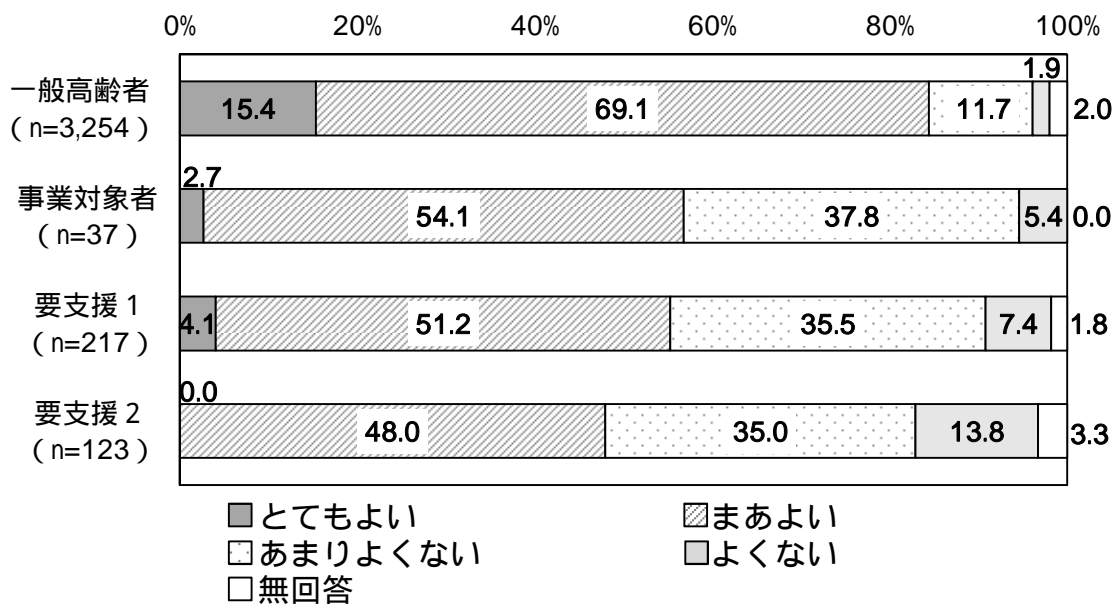
10. 健康について

(1) 健康状態

- 健康状態については、「まあよい」が67.2%と6割以上を占めて最も高く、「とてもよい」と合わせた『よい』割合は81.2%と8割以上となっている。「あまりよくない」・「よくない」を合わせた『よくない』割合は16.9%と1割以上となっている。

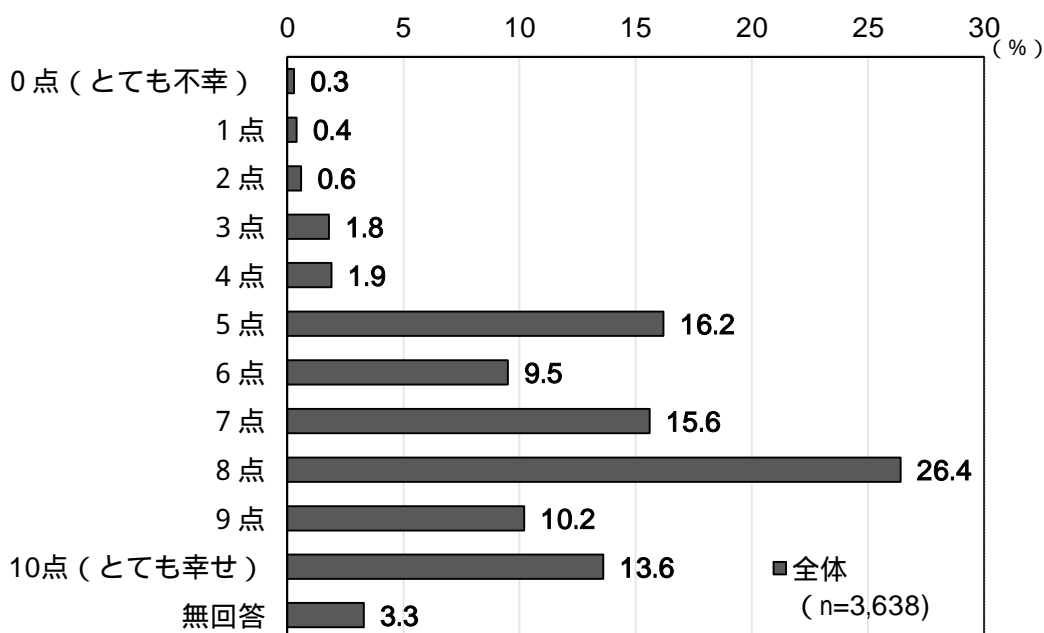


- 介護度別にみると、『よくない』割合が、事業対象者では43.2%、要支援1では42.9%、要支援2では48.8%と4割以上となっており、一般高齢者（13.6%）より25ポイント以上高くなっている。



(2) 幸福度

- 幸福度については、「8点」が26.4%と最も高く、次いで「5点」(16.2%)、「7点」(15.6%)となっており、平均点は7.25点となっている。

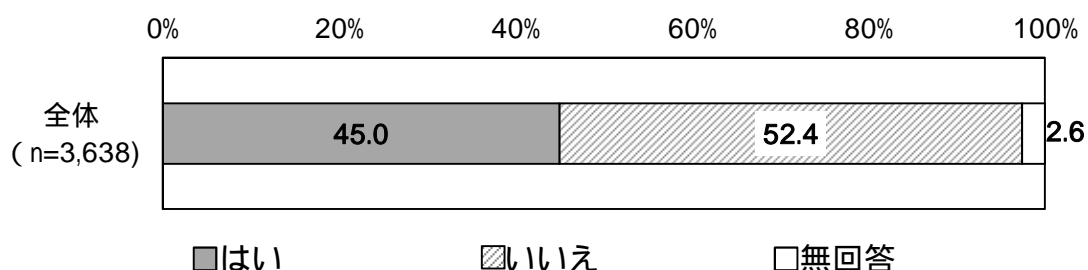


- 介護度別にみると、幸福度の平均点は事業対象者で6.89点、要支援1で6.67点、要支援2で6.81点と7点未満となっている。また、一般高齢者・要支援2で「8点」が最も高い一方で、事業対象者・要支援1で「5点」が最も高くなっている。

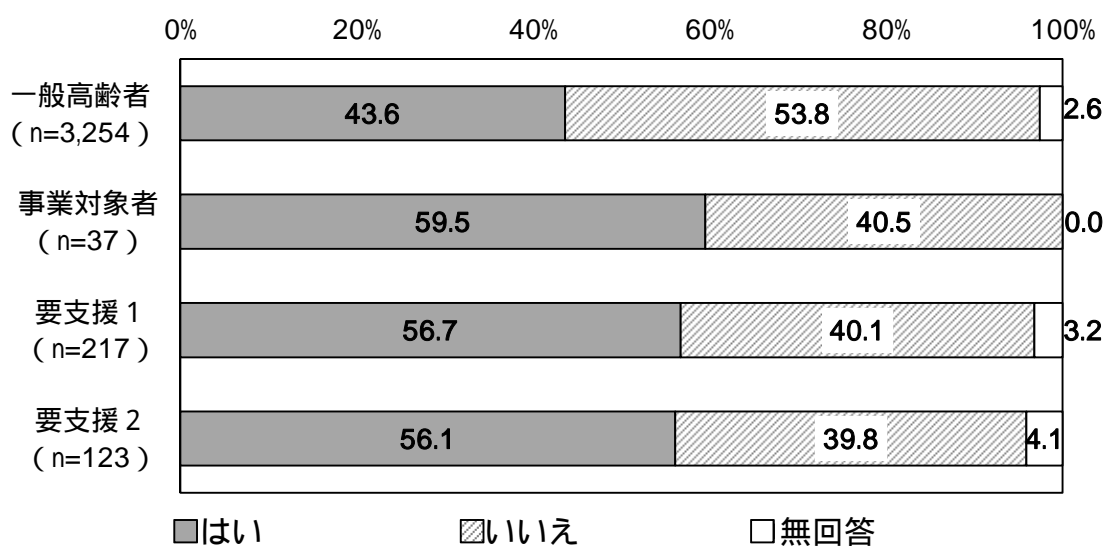
	全体 (件数)	(%)							平均点
		(0点 とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点		
一般高齢者	3,254	0.3	0.4	0.5	1.7	1.8	15.6		
事業対象者	37	-	-	-	2.7	5.4	27.0		
要支援1	217	0.5	0.9	1.4	3.7	2.8	24.4		
要支援2	123	-	0.8	4.1	3.3	2.4	17.1		
	全体 (件数)	6点	7点	8点	9点	(10点 とても幸せ)	無回答	平均点	
一般高齢者	3,254	9.3	15.8	27.2	10.5	13.9	3.2	7.32	
事業対象者	37	10.8	10.8	18.9	10.8	13.5	-	6.89	
要支援1	217	9.7	15.7	19.4	7.4	10.6	3.7	6.67	
要支援2	123	13.8	12.2	22.0	8.1	12.2	4.1	6.81	

(3) ゆうつ感

- ・この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、「いいえ」が52.4%と半数以上を占めている。

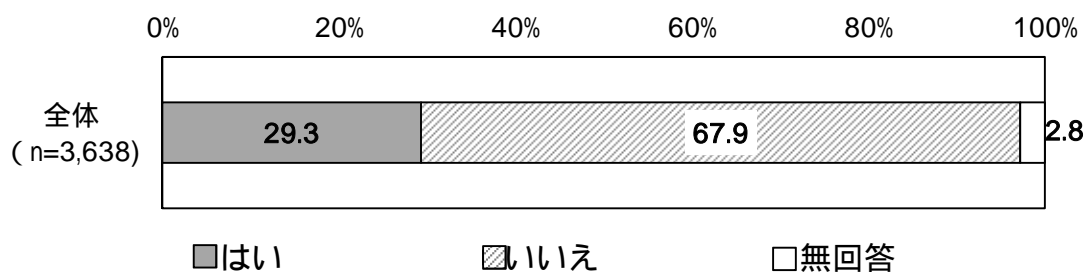


- ・介護度別にみると、「はい」が、事業対象者で59.5%、要支援1で56.7%、要支援2で56.1%と半数以上となっており、一般高齢者（43.6%）より10ポイント以上高くなっている。

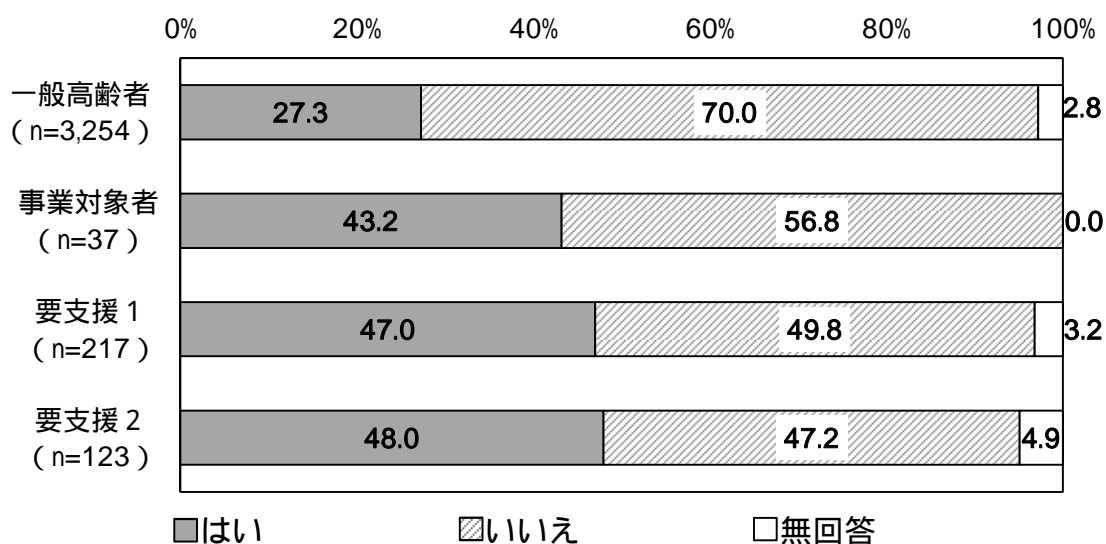


(4) 無関心・虚無感

- ・この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかについては、「いいえ」が67.9%と6割以上を占めている。

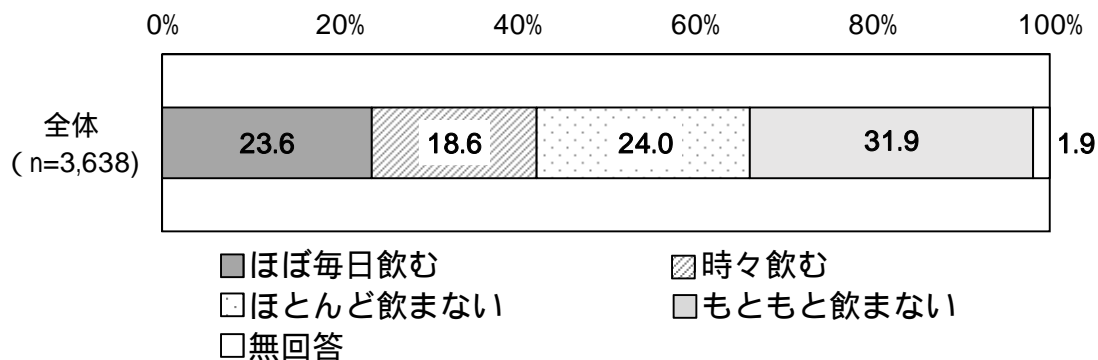


- ・介護度別にみると、「はい」が、事業対象者で43.2%、要支援1で47.0%、要支援2で48.0%と4割以上となっており、一般高齢者(27.3%)より15ポイント以上高くなっている。

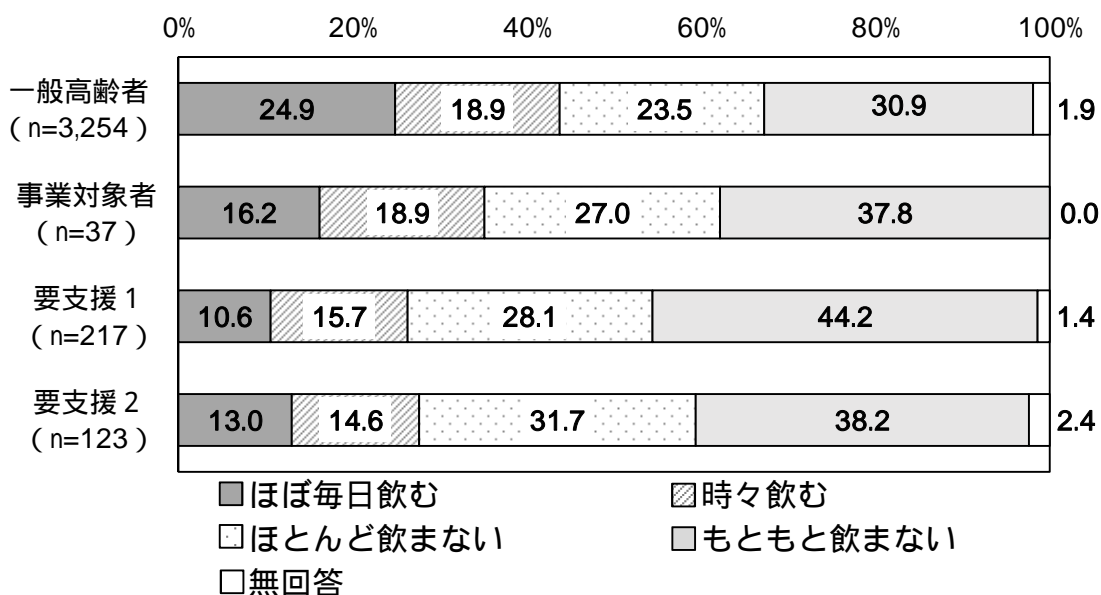


(5) 飲酒習慣

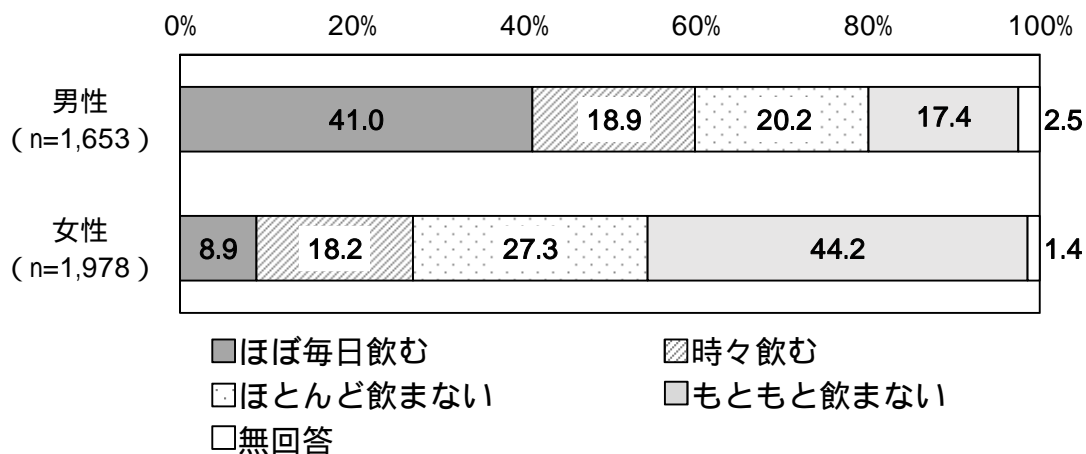
- ・飲酒習慣については、「もともと飲まない」が31.9%と3割以上を占め最も高く、「ほとんど飲まない」と合わせた『飲まない』割合は55.9%と半数以上の方が飲酒習慣はないことがわかる。また、「ほぼ毎日飲む」は23.6%と2割以上となっている。



- ・介護度別にみると、一般高齢者で「ほぼ毎日飲む」が24.9%と2割以上となっている。

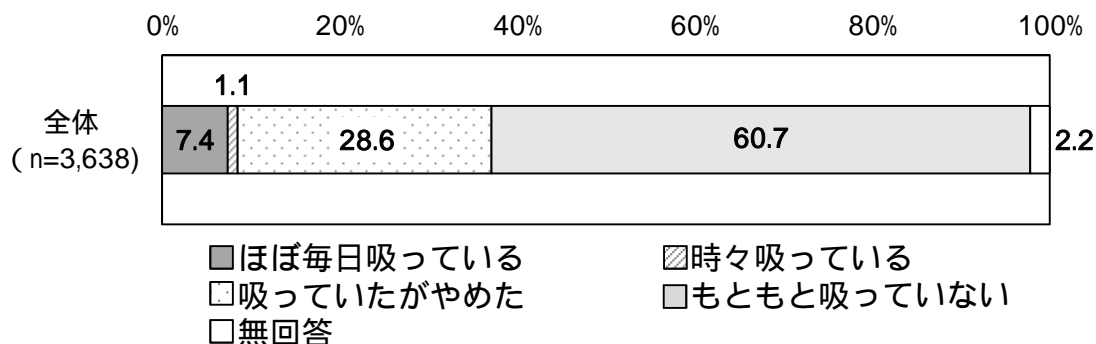


- ・性別にみると、男性で「ほぼ毎日飲む」が41.0%と、女性より32.1ポイント高くなっている。

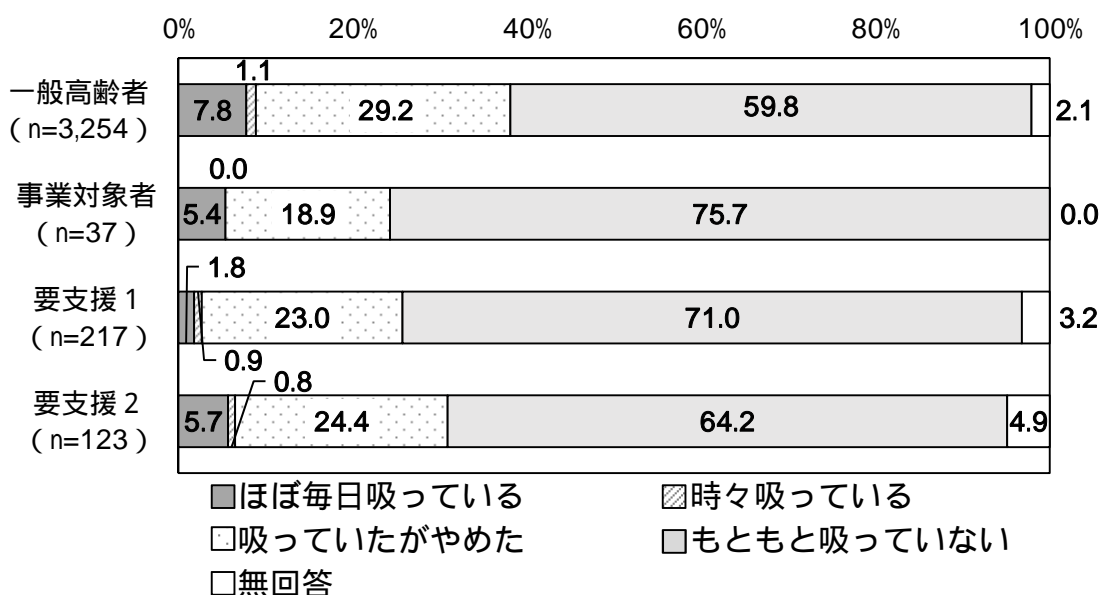


(6) 喫煙習慣

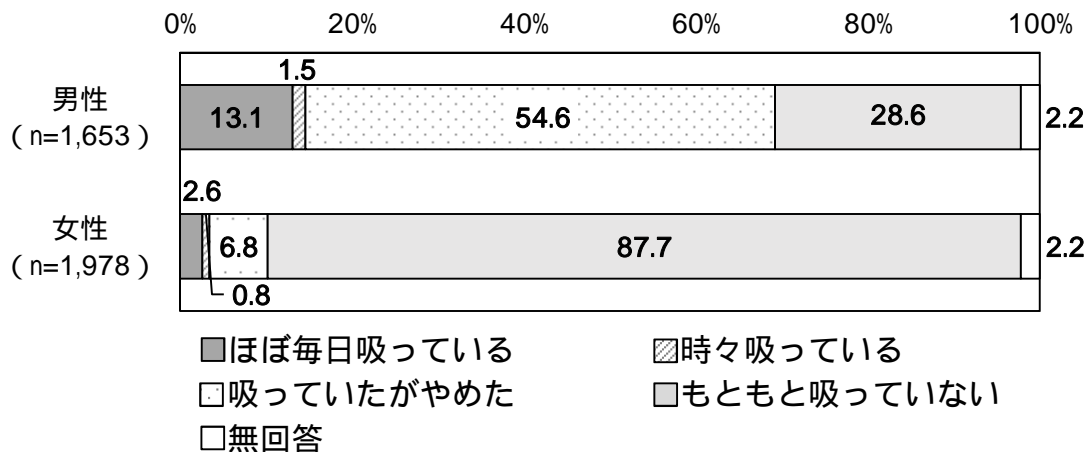
- ・喫煙習慣については、「もともと吸っていない」が60.7%と6割以上を占め最も高く、「吸っていたがやめた」と合わせた『吸っていない』割合は89.3%と9割近くの人が喫煙習慣はないことがわかる。



- ・介護度別にみると、一般高齢者で「ほぼ毎日吸っている」・「時々吸っている」を合わせた『吸っている』割合が8.9%となっている。

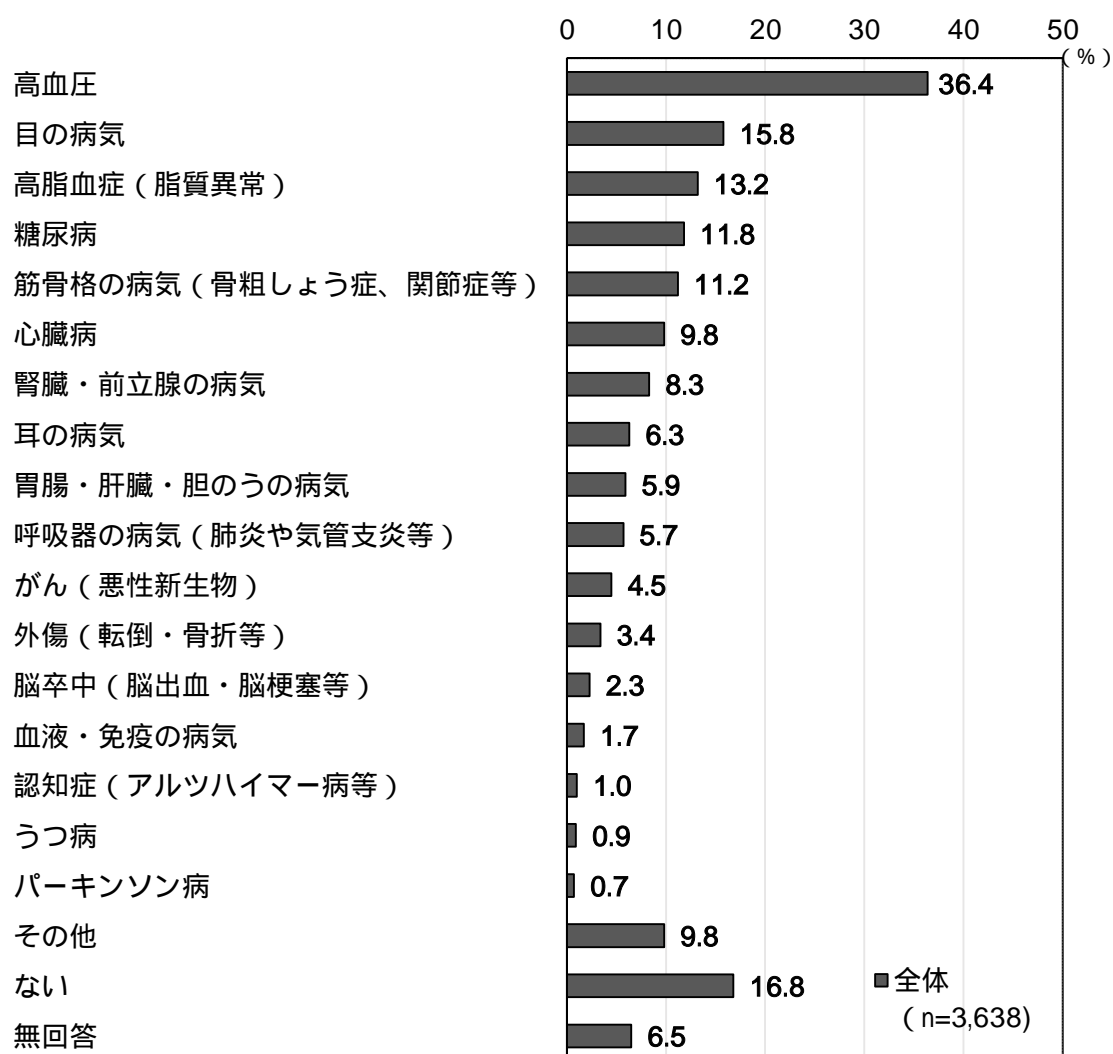


- ・性別にみると、男性で「ほぼ毎日吸っている」が13.1%と1割以上を占めている。



(7) 治療中、後遺症のある病気

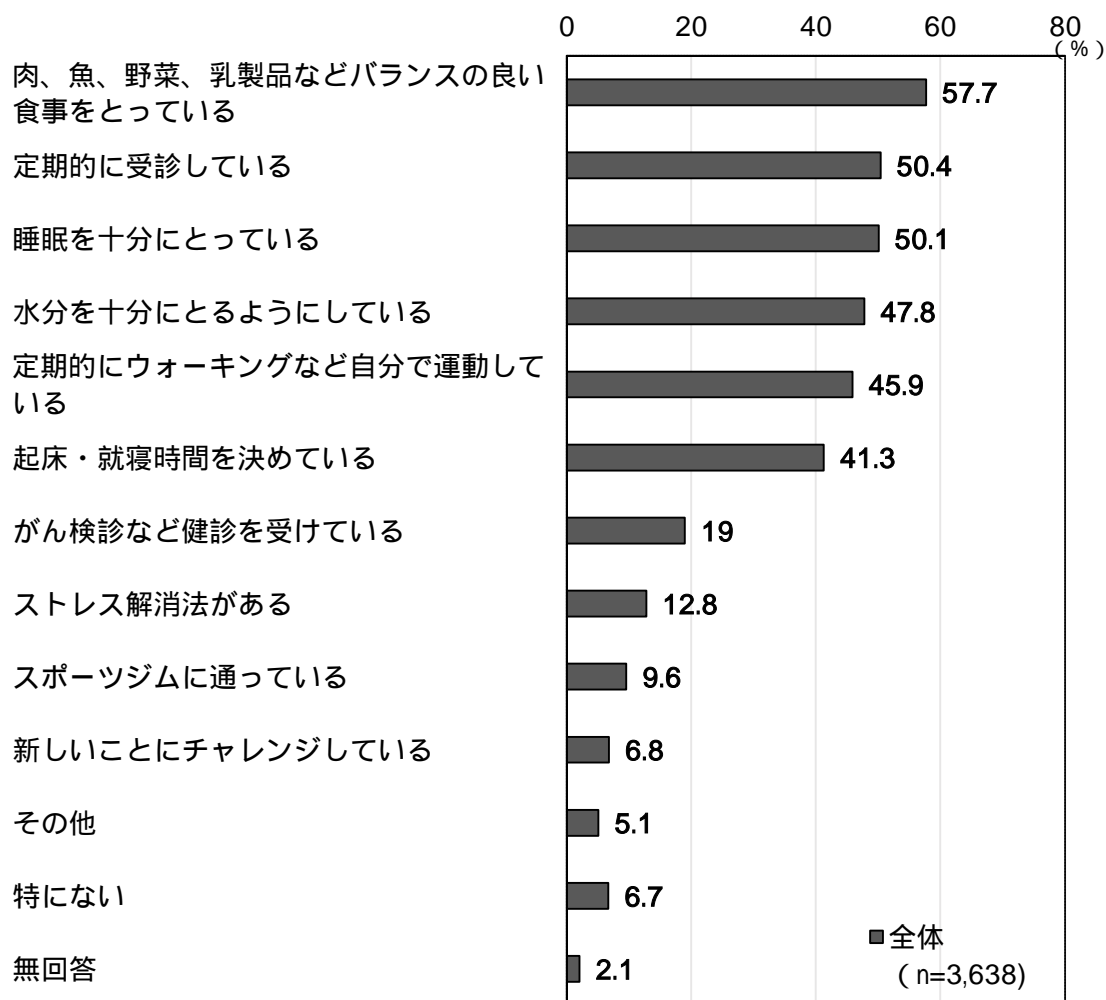
・現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」が36.4%と最も高く、次いで「目の病気」(15.8%)、「高脂血症(脂質異常)」(13.2%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
アレルギー	リウマチ
歯の病気	腰痛・ひざ痛
コレステロール	甲状腺機能低下
不整脈	めまい・ふらつき 等

(8) 健康の秘訣

・健康の秘訣については、「肉、魚、野菜、乳製品などバランスの良い食事をとっている」が57.7%と最も高く、次いで「定期的を受診している」(50.4%)、「睡眠を十分にとっている」(50.1%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
体操をする	仕事をする
前向きに考える	声を出す
サプリメント	犬の散歩 等

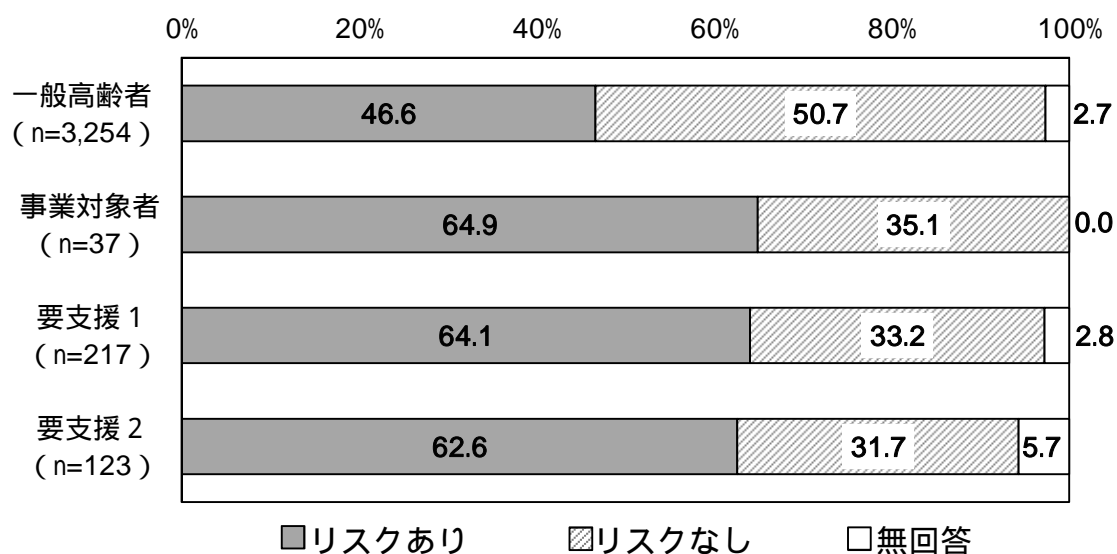
◆ うつリスク

- ・介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための基本チェックリストでは、下の5つの設問に対する回答から、高齢者のうつ状態に関してリスク判定をしている。
- ・今回の調査票に含まれる以下の設問2問中1問以上に該当した場合にうつ状態の「リスクあり」に該当する。

問番号	設問	該当する選択肢
10(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	はい
10(4)	この1か月間、どうしても物事に興味がわかない、心から楽しめない感じがよくありましたか	はい

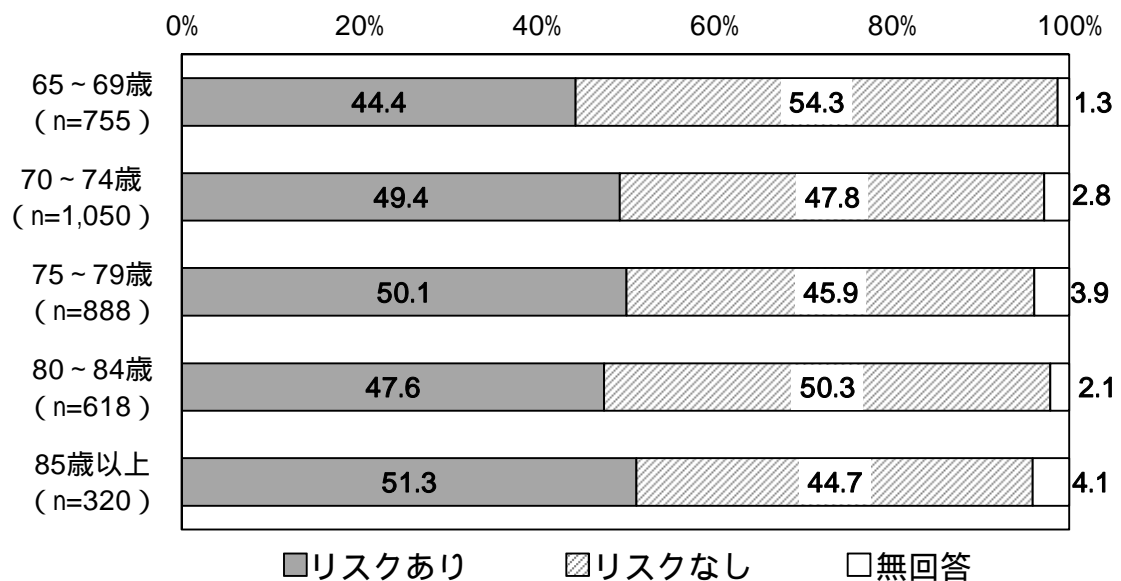
介護度別判定

- ・介護度別にみると、うつ状態の「リスクあり」に該当する人の割合は、事業対象者で64.9%、要支援1で64.1%、要支援2で62.6%と6割以上となっており、一般高齢者(46.6%)より15ポイント以上低くなっている。



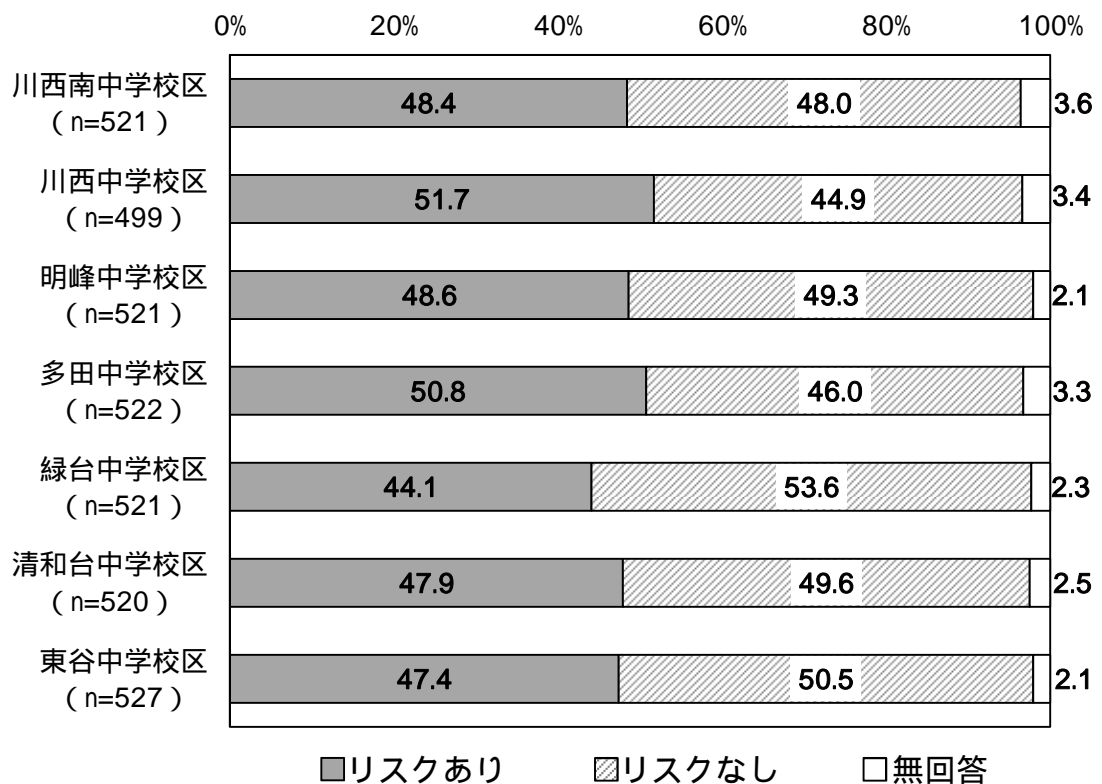
年齢別判定

- ・年齢別にみると、概ね年齢が上がるにつれてうつ状態の「リスクあり」に該当する人の割合が高くなっている。



日常生活圏域（中学校区）別判定

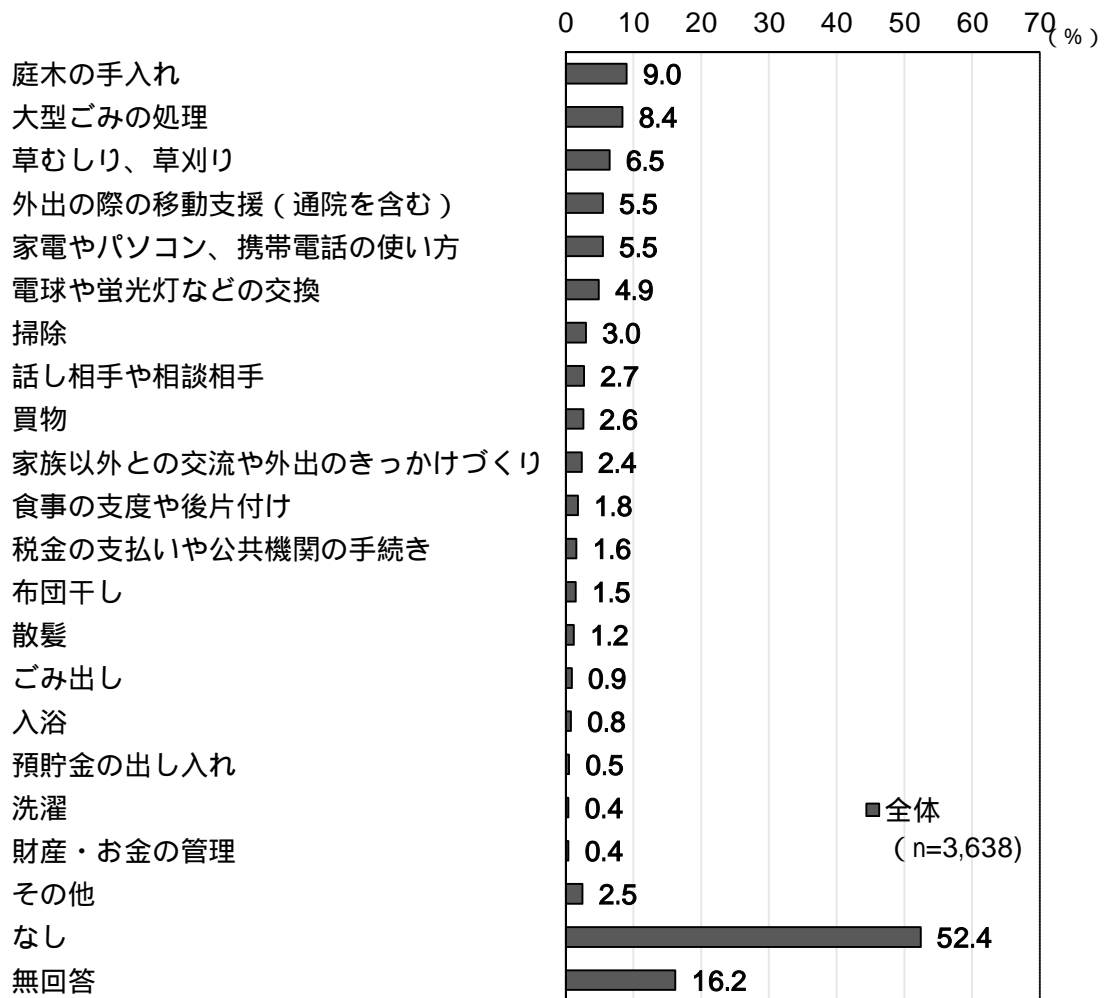
- ・日常生活圏域別にみると、うつ状態の「リスクあり」に該当する人の割合は川西中学校区で51.7%と最も高くなっている。



11. 必要となる支援について

(1) 日常生活の中で手助けしてほしいと思うこと

- ・日常生活の中で、手助けしてほしいと思うことについては、「なし」が 52.4%と半数以上を占め最も高くなっている。手助けの内容としては、「庭木の手入れ」が 9.0%と最も高く、次いで「大型ごみの処理」(8.4%)、「草むしり、草刈り」(6.5%)となっており、いずれも 1 割未満となっている。



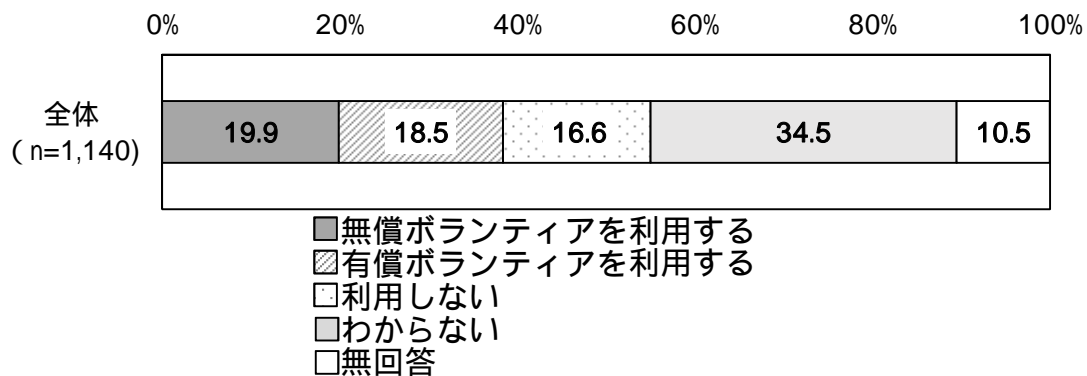
「その他」の主な回答内容	
交通機関の割引、タクシー利用券配布	高いところのお出し入れ
力仕事	自分、または家族間でできている 等

・介護度別にみると、一般高齢者では「なし」が最も高くなっている一方で、事業対象者では「庭木の手入れ」が、要支援1・要支援2では「外出の際の移動支援（通院を含む）」が最も高くなっている。

	全体（件数）	外出の際の移動支援（通院を含む）	家族以外の交流や外出のきっかけづくり	話し相手や相談相手	食事の支度や後片付け	買物	掃除	洗濯	布団干し	ごみ出し	電球や蛍光灯などの交換
一般高齢者	3,254	3.3	2.3	2.2	1.4	1.6	1.8	0.2	1.0	0.5	3.9
事業対象者	37	21.6	8.1	8.1	5.4	21.6	29.7	2.7	2.7	5.4	5.4
要支援1	217	22.6	4.6	7.4	5.5	8.3	12.4	2.8	3.7	2.8	13.4
要支援2	123	30.1	1.6	6.5	2.4	13.8	10.6	2.4	10.6	6.5	17.1
	全体（件数）	庭木の手入れ	草むしり、草刈り	大型ごみの処理	散髪	入浴	携帯電話やパソコン、携帯電話の使い方	預貯金の出し入れ	税金の支払いや公共機関の手続き	財産・お金の管理	その他
一般高齢者	3,254	8.1	5.9	7.3	0.8	0.3	5.5	0.2	1.3	0.3	2.2
事業対象者	37	29.7	16.2	24.3	5.4	5.4	5.4	2.7	10.8	2.7	5.4
要支援1	217	16.1	11.5	15.7	3.7	3.2	5.5	3.2	3.2	2.3	2.8
要支援2	123	13.8	11.4	17.1	4.1	7.3	7.3	1.6	2.4	-	8.1
	全体（件数）	なし	無回答								
一般高齢者	3,254	56.3	16.3								
事業対象者	37	18.9	16.2								
要支援1	217	20.7	14.7								
要支援2	123	16.3	14.6								

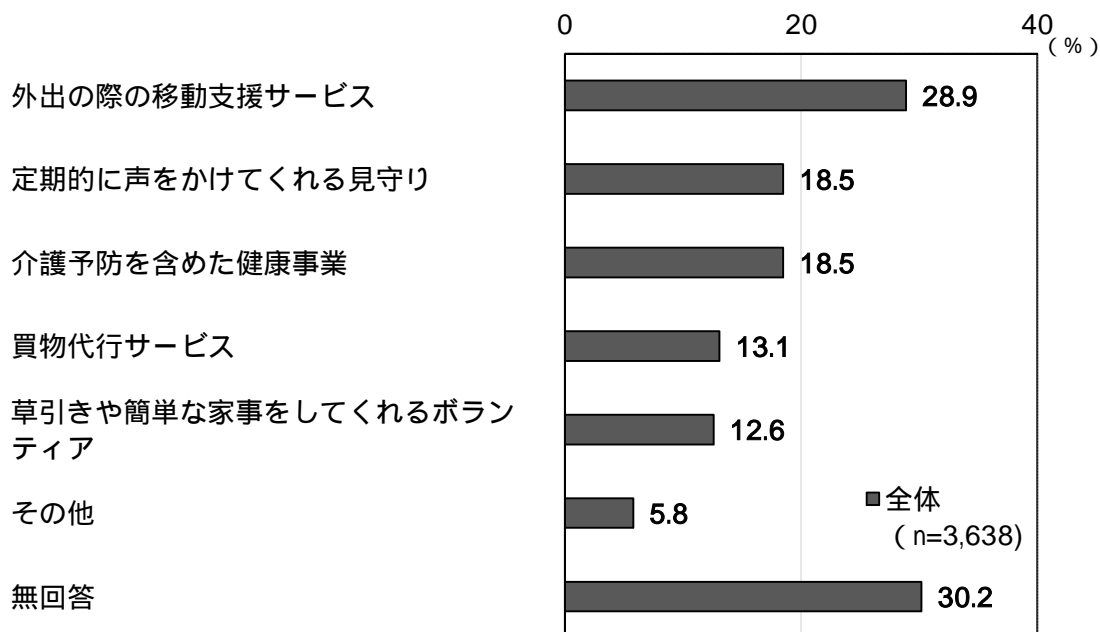
(1 -) ボランティアによる支援の利用意向 (1)で「なし」以外を回答した方のみ

・ボランティアによる支援があれば利用するかについては、「わからない」が 34.5%と最も高くなっている。「無償ボランティアを利用する」・「有償ボランティアを利用する」を合わせた『利用する』割合は 38.4%と 3 割以上となっている。



(2) 住んでいる地域ですっと暮らし続けるために必要なサービス

- ・住んでいる地域ですっと暮らし続けるために必要なサービスについては、「外出の際の移動支援サービス」が28.9%と最も高く、次いで「定期的に声をかけてくれる見守り」(18.5%)、「介護予防を含めた健康事業」(18.5%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
交通費補助	パソコン、スマホの使い方の説明
移動マーケット・宅配サービス	ごみ捨て・ごみの戸別収集 等

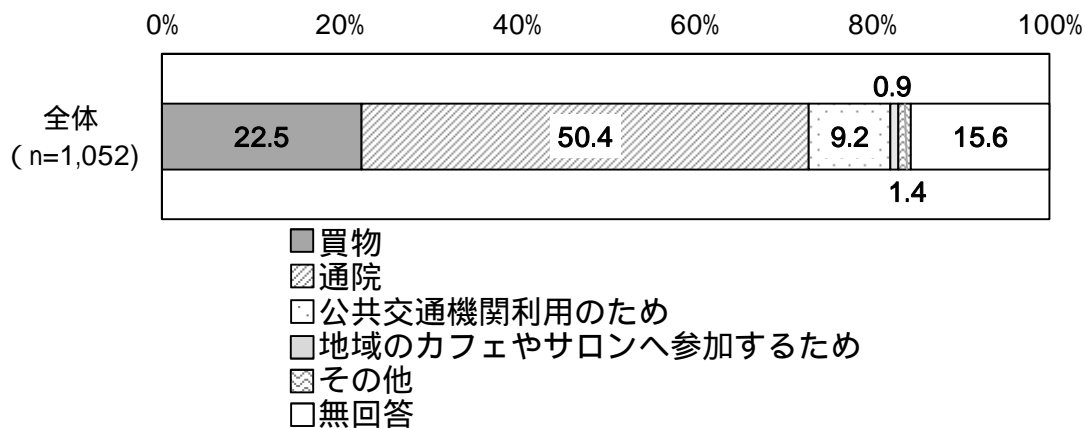
- ・介護度別にみると、全ての介護度で「外出の際の移動支援サービス」が最も高くなっているものの、事業対象者で45.9%、要支援1で35.5%、要支援2で39.8%と、一般高齢者(27.9%)より5ポイント以上高くなっている。

	全体 (件数)	外出の際の移動支援サービス	買物代行サービス	草引きや簡単な家事をしてくれるボランティア	定期的に声をかけてくれる見守り	介護予防を含めた健康事業	その他	無回答
一般高齢者	3,254	27.9	12.9	12.2	18.6	18.5	6.0	30.6
事業対象者	37	45.9	18.9	27.0	27.0	21.6	-	13.5
要支援1	217	35.5	13.8	15.2	16.6	17.5	5.1	30.0
要支援2	123	39.8	15.4	15.4	16.3	17.9	4.1	23.6

(%)

(2 -) 移動支援サービスを利用したい時 (2)で「外出の際の移動支援サービス」と回答した方のみ

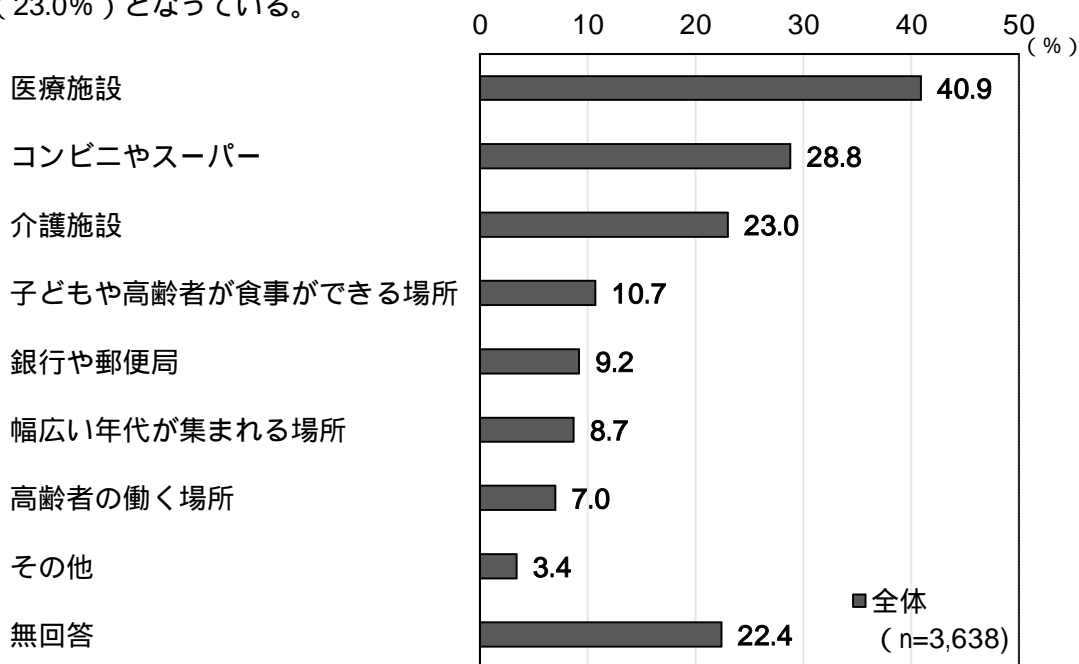
・どのような時に移動支援サービスを利用したいかについては、「通院」が50.4%と半数以上を占め最も高く、次いで「買物」(22.5%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
坂道の移動時	免許返納時 等

(3) 住んでいる地域ですっと暮らし続けるために必要な施設

・住んでいる地域ですっと暮らし続けるためにどのような施設が必要かについては、「医療施設」が40.9%と4割以上を占め最も高く、次いで「コンビニやスーパー」(28.8%)、「介護施設」(23.0%)となっている。

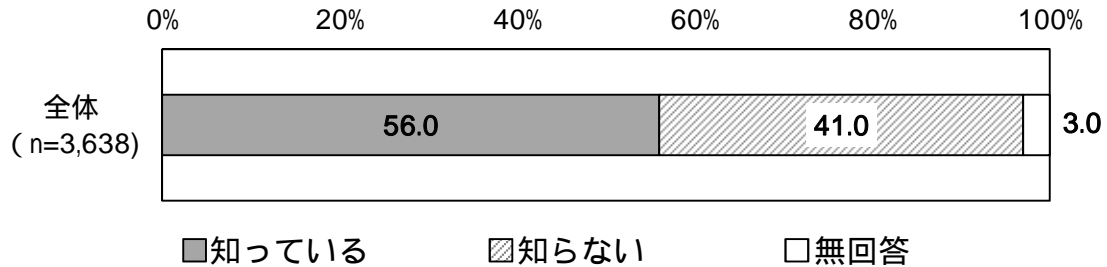


「その他」の主な回答内容	
バス停、バスの運行	公園 等
本屋・図書館	今は特になし、充実している 等

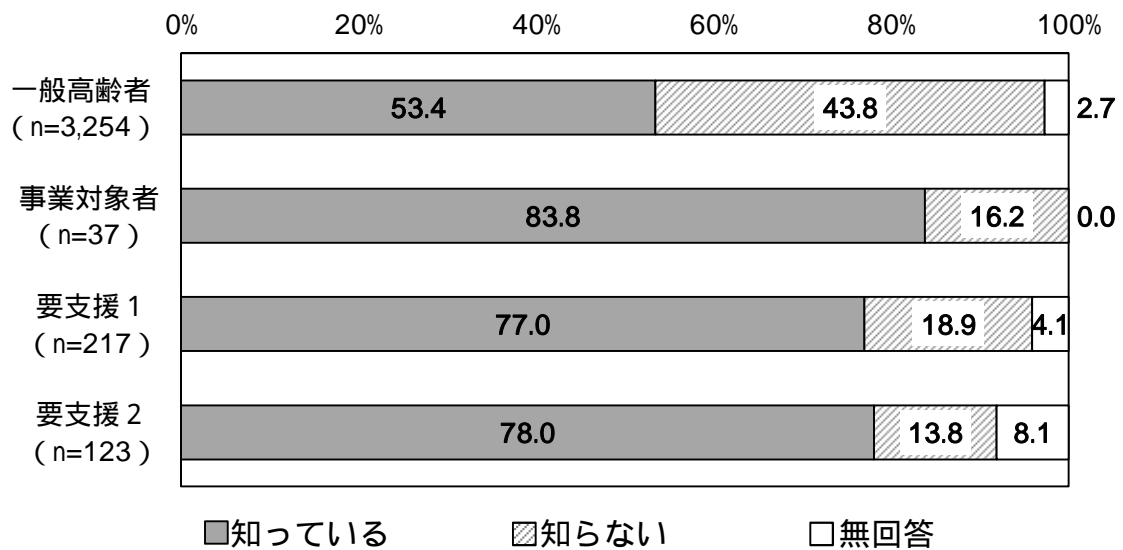
12. 地域包括支援センターについて

(1) 地域包括支援センターが市内にあることの認知度

- ・地域包括支援センターが市内にあるのを知っているかについては、「知っている」が 56.0%と半数以上となっている。

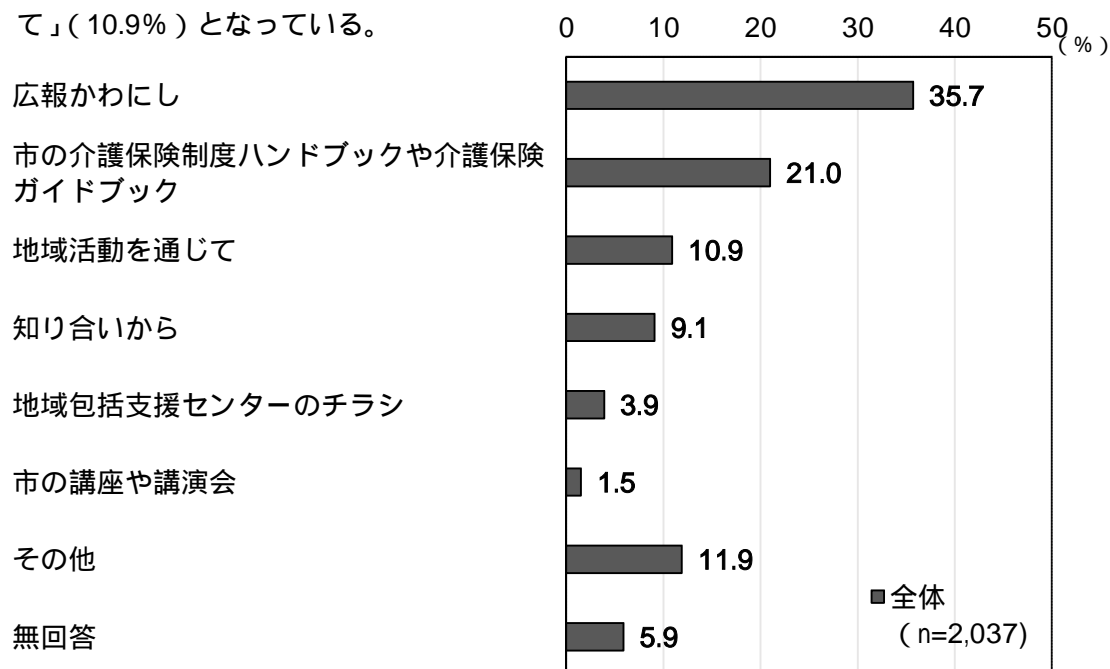


- ・介護度別にみると、「知っている」割合が、事業対象者で 83.8%、要支援 1 で 77.0%、要支援 2 で 78.0%と 7 割以上となっており、一般高齢者 (53.4%) より 20 ポイント以上高くなっている。



(1 -) 地域包括支援センターを知った媒体 (1)で「知っている」と回答した方のみ

・地域包括支援センターをどこで知ったかについては、「広報かわにし」が35.7%と最も高く、次いで「市の介護保険制度ハンドブックや介護保険ガイドブック」(21.0%)、「地域活動を通じて」(10.9%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
家族に地域包括支援センター利用者があるため	
仕事の関係で知った	
病院で教えてもらった、入院時に知った	等

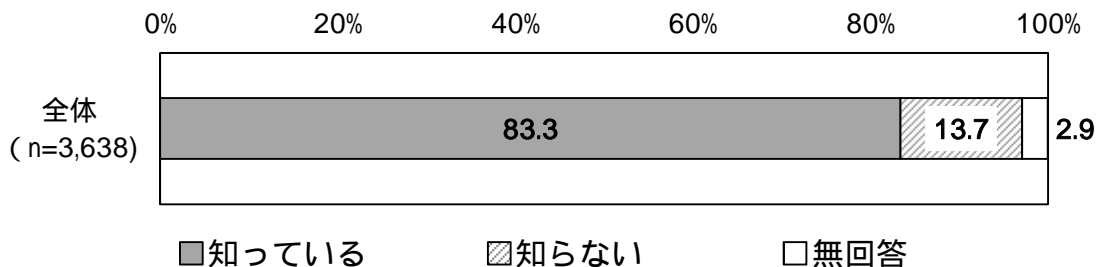
・介護度別にみると、一般高齢者で「広報かわにし」が最も高く、事業対象者・要支援1・要支援2では「市の介護保険制度ハンドブックや介護保険ガイドブック」が最も高くなっている。

	全体 (件数)	市の介護 保険ガイ ドブック や	広 報 か わ に し	地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー の チ ラ シ	市 の 講 座 や 講 演 会	地 域 活 動 を 通 じ て	知 り 合 い か ら	そ の 他	無 回 答
一般高齢者	1,739	18.6	38.6	3.4	1.6	11.5	8.7	11.5	6.0
事業対象者	31	45.2	16.1	9.7	-	6.5	3.2	16.1	3.2
要支援1	167	31.7	19.8	6.0	0.6	10.8	12.6	12.0	6.6
要支援2	96	36.5	16.7	7.3	1.0	3.1	11.5	18.8	5.2

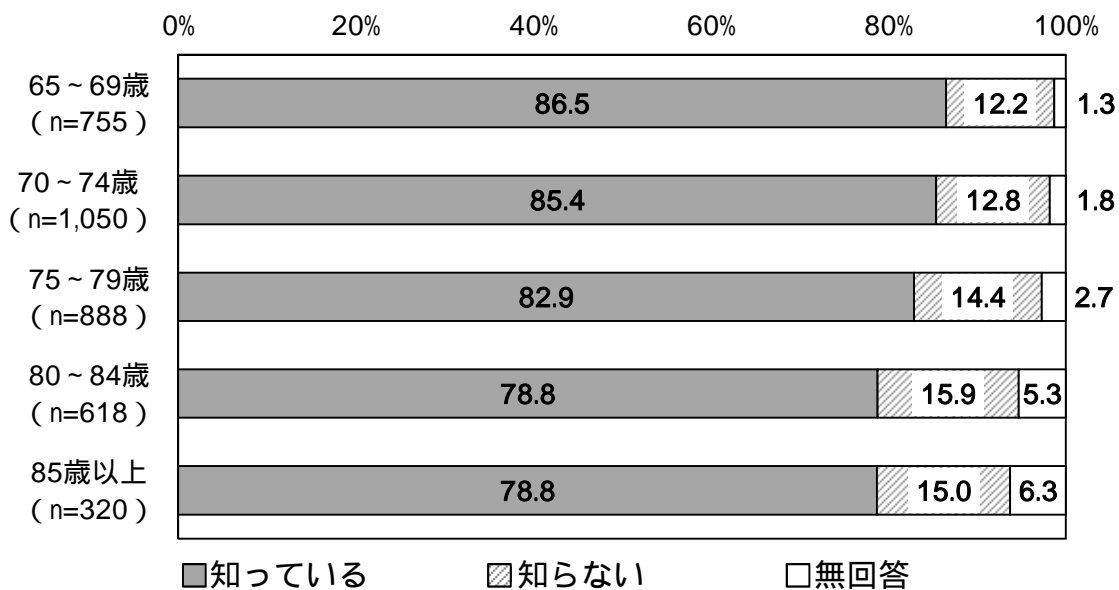
13. 介護保険制度について

(1) 介護保険制度の認知度

・介護保険制度を知っているかについては、「知っている」が83.3%と8割以上となっている。

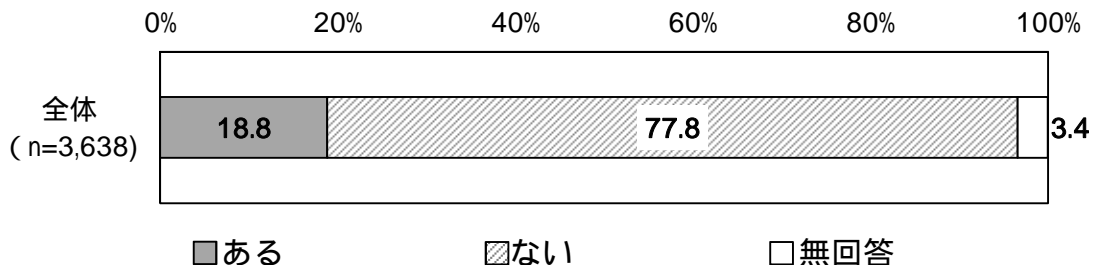


・年齢別にみると、概ね年齢が上がるにつれて「知らない」が高くなっており、80歳以上では「知っている」が8割未満となっている。

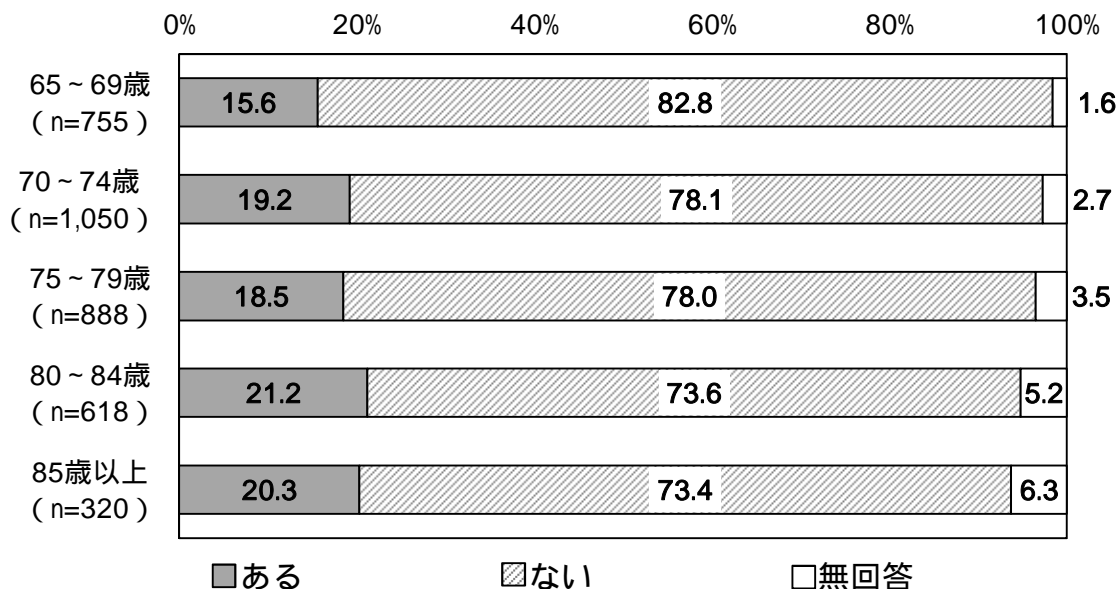


(2) 介護保険の申請や介護保険サービスの利用への抵抗

- ・介護保険の申請や介護保険サービスを利用するのに抵抗があるかについては、「ない」が77.8%と7割以上となっている。



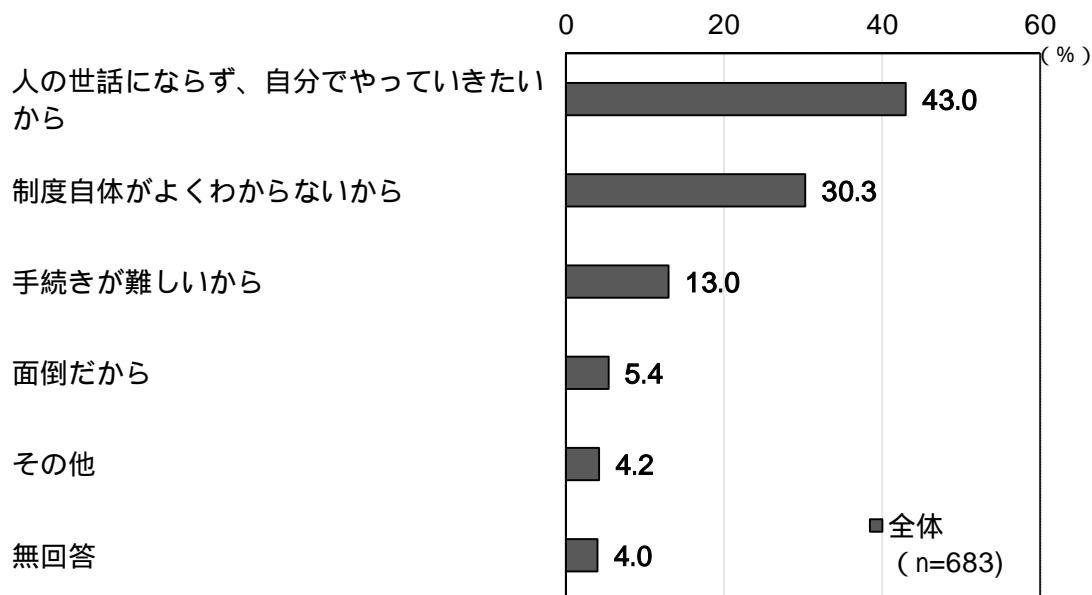
- ・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「ない」が低くなっており、80歳以上で抵抗が「ある」人の割合が2割以上となっている。



(2 -) 介護保険の申請や介護保険サービスの利用への抵抗がある理由

(2) で「ある」と回答した方のみ

- ・介護保険の申請や介護保険サービスを利用するのに抵抗がある理由については、「人の世話にならず、自分でやっていきたいから」が43.0%と4割以上を占め最も高く、次いで「制度自体がよくわからないから」(30.3%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
申請しても認定されないケースが多い、条件が厳しいから	
他人が家に入ることが不安	等

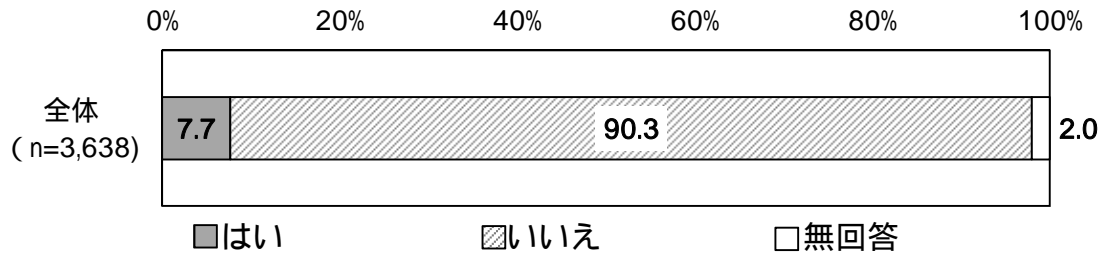
- ・年齢別にみると、全ての年代で「人の世話にならず、自分でやっていきたいから」が最も高くなっている。また、85歳以上で「手続きが難しいから」が2割以上となっている。

	全体 (件数)	手 続 き が 難 し い か ら	か ら 制 度 自 体 が よ く わ か ら な い	面 倒 だ か ら	や つ て 世 い 話 に な ら ず 、 自 分 で	そ の 他	無 回 答
65～69歳	118	6.8	37.3	6.8	42.4	3.4	3.4
70～74歳	202	11.4	30.7	6.4	44.1	4.0	3.5
75～79歳	164	17.1	26.8	5.5	45.7	4.3	0.6
80～84歳	131	12.2	33.6	3.8	38.9	3.1	8.4
85歳以上	65	21.5	20.0	3.1	41.5	7.7	6.2

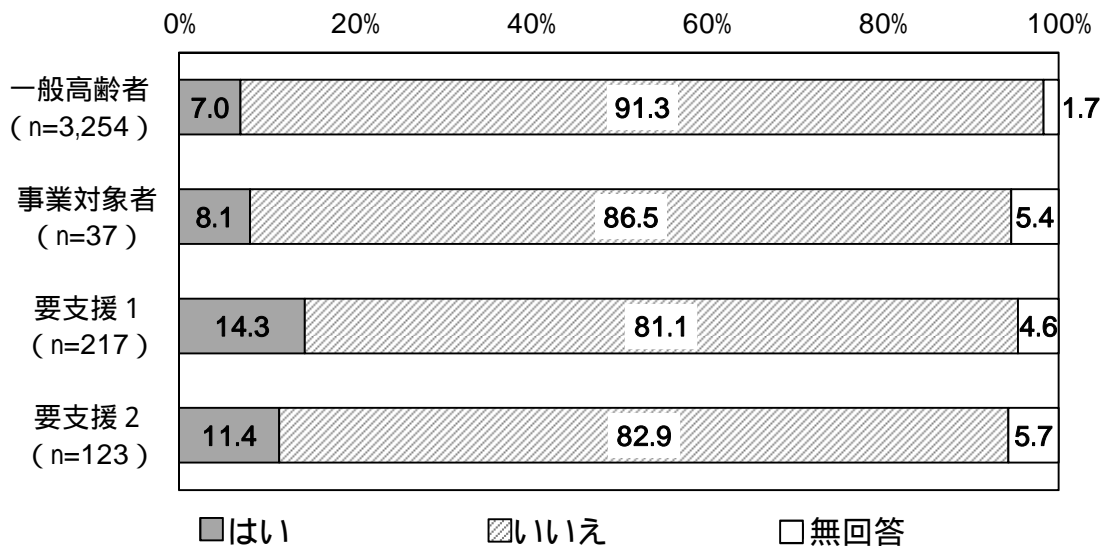
14. 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 認知症の症状がある人の有無

- ・ 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかについては、「いいえ」が 90.3%と9割以上となっている。

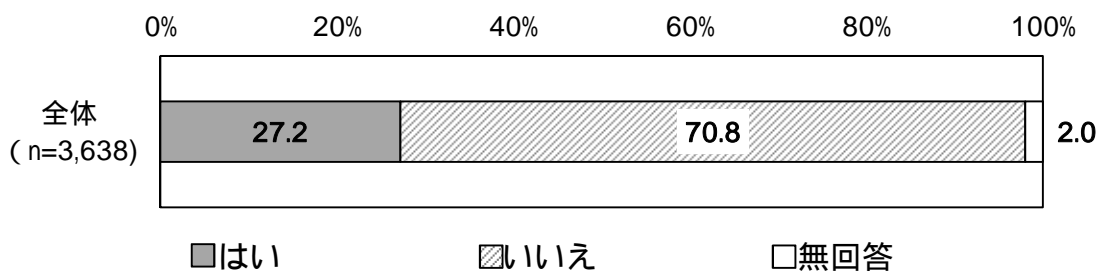


- ・ 介護度別にみると、「はい」が要支援1では14.3%、要支援2では11.4%とともに1割以上となっている。



(2) 認知症に関する相談窓口の認知度

- ・ 認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「いいえ」が 70.8%と7割以上となっている。

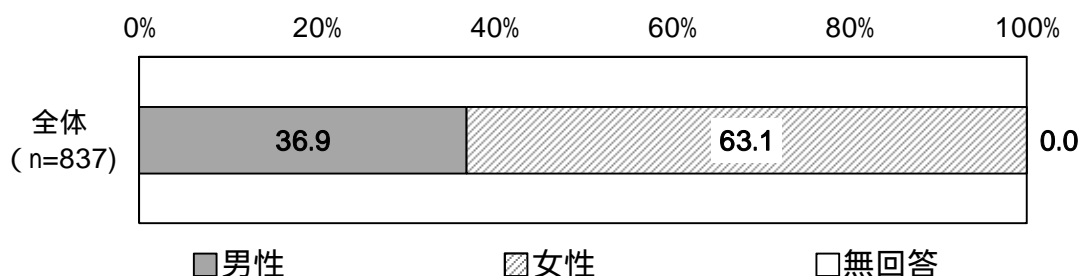


在宅介護実態調査 調査結果

1. 回答者の属性

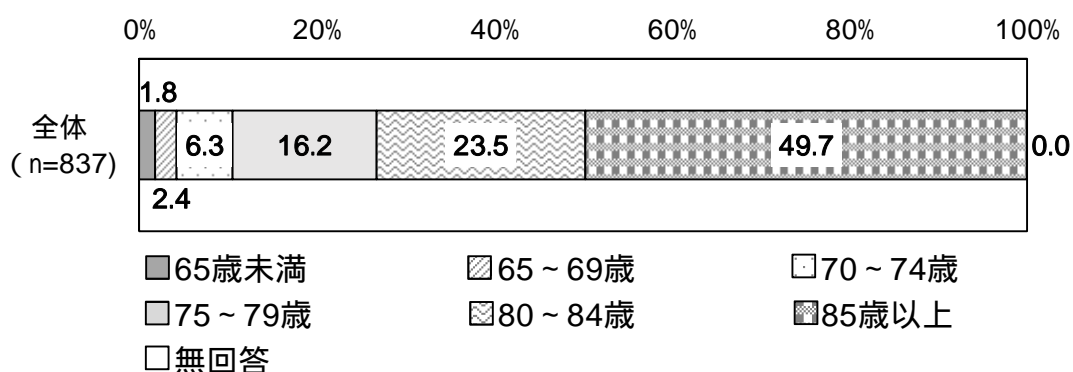
(1) 性別

・回答者の性別は「男性」が36.9%、「女性」が63.1%となっている。



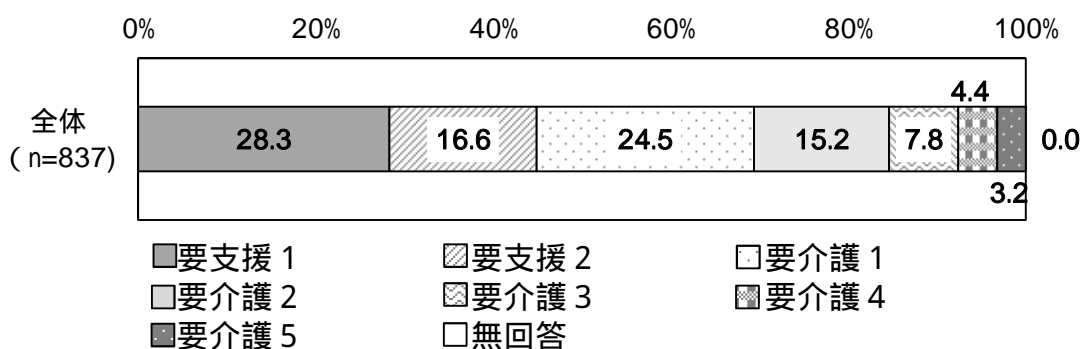
(2) 年齢

・回答者の年齢は「85歳以上」が49.7%と半数近くを占め最も高く、次いで「80～84歳」(23.5%)、「75～79歳」(16.2%)となっている。



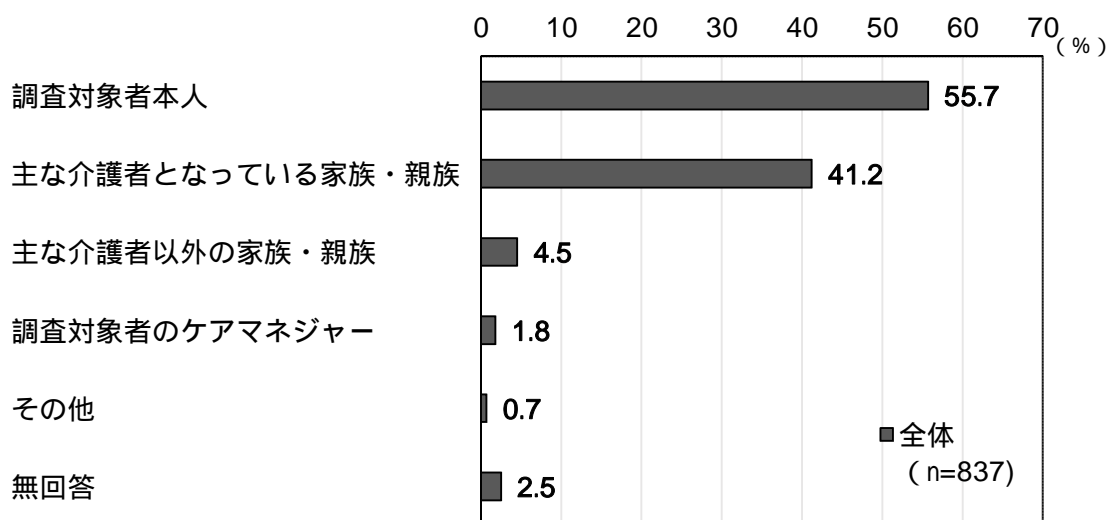
(3) 介護度

・回答者の介護度は、「要支援1」が28.3%と最も高く、次いで「要介護1」(24.5%)、「要支援2」(16.6%)となっている。



(4) 調査票記入者

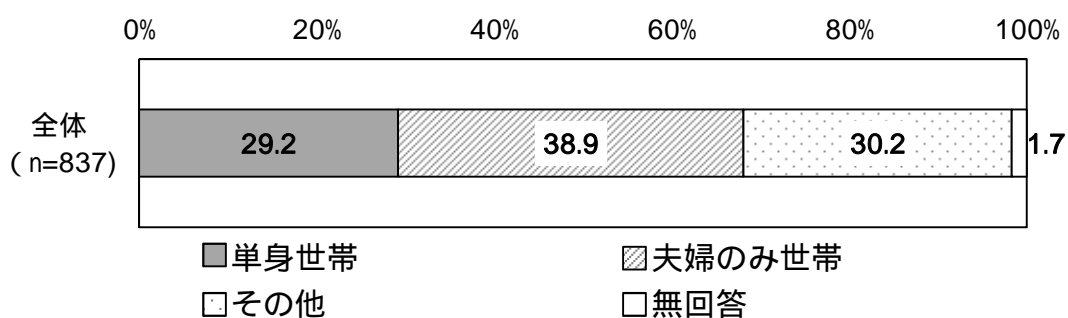
- ・調査票記入者は、「調査対象者本人」が 55.7%と半数以上を占め最も高く、次いで「主な介護者となっている家族・親族」(41.2%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
同居人	等

(5) 世帯類型

- ・回答者の世帯類型については、「夫婦のみ世帯」が 38.9%で最も高くなっているものの、「単身世帯」が 29.2%と3割近くを占めている。

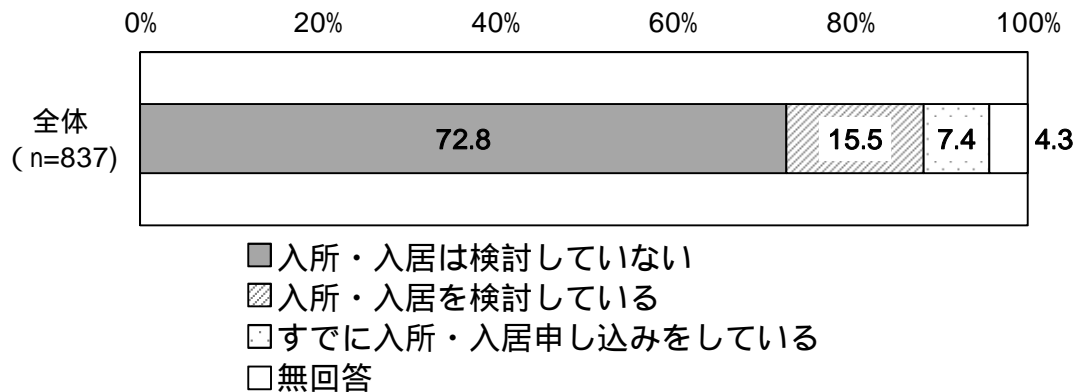


「その他」の主な回答内容	
親と子の2世代世帯	親と子と孫の3世代世帯 等

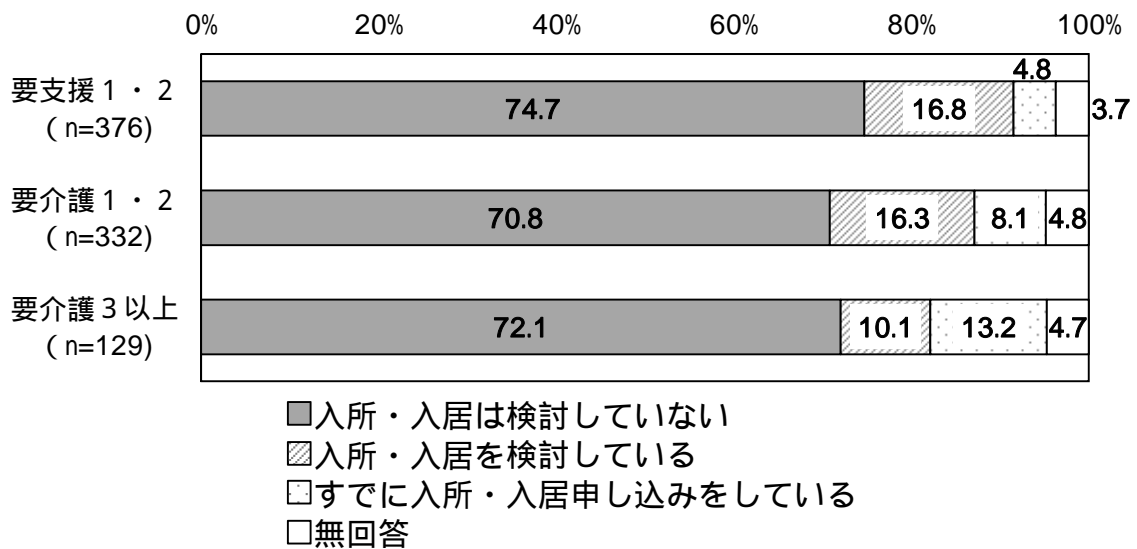
2. 必要な介護やサービスの利用などについて

(1) 施設等への入所・入居の検討状況

・施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が72.8%と最も高く、「入所・入居を検討している」・「すでに入所・入居申し込みをしている」を合わせた『施設利用意向者』の割合は22.9%と2割以上となっている。

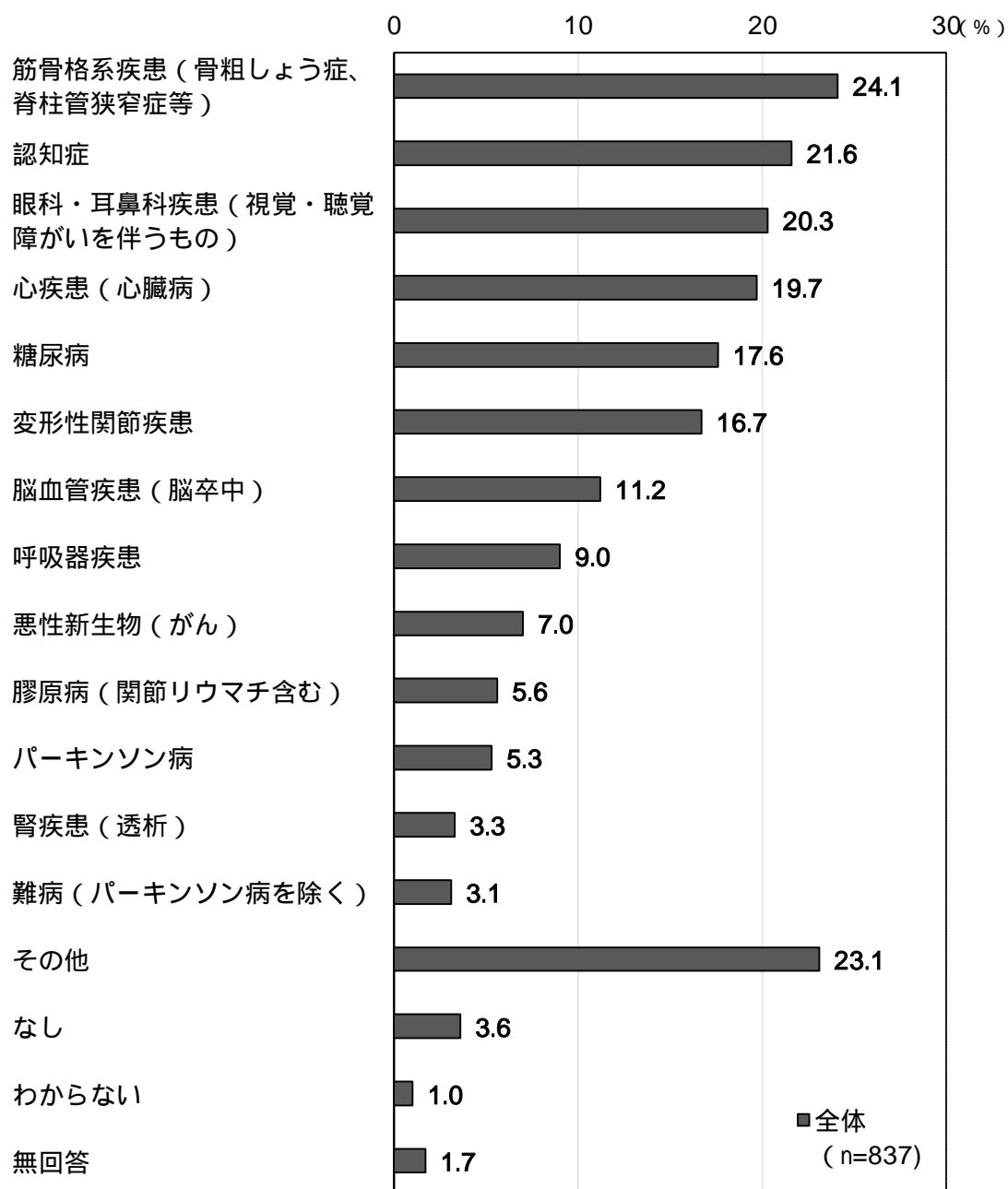


・介護度別にみると、介護度が上がるにつれて「すでに入所・入居申し込みをしている」が高くなっており、『施設利用意向者』の割合は全ての介護度で2割以上となっている。



(2) 現在抱えている傷病

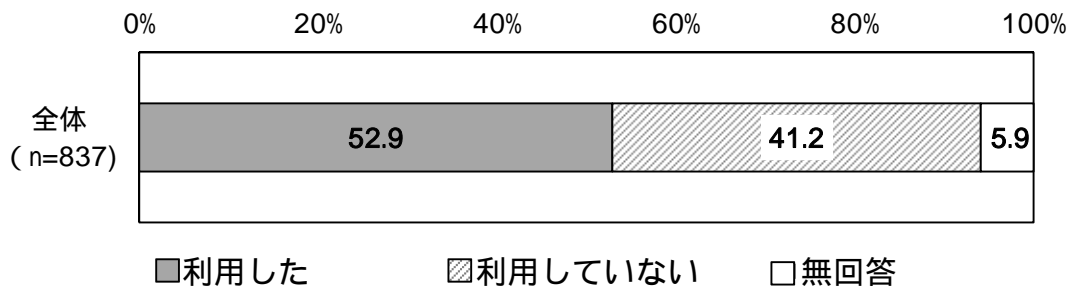
・現在抱えている傷病については、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が24.1%と最も高く、次いで「認知症（21.6%）」、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障がいを伴うもの）」（20.3%）となっている。



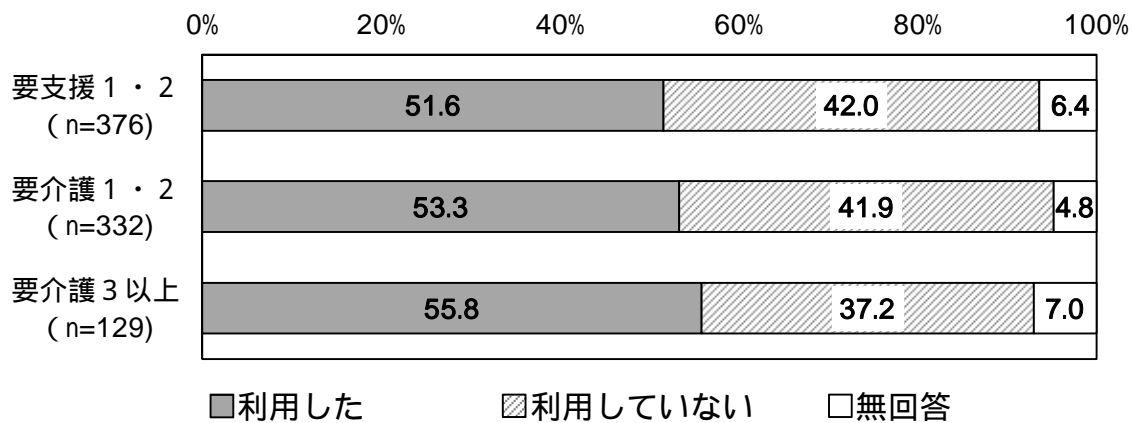
「その他」の主な回答内容	
高血圧	足・腰の痛み
骨折	うつ病、統合失調症などの精神病
歩行困難	前立腺がん 等

(3) 介護保険サービスの利用状況（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外）

・介護保険サービスの利用状況については、「利用した」が52.9%と半数以上となっている。

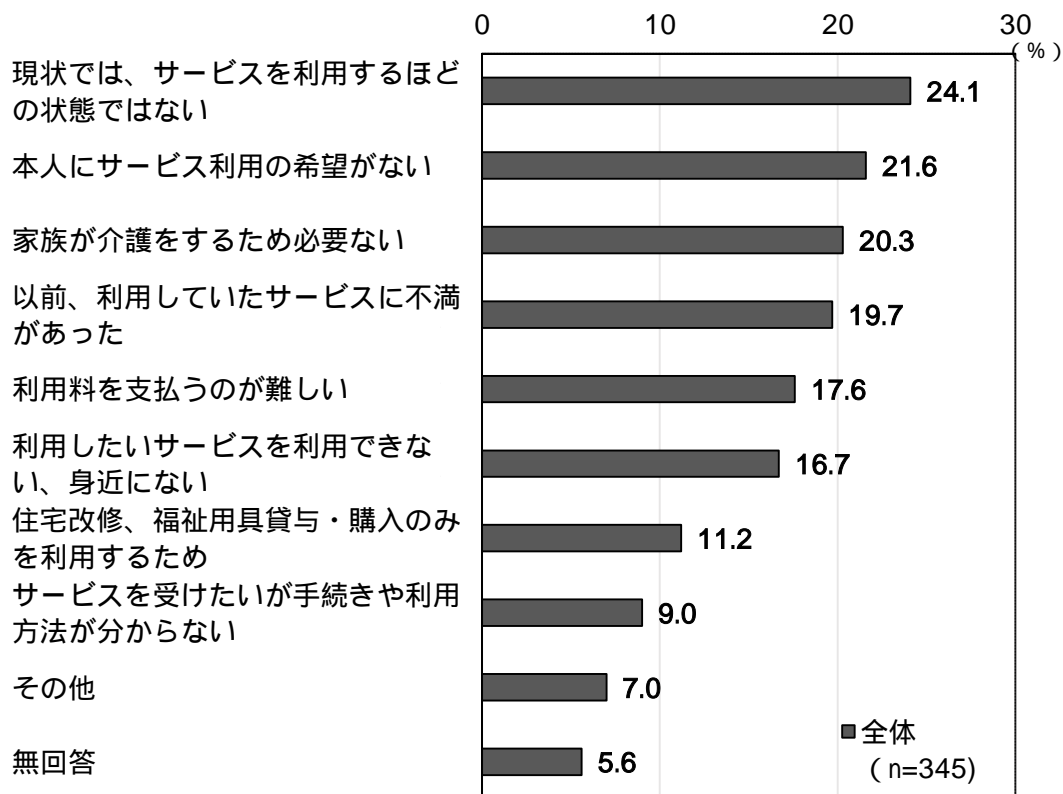


・介護度別にみると、介護度が上がるにつれて「利用した」が高くなっている。



(3 -) 介護保険サービスを利用していない理由 (3)で「利用していない」と回答した方のみ

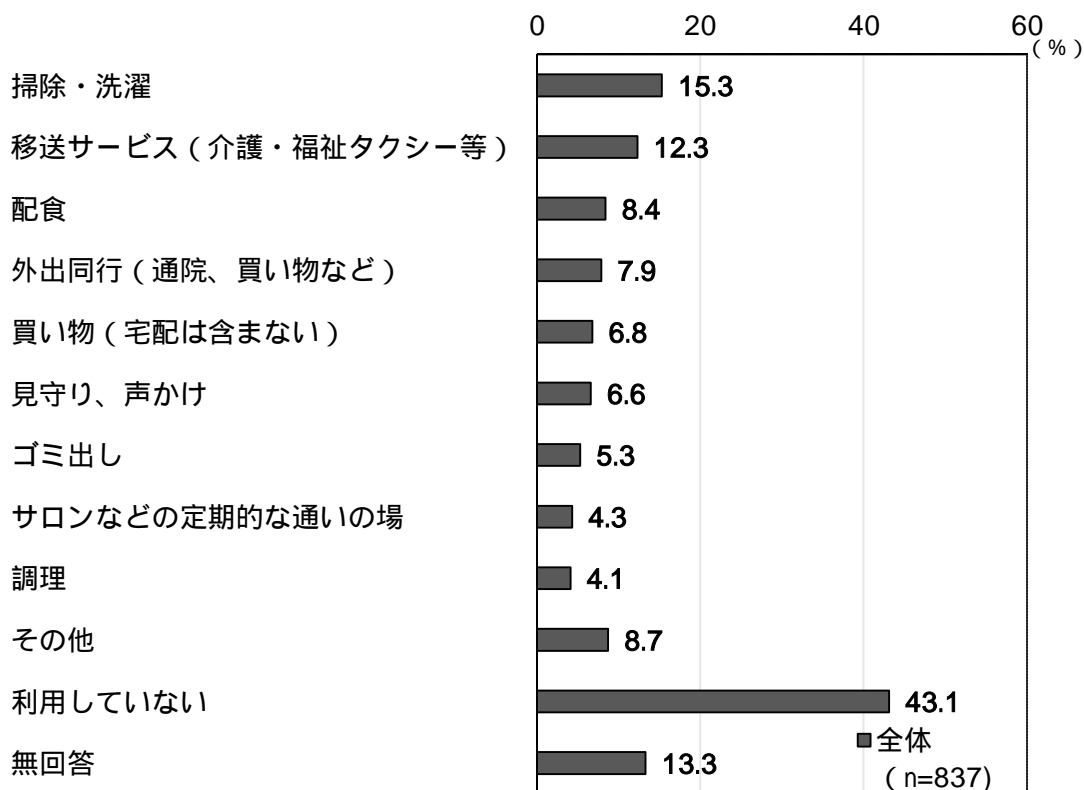
・介護保険サービスを利用していない理由については、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が24.1%と最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」(21.6%)、「家族が介護をするため必要ない」(20.3%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
新型コロナウイルスの影響により停止	利用を検討中
以前利用していた	どんなサービスがあるのか知らない 等

(4) 介護保険サービス以外で利用している支援・サービス

・介護保険サービス以外で利用している支援・サービスについては、「利用していない」が43.1%と最も高くなっている。利用している支援・サービスの内容では「掃除・洗濯」が15.3%と最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（12.3%）、「配食」（8.4%）となっている。



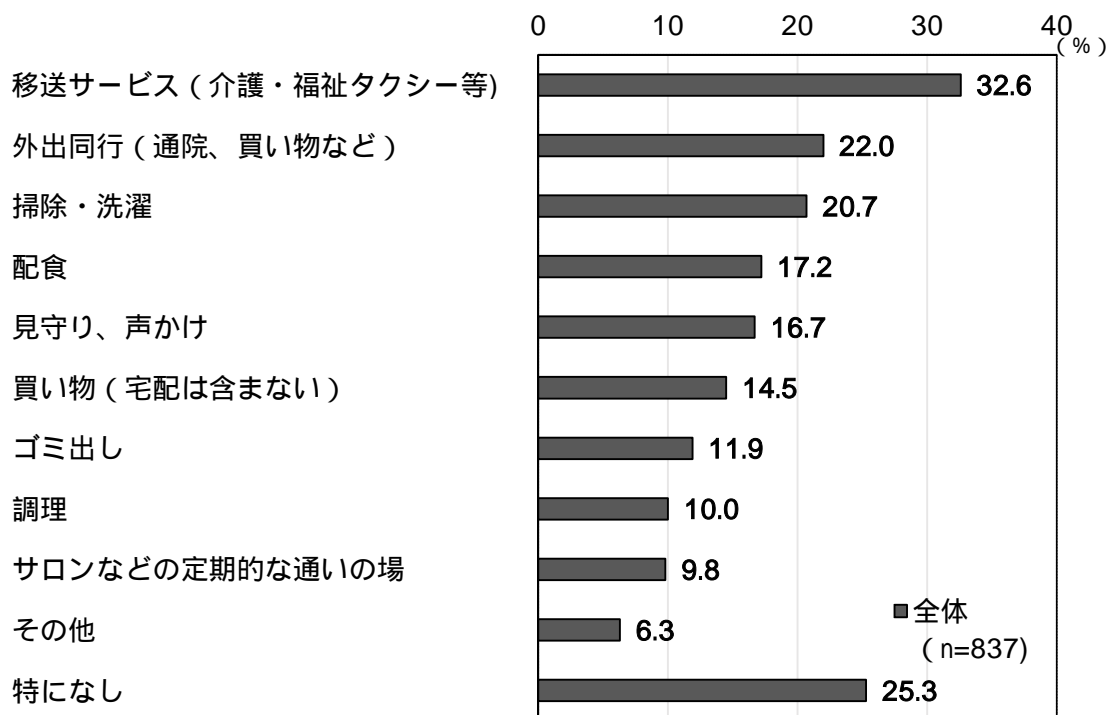
「その他」の主な回答内容	
デイサービス	手すりの設置
訪問介護	ベッドの貸出 等

- ・介護度別にみると、介護度が上がるにつれて「外出同行（通院、買い物など）」や「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が高くなっており、外出支援に関する支援・サービスの利用が多くなっていることが分かる。

	全体（件数）	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	(%) 外出同行（通院、買い物など）	
要支援 1・2	376	9.0	4.0	15.7	6.1	5.1	6.4	
要介護 1・2	332	8.4	3.0	12.7	6.9	6.0	8.7	
要介護 3以上	129	6.2	7.0	20.9	8.5	3.9	10.1	
	全体（件数）	福祉移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	通いの場	サロンの定期的な	その他	利用していない	無回答
要支援 1・2	376	9.8	6.1	3.7	9.0	46.5	12.8	
要介護 1・2	332	13.6	5.1	4.5	10.5	42.8	12.3	
要介護 3以上	129	16.3	11.6	5.4	3.1	34.1	17.1	

(5) 今後の在宅生活の継続に必要な支援・サービス

・今後の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）については、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が32.6%と3割以上を占め最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」(22.0%)「掃除・洗濯」(20.7%)となっている。「特になし」は25.3%と2割以上となっている。



「その他」の主な回答内容	
入浴介助	介護者の急な体調不良の場合等の支援
リハビリ	デイサービス 等

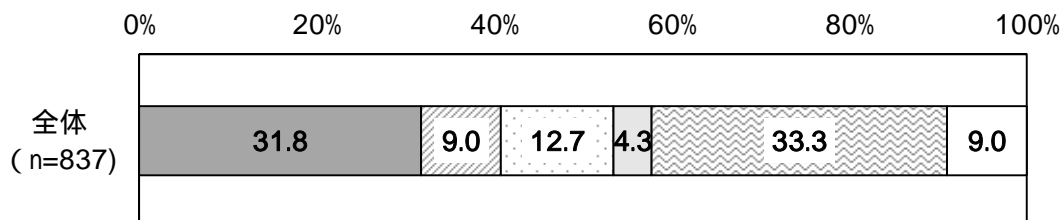
- ・介護度別にみると、介護度が上がるにつれ「外出同行（通院、買い物など）」が高くなっている。また、「見守り、声かけ」も高くなっており、要介護3以上では2割以上となっている。

(%)

	全体 (件数)	配食	調理	掃除・洗濯	買い物 (宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行 (通院、買い物など)
要支援1・2	376	17.8	7.7	18.9	15.2	11.2	19.1
要介護1・2	332	15.7	11.1	22.3	13.0	13.3	23.5
要介護3以上	129	19.4	14.0	21.7	16.3	10.9	26.4
	全体 (件数)	福祉 移送 タクシー サービス (介護・ 等)	見守り、 声かけ	通サ いの 場 などの 定期的な	その他	特 になし	無 回答
要支援1・2	376	33.0	15.7	9.0	6.6	27.7	8.0
要介護1・2	332	31.6	16.3	10.8	6.6	25.9	9.9
要介護3以上	129	34.1	20.9	9.3	4.7	17.1	14.7

(6) 家族や親族からの介護

・家族や親族からの介護が週にどのくらいあるかについては、「ほぼ毎日ある」が 33.3%と最も高い一方で、「ない」が 31.8%と3割以上となっている。



- ない
- ▨ 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない
- 週に1~2日ある
- 週に3~4日ある
- ▨ ほぼ毎日ある
- 無回答

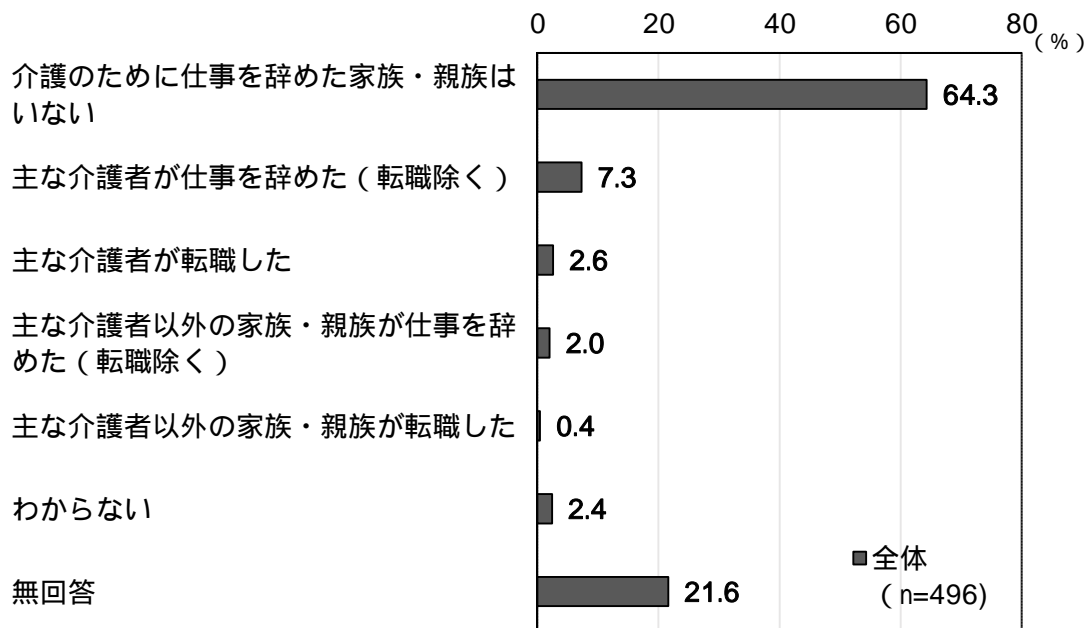
・介護度別にみると、要支援1・2では「ない」が3割以上を占め最も高い一方で、要介護1以上では「ほぼ毎日ある」が最も高くなっている。

	全体 (件数)	ない	週に1日 家族・親族 の介護は もあるが、	週に1 ~ 2日ある	週に3 ~ 4日ある	ほぼ 毎日 ある	無 回 答
要支援1・2	376	35.9	8.5	11.2	4.5	30.6	9.3
要介護1・2	332	28.0	8.4	13.9	5.1	35.8	8.7
要介護3以上	129	29.5	11.6	14.0	1.6	34.9	8.5

3. 主な介護者について 【介護者への質問】

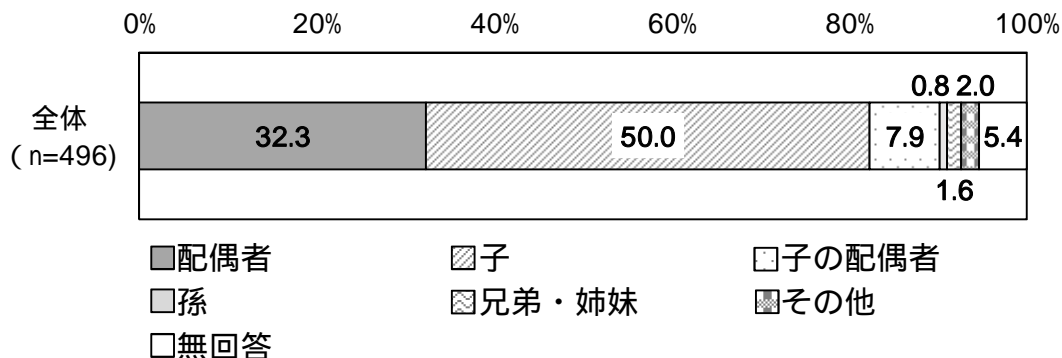
(1) 介護を理由として仕事を辞めた人の有無

・介護を理由として仕事を辞めた人の有無については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 64.3%と6割以上を占めて最も高くなっている。「主な介護者が仕事を辞めた」・「主な介護者が転職した」・「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた」・「主な介護者以外の家族・親族が転職した」を合わせた『主な介護者や家族・親族が仕事を辞めたり転職をした』割合は 12.3%と1割以上となっている。



(2) 主な介護者の続柄

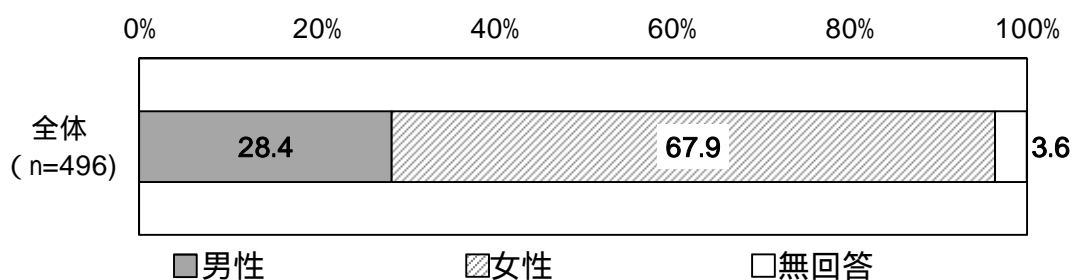
・主な介護者の続柄については、「子」が 50.0%と半数を占めて最も高く、次いで「配偶者」(32.3%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
子と友達	子どもとその配偶者 等

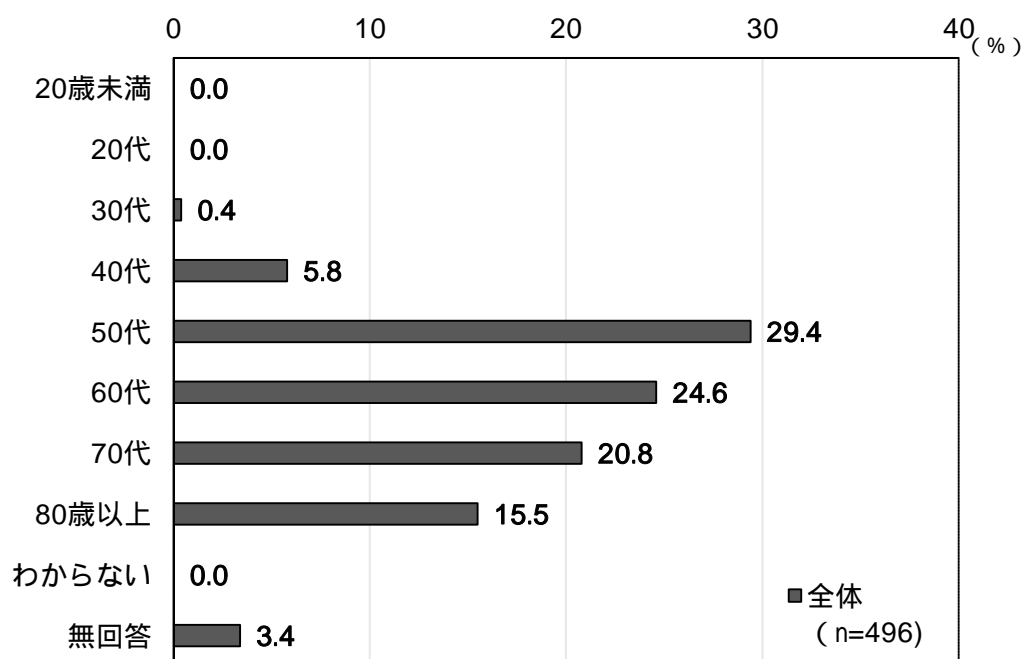
(3) 主な介護者の性別

・主な介護者の性別については、「男性」が28.4%、「女性」が67.9%となっている。



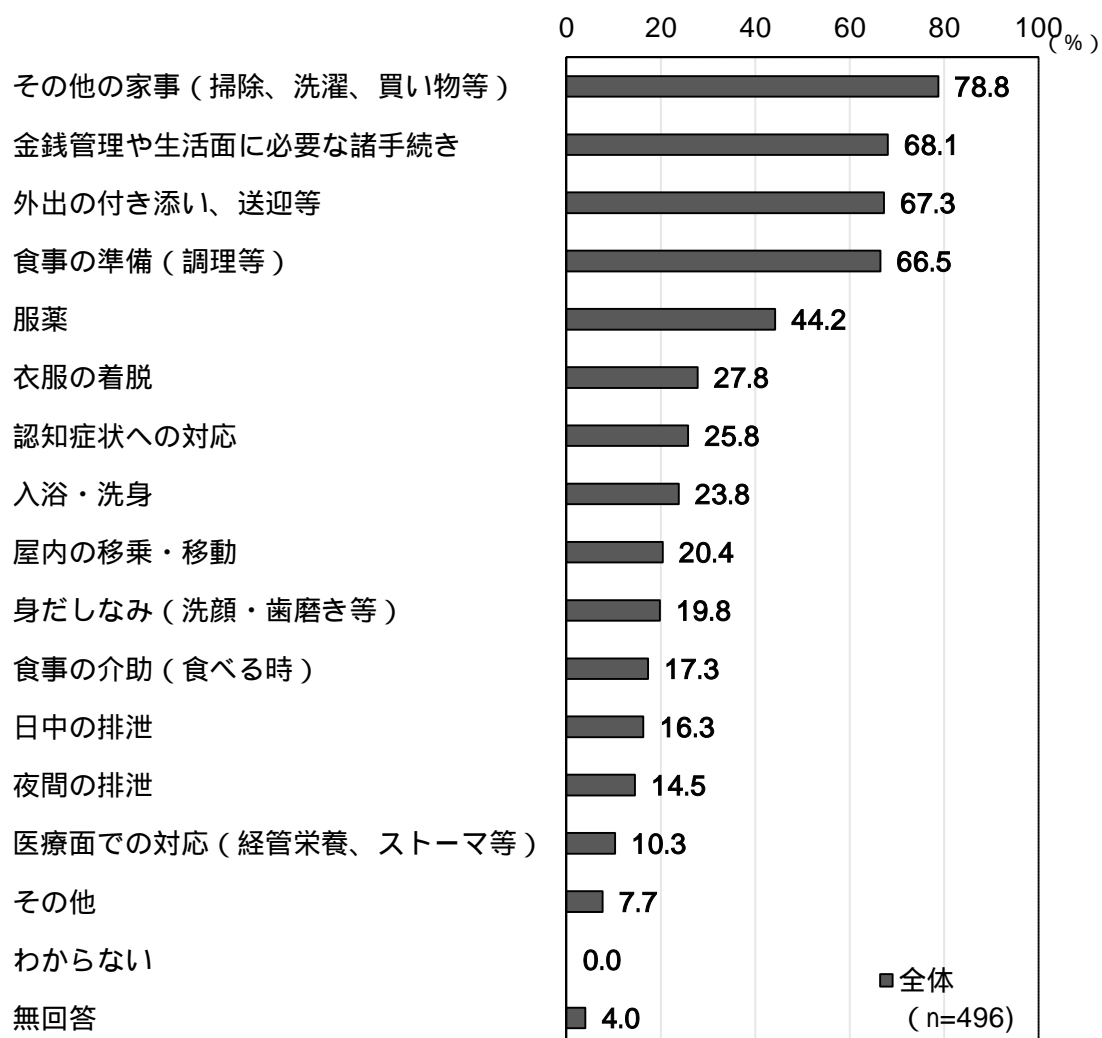
(4) 主な介護者の年齢

・主な介護者の年齢については、「50代」が29.4%と3割近くを占め最も高く、次いで「60代」(24.6%)、「70代」(20.8%)となっている。主な介護者が『60歳以上』である割合は6割以上となっている。



(5) 主な介護者が行っている介護

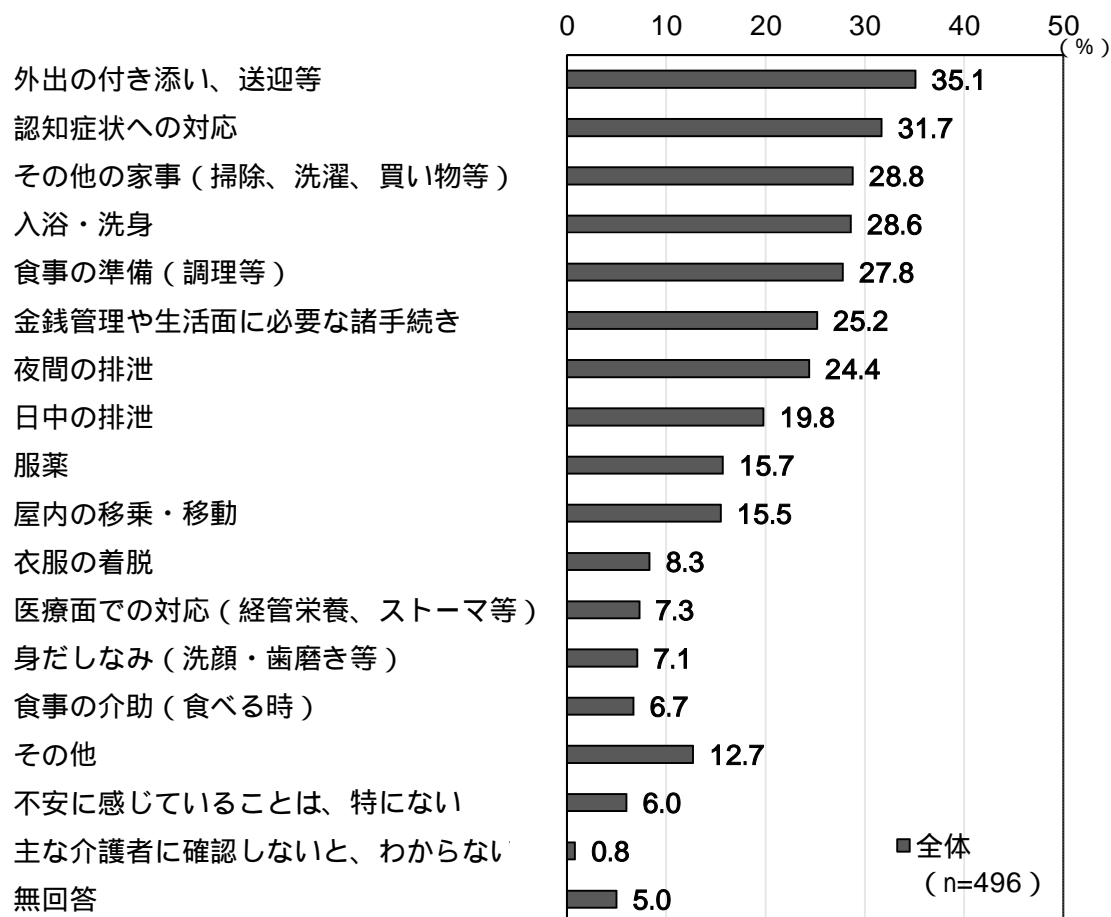
・主な介護者が行っている介護等については、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が78.8%と最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(68.1%)、「外出の付き添い、送迎等」(67.3%)となっている。



「その他」の主な回答内容	
ヘルパー等との連絡	健康管理
見守り	情緒面での支持 等

(6) 主な介護者が不安に感じる介護

・主な介護者が不安に感じる介護等については、「外出の付き添い、送迎等」が 35.1%と3割以上を占め最も高く、次いで「認知症状への対応」(31.7%)、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(28.8%)となっている。

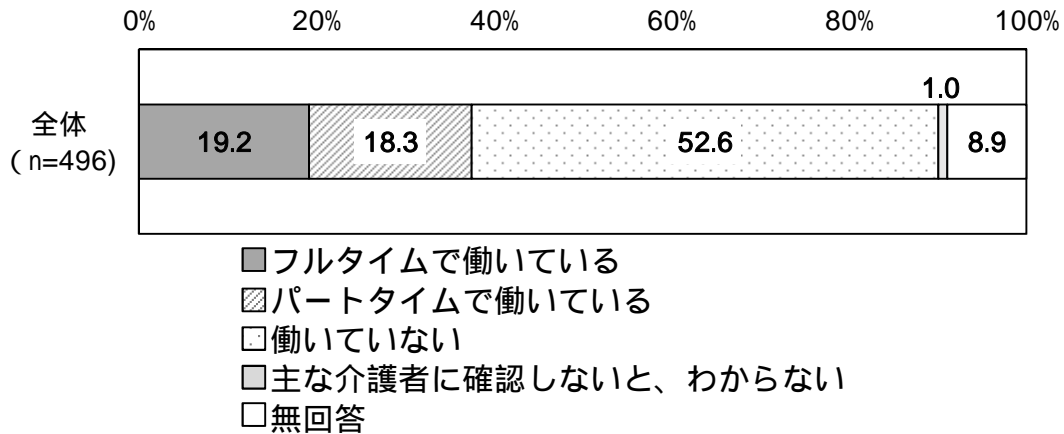


「その他」の主な回答内容	
自分が介護できなくなった時のこと	精神面の不安定さ
歩けなくなること	本人のデイサービス等の利用拒否 等

4. 主な介護者の就労について 【介護者への質問】

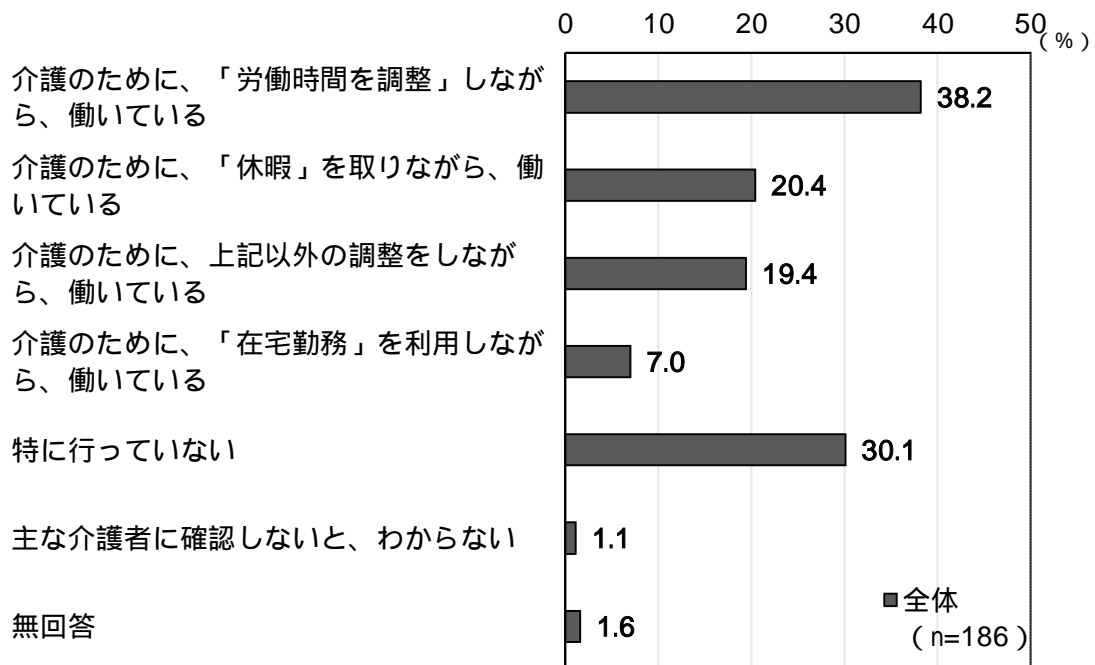
(1) 主な介護者の勤務形態

・主な介護者の勤務形態については、「働いていない」が 52.6%と半数以上を占め最も高くなっている。「フルタイムで働いている」・「パートタイムで働いている」を合わせた『働いている』割合は 37.5%となっている。



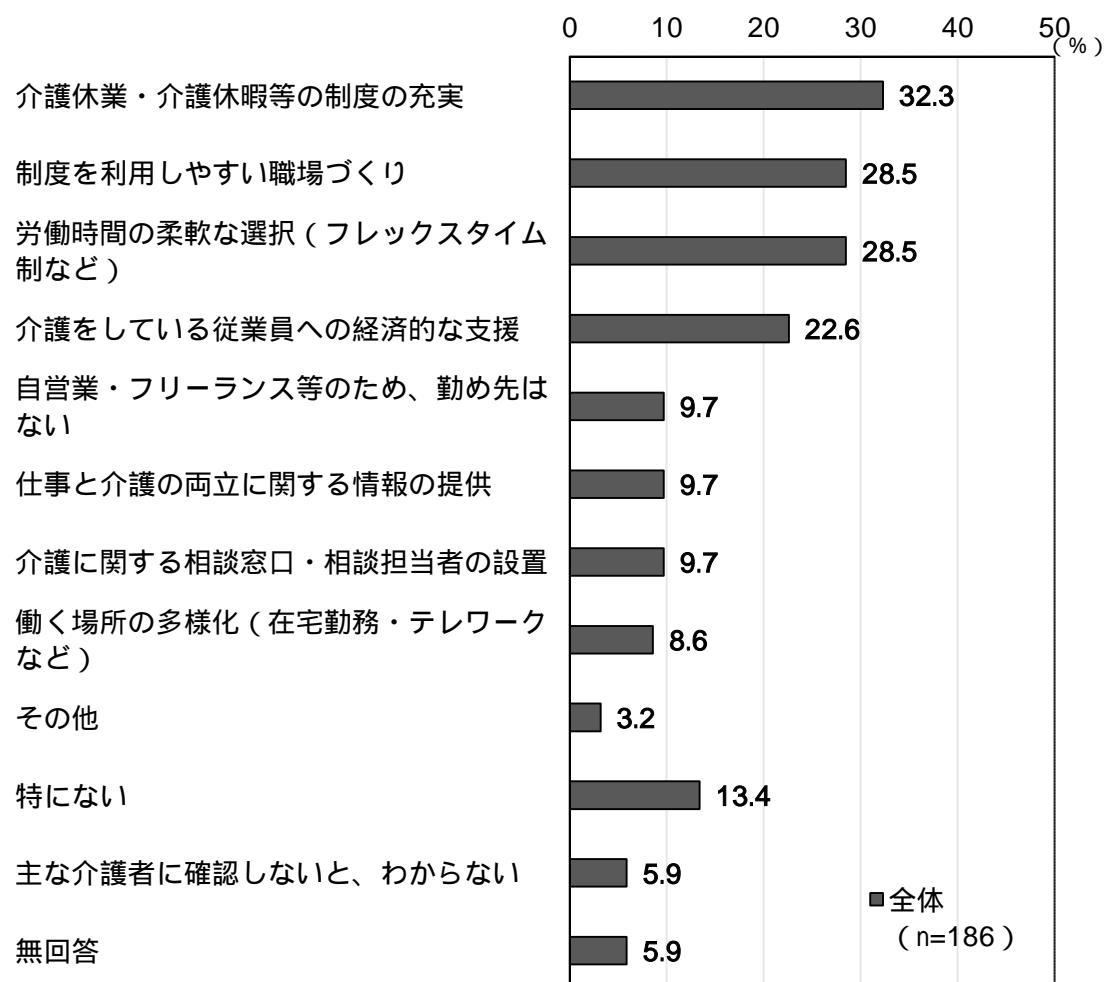
(1 -) 介護のための働き方の調整 (1)で『働いている』と回答した方のみ

・介護のために働き方の調整をしているかについては、「介護のために「労働時間を調整」しながら働いている」が 38.2%と最も高くなっている。「特に何も行ってない」は3割以上となっている。



(1 -) 仕事と介護の両立のために望む勤め先からの支援 (1)で『働いている』と回答した方のみ

・仕事と介護の両立のために望む勤め先からの支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 32.3%と3割以上を占め最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」(28.5%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(28.5%)、「介護をしている従業員への経済的な支援」(22.6%)となっている。



「その他」の主な回答内容		
介護サービスの内容の充実	周りの人の理解	等

(1 -) 今後の仕事と介護の両立に関する継続意向 (1)で『働いている』と回答した方のみ

・今後も働きながら介護を続けていけそうかについては、「問題はあるが、何とか続けていける」が60.8%と6割以上となっている。「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのはかなり難しい」を合わせた『難しい』と感じている人の割合は19.9%と2割近くとなっている。

